

健康と福祉に関するアンケート調査 報告書

令和2年3月

横手市市民福祉部高齢ふれあい課

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査設計	1
3. 回収結果	1
4. 報告書の見方	1
5. 対象者の属性	2
第2章 調査結果（第1号被保険者）	7
1. 本人や家族、生活状況について	7
2. からだを動かすことについて	10
3. 食べることについて	17
4. 毎日の生活について	21
5. 地域での活動について	25
6. たすけあいについて	28
7. 健康について	32
8. 認知症にかかる相談窓口の把握について	36
9. 相談ごと・情報・災害対応について	37
10. 食事の準備と食生活について	40
11. 介護保険について	46
12. 市のサービス・施策について	51
13. 生活機能評価の結果	59
14. 生活機能評価の項目別結果	63
第3章 調査結果（第2号被保険者）	71
1. お住まいと世帯などについて	71
2. 健康・医療について	72
3. 介護保険について	78
4. 相談ごと・災害対応について	85
5. 地域の支え合い・日常生活支援について	88
6. 食事の準備と食生活について	93
7. 生きがいや社会参加の状況について	98
8. 高齢者向け施策について	102

第4章 調査結果（被保険者の分類による比較）	113
1. 健康について	113
2. 食事の準備と食生活について	114
3. 介護保険について	118
4. 市のサービス・施策について	119
資料	123
1. 自由意見	123
2. 調査票	143

第1章 調査の概要

1. 調査目的

本調査は、地域に生きる一人ひとりが尊重された地域共生社会の実現と支援体制の取組みに向けて、高齢者の実態および課題等を把握し、令和2年度に策定する「第8期横手市介護保険事業計画・高齢者福祉計画」の基礎資料とすることを目的として実施した。

2. 調査設計

調査対象	第1号被保険者（65歳以上の在宅高齢者）※要介護認定者を除く 第2号被保険者（40歳以上65歳未満）※要介護認定者を除く
抽出方法	上記対象者から無作為抽出
調査方法	郵送配付－郵送回収
調査期間	令和元年12月18日～令和2年1月6日
企画実施	横手市市民福祉部高齢ふれあい課

3. 回収結果

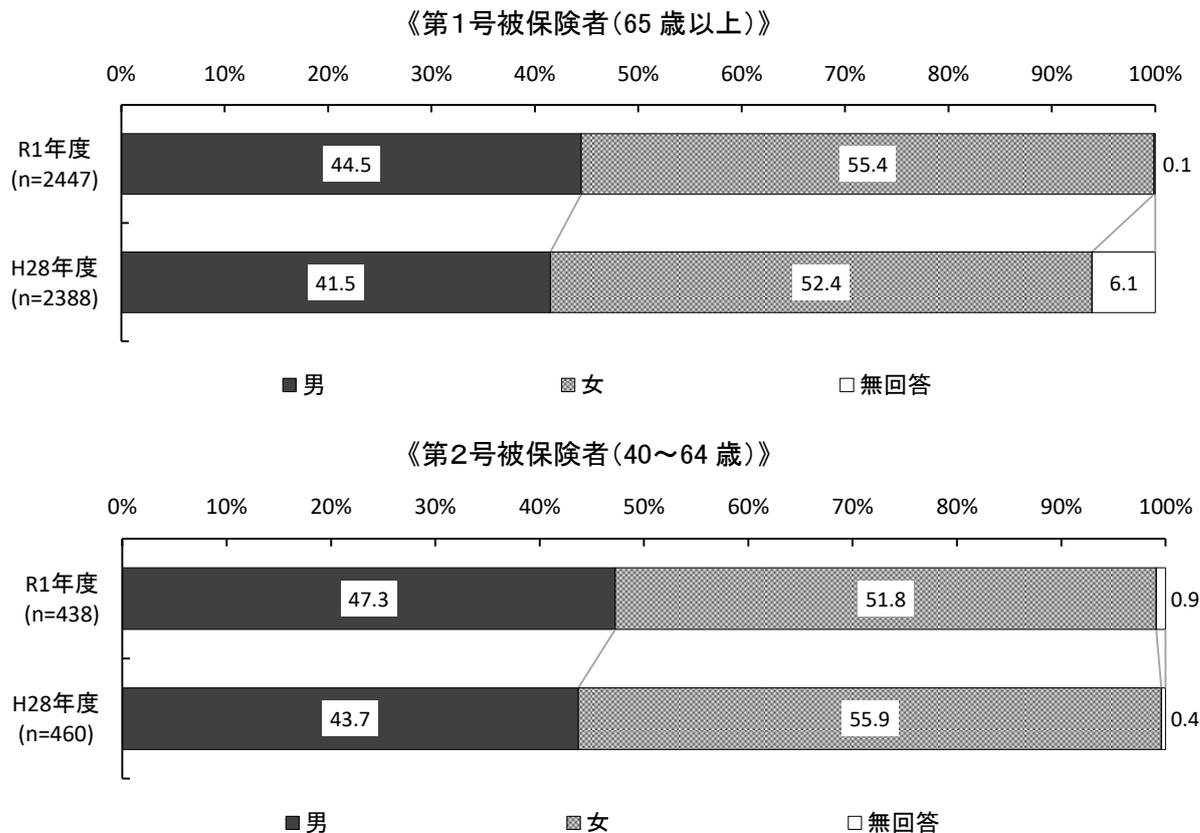
	対象者数	回収数	有効回収数	有効回収率
第1号被保険者 （65歳以上の方）	4,000	2,447	2,447	61.2%
第2号被保険者 （40歳以上65歳未満の方）	1,000	438	438	43.8%

4. 報告書の見方

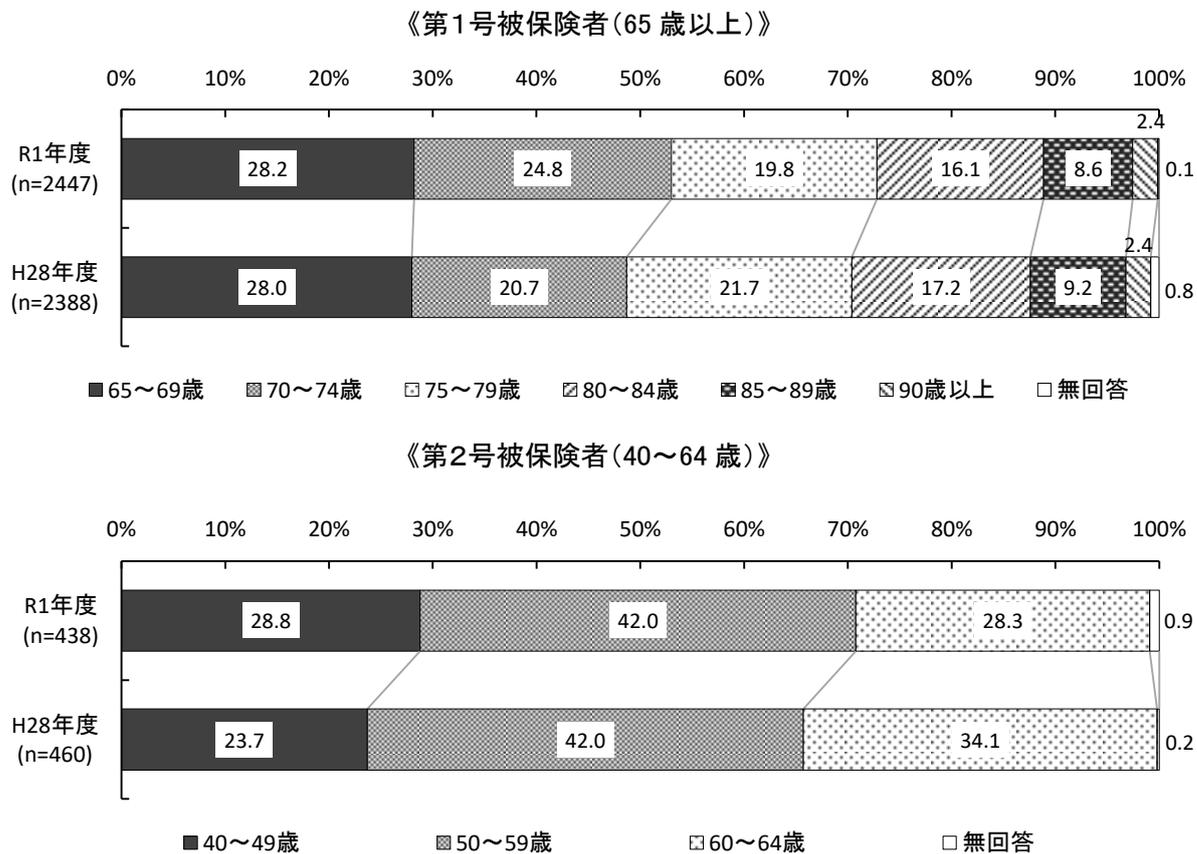
- 調査数（n=Number of cases）とは、回答者総数または分類別の回答者数を示している。
- 回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。そのため、回答比率を合計しても100.0%にならない場合がある。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、各設問の調査数を基数として算出するため、全ての選択肢の比率を合計すると100.0%を超える。
- 調査票における設問及び選択肢の語句等を短縮・簡略化している場合がある。
- 前回調査で類似の設問があった場合、今回調査（R1年度）と前回調査（H28年度）の結果についての図を掲載している。

5. 対象者の属性

(1) 性別

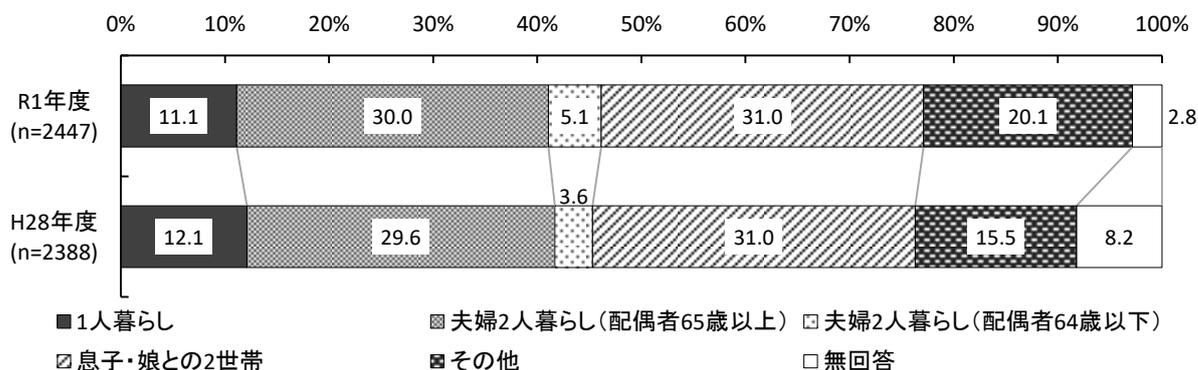


(2) 年齢

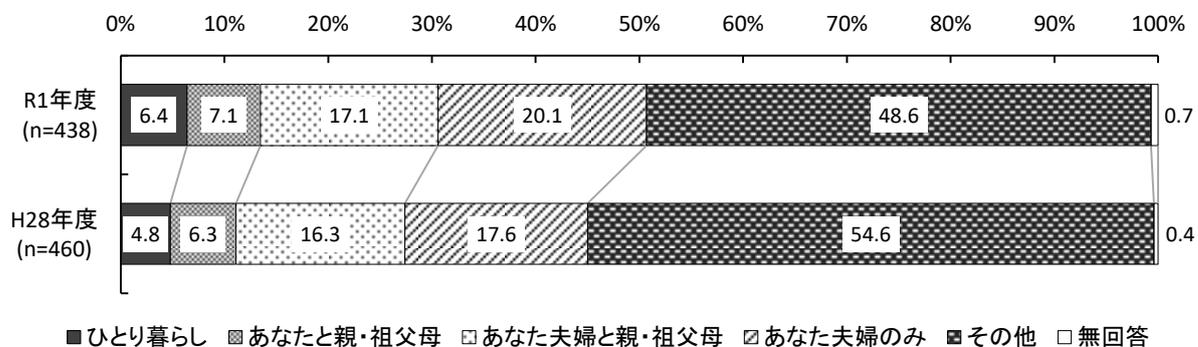


(3) 世帯の状況

《第1号被保険者(65歳以上)》

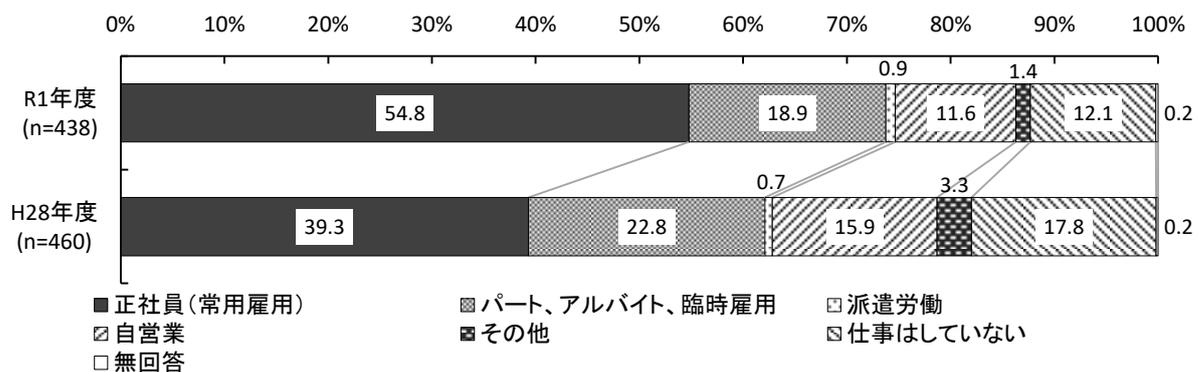


《第2号被保険者(40~64歳)》



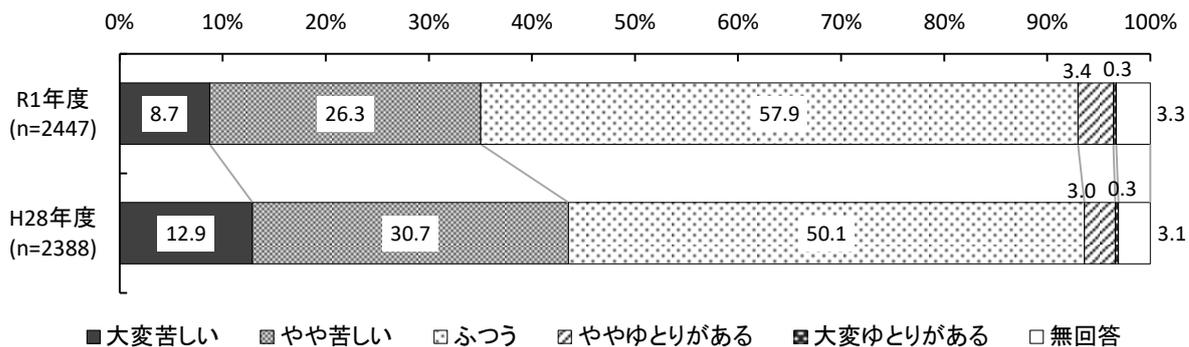
(4) 就労状況

《第2号被保険者(40~64歳)》

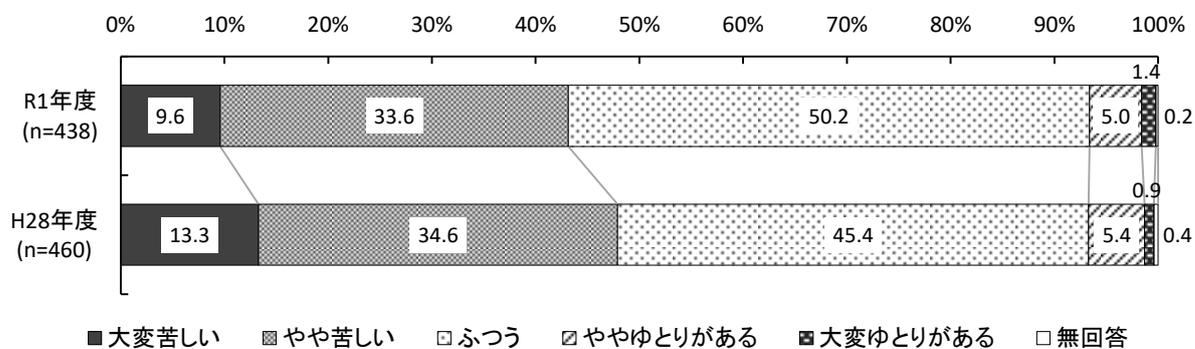


(5) 暮らしの状況

《第1号被保険者(65歳以上)》

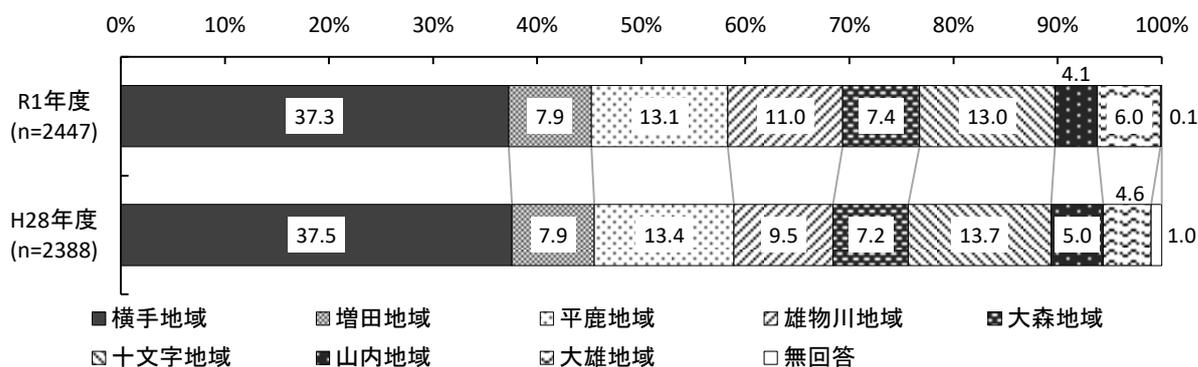
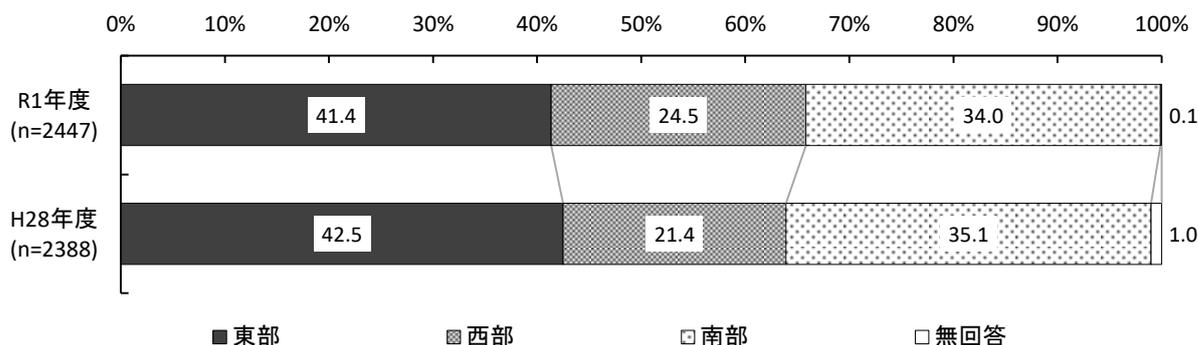


《第2号被保険者(40～64歳)》

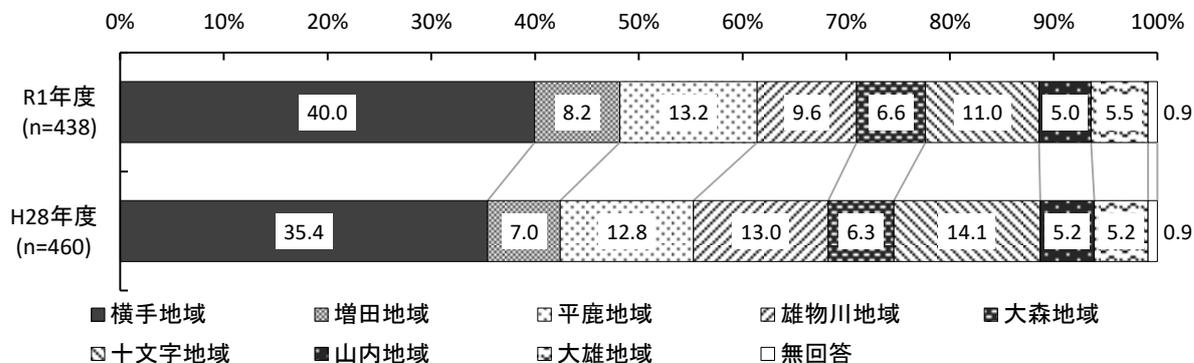
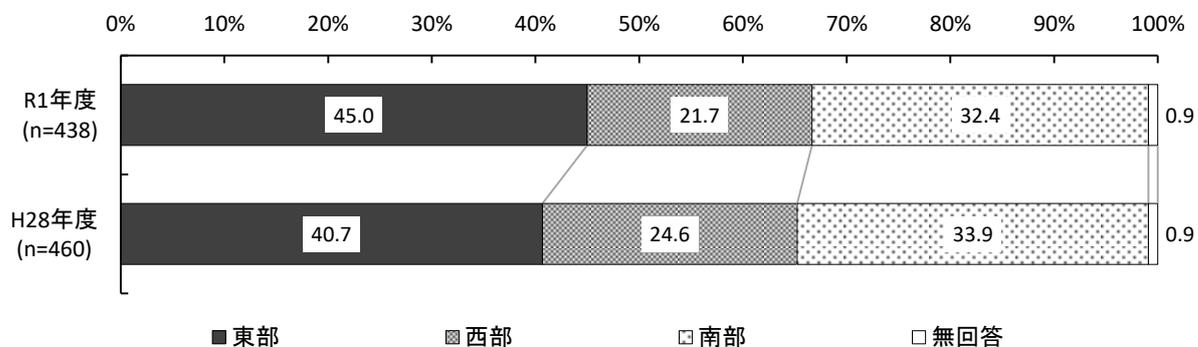


(6) 居住地

《第1号被保険者(65歳以上)》



《第2号被保険者(40~64歳)》



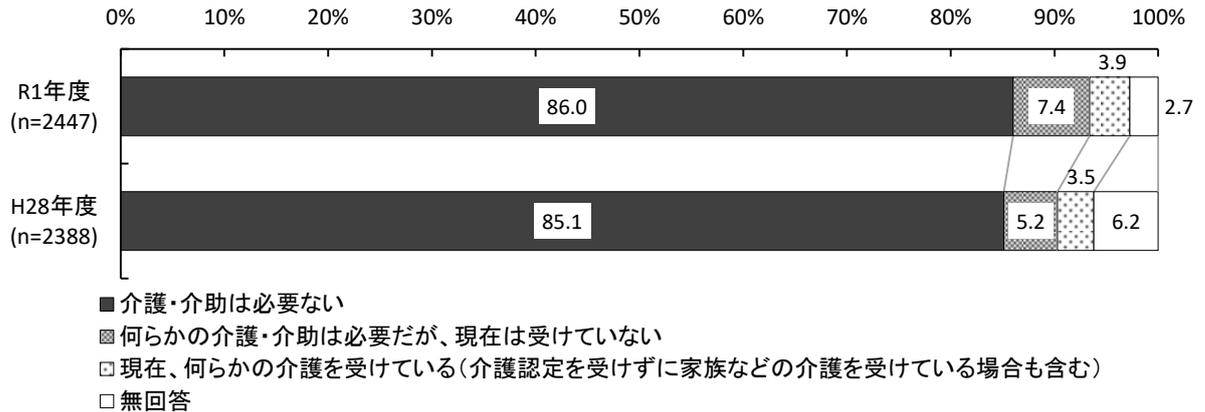
日常生活圏域	地域
東部	横手地域、山内地域
西部	雄物川地域、大森地域、大雄地域
南部	増田地域、平鹿地域、十文字地域

第2章 調査結果（第1号被保険者）

1. 本人や家族、生活状況について

（1）介護・介助が必要か

問1（2） あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

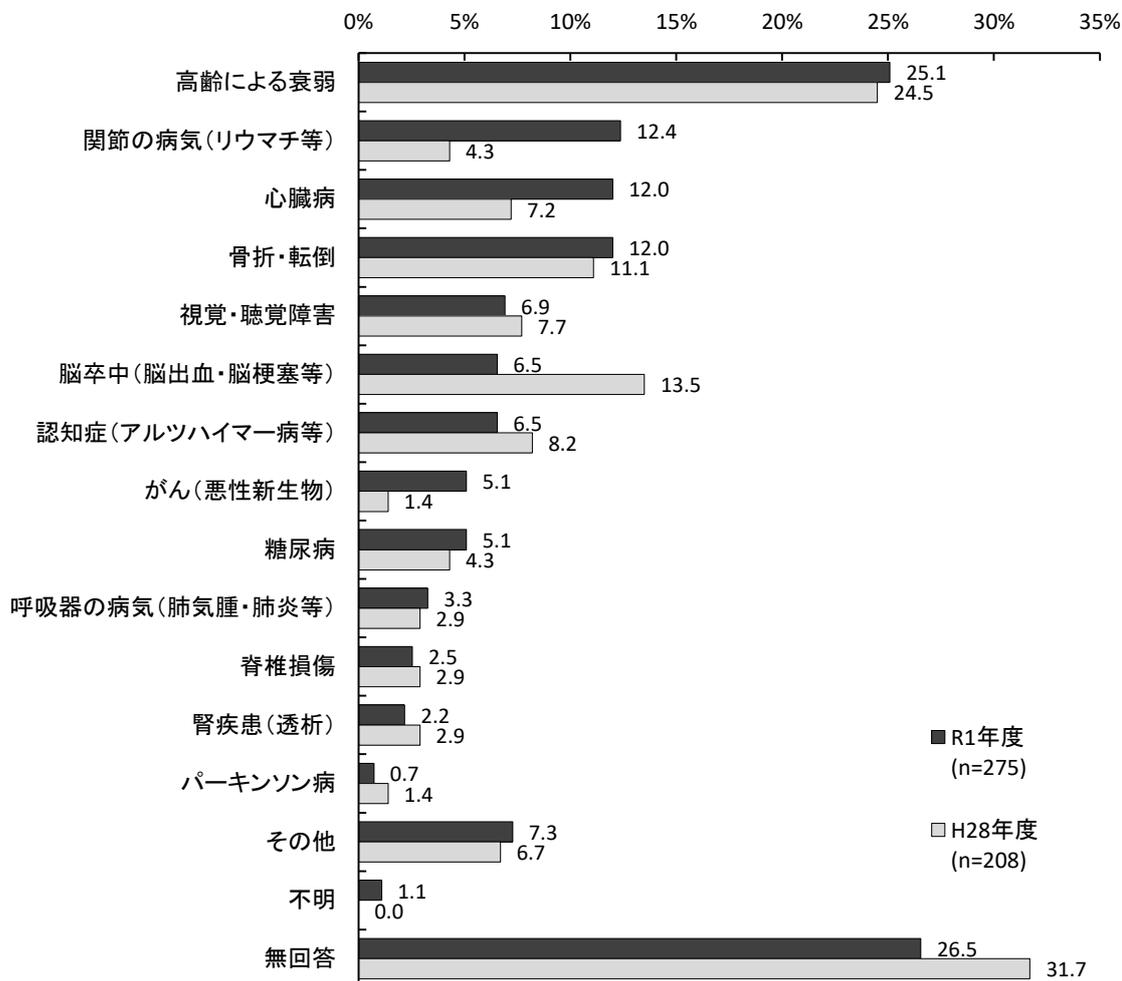


介護・介助の状況についてたずねたところ、前回調査と同様に「介護・介助の必要はない」が8割を超えて最も多くなっている

（2）介護・介助が必要になった原因

【（2）において「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ】

問1（2）①介護・介助が必要になった主な原因はなんですか（いくつでも）

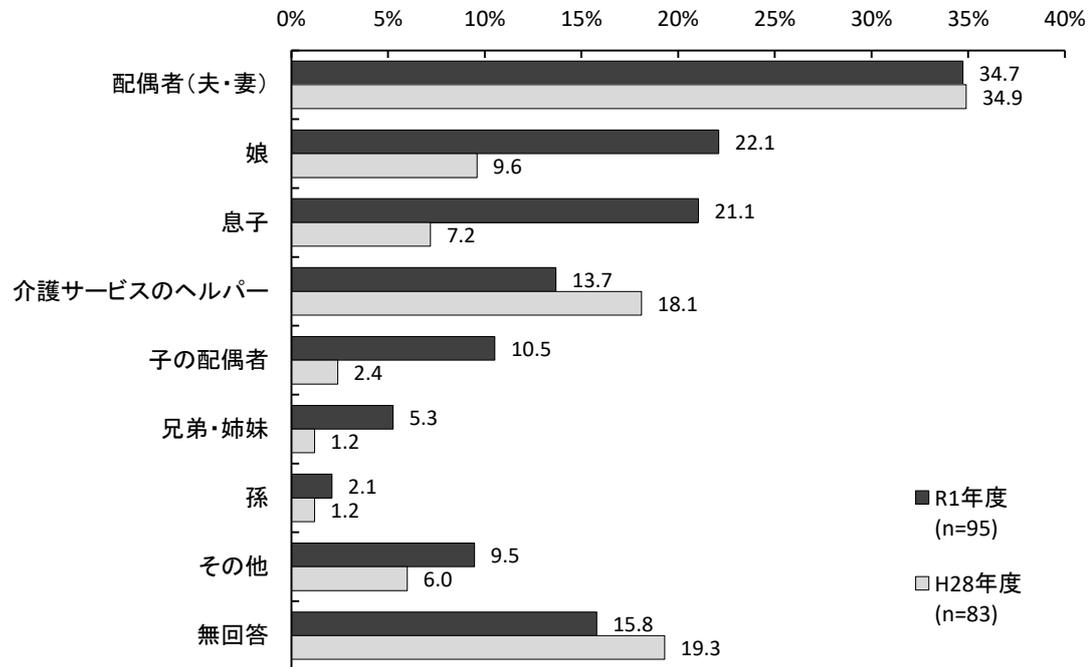


介護・介助が必要になった原因をたずねたところ、「高齢による衰弱」が25.1%と最も多く、次いで「関節の病気（リウマチ等）」（12.4%）、「心臓病」（12.0%）、「骨折・転倒」（12.0%）となっている。「高齢による衰弱」は前回調査と同様に第1位となっているが、前回第2位であった「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」は今回6.5%（前回比7.0ポイント低下）で6位となるなど、第2位以降では変化がみられる。

(3) 誰の介護・介助を受けているか

【(2)において「3. 現在、何らかの介護を受けている」方のみ】

問1 (2) ②主にどなたの介護、介助を受けていますか（いくつでも）

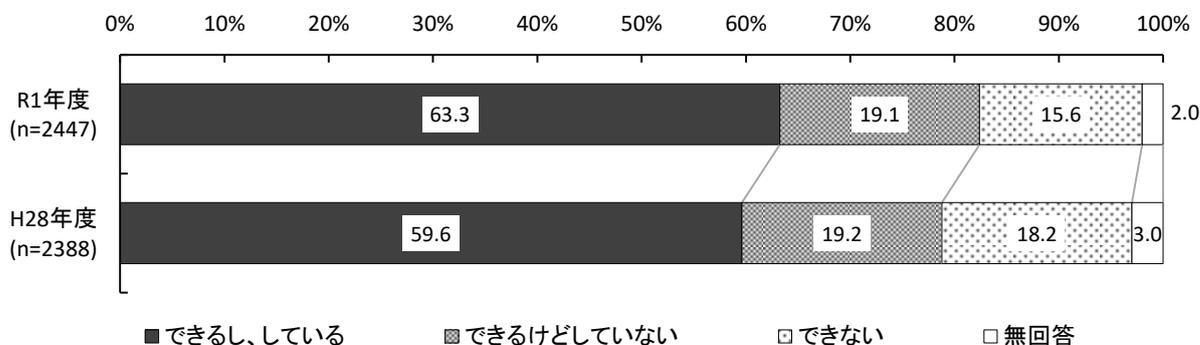


誰の介護・介助を受けているかをたずねたところ、「配偶者(夫・妻)」が34.7%と最も多く、次いで「娘」(22.1%)、「息子」(21.1%)となっている。「配偶者(夫・妻)」は前回調査でも今回同様の割合で第1位となっているが、第2位以降では変化がみられ、「娘」(前回比12.5ポイント上昇)および「息子」(前回比13.9ポイント上昇)の回答割合が上昇している。

2. からだを動かすことについて

（1）階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか

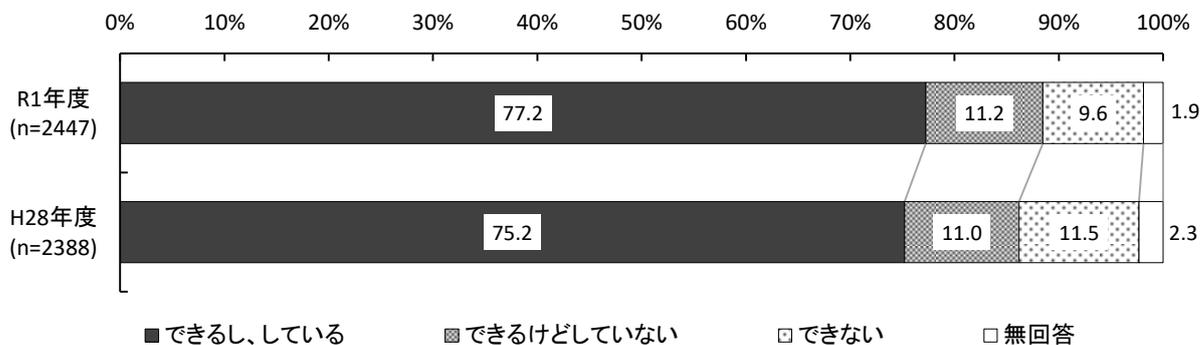
問2（1）階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか



階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかたずねたところ、「できるし、している」が6割以上を占め、前回同様に最も多くなった一方、「できない」は15.6%となっている。

（2）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ちあがっているか

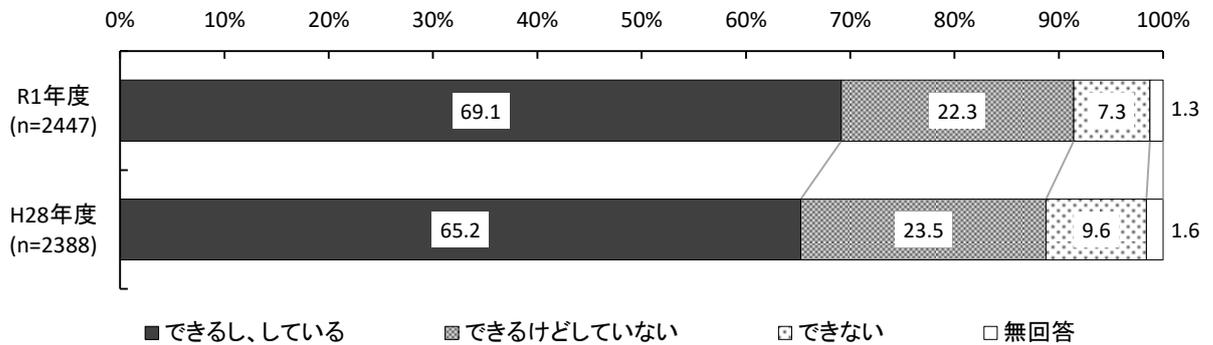
問2（2）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか



椅子に座った状態から何もつかまらずに立ちあがっているかたずねたところ、「できるし、している」が約8割を占め、前回同様に最も多くなった一方、「できない」は1割未満となっている。

（3）15分位続けて歩いているか

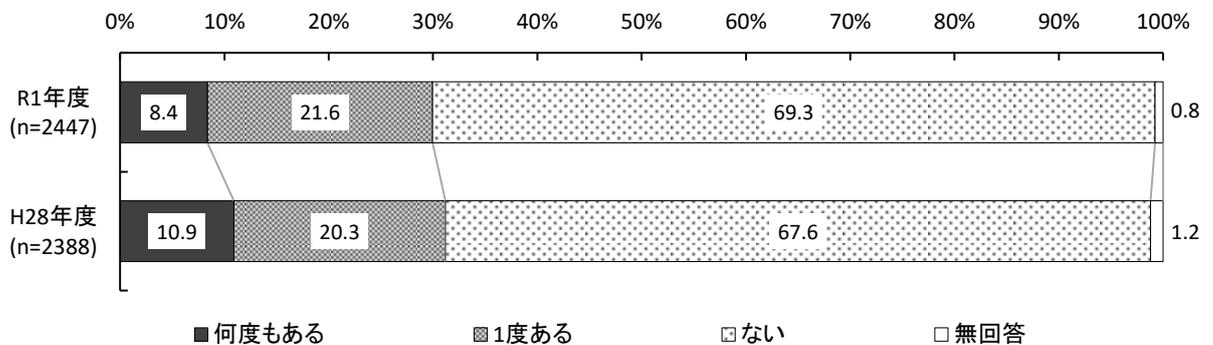
問2（3）15分位続けて歩いていますか



15分位続けて歩いているかたずねたところ、「できるし、している」が約7割を占め、前回同様に最も多くなった一方、「できない」は1割未満となっている。

（4）過去1年間に転んだ経験があるか

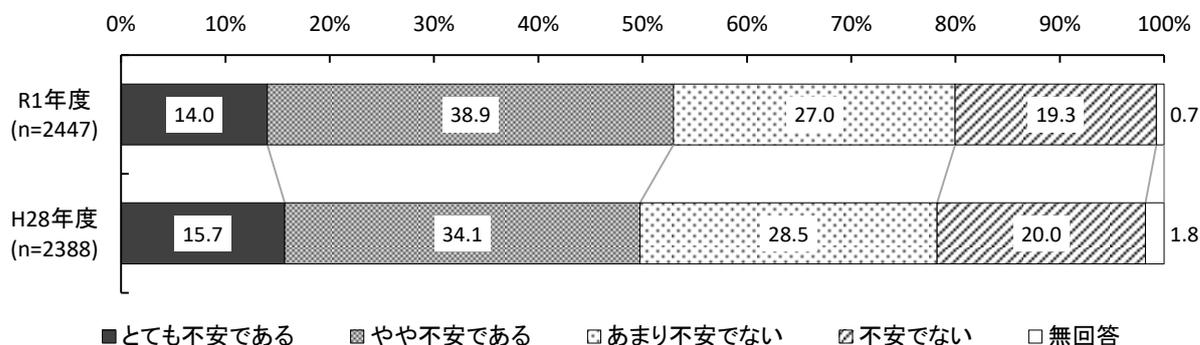
問2（4）過去1年間に転んだ経験がありますか



過去1年間に転んだ経験があるかたずねたところ、「何度もある」が8.4%、「1度ある」が21.6%となり、これらを合わせた“ある”は30.0%と、前回同様の結果となっている。

（5）転倒に対する不安は大きいか

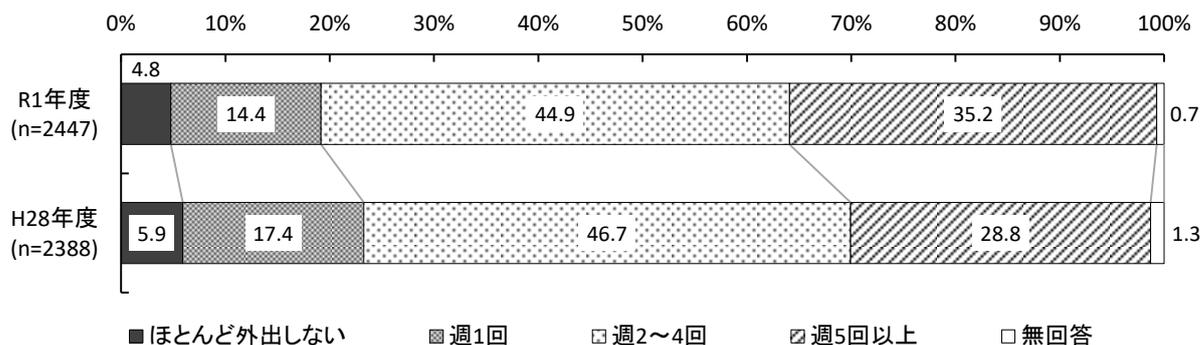
問2（5）転倒に対する不安は大きいですか



転倒に対する不安は大きいかたずねたところ、「やや不安である」が38.9%と最も多くなっている。「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた“不安である”は52.9%となり、「あまり不安でない」と「不安でない」を合わせた“不安ではない”は46.3%となっている。前回調査と比べると、“不安である”がやや上昇し、半数を超える結果となった。

（6）週に1回以上は外出しているか

問2（6）週に1回以上は外出していますか

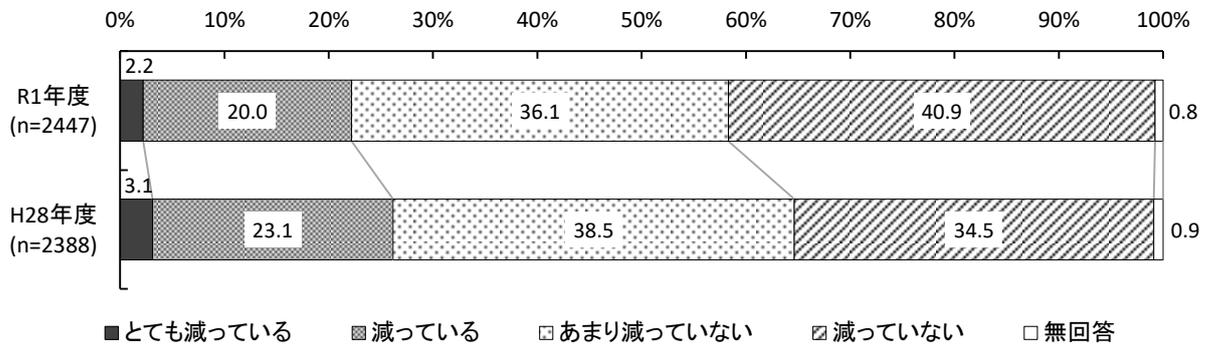


週に1回以上は外出しているかたずねたところ、「週2~4回」が44.9%と最も多く、次いで「週5回以上」(35.2%)、「週1回」(14.4%)となっている。

一方、「ほとんど外出しない」は4.8%となり、「ほとんど外出しない」と「週1回」を合わせた“週1回以下”は前回に比べてやや低下したものの、約2割を占めている。

（7）昨年と比べて外出の回数が減っているか

問2（7）昨年と比べて外出の回数が減っていますか

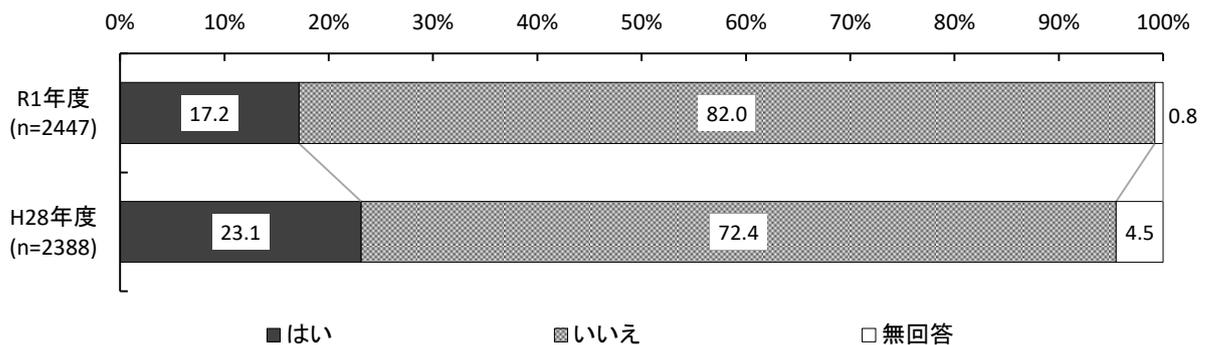


昨年と比べて外出の回数が減っているかたずねたところ、「減っていない」が40.9%と最も多く、これに「あまり減っていない」を合わせた“減っていない”は77.0%と、前回（73.0%）よりも上昇している。

一方、「とても減っている」と「減っている」を合わせた“減っている”は22.2%となっている。

（8）外出を控えているか

問2（8）外出を控えていますか

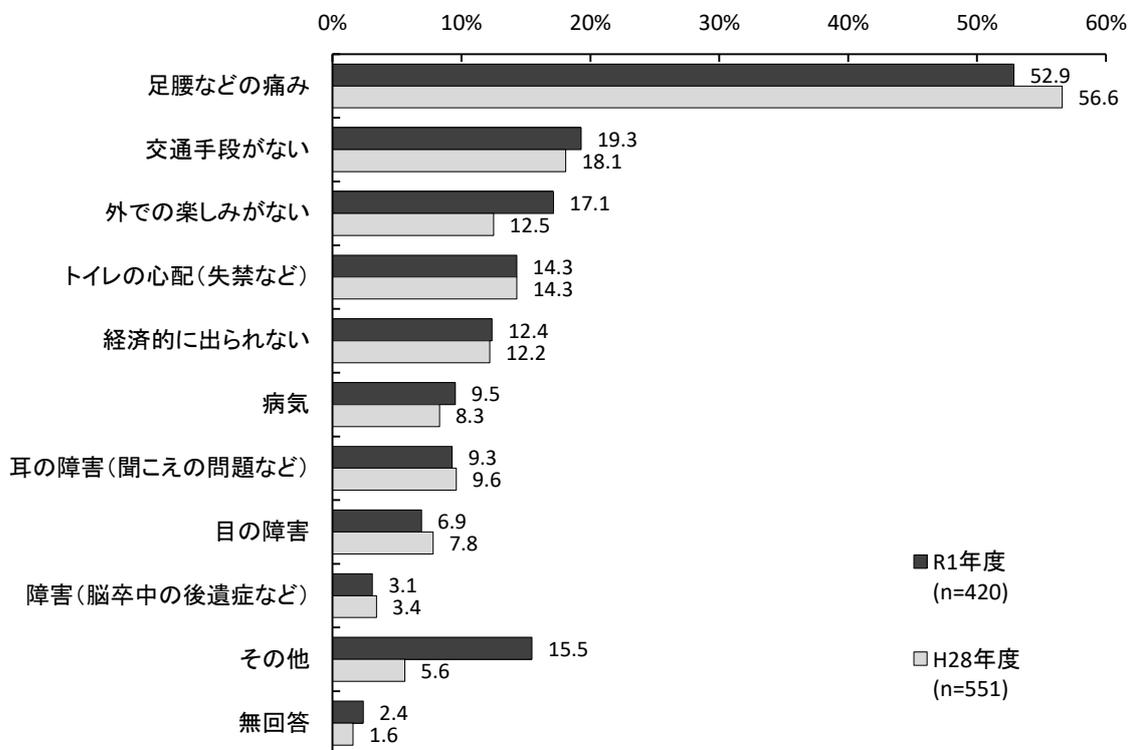


外出を控えているかたずねたところ、「いいえ」が82.0%と8割以上を占めており、前回調査に比べると9.6ポイントの上昇となっている。

(9) 外出を控えている理由

【(8)で「1. はい」(外出を控えている)の方のみ】

問2 (9) 外出を控えている理由は、次のどれですか(いくつでも)

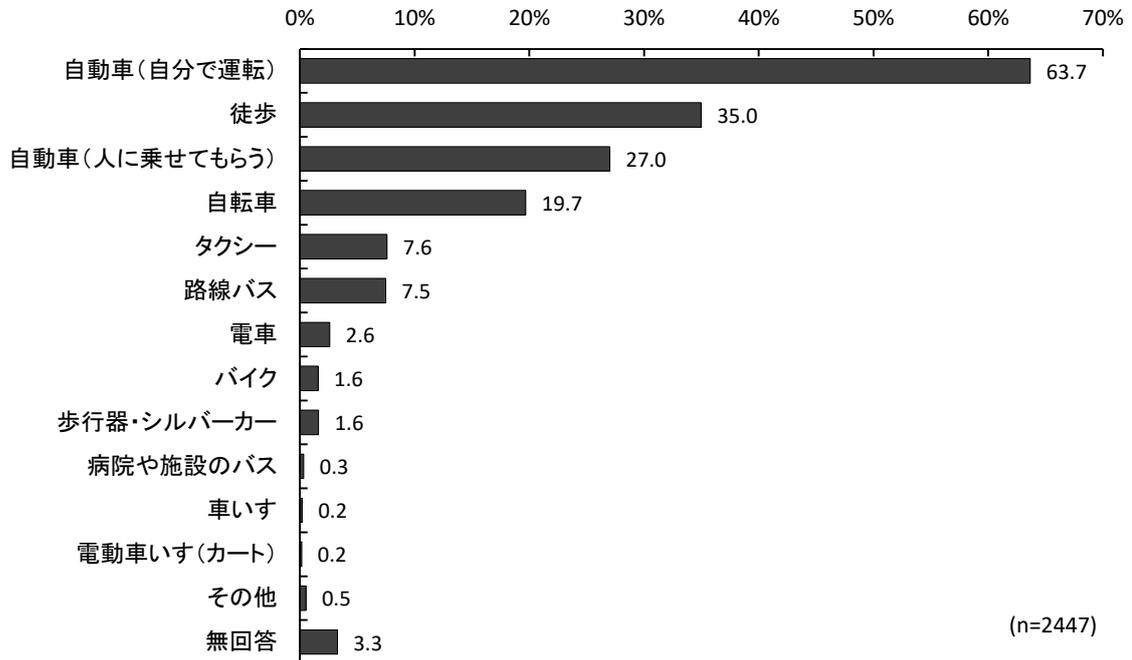


外出を控えている理由は、「足腰などの痛み」が 52.9%と最も多く、次いで「交通手段がない」(19.3%)、「外での楽しみがない」(17.1%)となっている。

前回調査と比較すると、第1位と第2位は同様の結果となったが、第3位と4位の項目が入れ替わり、前回第4位であった「外での楽しみがない」が第3位となっている。

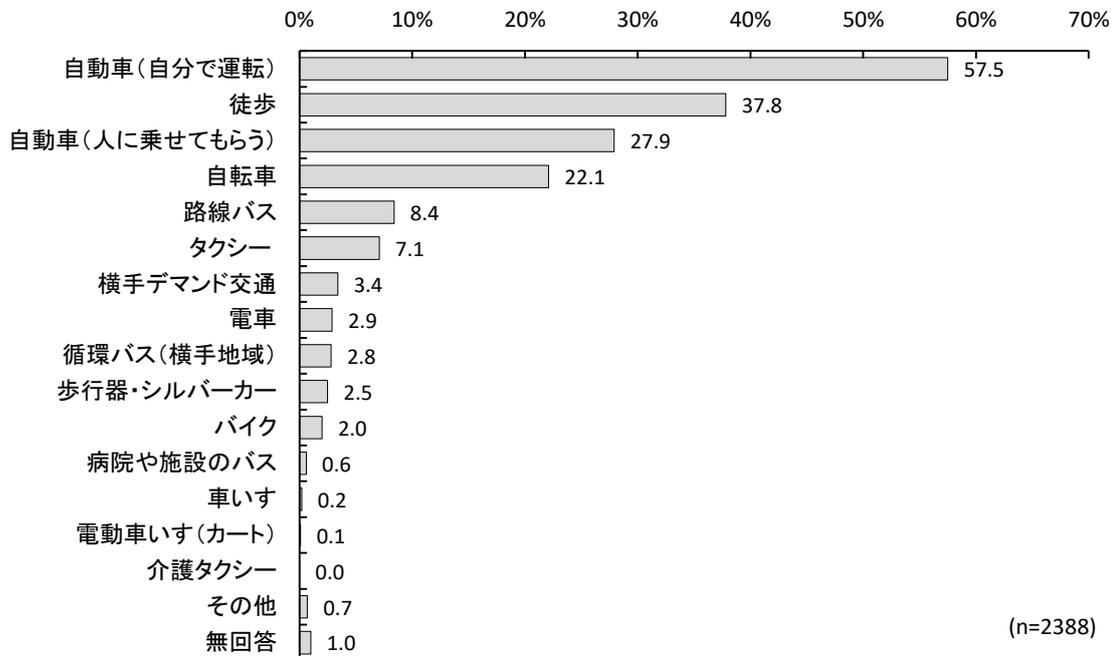
(10) 外出する際の移動手段

問2 (10) 外出する際の移動手段は何ですか (いくつでも)



(参考) 前回調査

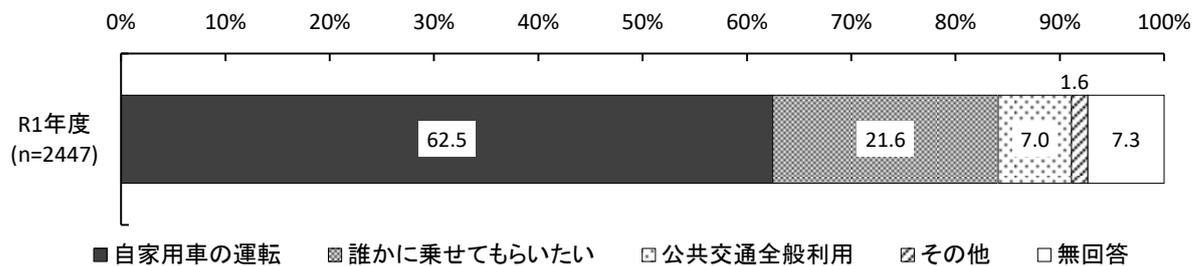
2-問9 外出する際の移動手段は何ですか (いくつでも)



外出時の移動手段は、「自動車(自分で運転)」が63.7%と最も多く、次いで「徒歩」(35.0%)、「自動車(人に乗せてもらう)」(27.0%)となっている。

（11）今後の移動手段

問2（11）今後の移動手段について（現在の予定で結構です）

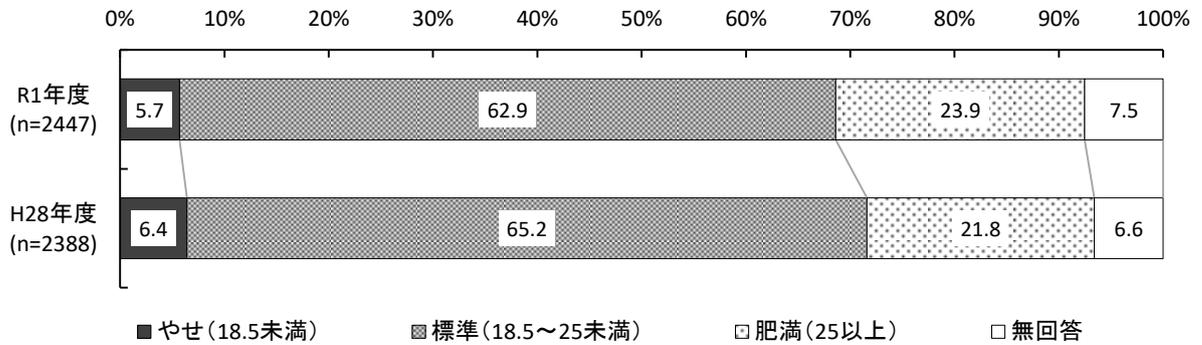


今後の移動手段は、「自家用車の運転」が 62.5%と最も多く、次いで「誰かに乗せてもらいたい」が 21.6%となり、これらを合わせた“自動車による移動”が 84.1%となっている。

3. 食べることについて

(1) 身長・体重（BMI）

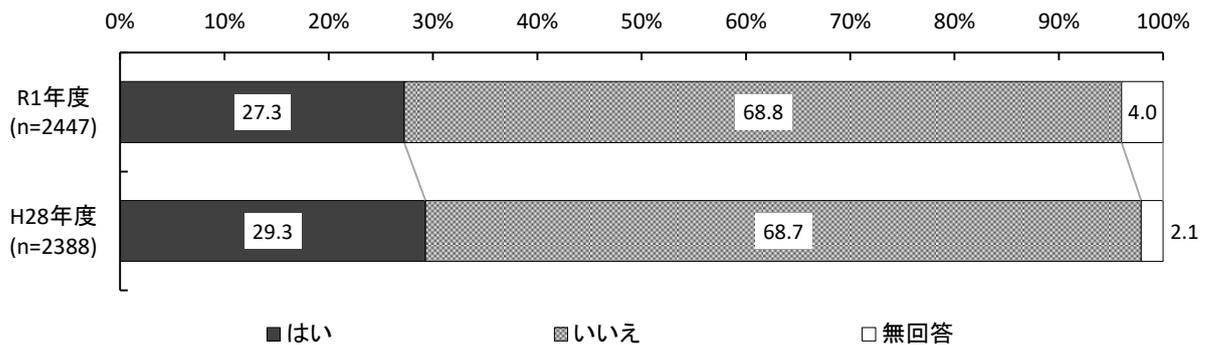
問3（1）身長・体重（BMI値）



身長・体重からBMI値を算出したところ、約6割が「標準（18.5～25未満）」となり、「肥満（25以上）」は23.9%、「やせ（18.5未満）」は5.7%と、前回同様の結果となっている。

(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか

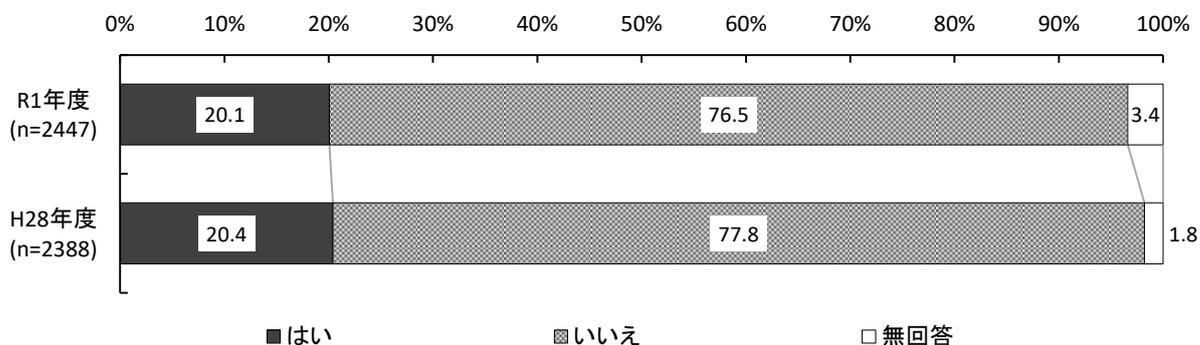
問3（2）半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか



半年前に比べて固いものが食べにくくなったかたずねたところ、前回調査と同様に「いいえ」が約7割を占めている。

（3）お茶や汁物等でむせることがあるか

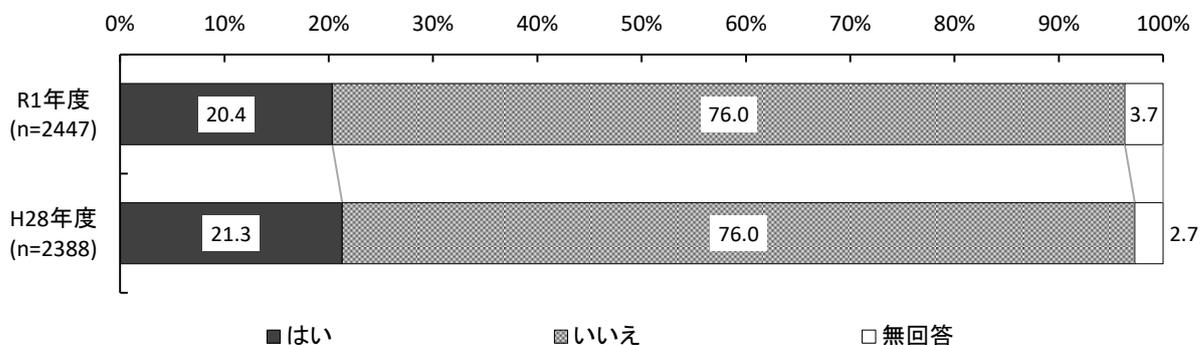
問3（3）お茶や汁物等でむせることがありますか



お茶や汁物等でむせることがあるかたずねたところ、前回調査と同様に「いいえ」が7割以上を占めている。一方、約2割が「はい」と回答している。

（4）口の渇きが気になるか

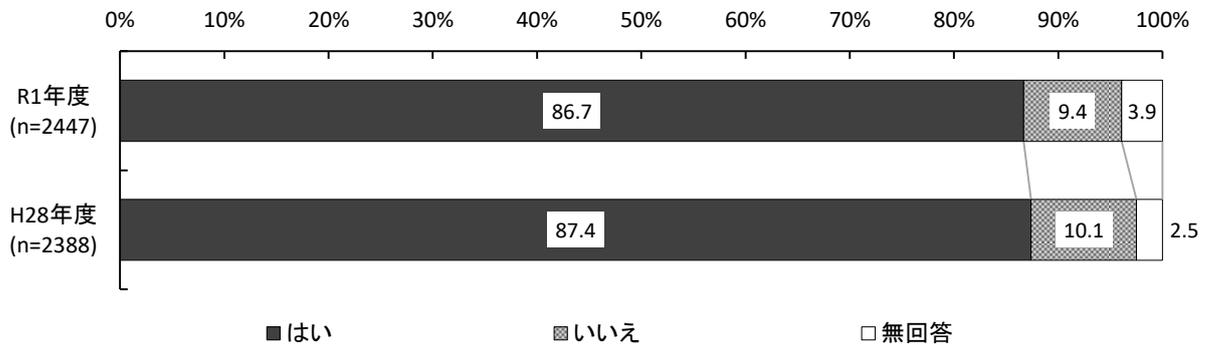
問3（4）口の渇きが気になりますか



口の渇きが気になるかたずねたところ、「いいえ」が76.0%と前回同様となっている。一方、「はい」は20.4%となっている。

（5）歯磨きを毎日しているか

問3（5）歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか

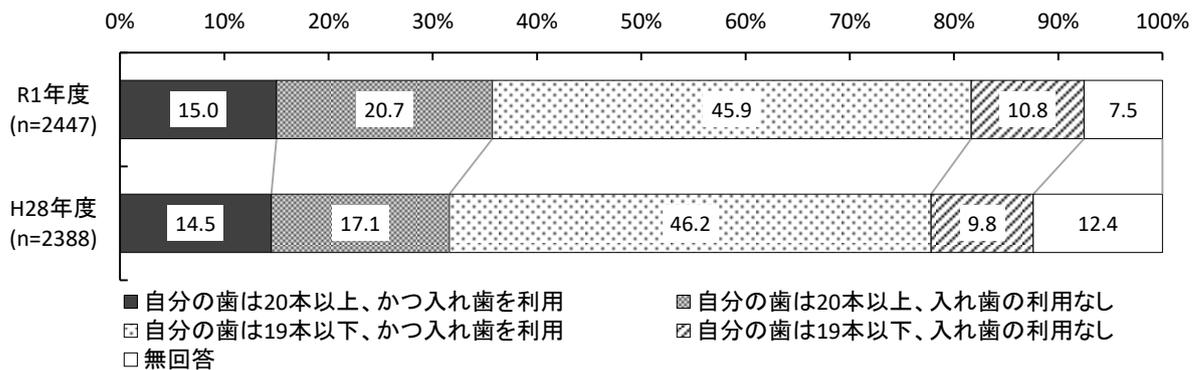


歯磨きを毎日しているかたずねたところ、「はい」が最も多く、前回調査と同様に8割以上を占めている。一方、「いいえ」は9.4%となっている。

（6）歯の数と入れ歯の利用状況

問3（6）歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください

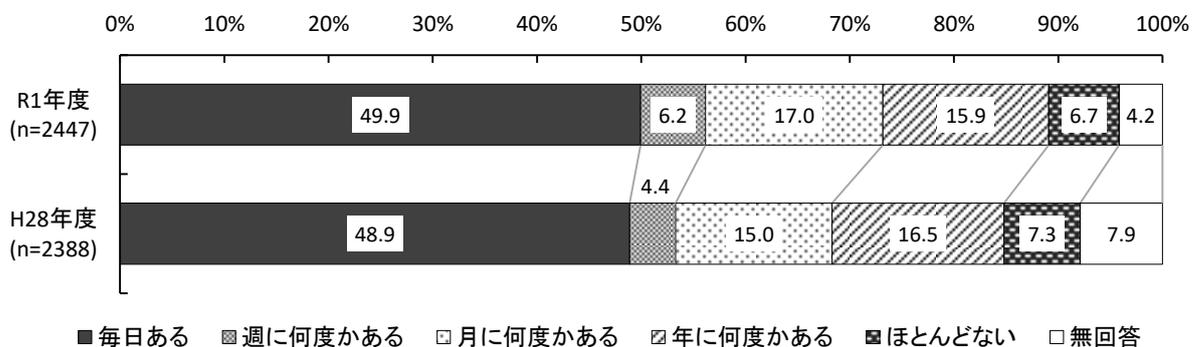
（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です）



歯の数と入れ歯の利用状況は、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が45.9%と前回同様に最も多く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」（20.7%）、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」（15.0%）となっている。

(7) 食事を誰かとともにする機会

問3 (7) どなたかと食事をともにする機会がありますか

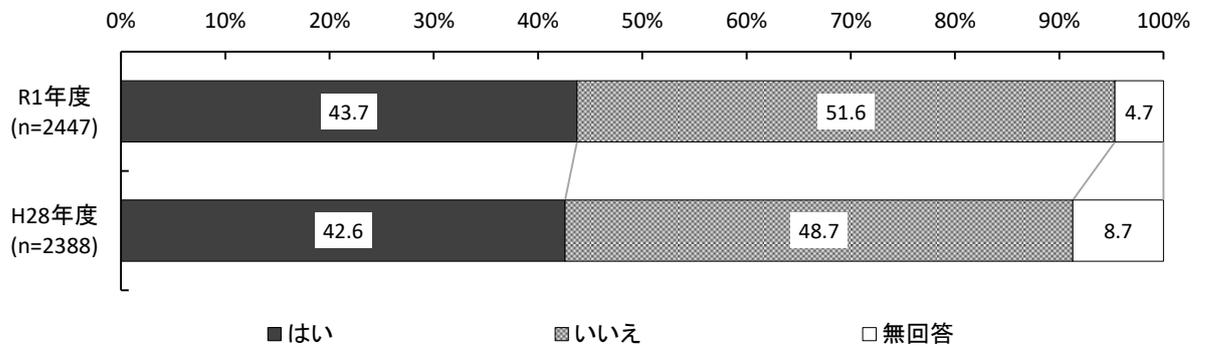


食事を誰かとともにする機会があるかたずねたところ、前回調査と同様に「毎日ある」が約5割を占めて最も多くなっている。次いで「月に何度かある」(17.0%)、「年に何度かある」(15.9%)となり、前回の第2位と3位が入れ替わる結果となった。一方、「ほとんどない」は6.7%となっている。

4. 毎日の生活について

（1）物忘れが多いと感じるか

問4（1）物忘れが多いと感じますか

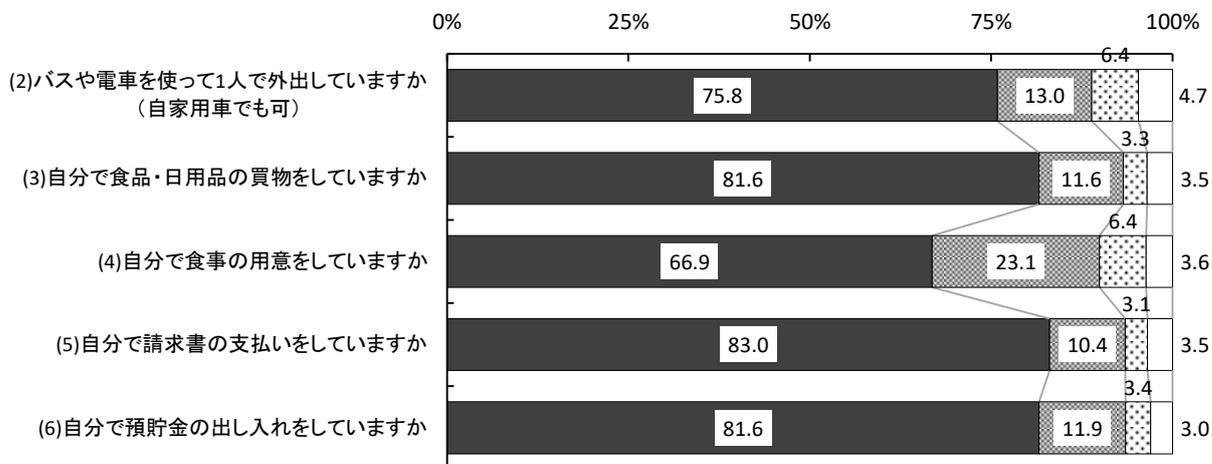


物忘れが多いと感じるかたずねたところ、前回調査と同様に「いいえ」が約5割を占めている。一方、「はい」は43.7%となっている。

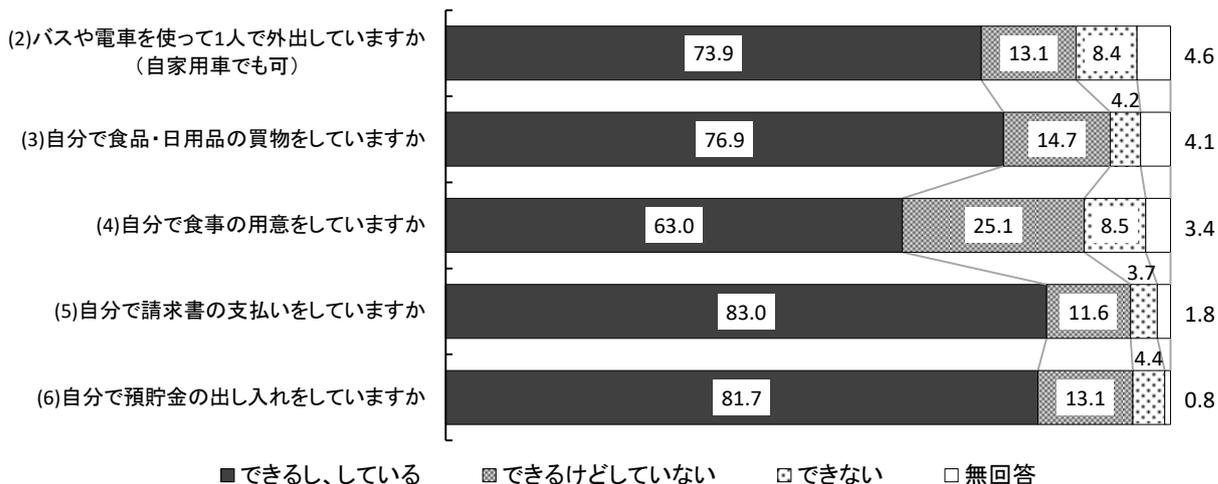
（2）移動や買い物等についての日常生活状況

問4（2）～（6）

【今回調査〔R1年度〕（n=2447）】



【前回調査〔H28年度〕（n=2388）】



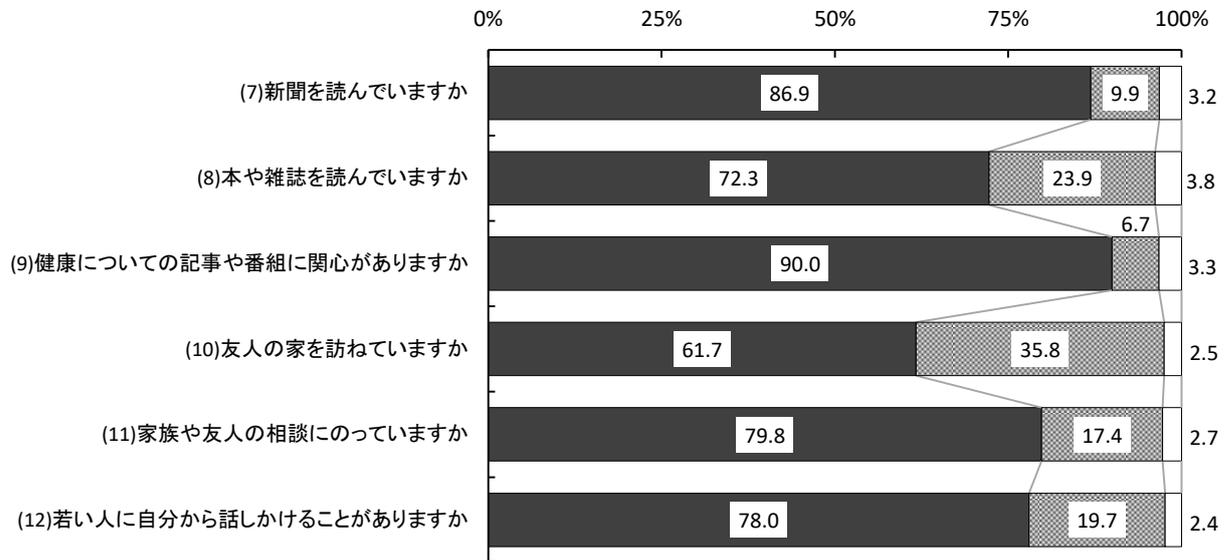
移動や買い物等についての日常生活状況は、『（3）自分で食品・日用品の買物をしていますか』、『（5）自分で請求書の支払いをしていますか』、『（6）自分で預貯金のおし入れをしていますか』の3つの設問で「できるし、している」が8割以上を占めている。一方、『（4）自分で食事の用意をしていますか』は、前回同様に「できるし、している」が6割台となり、他の設問に比べて少ない結果となっている。

すべての設問において、「できるし、している」と「できるけどしていない」を合わせた“できる”の割合が、前回同様に9割前後を占めている。

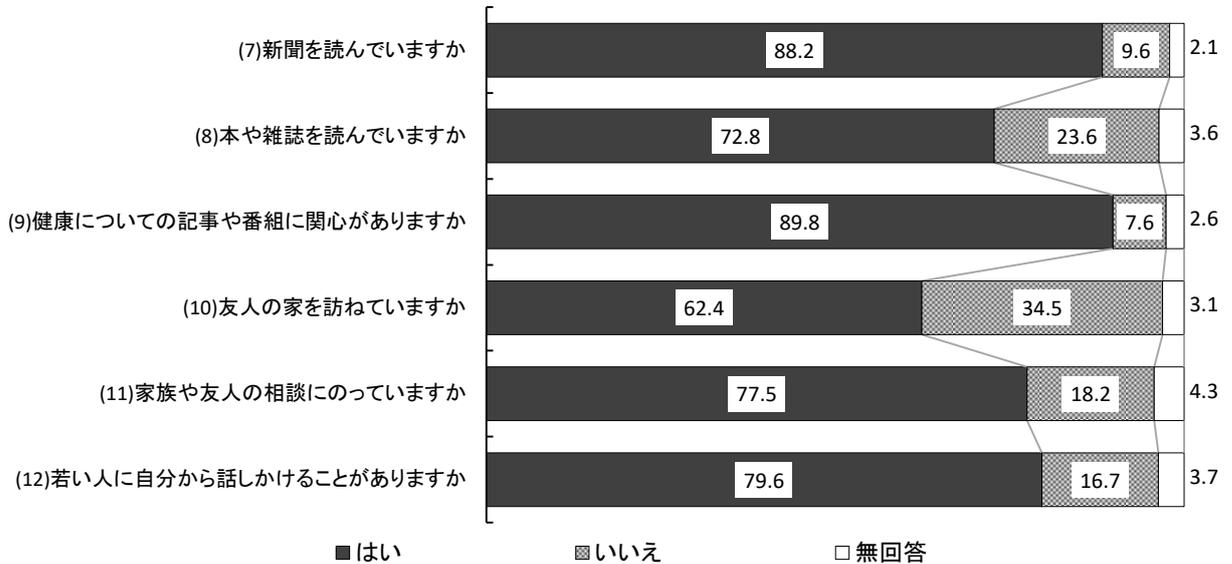
(3) 社会参加等についての日常生活状況

問4 (7) ~ (12)

【今回調査 [R1 年度] (n=2447)】



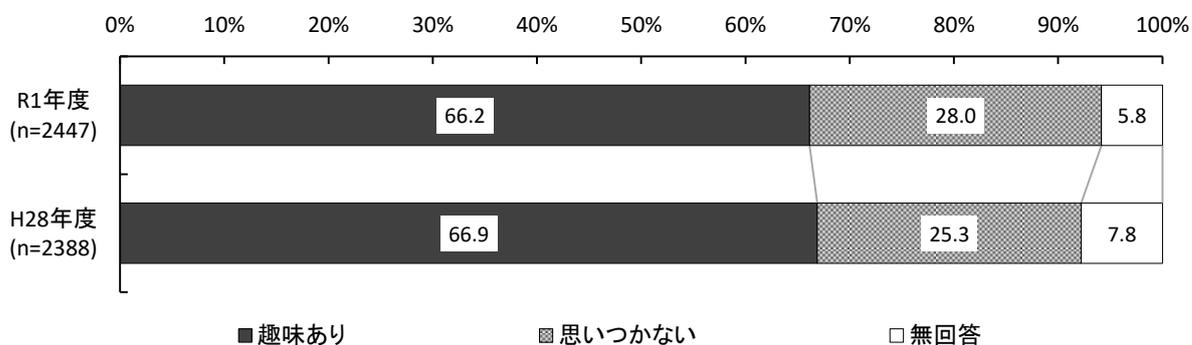
【前回調査 [H28 年度] (n=2388)】



社会参加等についての日常生活状況は、前回同様に、『(10) 友人の家を訪ねていますか』を除く5つの設問で「はい」が7割以上となっている。一方、『(10) 友人の家を訪ねていますか』では「はい」が約6割と、他の設問に比べて少なくなっている。

（4）趣味はあるか

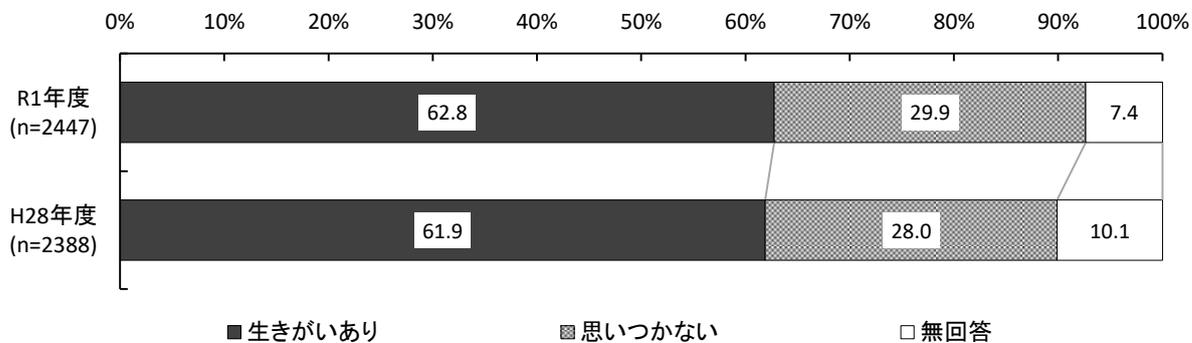
問4（13）趣味はありますか



趣味については、「趣味あり」が66.2%と前回同様となっている。一方、「思いつかない」は前回に比べて若干上昇し、28.0%となっている。

（5）生きがいはあるか

問4（14）生きがいがありますか



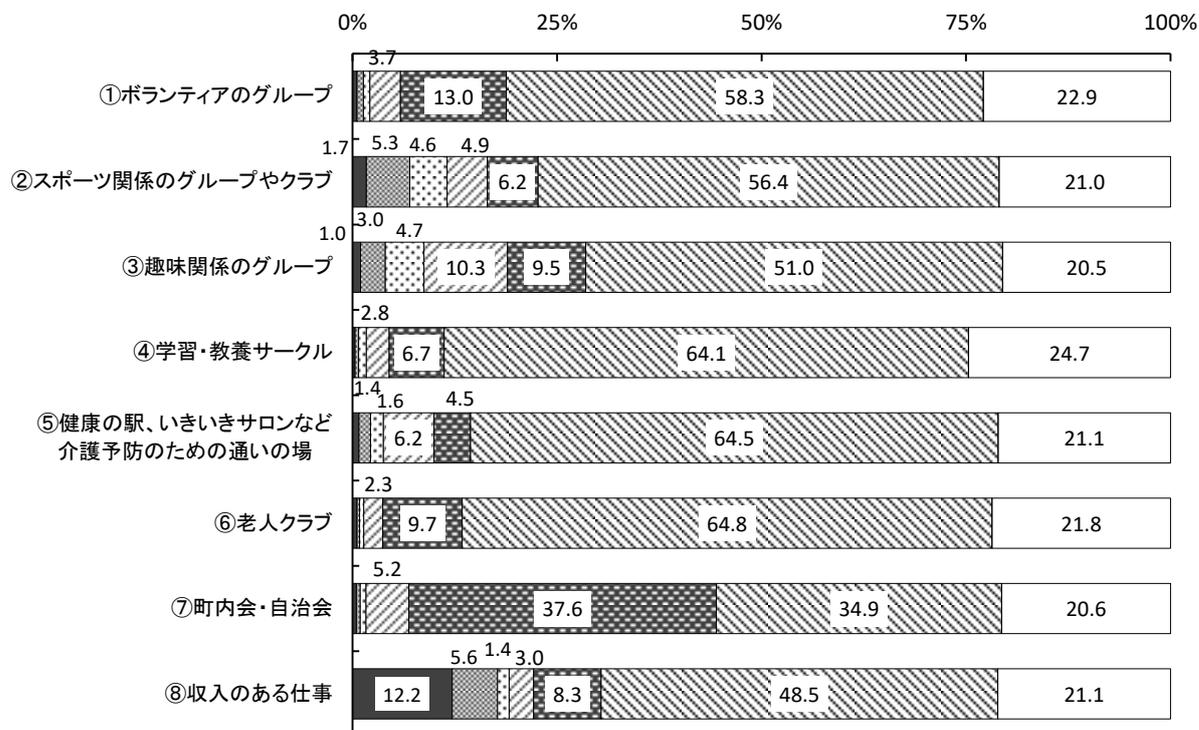
生きがいについては、前回同様に「生きがいあり」が約6割、「思いつかない」が約3割となっている。

5. 地域での活動について

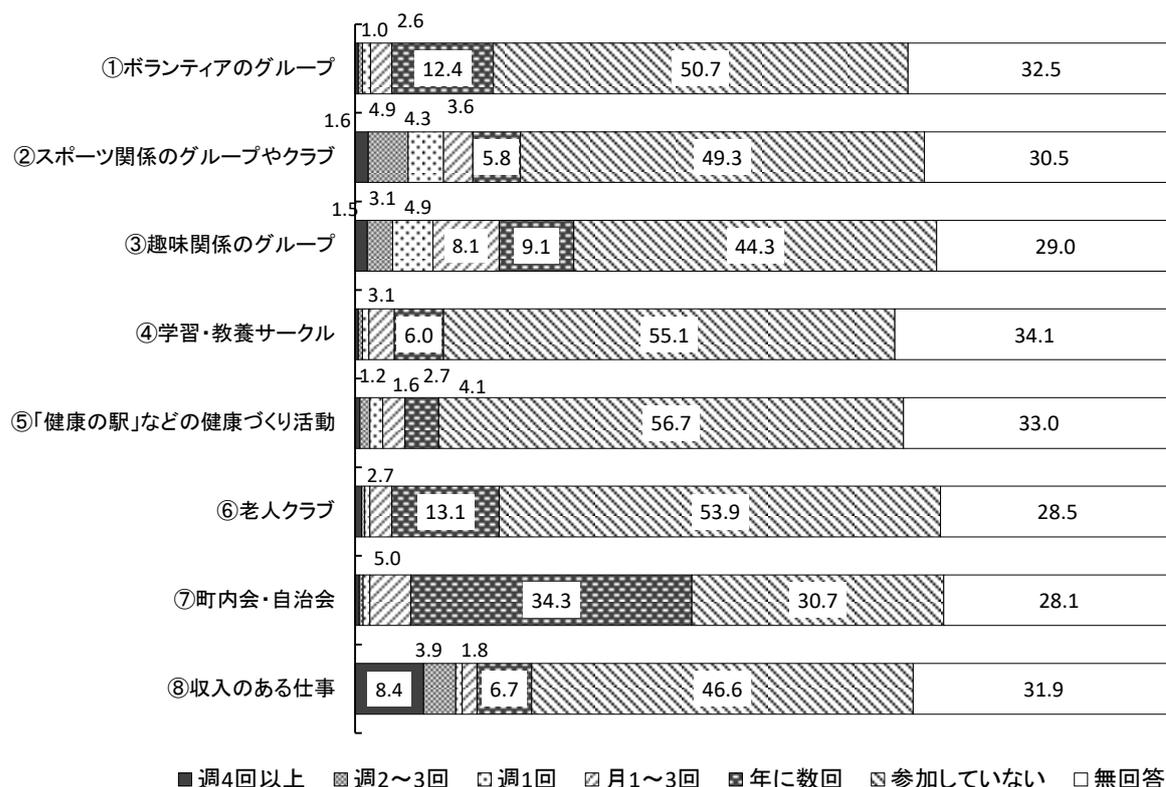
（1）地域活動への参加頻度

問5（1）以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか
※①～⑧それぞれに回答してください

【今回調査〔R1年度〕（n=2447）】



【前回調査〔H28年度〕（n=2388）】



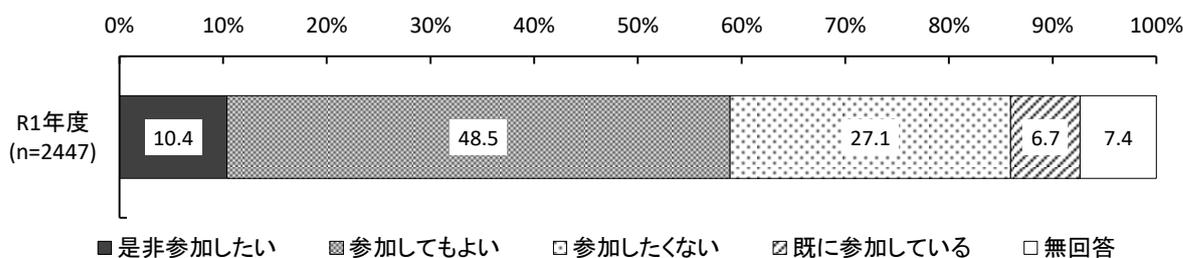
地域活動への参加頻度は、前回同様に、『⑦町内会・自治会』以外の活動で「参加していない」が4割以上を占めている。

『⑦町内会・自治会』では「年に数回」が37.6%と最も多く、「参加していない」と「無回答」を除いた“参加している”は44.4%と、他の活動より参加頻度が高い。

『⑧収入のある仕事』では、「週4回以上」が12.2%と前回に比べてやや上昇し、他の活動に比べれば参加頻度が高くなっている。

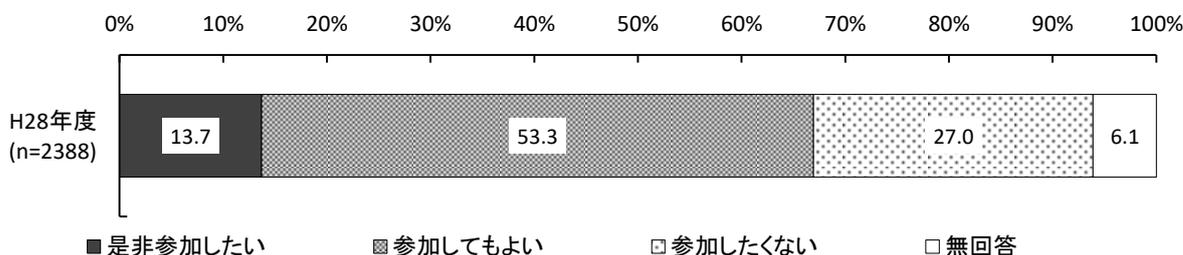
（2）地域活動に参加者として参加してみたいか

問5（2）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか



（参考）前回調査

5-問2 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか

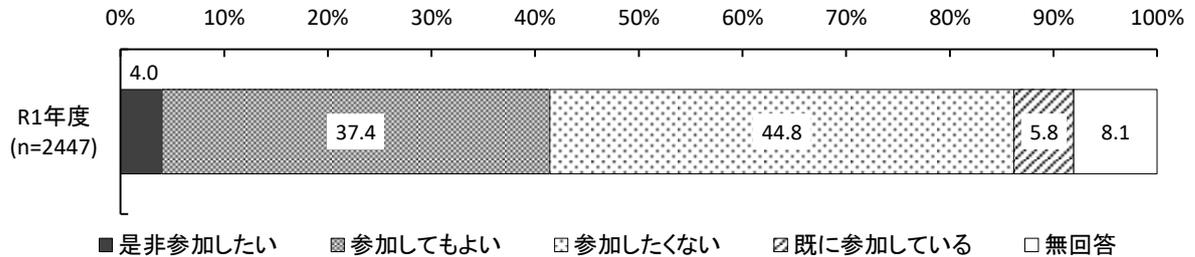


地域活動に参加者として参加してみたいかたずねたところ、「参加してもよい」が48.5%と最も多く、これに「是非参加したい」を合わせた“参加に肯定的”は58.9%となっている。

一方、「参加したくない」が約3割、「既に参加している」は1割にも満たない状況となっている。

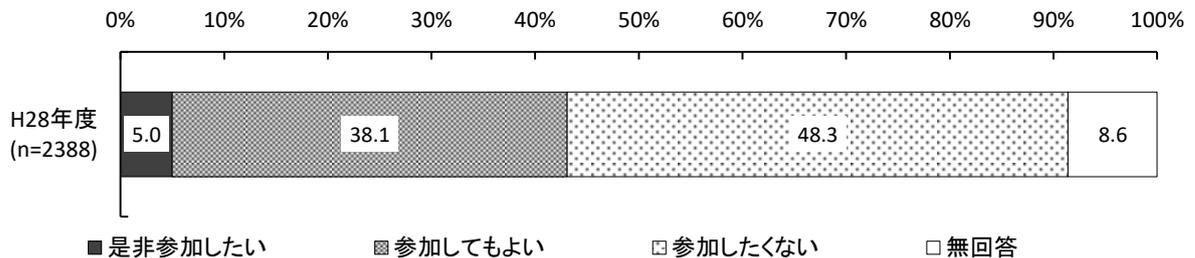
（3）地域活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいか

問5（3）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか



（参考）前回調査

5-問3 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか



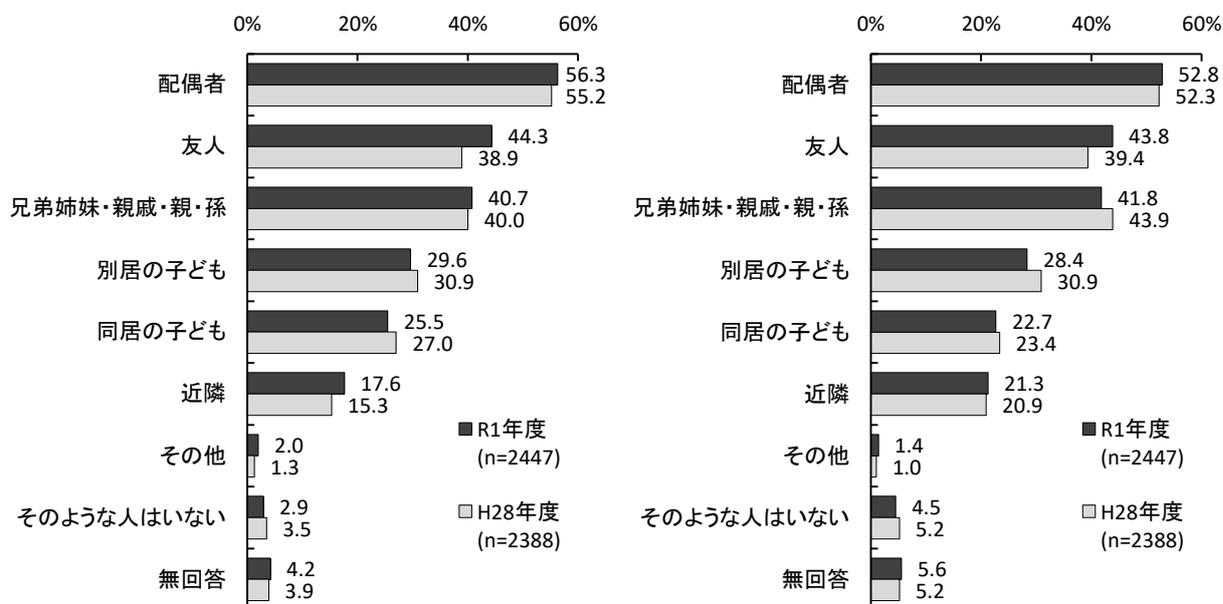
地域活動に企画・運営（お世話役）として参加したいかたずねたところ、「参加したくない」が44.8%と最も多くなっている。

一方、「是非参加したい」（4.0%）と「参加してもよい」（37.4%）を合わせた“参加に肯定的”は41.4%となっている。

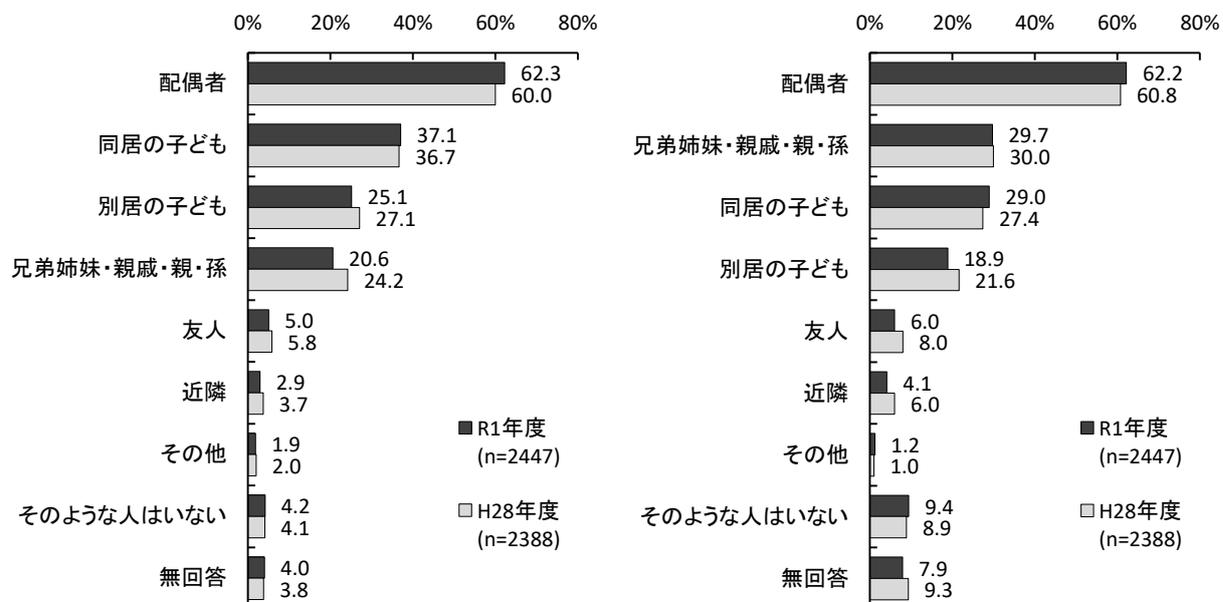
6. たすけあいについて

（1）まわりの人との「たすけあい」について

あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします	
問6（1）あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（いくつでも）	問6（2）反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（いくつでも）



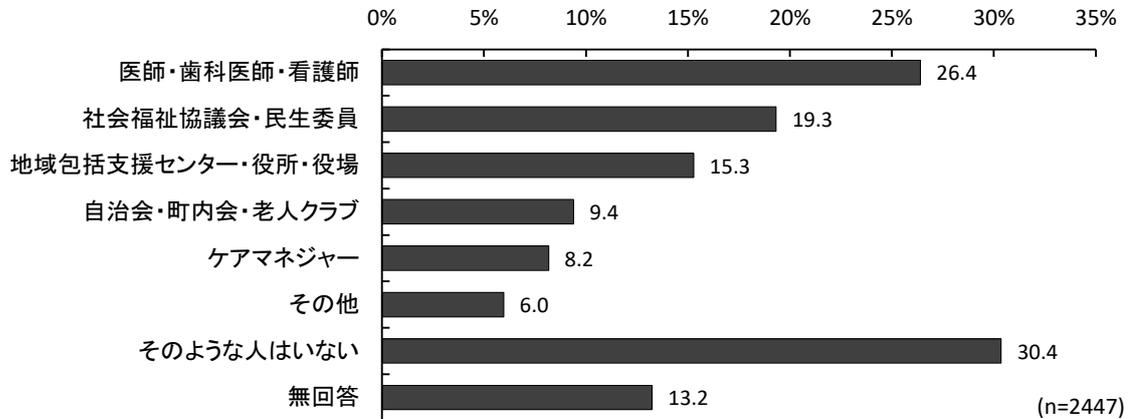
問6（3）あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）	問6（4）反対に、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）
--	------------------------------



まわりの人との「たすけあい」についてたずねたところ、『（1）心配事や愚痴を聞いてくれる人』と『（2）心配事や愚痴を聞いてあげる人』では、第1位「配偶者」、第2位「友人」、第3位「兄弟姉妹・親戚・親・孫」の順となり、前回の2位と3位が入れ替わっている。『（3）看病や世話をしてくれる人』では、第1位「配偶者」、第2位「同居の子ども」、第3位「別居の子ども」となり、『（4）看病や世話をしてくれる人』では、第1位「配偶者」、第2位「兄弟姉妹・親戚・親・孫」、第3位「同居の子ども」となり、前回同様となっている。

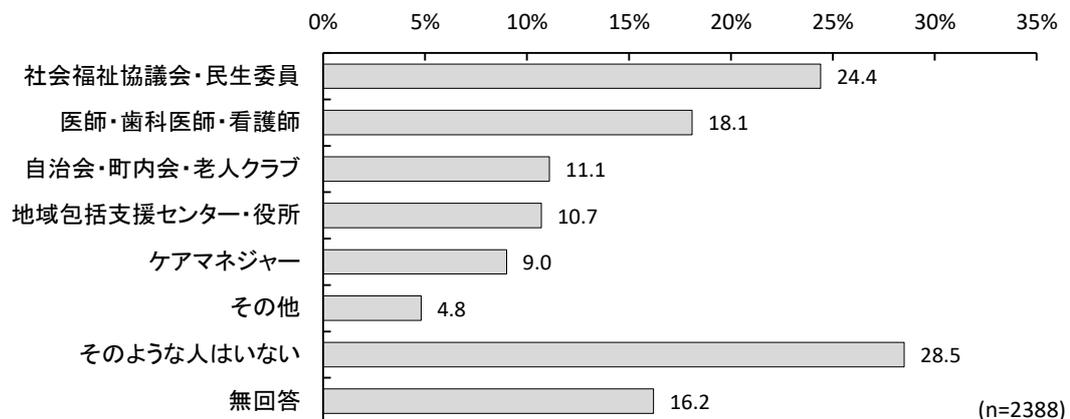
(2) 家族や友人・知人以外の相談相手

問6 (5) 家族や友人・知人以外で、何かあった時に相談する相手を教えてください。(いくつでも)



(参考) 前回調査

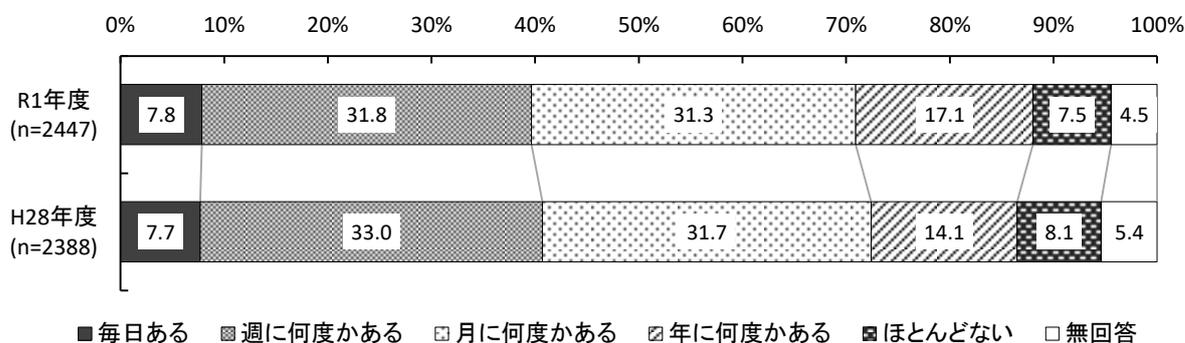
6-問5 家族や友人・知人以外で、何かあった時の相談相手を教えてください (いくつでも)



家族や友人・知人以外の相談相手をたずねたところ、「医師・歯科医師・看護師」が26.4%と最も多く、次いで「社会福祉協議会・民生委員」(19.3%)、「地域包括支援センター・役所・役場」(15.3%)となっている。前回第1位であった「社会福祉協議会・民生委員」が第2位となり、前回2位であった「医師・歯科医師・看護師」が第1位へと順位が入れ替わっている。一方、前回同様に3割程度が「そのような人はいない」と回答している。

（3）友人・知人と会う頻度

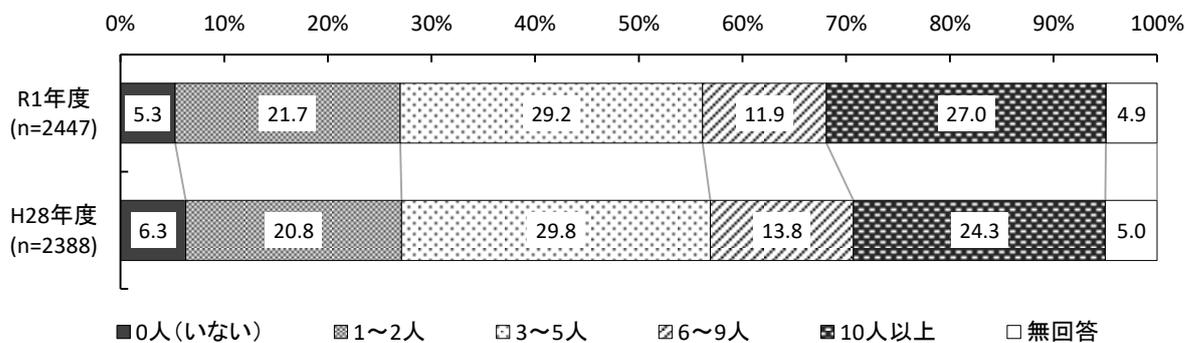
問6（6）友人・知人と会う頻度はどれくらいですか



友人・知人と会う頻度は、「週に何度かある」が31.8%、「月に何度かある」が31.3%と、前回同様にこの2項目が多くなっている。

（4）この1か月間、何人の友人・知人と会ったか

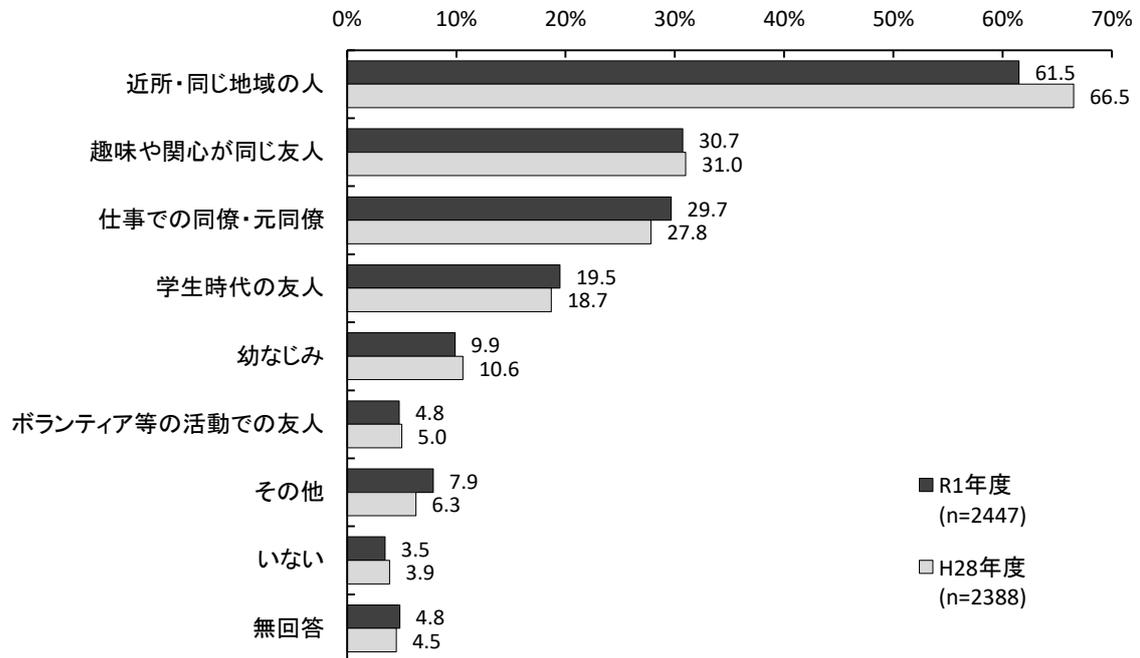
問6（7）この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。
同じ人には何度会っても1人と数えることとします



この1か月間に会った友人・知人の人数は、「3～5人」が29.2%と最も多く、次いで「10人以上」(27.0%)、「1～2人」(21.7%)となり、前回同様の結果となっている。

(5) よく会う友人・知人

問6 (8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか (いくつでも)

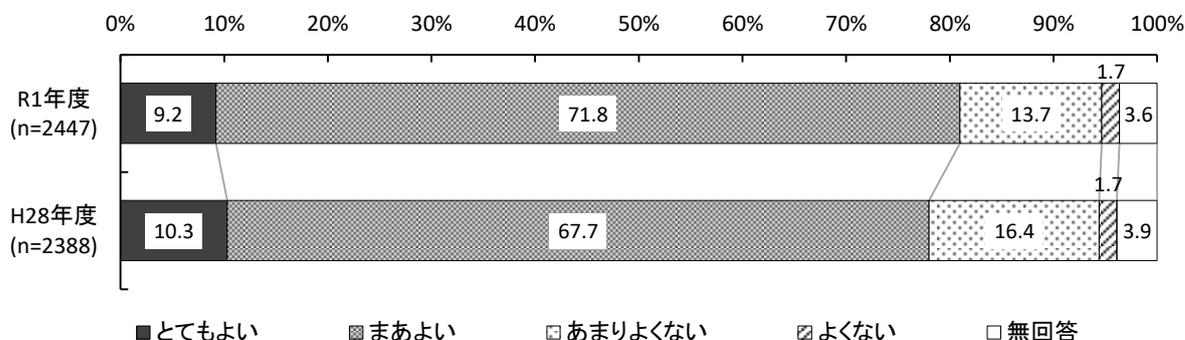


よく会う友人・知人との関係は、「近所・同じ地域の人」が61.5%と最も多く、次いで「趣味や関心が同じ友人」(30.7%)、「仕事での同僚・元同僚」(29.7%)となり、前回同様の結果となっている。

7. 健康について

（1）自身の健康状態

問7（1）現在のあなたの健康状態はいかがですか

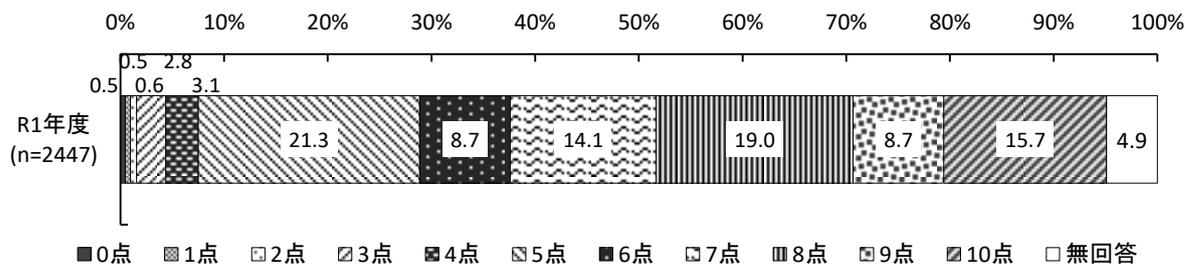


自身の健康状態は、「まあよい」が71.8%と最も多く、これに「とてもよい」を合わせた“健康である”が81.0%と、前回同様に約8割を占めている。一方、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた“健康でない”は15.4%となっている。

（2）現在の幸福度

問7（2）あなたは、現在どの程度幸せですか

（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください）

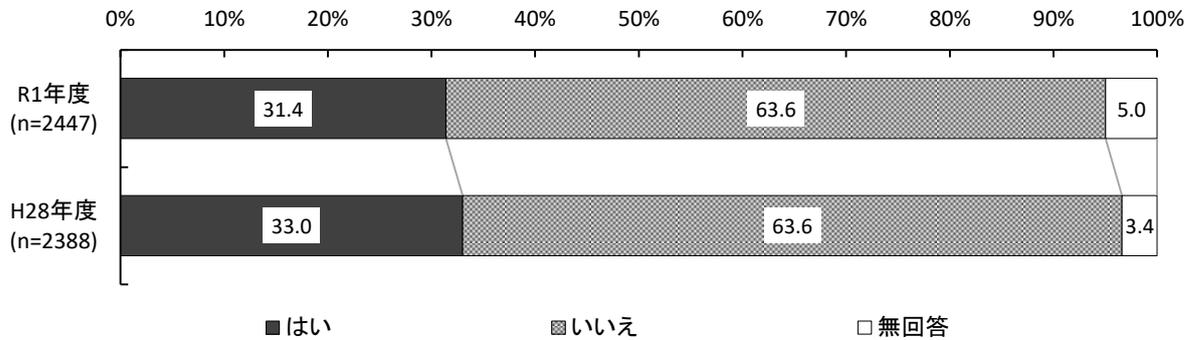


	有効回答	平均	標準偏差	最大値	最小値
R1年度	2,327	7.02	2.10	10	0
H28年度	2,270	7.08	2.14	10	0

現在の幸福度についてたずねたところ、5点が21.3%と最も多く、次いで8点が19.0%、10点が15.7%となっている。平均点は7.02点と、前回同様の結果となっている。

（3）この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか

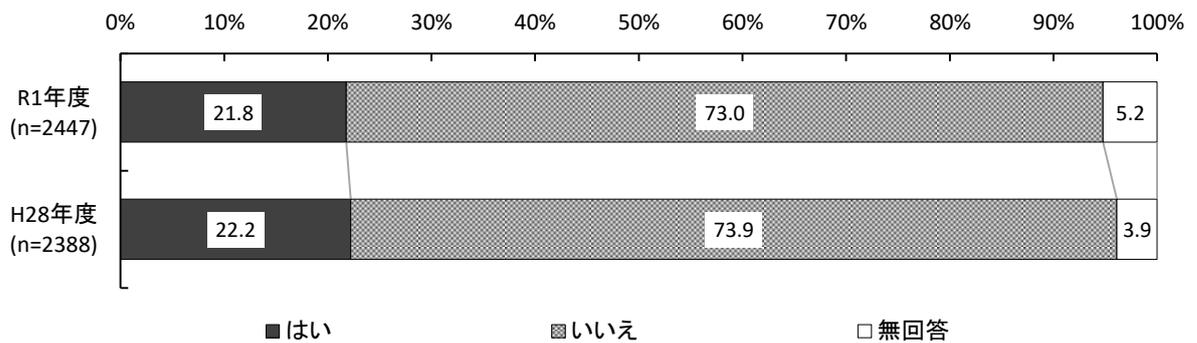
問7（3）この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか



この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかたずねたところ、「はい」が31.4%、「いいえ」が63.6%と、前回同様の結果となっている。

（4）この1か月間、物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったか

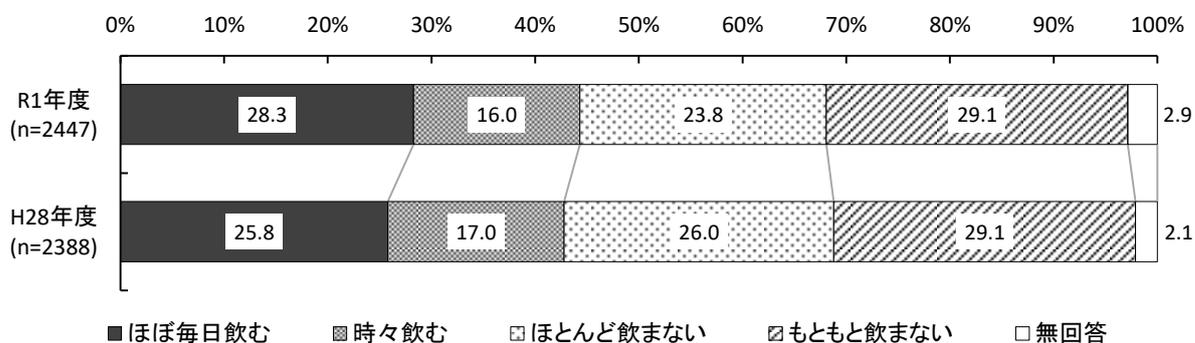
問7（4）この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか



この1か月間、物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったかたずねたところ、「はい」が21.8%、「いいえ」が73.0%と、前回同様の結果となっている。

（5）飲酒状況

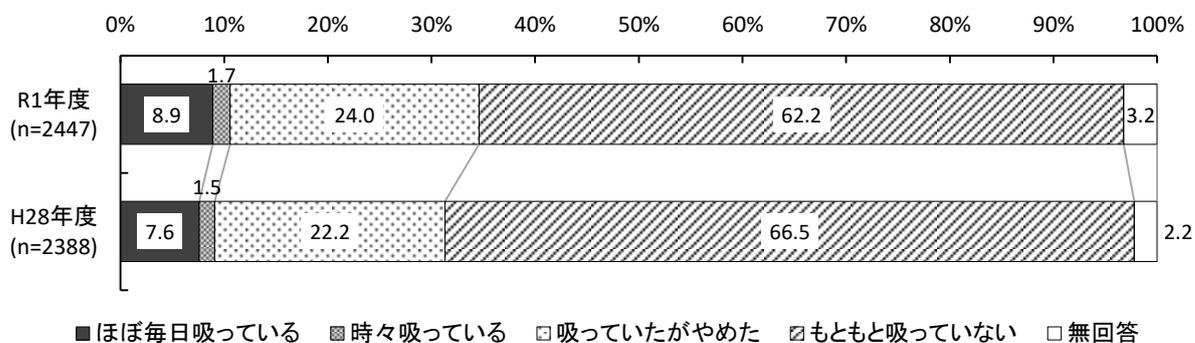
問7（5）お酒は飲みますか



飲酒状況は、「もともと飲まない」が前回同様に 29.1%と最も多く、次いで「ほぼ毎日飲む」（28.3%）、「ほとんど飲まない」（23.8%）となり、前回に比べ「ほぼ毎日飲む」が若干上昇している。

（6）喫煙状況

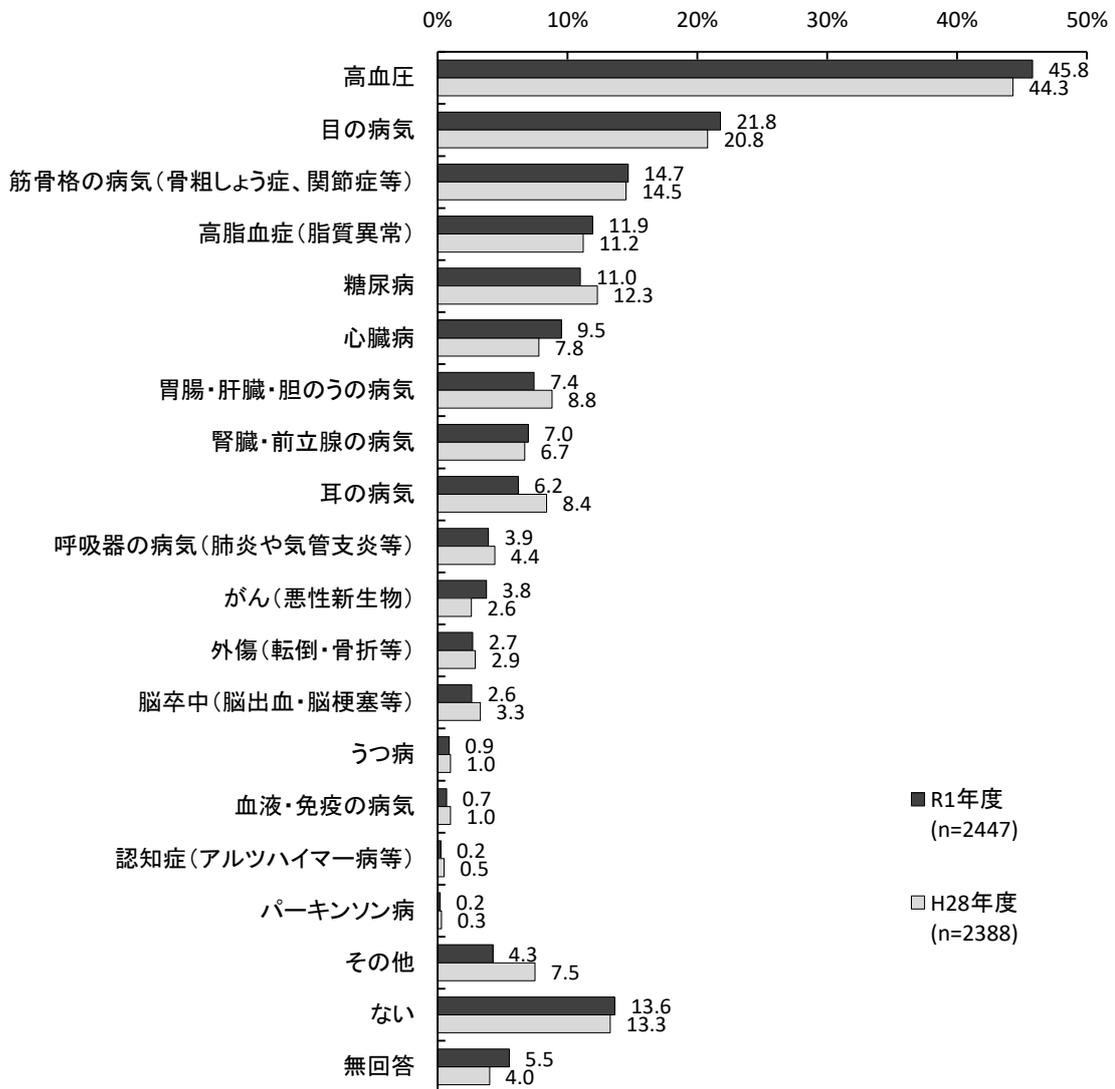
問7（6）タバコは吸っていますか



喫煙状況は、「もともと吸っていない」が 62.2%と最も多く、次いで「吸っていたがやめた」（24.0%）となっている。これらを合わせた“吸っていない”は 86.2%と、前回同様に 8割以上を占めた一方、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた“吸っている”は約 1割となっている。

（7）現在治療中、または後遺症のある病気

問7（7）現在治療中、または後遺症のある病気はありますか（いくつでも）

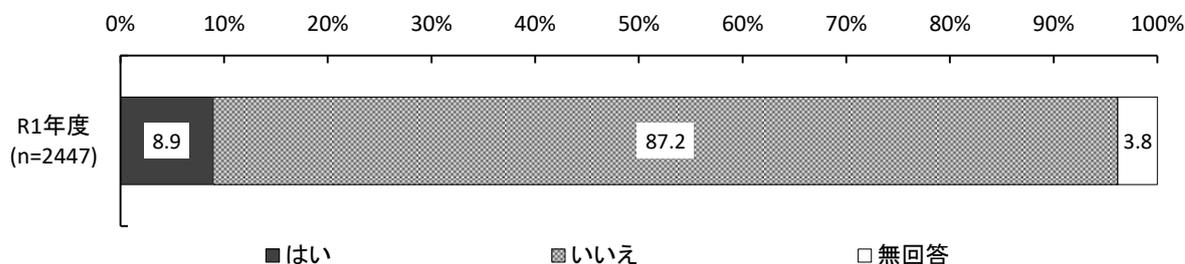


現在治療中、または後遺症のある病気は、「高血圧」が 45.8%と最も多く、次いで「目の病気」(21.8%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(14.7%)、「高脂血症(脂質異常)」(11.9%)、「糖尿病」(11.0%)となっている。第1位～第3位は前回同様の結果となった。一方、「ない」は 13.6%となっている。

8. 認知症にかかる相談窓口の把握について

（1）認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるか

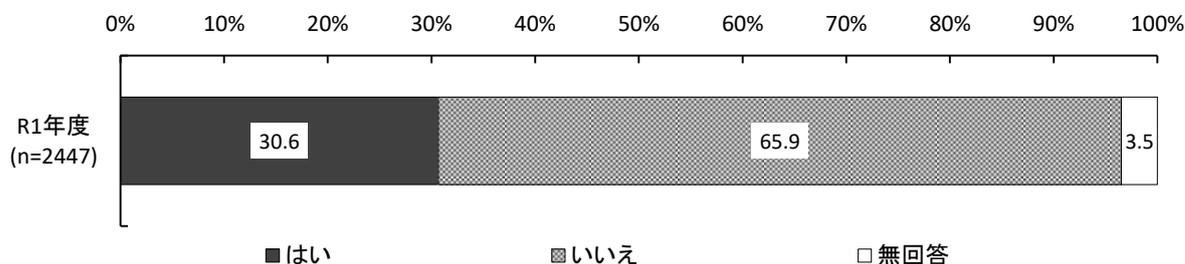
問8（1）認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか



認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるかたずねたところ、「いいえ」が87.2%となり、「はい」は1割未満となっている。

（2）認知症に関する相談窓口を知っているか

問8（2）認知症に関する相談窓口を知っていますか

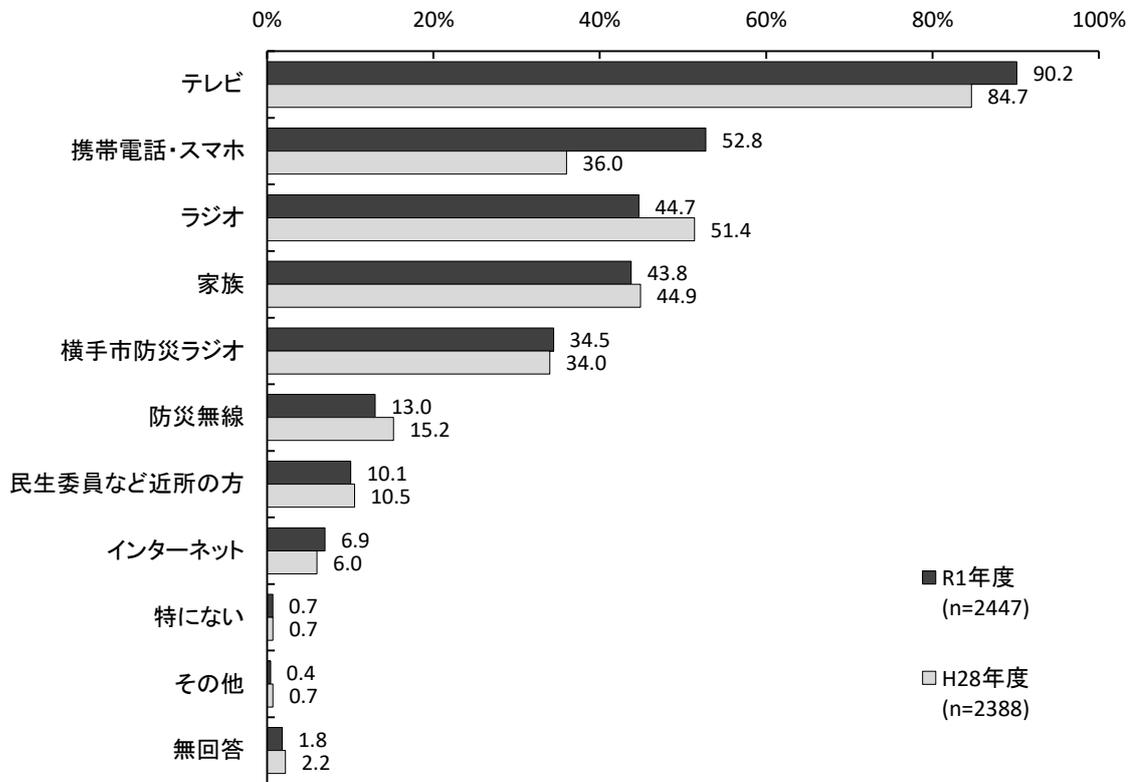


認知症に関する相談窓口を知っているかたずねたところ、「はい」は3割程度となり、「いいえ」が約7割を占めている。

9. 相談ごと・情報・災害対応について

（1）地震などの災害発生時、緊急情報を入手する方法

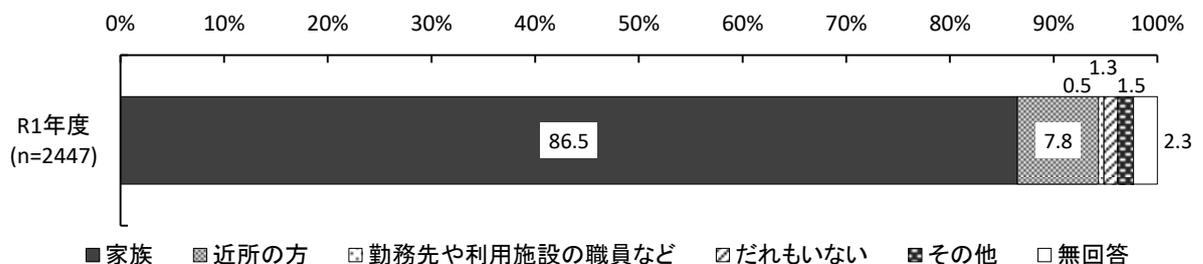
問9（1）地震など災害が発生した場合、緊急の情報を得る方法（いくつでも）



地震などの災害発生時に緊急情報を入手する方法は、「テレビ」が90.2%と前回同様に最も多くなっている。次いで「携帯電話・スマホ」(52.8%)、「ラジオ」(44.7%)、「家族」(43.8%)となり、「携帯電話・スマホ」は前回より大幅に上昇し(16.8ポイント上昇)、第4位から第2位になっている。

（2）地震などの災害発生時、連絡を取る人

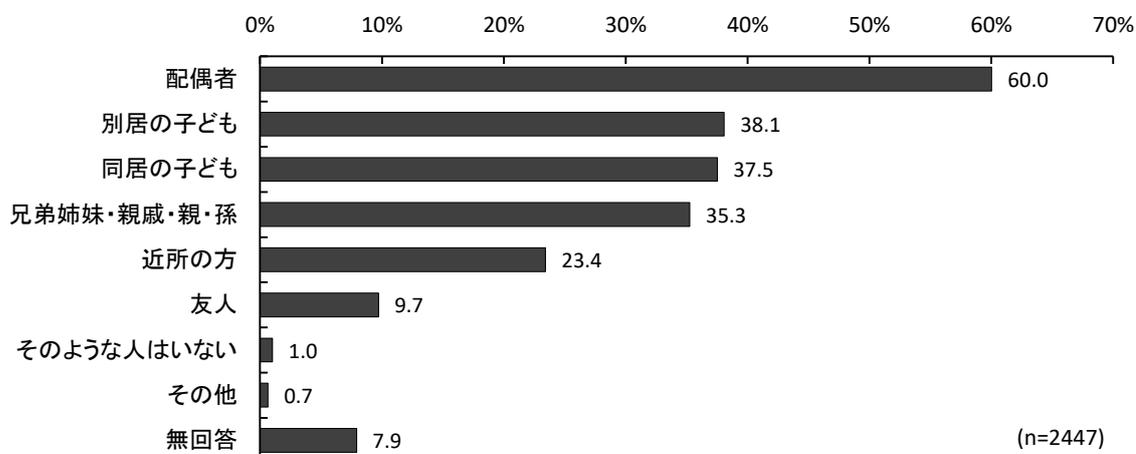
問9（2）地震などの災害が発生した場合、誰に連絡を取りますか



自身などの災害発生時に連絡を取る人は、「家族」が86.5%と最も多くなっている。一方で、1.3%が「だれもない」と回答している。

（3）災害発生時に誰に連絡をとるかを知っている人

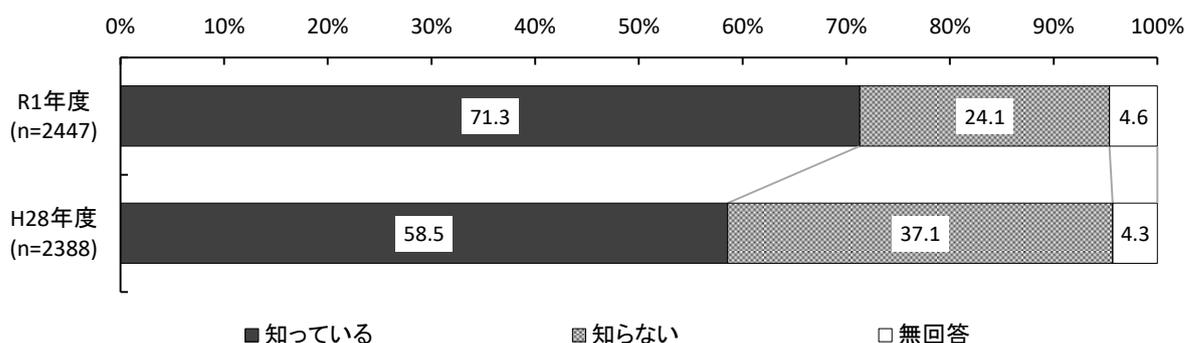
問9（3）（2）のことを知っている方はどなたですか（いくつでも）



災害発生時に誰に連絡を取るかを知っている人は、「配偶者」が 60.0%と最も多く、次いで「別居の子ども」(38.1%)、「同居の子ども」(37.5%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(35.3%)となっている。

（4）地域の避難場所を知っているか

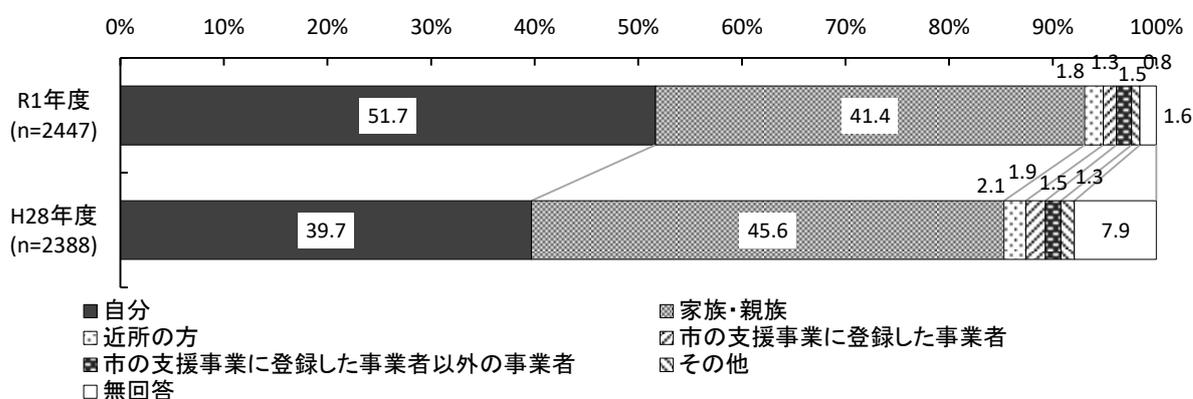
問9（4）地域の避難場所をご存知ですか



地域の避難場所を知っているかたずねたところ、「知っている」が 71.3%、「知らない」が 24.1%となっている。前回調査に比べ、「知っている」が大幅に上昇している。

（5）自宅の雪よせをする人

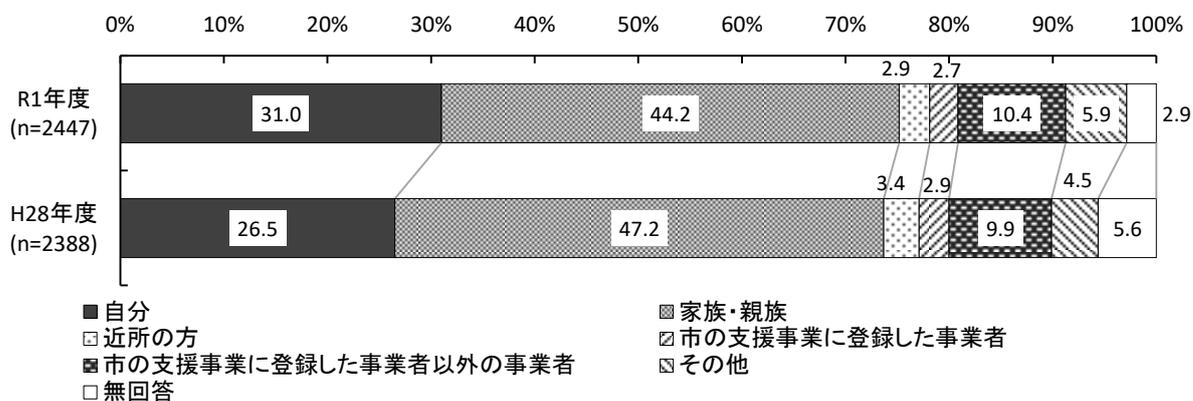
問9（5）問5 自宅の雪よせは、主に誰が行っていますか（1つに○）



自宅の雪寄せをする人をたずねたところ、「自分」が 51.7%と最も多く、次いで「家族・親族」(41.4%) となっている。前回調査に比べ「自分」が大幅に上昇し、第1位となっている。

（6）自宅の雪下ろしをする人

問9（6）自宅の雪下ろしは、主に誰が行っていますか（1つに○）

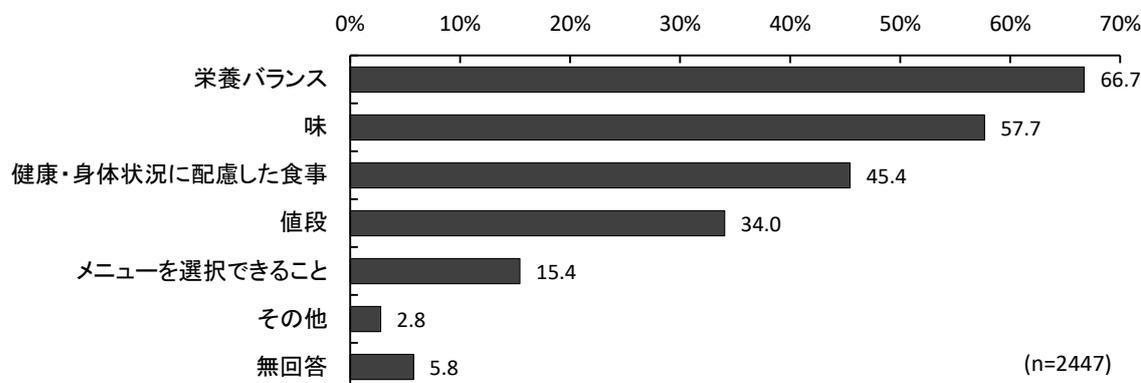


自宅の雪下ろしをする人は、「家族・親族」が 44.2%と前回同様に最も多く、次いで「自分」(31.0%) となっている。

10. 食事の準備と食生活について

（1）食事の準備をすることにおいて、重視すること

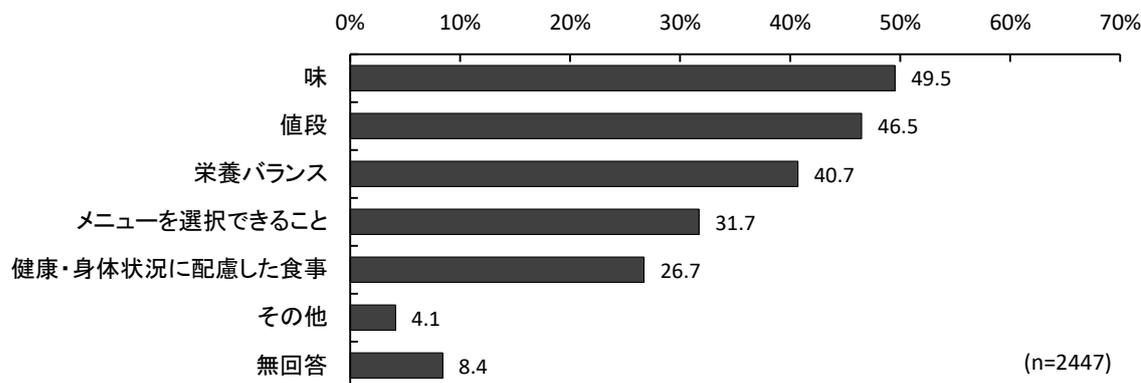
問10（1）自宅で食事の準備をすることにおいて、重視することはなんですか。（いくつでも）



食事の準備において重視することは、「栄養バランス」が 66.7%と最も多く、次いで「味」(57.7%)、「健康・身体状況に配慮した食事」(45.4%) となっている。

（2）出前や弁当などを利用する場合、重視すること

問10（2）出前や弁当などを利用する場合、重視することはなんですか。（いくつでも）

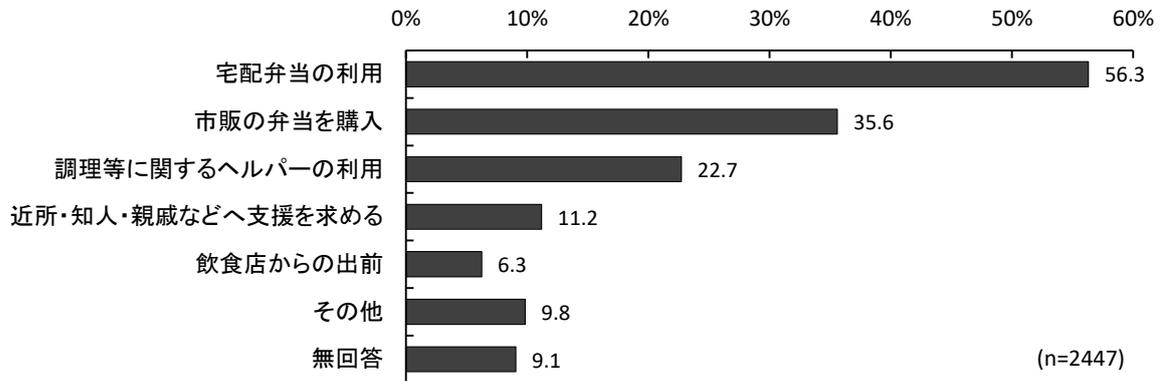


出前や弁当などを利用する場合に重視することは、「味」が 49.5%と最も多く、次いで「値段」(46.5%)、「栄養バランス」(40.7%) となっている。上位3項目は、食事の準備において重視すること（問10（1））と同様であるが、順位は異なり、食事の準備では第1位であった「栄養バランス」は第3位となっている。

（3）食事の準備が困難になったときの意向

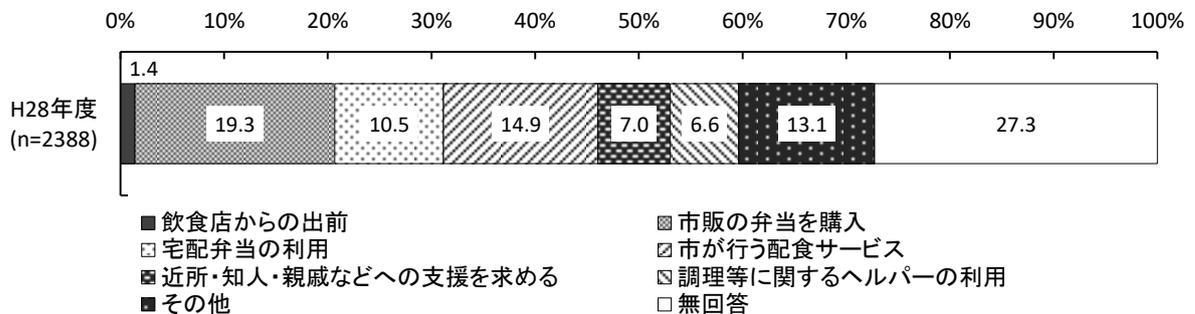
次の問（3）から（8）までは、将来あなたが身体の不調などにより、自力で食事の準備が困難になった場合のことを想定してお答えください。

問10（3）食事の準備が困難になったときに、どのような対応をしたいと思いますか。（いくつでも）



（参考）前回調査

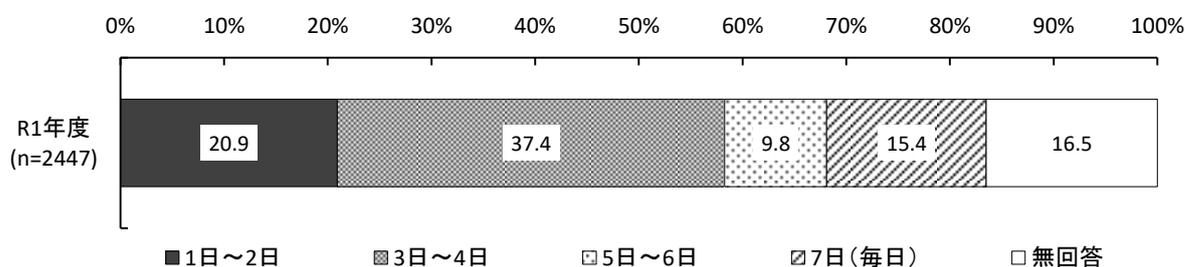
3-問11 食事の準備が困難になった時に、どのような対応をしたいと思いますか
（1つだけ）



食事の準備が困難になった場合の対応は、「宅配弁当の利用」が 56.3%と最も多く、次いで「市販の弁当を購入」（35.6%）、「調理等に関するヘルパーの利用」（22.7%）となっている。

（4）出前や弁当などを利用する場合に希望する、週あたりの利用日数（自力で食事の準備が困難になった場合）

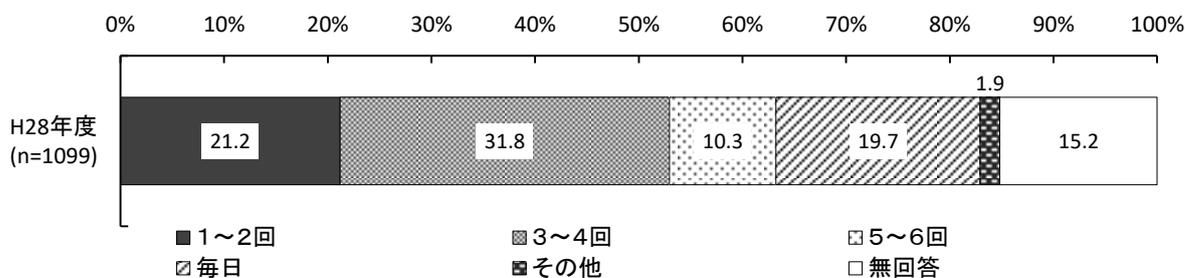
問10（4）出前や弁当などを利用する場合、週に何日まで利用したいですか。（1つに○）



（参考）前回調査

3-問11-2 問【3-問11】で「1」～「4」を選択した方にお聞きします。

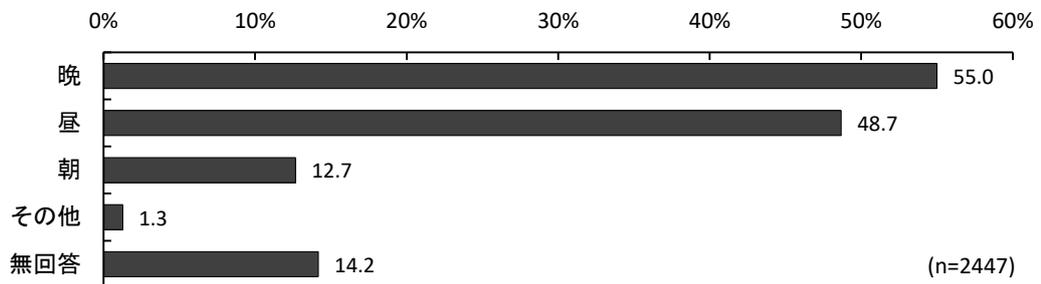
週何回まで利用したいですか



出前や弁当などを利用する場合に希望する、週あたりの利用日数は、「3日～4日」が37.4%と最も多く、次いで「1日～2日」(20.9%)、「7日(毎日)」(15.4%)となっている。

(5) 出前や弁当などを利用する場合に希望する利用時間帯（自力で食事の準備が困難になった場合）

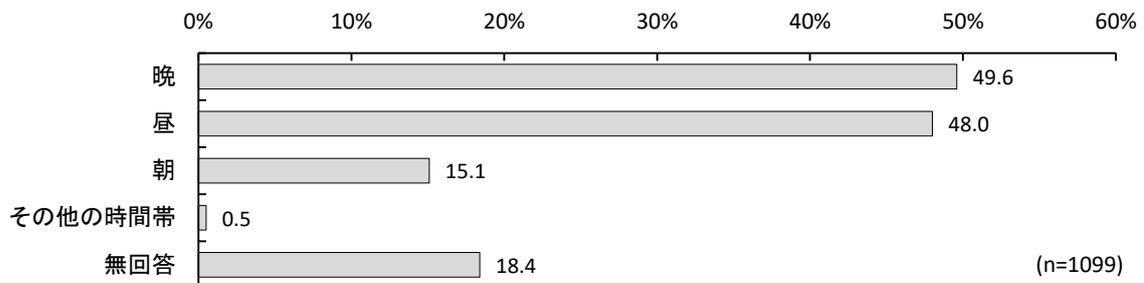
問10 (5) 出前や弁当などを利用する場合、どの時間帯に利用したいですか。（いくつでも）



(参考) 前回調査

3-問 11-3 問【3-問 11】で「1」～「4」を選択した方にお聞きします。

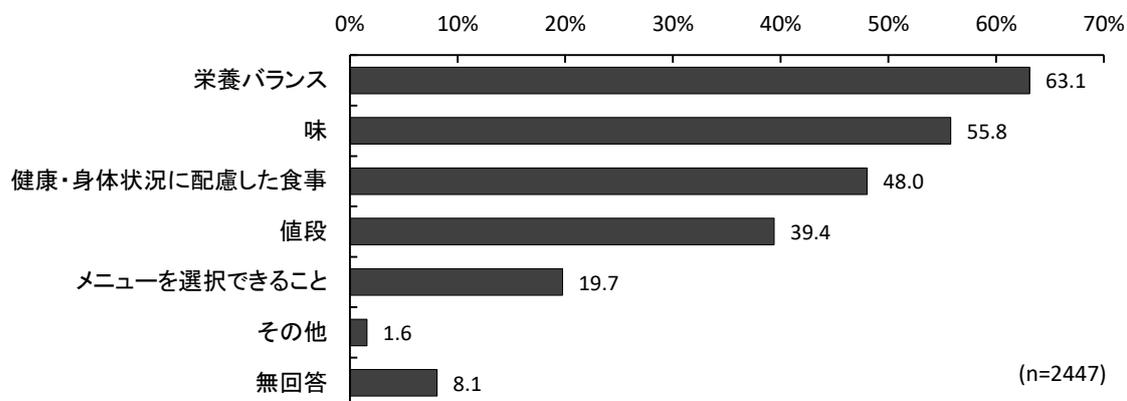
どの時間帯に利用したいですか（当てはまるもの全てに○）



出前や弁当などを利用する場合に希望する利用時間帯は、「晩」が 55.0%と最も多く、次いで「昼」(48.7%)、「朝」(12.7%) となっている。

(6) 自宅で食事の準備をすることにおいて、重視すること（自力で食事の準備が困難になった場合）

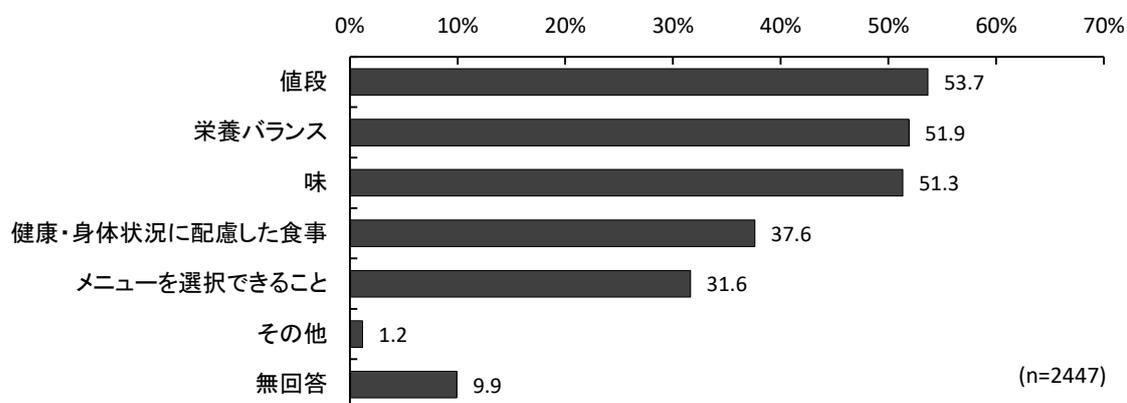
問10 (6) 自宅で食事の準備をすることにおいて、重視することはなんですか。（いくつでも）



自宅で食事の準備をすることにおいて重視することは、「栄養バランス」が 63.1%と最も多く、次いで「味」(55.8%)、「健康・身体状況に配慮した食事」(48.0%)となっている。

(7) 出前や弁当などを利用する場合、重視すること（自力で食事の準備が困難になった場合）

問10 (7) 出前や弁当などを利用する場合、重視することはなんですか。（いくつでも）

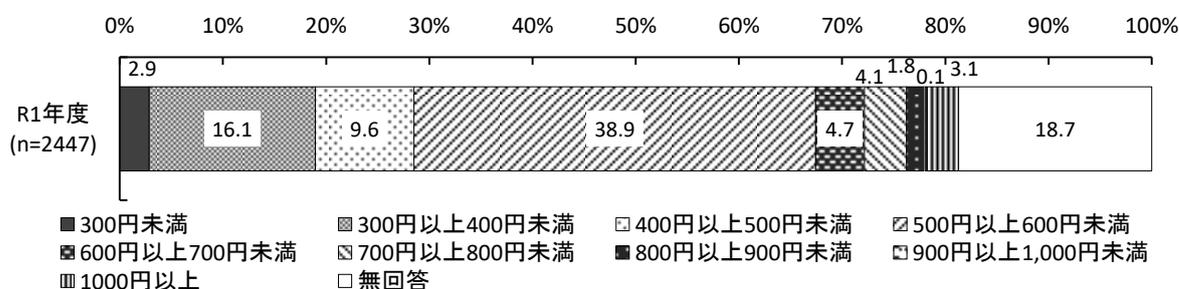


出前や弁当などを利用する場合に重視することは、「値段」が 53.7%と最も多く、次いで「栄養バランス」(51.9%)、「味」(51.3%)となっている。

普段、出前や弁当などを利用する場合に重視すること（問10 (2)）では「味」が第1位であったが、自力で食事の準備が困難になった場合には、「値段」が第1位となっている。

（8）配食サービスを利用することになった場合に希望する、1食あたりの料金負担（自力で食事の準備が困難になった場合）

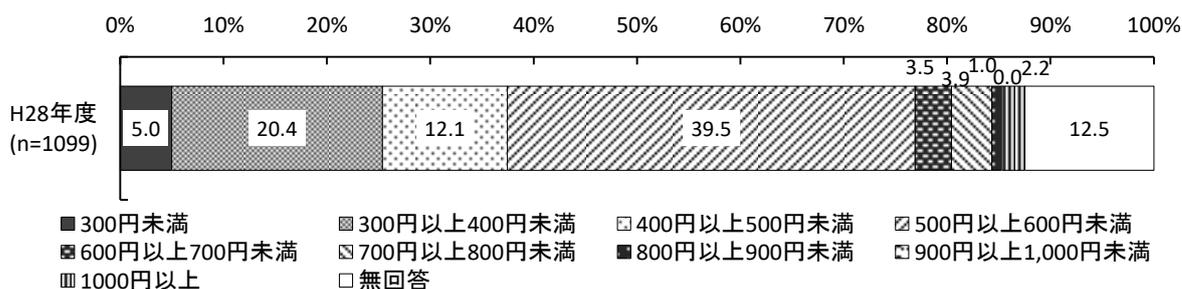
問10（8）配食サービスを利用することになった場合、1食につき料金の負担はいくらまでと考えますか。



（参考）前回調査

3-問11-1 問【3-問11】で「1」～「4」を選択した方にお聞きします。

料金の負担はいくらまでと考えていますか。

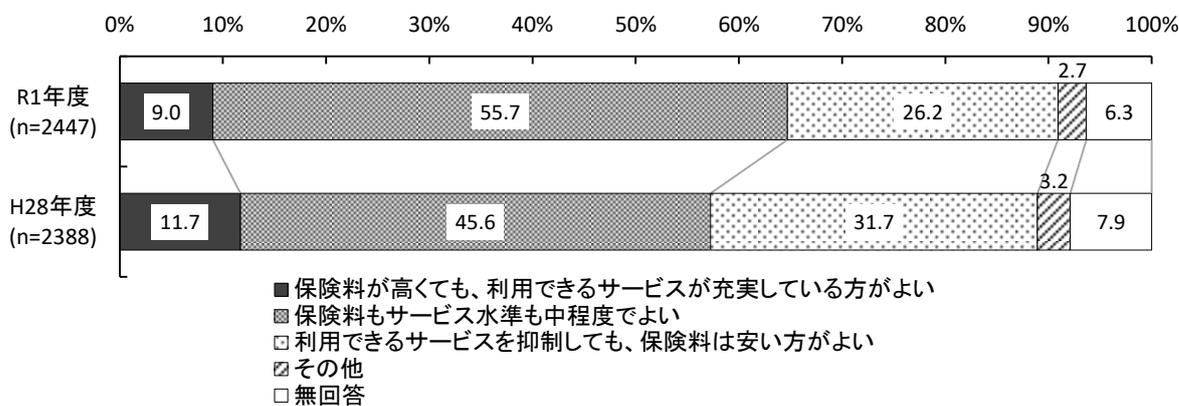


配食サービスを利用することになった場合に希望する、1食あたりの料金負担は、「500円以上600円未満」が38.9%と最も多くなっている。「無回答」を除いた第2位は「300円以上400円未満」(16.1%)、第3位は「400円以上500円未満」(9.6%)となっている。

1.1. 介護保険について

（1）負担（介護保険料）と給付（介護保険サービス）の関係について

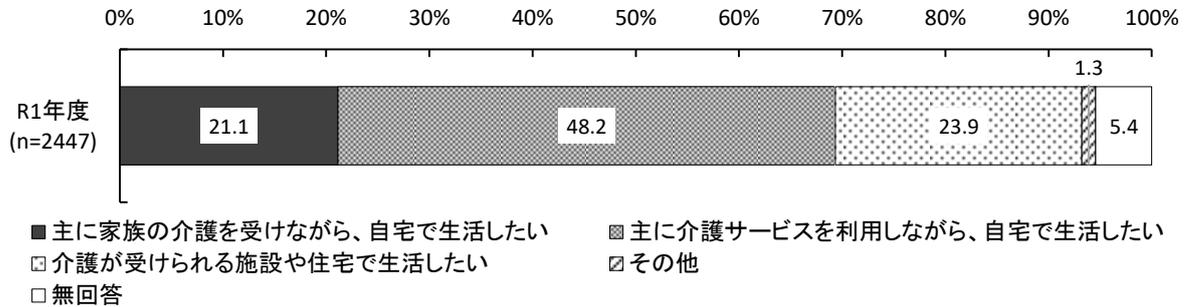
問1.1（1）負担（介護保険料）と給付（介護保険サービス）の関係について、あなたのお考えに最も近い項目1つに○を付けてください



負担（介護保険料）と給付（介護保険サービス）の関係についてたずねたところ、「保険料もサービス水準も中程度でよい」が55.7%と最も多く、次いで「利用できるサービスを抑制しても、保険料は安い方がよい」（26.2%）、「保険料が高くても、利用できるサービスが充実している方がよい」（9.0%）となっている。「保険料もサービス水準も中程度でよい」は前回に比べて10.1ポイント上昇し、半数を超えている。

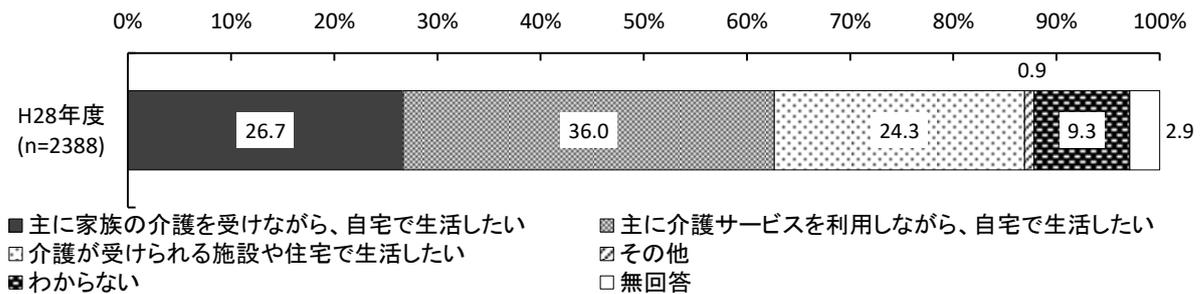
（2）自分に介護が必要になったとき、希望する介護形態

問11（2）あなたは、ご自分に介護が必要な状態になったとき、どのような介護を受けたいと思いますか。お考えに最も近い項目1つに○を付けてください



（参考）前回調査

問9 あなたは、ご自分に介護が必要な状態になったとき、どのような介護を受けたいと思いますか。（1つに○）



自分に介護が必要な状態になったときに希望する介護形態は、「主に介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい」が48.2%と最も多く、次いで「介護が受けられる施設や住宅で生活したい」（23.9%）、「主に家族の介護を受けながら、自宅で生活したい」（21.1%）となっている。

「主に家族の介護を受けながら、自宅で生活したい」と「主に介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい」を合わせた“自宅生活を希望”は69.3%となっている。一方、“施設入所を希望”（「介護が受けられる施設や住宅で生活したい」と回答した割合）は23.9%となっている。

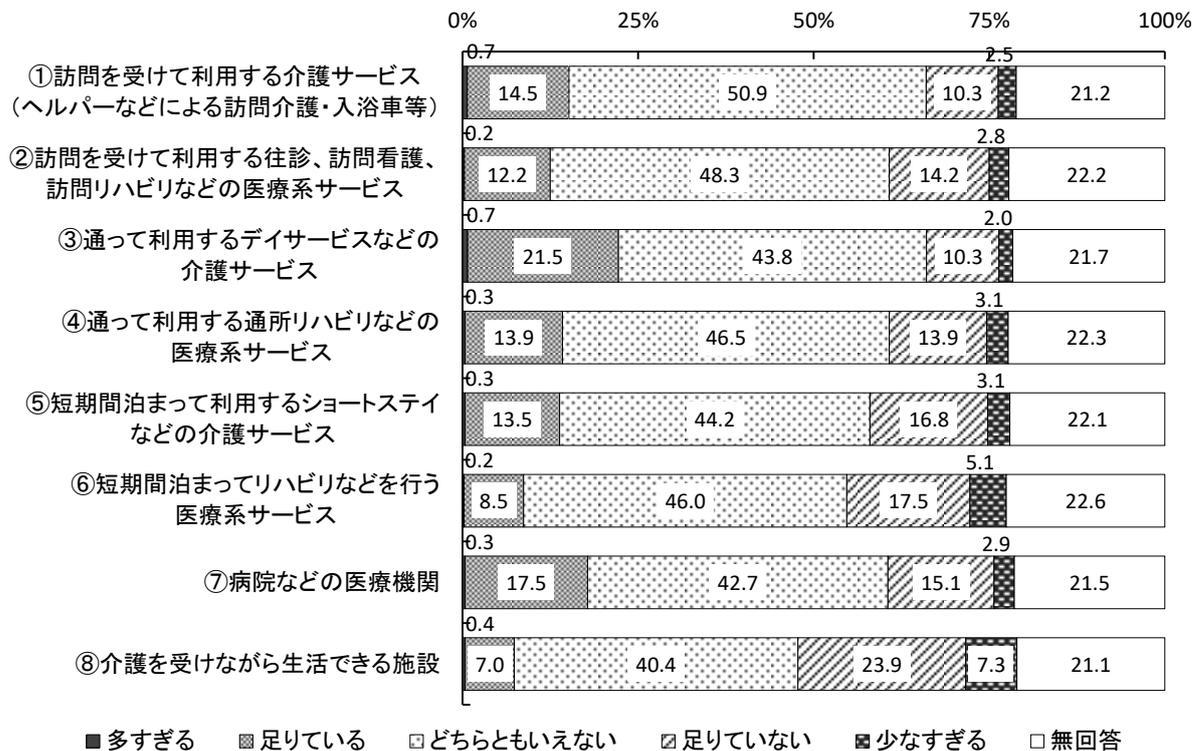
（3）地域医療や介護のサービスの充足度

問11（3）地域の医療や介護のサービスについてどう感じていますか。

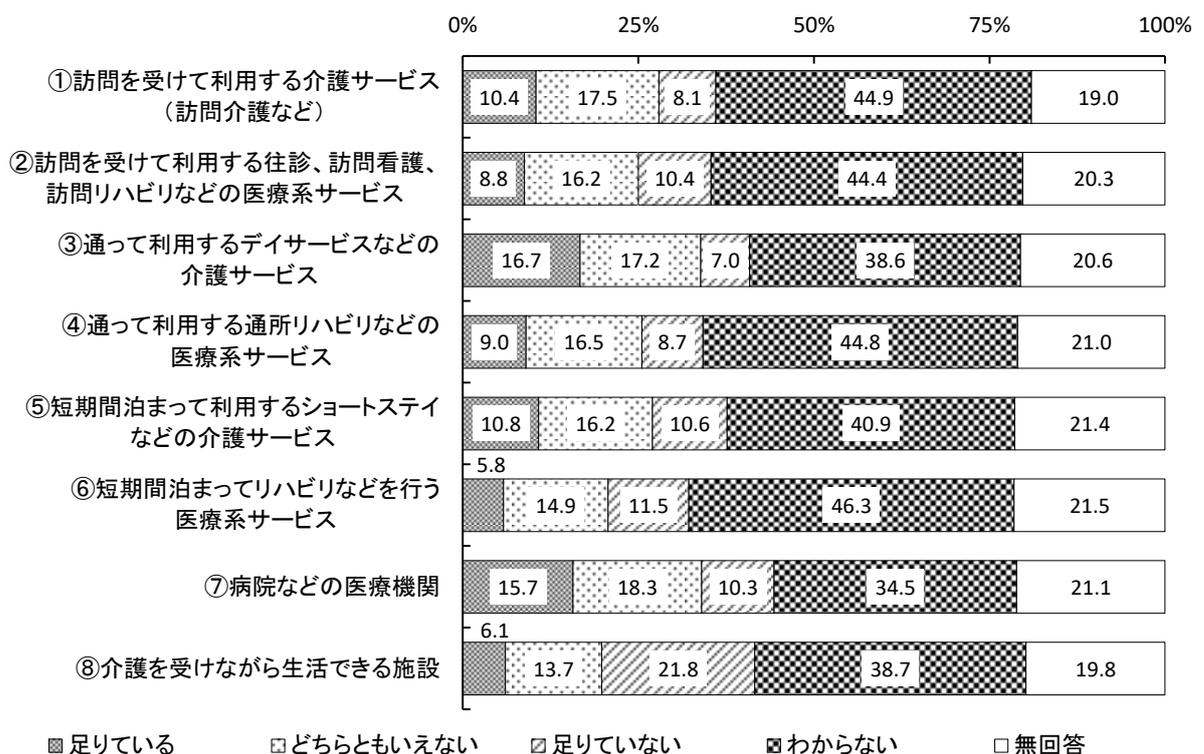
①～⑧それぞれに回答してください。

（※サービスを利用したことがない方は、周りの様子から感じたことをお知らせください。）

【今回調査〔R1年度〕（n=2447）】



【前回調査〔H28年度〕（n=2388）】 ※今回調査と選択肢が異なる



地域の医療や介護のサービスの充足度については、『③通って利用するデイサービスなどの介護サービス』と『⑦病院などの医療機関』で「足りている」が約2割となったが、その他の6つのサービスでは「足りている」が1割前後となっている。

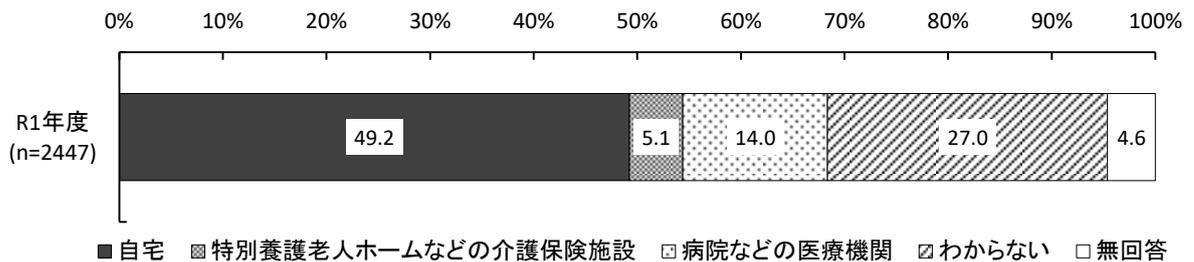
一方、「足りていない」と「少なすぎる」を合わせた“足りていない”が他サービスより高いのは、『⑥短期間泊まってリハビリなどを行う医療系サービス』（22.6%）、『⑧介護を受けながら生活できる施設』（31.2%）となっている。前回の結果をみても、『⑧介護を受けながら生活できる施設』において「足りていない」の割合が高い。

なお、①～⑧のすべてのサービスにおいて、「多すぎる」との回答はほとんどなく、「どちらともいえない」が4割以上を占めて最も多くなっている。

※今回と前回では、選択肢が異なっている。

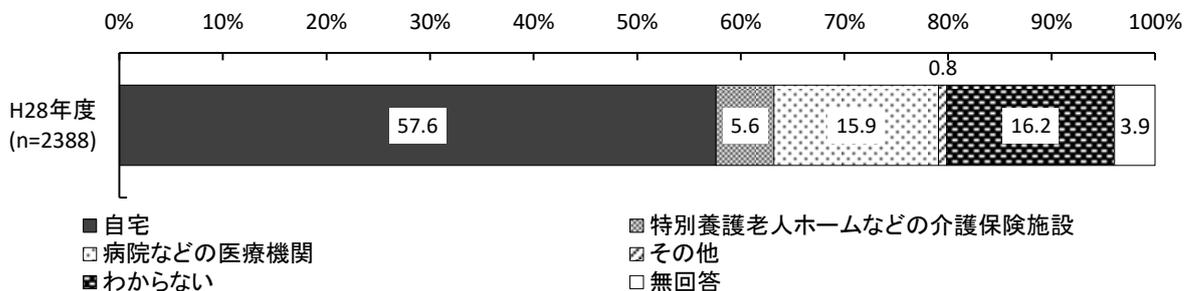
（4）最後を迎える場合、希望する場所

問11（4）あなたが最後を迎える場合は、どこで迎えたいですか（1つに○）



（参考）前回調査

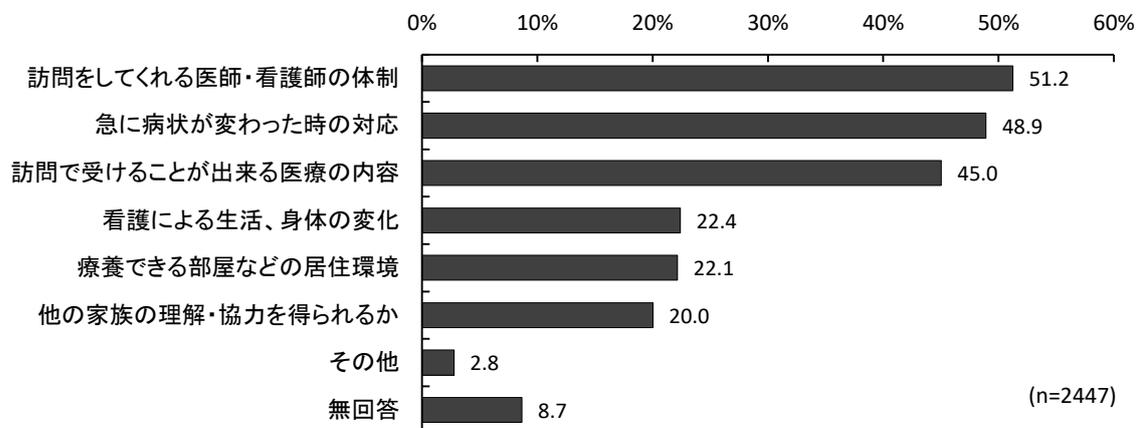
問11 あなたが最後を迎える場所は、どこで迎えたいですか。（1つに○）



最後を迎える場合、希望する場所は、「自宅」が49.2%と約半数を占めている。次いで「わからない」が27.0%となっている。

（5）在宅で医療を受ける場合、特に心配に思うこと

問11（5）あなたが在宅で医療を受けることとなった場合、特に心配に思う事に○を記入してください（いくつでも）



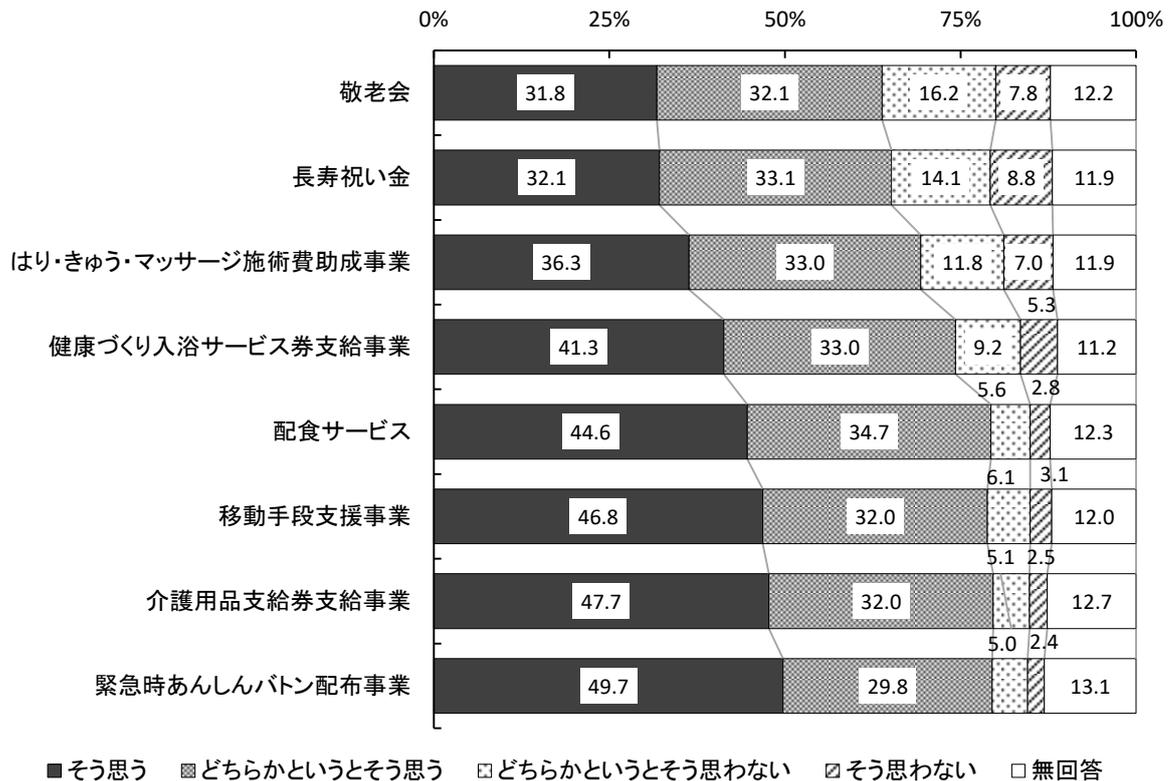
在宅で医療を受ける場合、特に心配に思うことは、「訪問をしてくれる医師・看護師の体制」が 51.2%と最も多くなっている。次いで「急に病状が変わった時の対応」（48.9%）、「訪問で受けることが出来る医療の内容」（45.0%）となり、在宅医療を受ける自身の状況よりも、在宅医療の提供側の体制に対する心配や不安の方が大きい。

1.2. 市のサービス・施策について

(1) 市で行っているサービスの妥当性

問12 (1) 市で行っている下記サービスについて、地域の社会や経済状態からみて妥当であると感じますか。

【妥当性 (n=2447)】

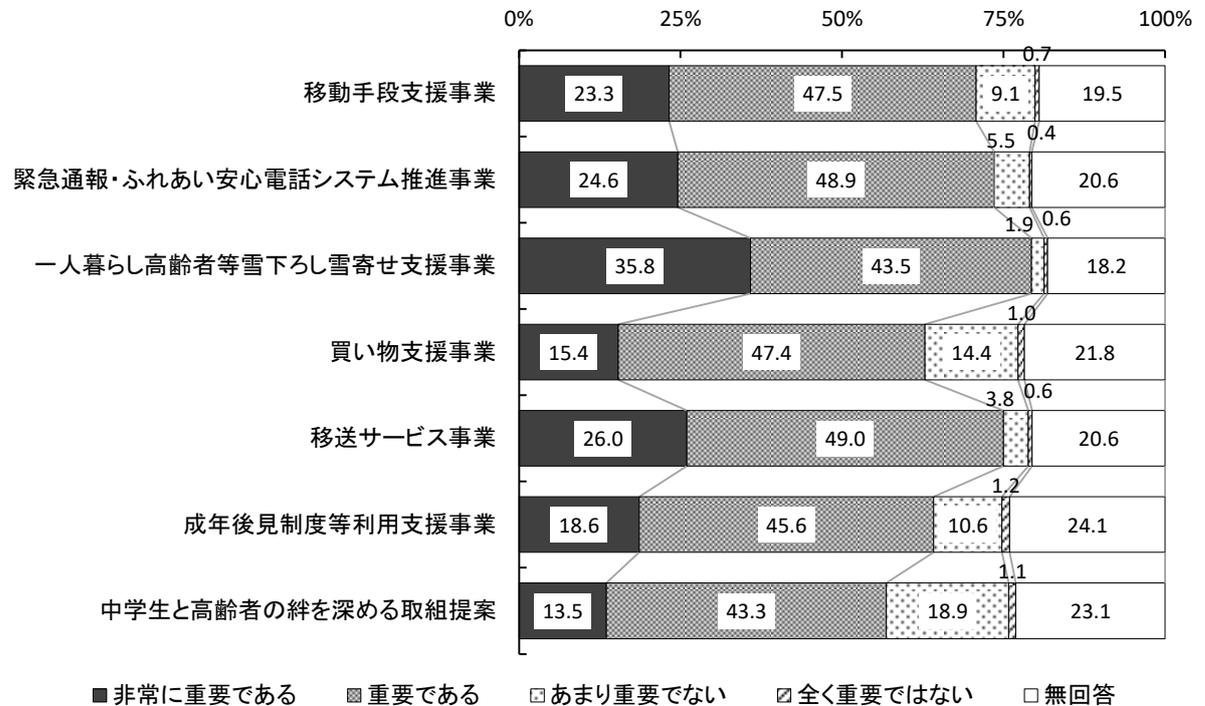


市で行っている各サービスが妥当であるかたずねたところ、『健康づくり入浴サービス券支給事業』、『配食サービス』、『移動手段支援事業』、『介護用品支給券支給事業』、『緊急時あんしんボタン配布事業』は、「そう思う」が最も多く、4割以上となっている。「そう思う」に「どちらかというと思う」を合わせた“妥当である”割合をみると、『健康づくり入浴サービス券支給事業』、『配食サービス』、『移動手段支援事業』、『介護用品支給券支給事業』、『緊急時あんしんボタン配布事業』で7割以上となっている。『敬老会』、『長寿祝い金』、『はり・きゅう・マッサージ施術費助成事業』については、“妥当である”が6割台となっている。

（2）市で行っているサービスについての重要度と認知度

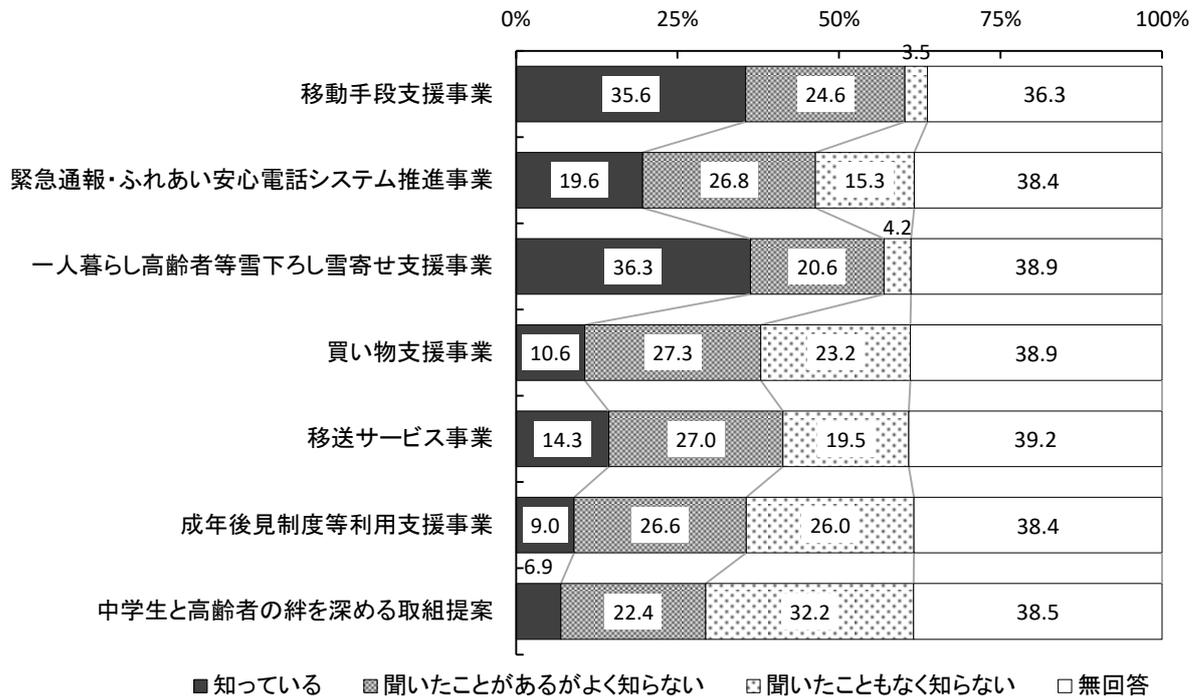
問12（2）市で行っている下記サービスについて、重要度と認知度をお聞きます。

【重要度（n=2447）】



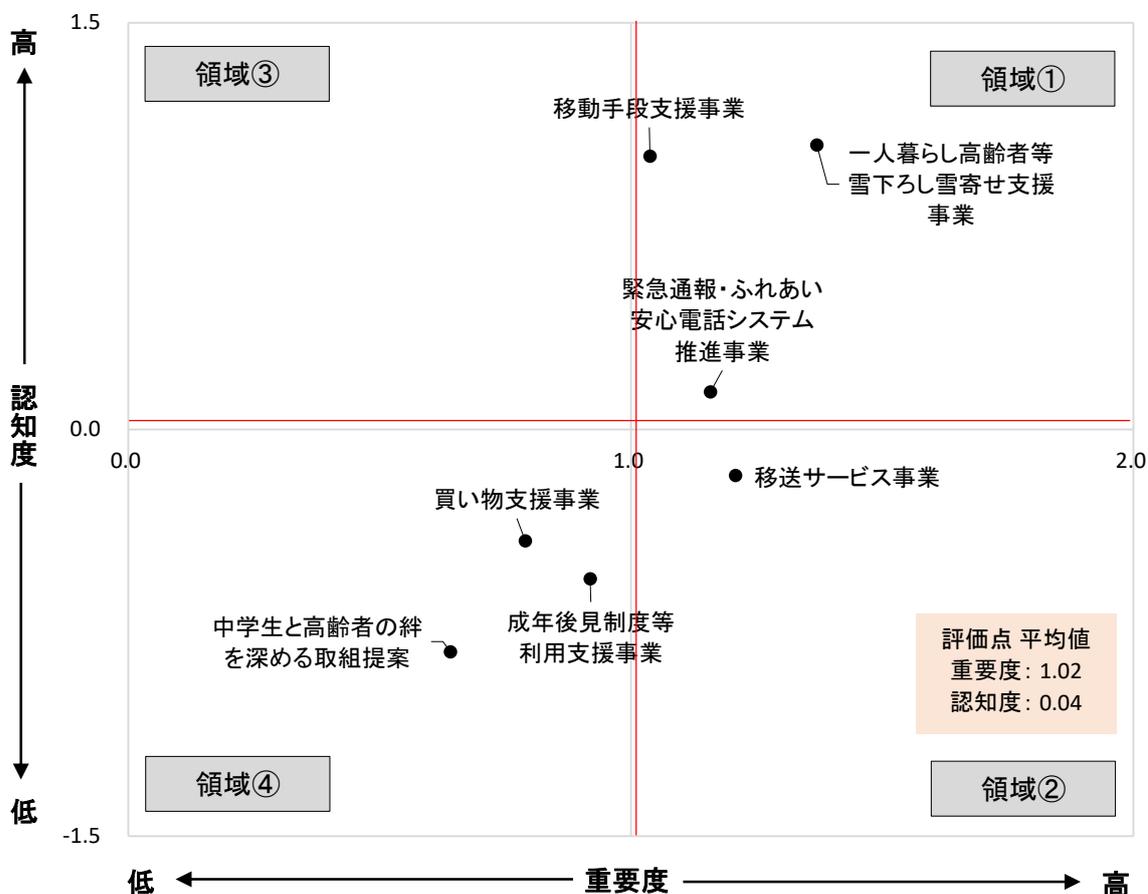
市で行っている各サービスの重要度をたずねたところ、『一人暮らし高齢者等雪下ろし雪寄せ支援事業』で「非常に重要である」が35.8%と、他のサービスにおける「非常に重要である」の割合よりも高くなっている。また、「非常に重要である」に「重要である」を合わせた“重要である”の割合をみると、『移動手段支援事業』、『緊急通報・ふれあい安心電話システム推進事業』、『一人暮らし高齢者等雪下ろし雪寄せ支援事業』、『移送サービス事業』で7割以上を占めている。

【認知度（n=2447）】



市で行っている各サービスの認知度をたずねたところ、『移動手段支援事業』と『一人暮らし高齢者等雪下ろし雪寄せ支援事業』で「知っている」が3割以上となり、他のサービスにおける「知っている」の割合よりも高くなっている。一方、『中学生と高齢者の絆を深める取組提案』では3割程度が「聞いたこともなく知らない」と回答している。

【重要度と認知度の関係】



領域		重要度	認知度
①	移動手段支援事業	1.04	1.01
①	緊急通報・ふれあい安心電話システム推進事業	1.16	0.14
①	一人暮らし高齢者等雪下ろし雪寄せ支援事業	1.37	1.05
②	移送サービス事業	1.21	-0.17
④	買い物支援事業	0.79	-0.41
④	成年後見制度等利用支援事業	0.92	-0.55
④	中学生と高齢者の絆を深める取組提案	0.64	-0.82
	評価点 平均値	1.02	0.04

○重要度および認知度の計算方法

重要度では、「非常に重要である」を2点、「重要である」を1点、「あまり重要でない」を-1点、「全く重要ではない」を-2点とし、それぞれの点数に回答数を乗じ（点数×回答数）、すべて数値化する。得られた数値をすべて合計し、回答数（無回答者数を引いた数）で除した数値（平均値）を算出し、重要度の点数とする。

認知度では「知っている」を2点、「聞いたことがあるがよく知らない」を0点、「聞いたこともなく知らない」を-2点とし、重要度と同様に点数を算出する。

○散布図について

横軸を重要度、縦軸を認知度とする散布図をつくる。重要度と認知度の点数を座標として各項目を散布図上に置く。重要度・認知度の平均値に線を引くと領域①～④ができ、重要度と認知度の度合いをみることができる。

市の各サービスについて、重要度の点数が最も高いのは『一人暮らし高齢者等雪下ろし雪寄せ支援事業』（1.37点）となり、最も低いのは『中学生と高齢者の絆を深める取組提案』（0.64点）となった。

認知度の点数が最も高いのは、『一人暮らし高齢者等雪下ろし雪寄せ支援事業』（1.05点）となり、最も低いのは『中学生と高齢者の絆を深める取組提案』（-0.82点）となった。

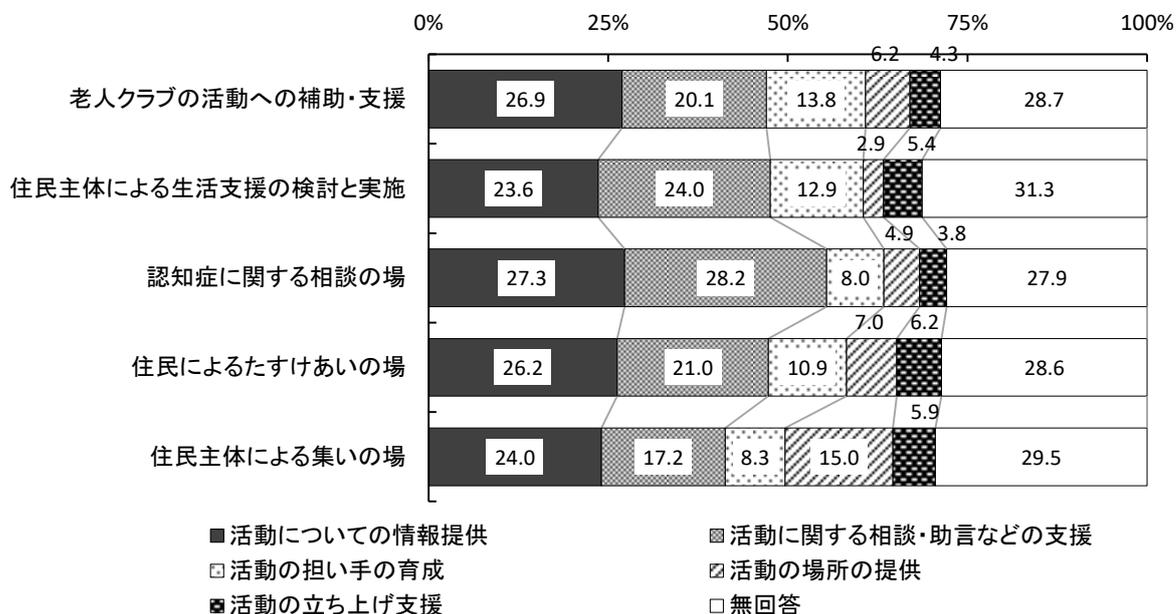
重要度と認知度がともに平均値より高い（領域①）のは、『移動手段支援事業』、『緊急通報・ふれあい安心電話システム推進事業』、『一人暮らし高齢者等雪下ろし雪寄せ支援事業』となった。

重要度が平均値より高く、認知度が平均値より低い（領域②）のは、『移送サービス事業』となった。

一方、重要度と認知度がともに平均値より低い（領域④）のは、『買い物支援事業』、『成年後見制度等利用支援事業』、『中学生と高齢者の絆を深める取組提案』となった。

（3）市で行っている地域の支えあい活動を行うにあたって必要だと思うこと

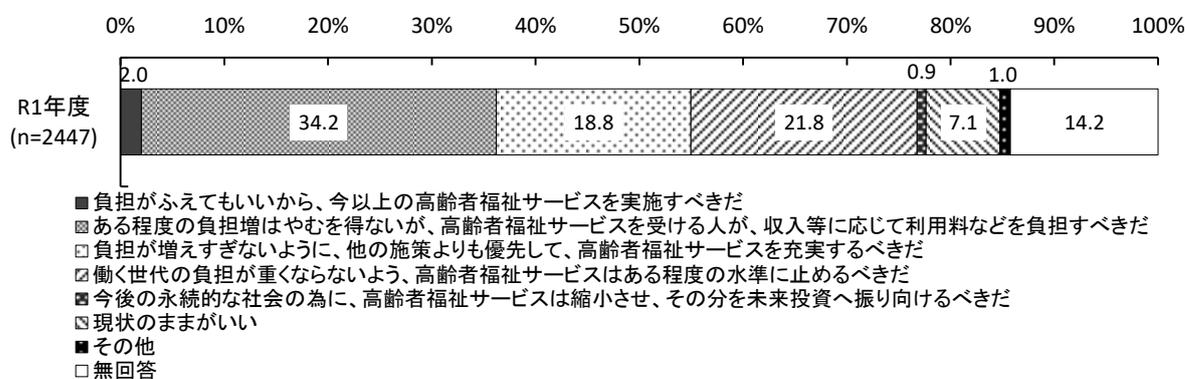
問12（3）市では地域の支えあい活動を推進しています。下記の地域の支えあい活動を行うにあたって必要だと思うことはなんですか。



地域の支え合い活動を行うにあたって必要だと思うことは、5つの支え合い活動のすべてにおいて、「活動についての情報提供」および「活動に関する相談・助言などの支援」が第1位または第2位となっている。『認知症に関する相談の場』では、「活動についての情報提供」が27.3%、「活動に関する相談・助言などの支援」が28.2%と、他の活動に比べ、割合がやや高くなっている。

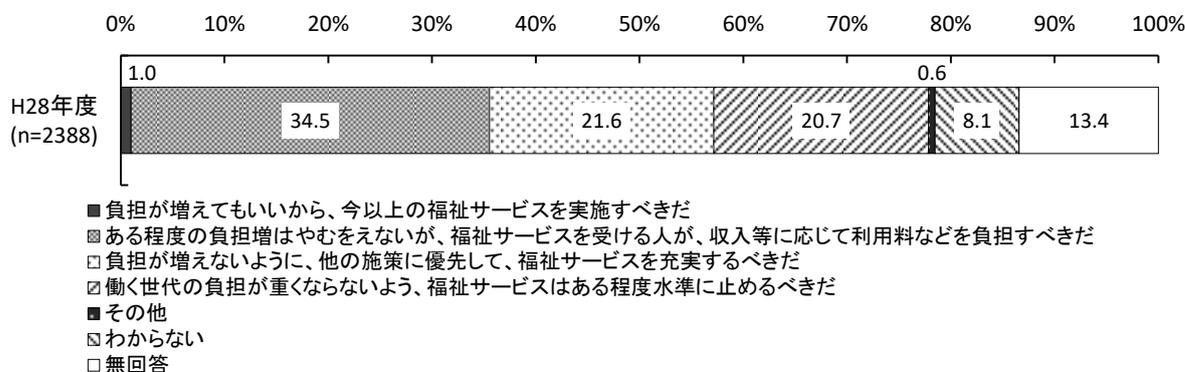
（4）高齢福祉サービスを維持・充実させるための市民の負担について

問12（4）少子高齢化の進展に伴い、高齢福祉サービスを維持・充実させるためには相応の経費が必要となり、税金など市民の負担増も考えられます。このことについてどう思いますか。（あなたの考えに最も近いもの1つに○）



（参考）前回調査

問14 少子高齢化の進行に伴い、福祉サービスを維持・充実させるためには相応の経費が必要となり、税金など市民の負担増も考えられます。このことについてどのように思いますか。（あなたの考えにもっとも近いもの一つに○）

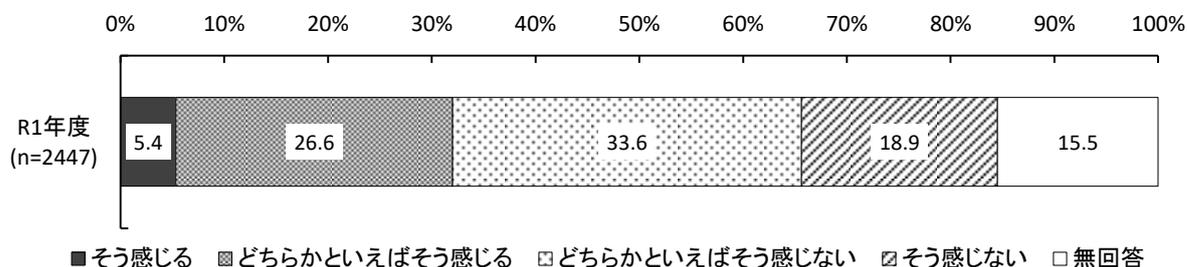


高齢福祉サービスを維持・充実させるための市民の負担についてたずねたところ、「ある程度の負担増はやむを得ないが、高齢者福祉サービスを受ける人が、収入等に応じて利用料などを負担すべきだ」が34.2%と最も多く、次いで「働く世代の負担が重くならないよう、高齢者福祉サービスはある程度の水準に止めるべきだ」（21.8%）、「負担が増えすぎないように、他の施策よりも優先して、高齢者福祉サービスを充実すべきだ」（18.8%）となっている。

「負担がふえてもいいから、今以上の高齢者福祉サービスを実施すべきだ」と「ある程度の負担増はやむを得ないが、高齢者福祉サービスを受ける人が、収入等に応じて利用料などを負担すべきだ」を合わせた「負担増を容認」は36.2%となった一方、「負担が増えすぎないように、他の施策よりも優先して、高齢者福祉サービスを充実すべきだ」と「働く世代の負担が重くならないよう、高齢者福祉サービスはある程度の水準に止めるべきだ」を合わせた「負担増を避けるべき」は40.6%となっている。

（5）行政や民間の福祉サービスに頼らずに住民同士が支えあって生活していると感じるか

問12（5）地域で行政や民間の福祉サービスに頼らずに住民同士が支えあって生活していると感じていますか。



行政や民間の福祉サービスに頼らずに住民同士が支え合って生活していると感じるかたずねたところ、「どちらかといえばそう感じない」が 33.6%と最も多く、次いで「どちらかといえばそう感じる」（26.6%）、「そう感じない」（18.9%）となっている。

「そう感じる」と「どちらかといえばそう感じる」を合わせた“そう感じる”が 32.0%となった一方、「どちらかといえばそう感じない」と「そう感じない」を合わせた“そう感じない”が 52.5%と半数以上を占めている。

1.3. 生活機能評価の結果

(1) 生活機能評価の方法

「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の手引き」に基づき判定を行った。質問項目と評価・判定の基準は次の通りである。

① 運動器の機能

下記の設問で、3問以上該当する選択肢を回答した場合、運動器の機能低下に該当

設問番号	設問	該当する選択肢
問2(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3.できない」
問2(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「3.できない」
問2(3)	15分位続けて歩いていますか	「3.できない」
問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1.何度もある」 or 「2.1度ある」
問2(5)	転倒に対する不安は大きいですか	「1.とても不安である」 or 「2.やや不安である」

② 閉じこもり傾向

下記の設問で該当する選択肢を回答した場合、閉じこもりのリスクあり

設問番号	設問	該当する選択肢
問2(6)	週に1回以上は外出していますか	「1.ほとんど外出しない」 or 「2.週1回」

③ 転倒リスク

下記の設問で、該当する選択肢を回答した場合、転倒リスクありに該当

設問番号	設問	該当する選択肢
問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1.何度もある」 or 「2.1度ある」

④ 口腔機能

下記設問で、2問以上該当する選択肢を回答した場合、口腔機能の低下に該当

設問番号	設問	該当する選択肢
問3(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1.はい」
問3(3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1.はい」
問3(4)	口の渇きが気になりますか	「1.はい」

⑤ 認知機能

下記の設問で、該当する選択肢を回答した場合、認知機能の低下に該当

設問番号	設問	該当する選択肢
問4(1)	物忘れが多いと感じますか	「1.はい」

⑥ うつ傾向

下記の設問で、1問以上該当する選択肢を回答した場合、うつ傾向のリスクあり

設問番号	設問	該当する選択肢
問7（3）	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1.はい」
問7（4）	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「1.はい」

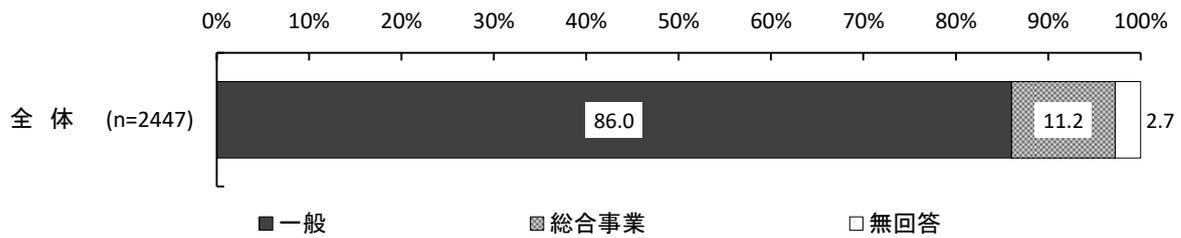
⑦ 手段的自立度（IADL）

下記の設問で、該当する選択肢を回答した場合を1点として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価（老研式活動能力指標に準じた設問の回答から評価）

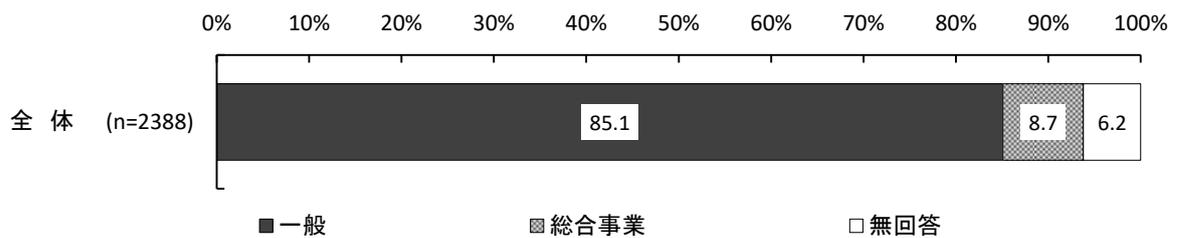
設問番号	設問	該当する選択肢
問4（2）	バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	「1.できるし、している」or 「2.できるけどしていない」
問4（3）	自分で食品・日用品の買物をしていますか	「1.できるし、している」or 「2.できるけどしていない」
問4（4）	自分で食事の用意をしていますか	「1.できるし、している」or 「2.できるけどしていない」
問4（5）	自分で請求書の支払いをしていますか	「1.できるし、している」or 「2.できるけどしていない」
問4（6）	自分で預貯金の出し入れをしていますか	「1.できるし、している」or 「2.できるけどしていない」

(2) 介護予防・日常生活支援総合事業対象者

【今回調査〔R1年度〕】

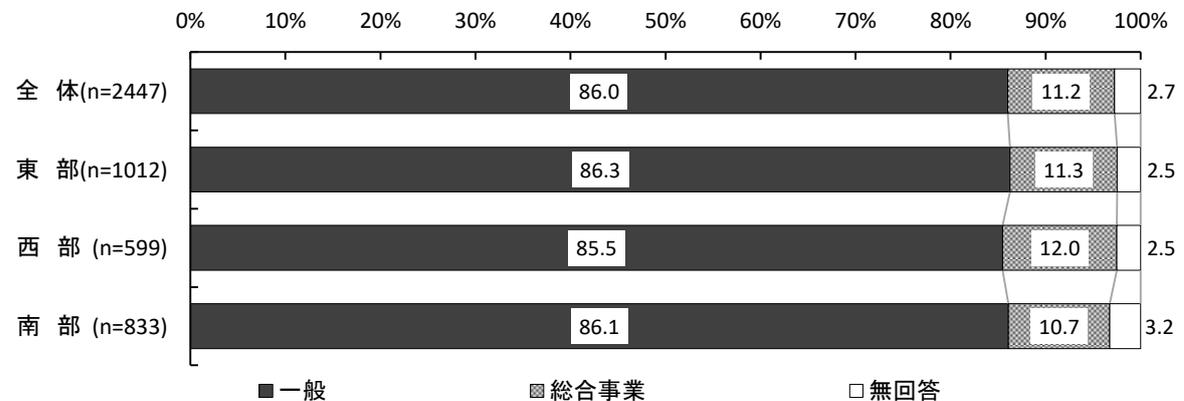


【前回調査〔H28年度〕】



介護予防・日常生活支援総合事業対象者（問1（2）で、「2.何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「3.現在、何らかの介護を受けている」と回答した人）は、全体で11.2%となっている。

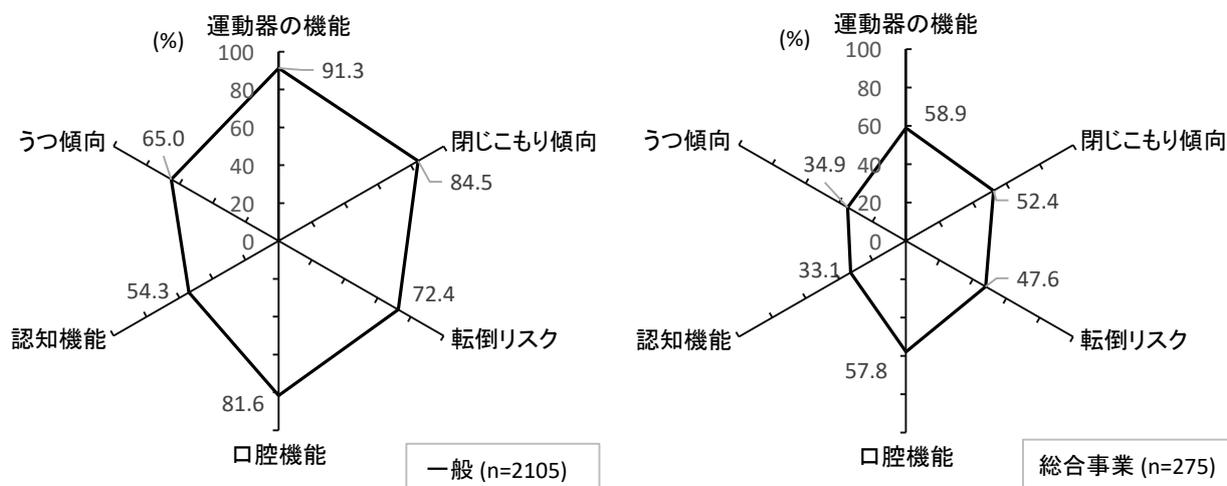
【日常生活圏域別】



日常生活圏域別にみても、大きな違いはみられない。

（3）生活機能評価の結果

＜各評価項目の非該当者（リスクなし）の割合＞



※一般（一般高齢者）…………… 問1（2）において、「1.介護・介助は必要ない」と回答した人

総合事業（総合事業対象者）… 問1（2）において、「2.何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「3.現在、何らかの介護を受けている」と回答した人

生活機能の各評価項目の非該当者（リスクなし）の割合をみると、6項目のすべてにおいて、一般高齢者よりも総合事業対象者の方が低くなっている。

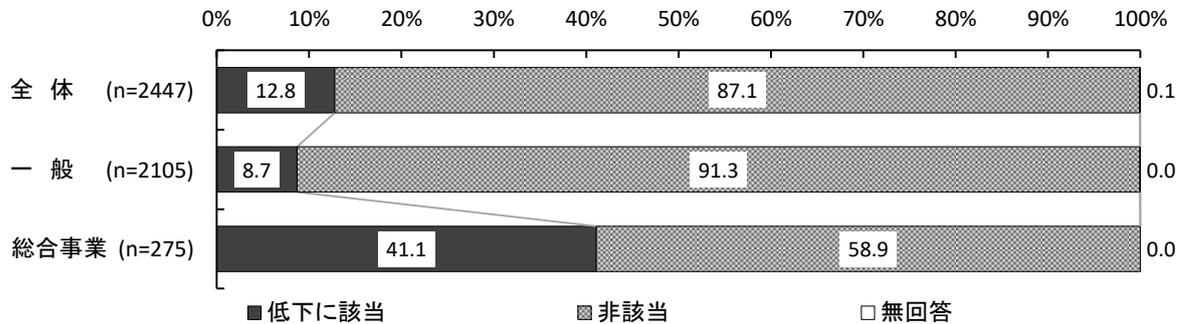
一般高齢者、総合事業対象者それぞれにおいて、「運動器の機能」、「口腔機能」で非該当者の割合が他項目に比べて高くなっている。しかしながら、総合事業対象者では6割に満たない状況となっている。

一方、非該当者の割合が低い項目については、一般高齢者では、「認知機能」が54.3%、「うつ傾向」が65.0%で、総合事業対象者では、「認知機能」が33.1%、「うつ傾向」が34.9%と3割程度となり、他項目に比べ、この2項目で低くなっている。

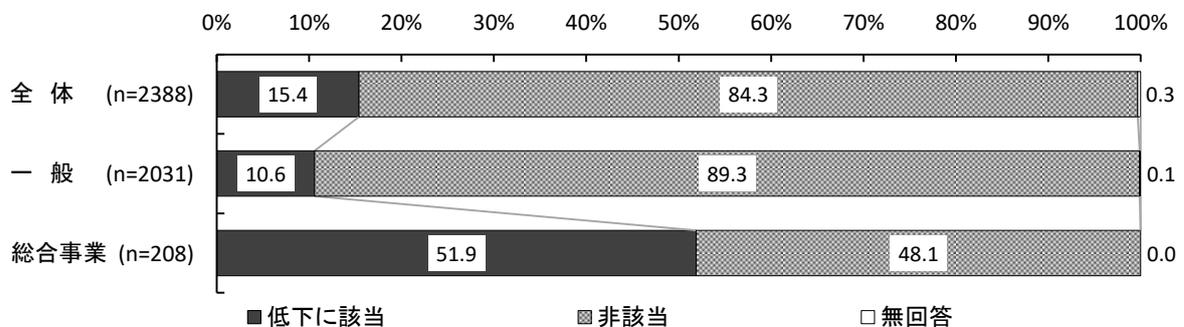
1.4. 生活機能評価の項目別結果

(1) 運動器の機能

【今回調査〔R1年度〕】



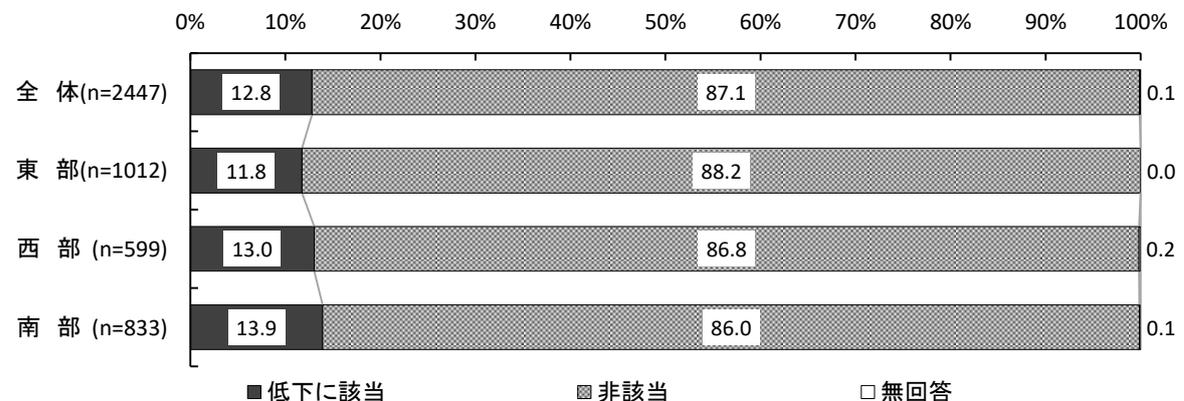
【前回調査〔H28年度〕】



運動器の機能が「低下に該当」は、全体で12.8%と、前回より若干低下している。

一般または総合事業の対象別にみると、「低下に該当」は一般高齢者で8.7%、総合事業対象者で41.1%と、いずれも前回より低下している。

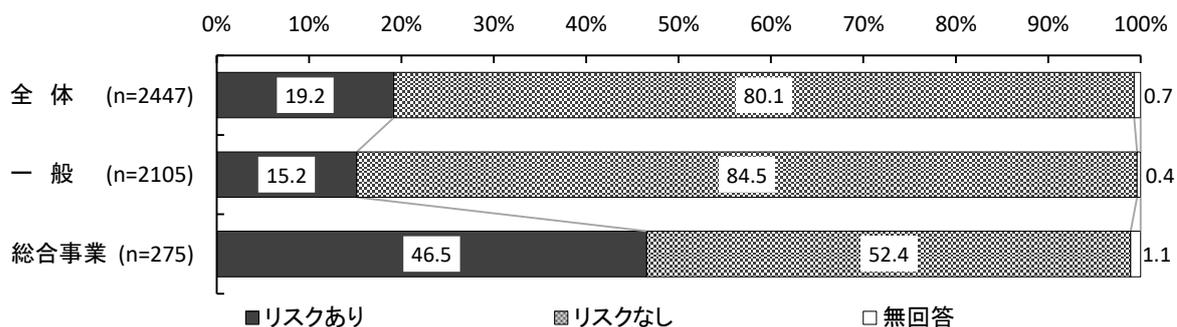
【日常生活圏域別】



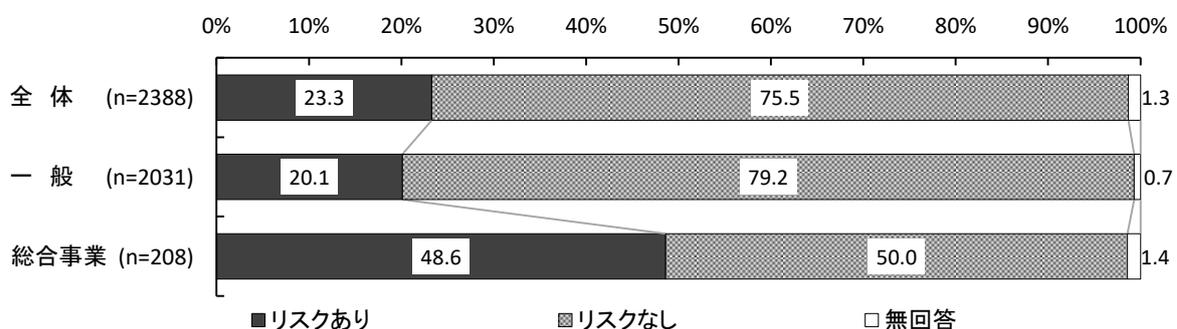
日常生活圏域別にみると、大きな違いはみられない。

(2) 閉じこもり傾向

【今回調査〔R1年度〕】



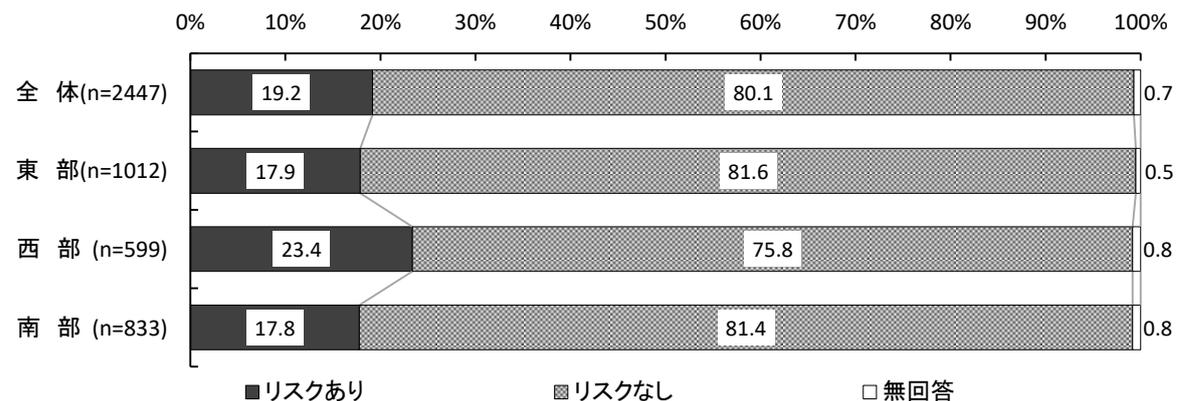
【前回調査〔H28年度〕】



閉じこもりの「リスクあり」は、全体で19.2%と前回より低下している。

一般または総合事業の対象別にみると、「リスクあり」は一般高齢者で15.2%、総合事業対象者で46.5%と、いずれも前回より低下している。

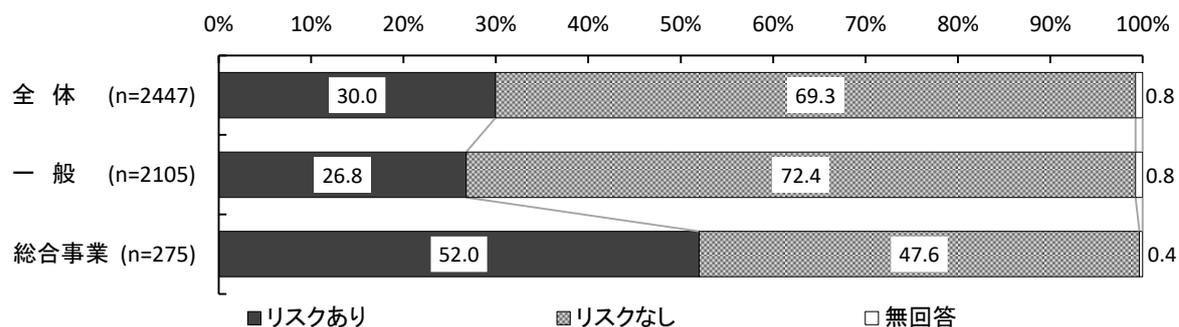
【日常生活圏域別】



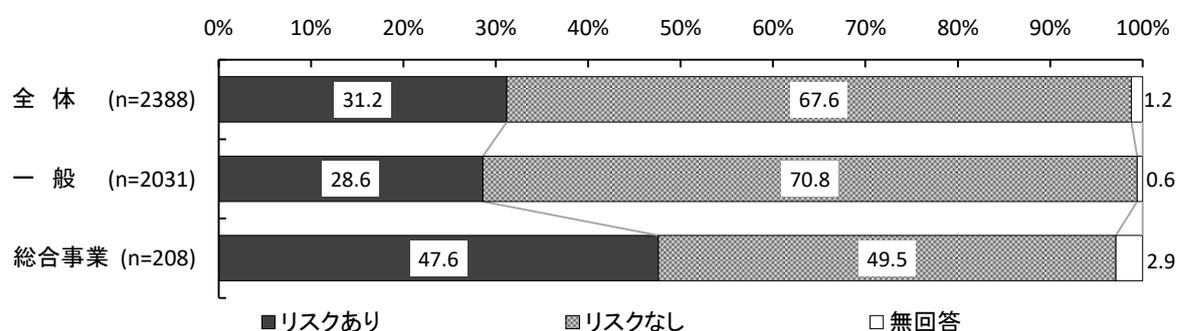
日常生活圏域別にみると、他の圏域に比べ、西部で「リスクあり」がやや多くなっている。

（3）転倒リスク

【今回調査〔R1年度〕】



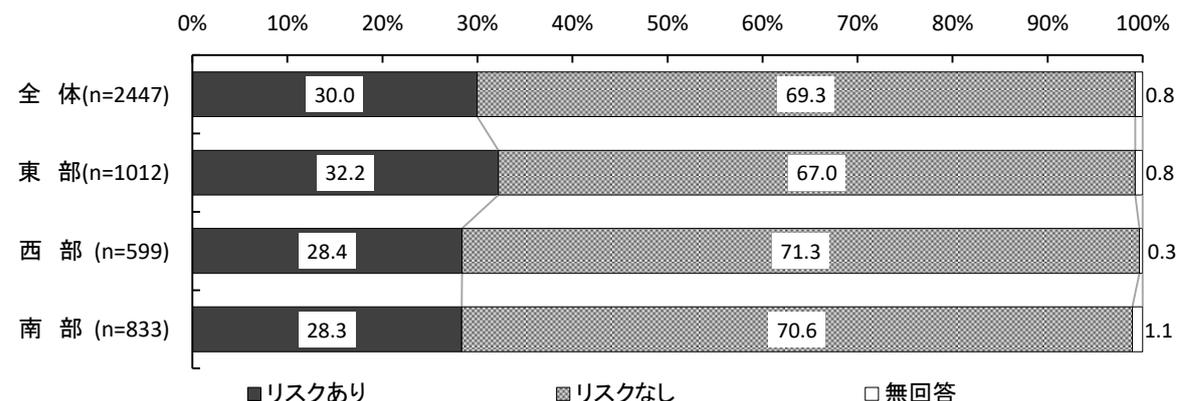
【前回調査〔H28年度〕】



転倒の「リスクあり」は、全体で30.0%と、前回同様の結果となっている。

一般または総合事業の対象別にみると、「リスクあり」は一般高齢者で26.8%と前回より低下した一方、総合事業対象者では52.0%と、前回に比べ4.4ポイントの上昇となっている。

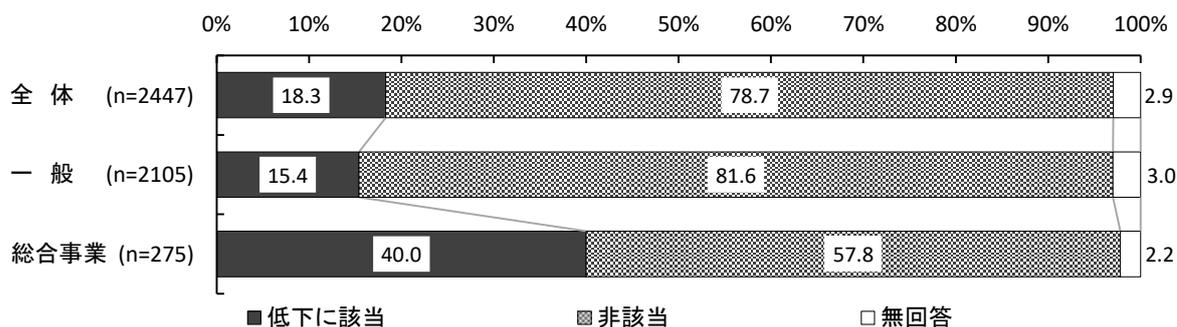
【日常生活圏域別】



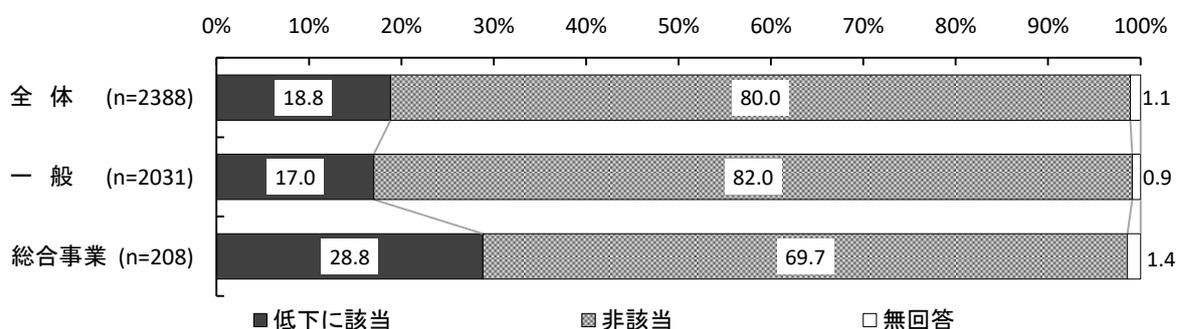
日常生活圏域別にみると、他の圏域に比べ、東部で「リスクあり」がやや多くなっている。

（4）口腔機能

【今回調査〔R1年度〕】

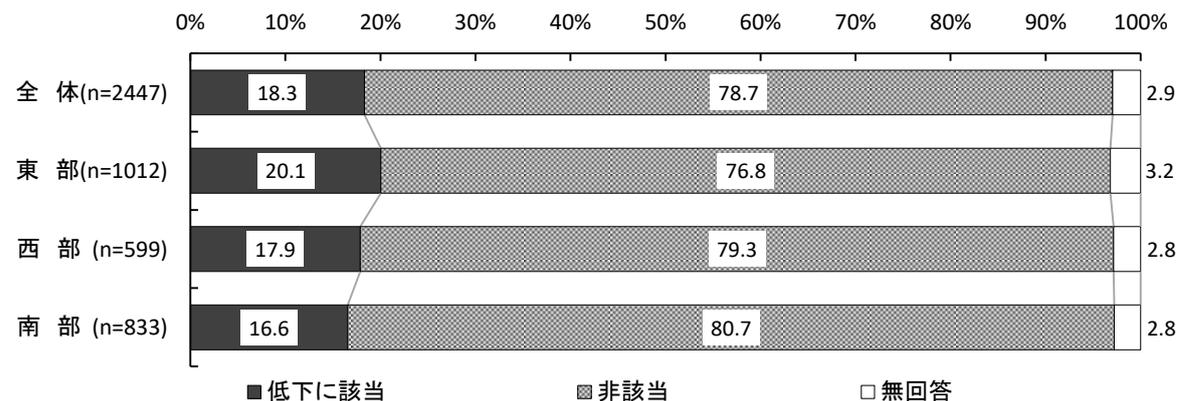


【前回調査〔H28年度〕】



口腔機能の「低下に該当」は、全体で18.3%と、前回同様の結果となっている。
 一般または総合事業の対象別にみると、「低下に該当」は一般高齢者で15.4%と前回より低下した一方、総合事業対象者で40.0%と前回に比べ11.2ポイントの上昇となっている。

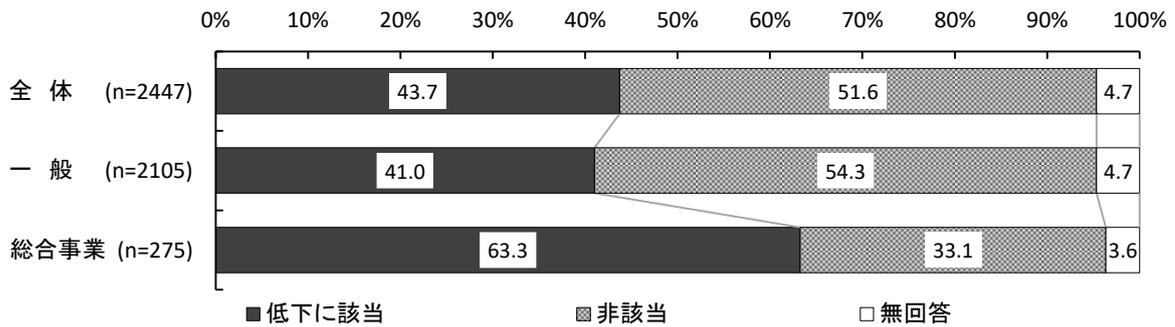
【日常生活圏域別】



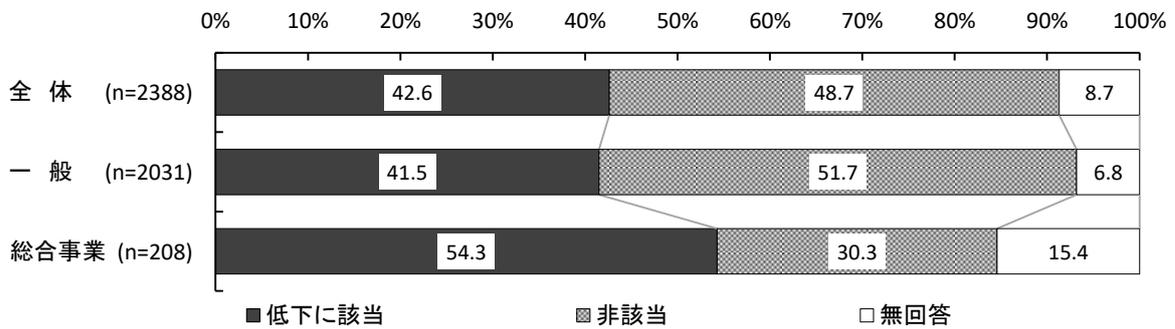
日常生活圏域別にみると、他の圏域に比べ、東部で「低下に該当」がやや多くなっている。

（5）認知機能

【今回調査〔R1年度〕】



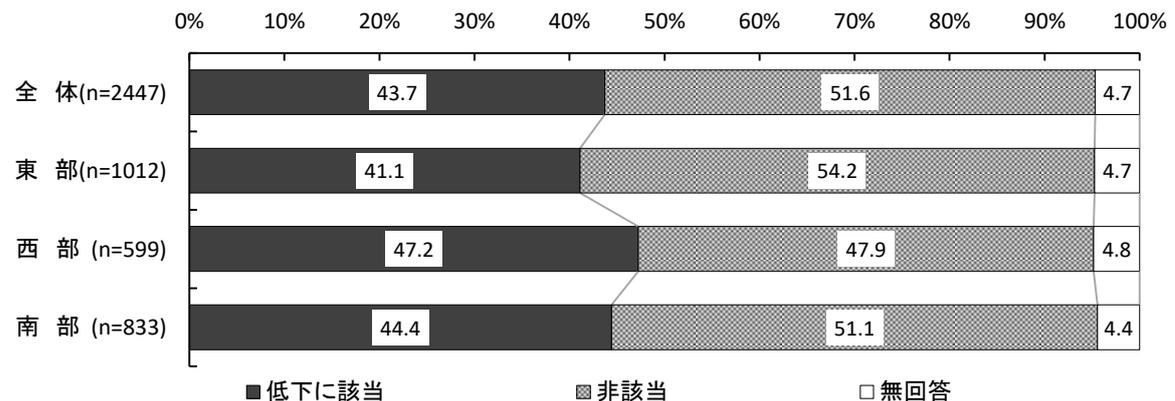
【前回調査〔H28年度〕】



認知機能の「低下に該当」は全体で 43.7%と、前回同様の結果となっている。

一般または総合事業の対象別にみると、「低下に該当」が一般高齢者で 41.0%と前回同様となった一方、総合事業対象者では 63.3%と 9.0 ポイントの上昇となっている。

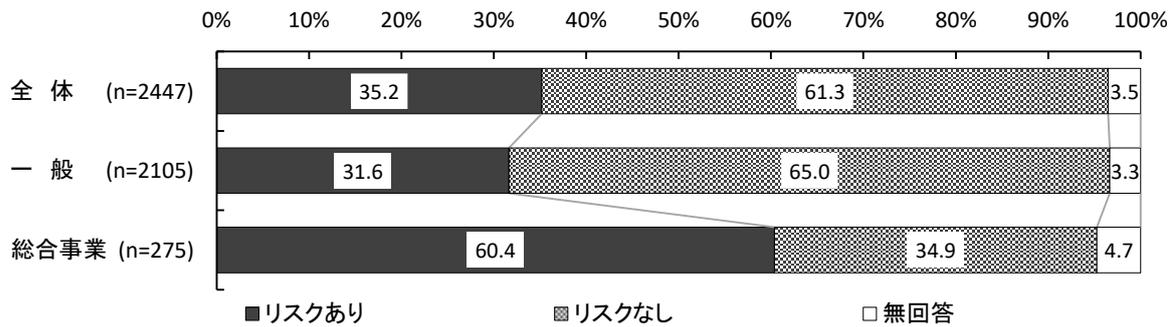
【日常生活圏域別】



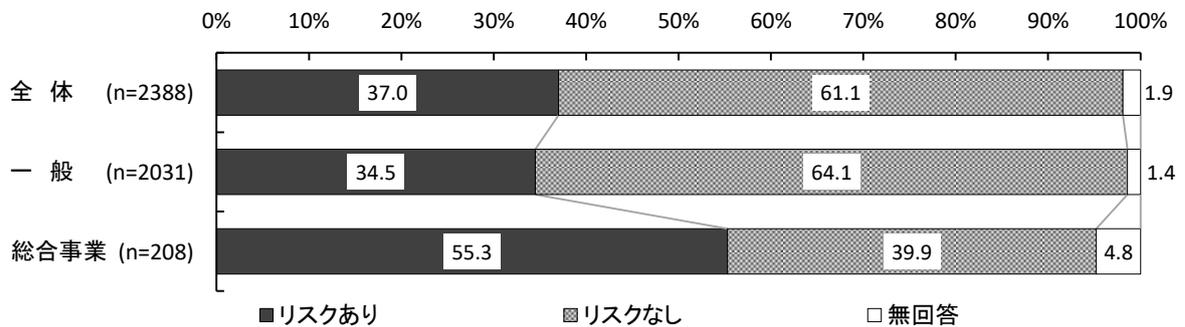
日常生活圏域別にみると、他の圏域に比べ、西部で「低下に該当」がやや多くなっている。

（6）うつ傾向

【今回調査〔R1年度〕】

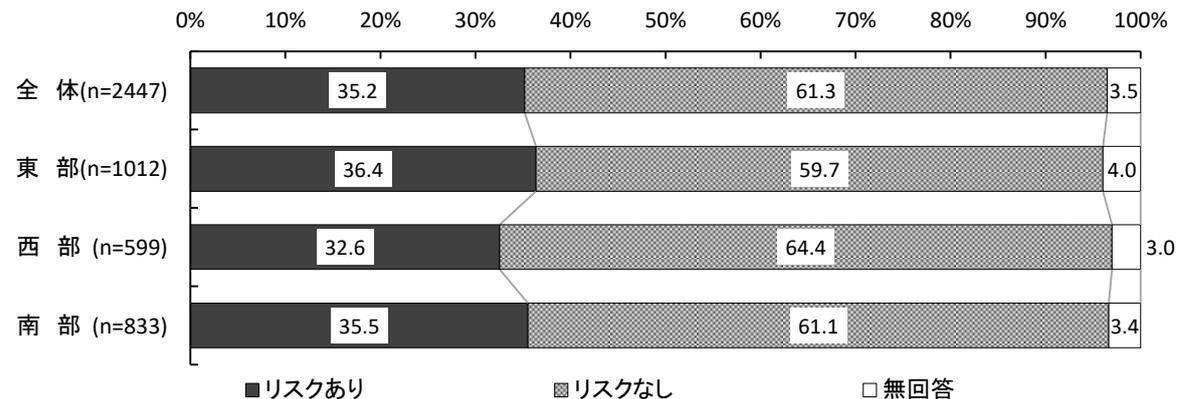


【前回調査〔H28年度〕】



うつの「リスクあり」は、全体で 35.2%と、前回に比べてやや低下している。
 一般または総合事業の対象別にみると、「リスクあり」は一般高齢者で 31.6%と前回より低下した一方、総合事業対象者で 60.4%と 5.1 ポイントの上昇となっている。

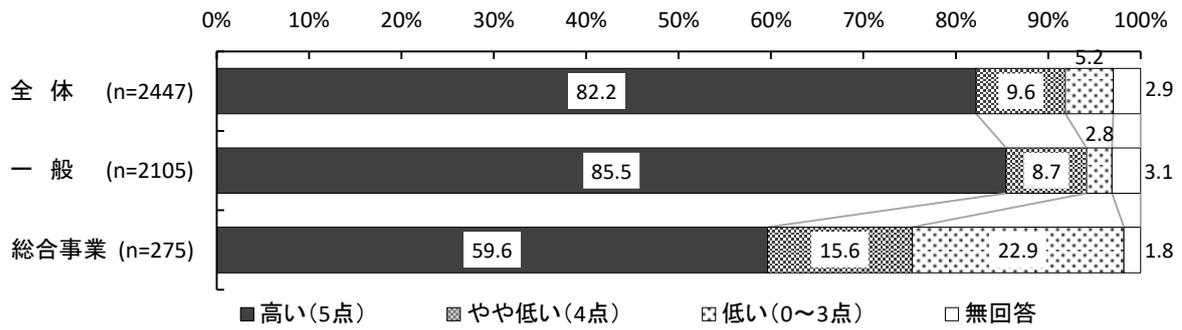
【日常生活圏域別】



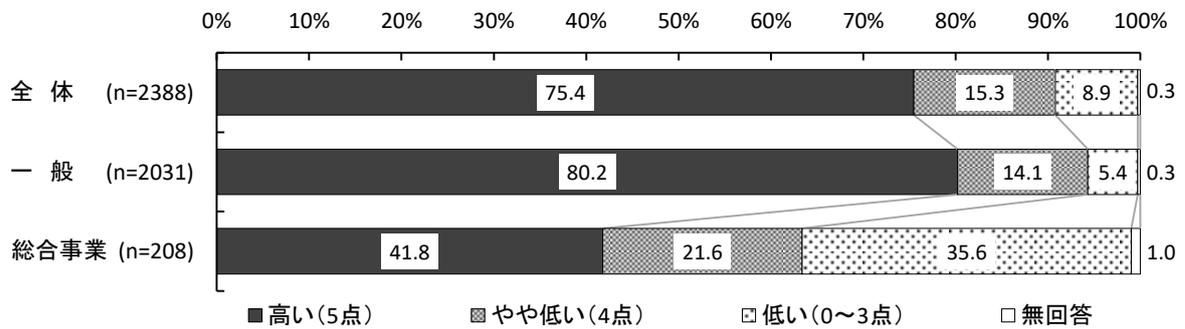
日常生活圏域別にみると、西部で「リスクあり」が他の圏域よりやや少なくなっている。

(7) 手段的自立度 (IADL)

【今回調査 [R1 年度]】



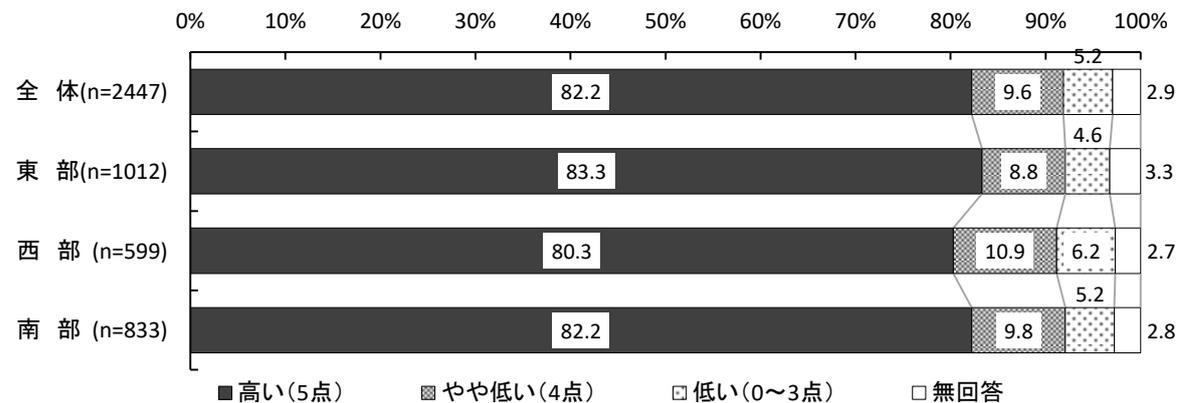
【前回調査 [H28 年度]】



手段的自立度 (IADL) について、4点以下を低下者とする、低下者割合は全体で 14.8%と、前回 (24.2%) に比べて大幅に低下している。

一般または総合事業の対象別にみると、低下者割合は、一般高齢者で 11.5%、総合事業対象者で 38.5%と、前回に比べ大幅に低下している。

【日常生活圏域別】



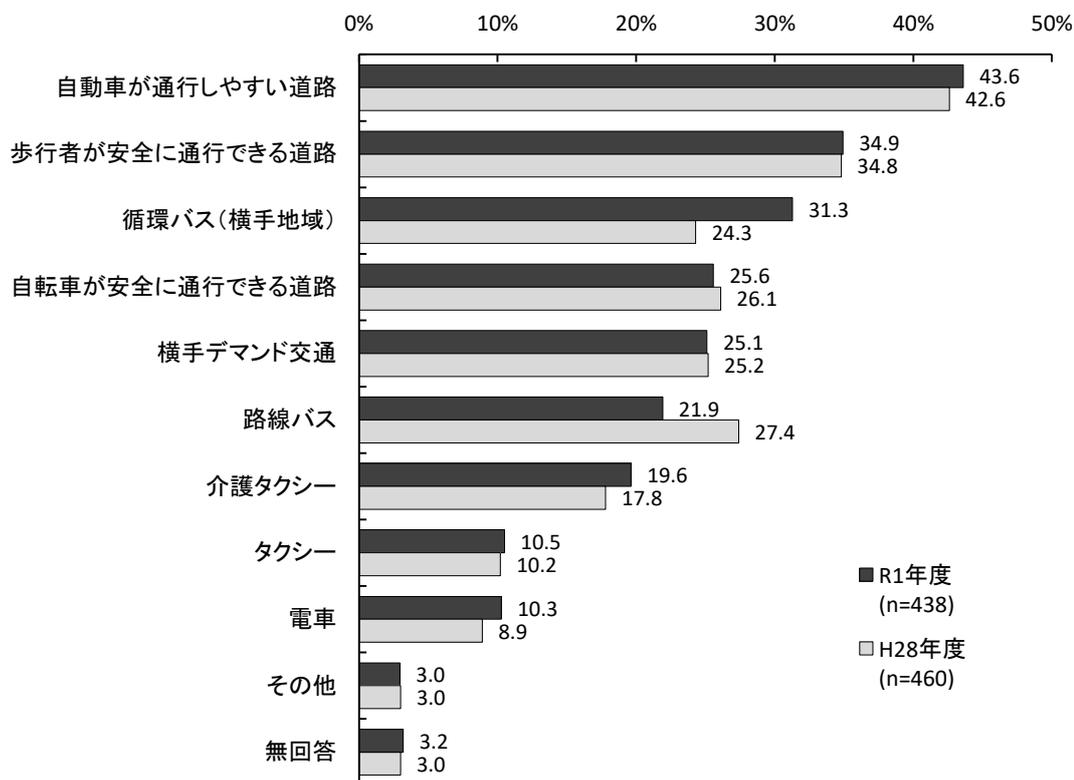
日常生活圏域別にみると、低下者割合は、東部で 13.4%、西部で 17.1%、南部で 15.0%と、西部でやや多くなっている。

第3章 調査結果（第2号被保険者）

1. お住まいと世帯などについて

（1）外出のために充実してほしいもの

問1（4）今後、外出のために充実してほしいものは何ですか（あてはまる項目すべてに○）

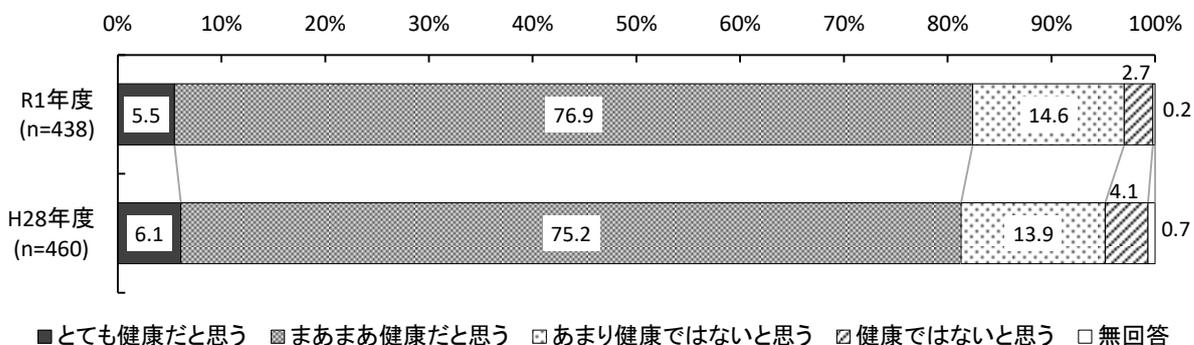


外出するために充実してほしいものをたずねたところ、「自動車が通行しやすい道路」が43.6%と最も多く、次いで「歩行者が安全に通行できる道路」(34.9%)、「循環バス(横手地域)」(31.3%)となっている。前回調査と比べると第1位と2位の項目に変化はないが、前回第3位であった「路線バス」の割合が低下して第6位となった一方、第6位であった「循環バス(横手地域)」の割合は上昇し、第3位となっている。

2. 健康・医療について

（1）自身の健康状態

問2（1）ご自分は健康だと思いますか（1つに○）

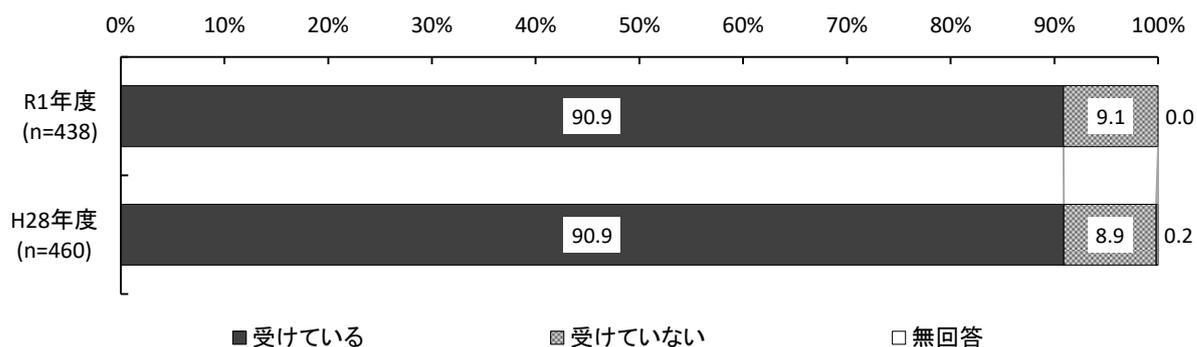


自身の健康状態は、前回調査と同様に「まあまあ健康だと思う」が7割を超えて最も多い。これに、「とても健康だと思う」（5.5%）を合わせた“健康”は82.4%となっている。

一方、「あまり健康ではないと思う」と「健康ではないと思う」を合わせた“健康ではない”は17.3%となっている。

（2）健診の受診状況

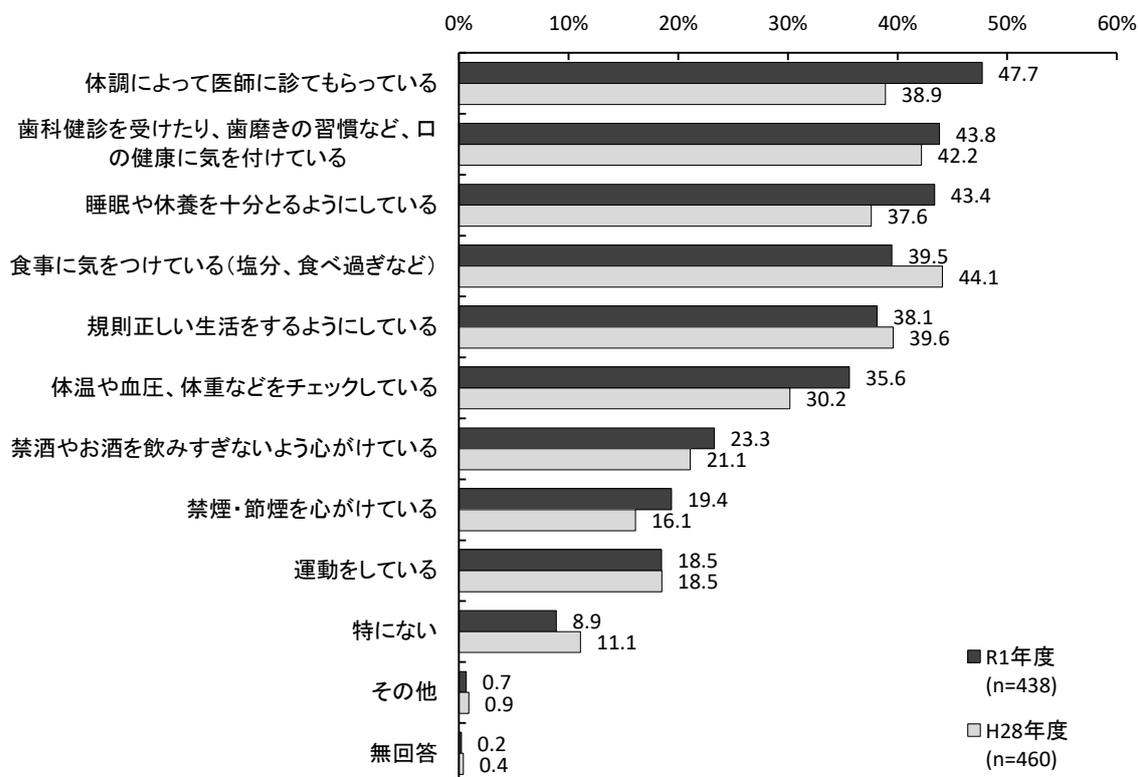
問2（2）年に1回程度、健診を受けていますか（1つに○）



年1回程度の健診を受けているかたずねたところ、「受けている」が9割以上を占めており、前回同様の結果となっている。

(3) 健康のために気を付けていること

問2 (3) 健康のために気を付けていることはありますか（あてはまる項目すべてに○）

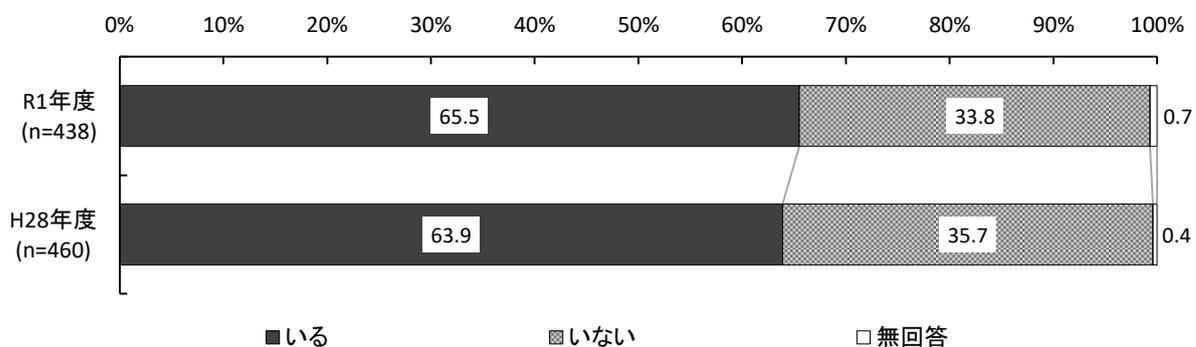


健康のために気を付けていることは、「体調によって医師に診てもらっている」(47.7%)が最も多く、次いで「歯科健診を受けたり、歯磨きの習慣など、口の健康に気を付けている」(43.8%)、「睡眠や休養を十分とるようにしている」(43.4%)となっている。

前回調査と比較すると、前回第4位であった「体調によって医師に診てもらっている」が今回は第1位となり、前回第1位であった「食事に気を付けている(塩分、食べ過ぎなど)」が第4位となるなど、順位が入れ替わっている。また、健康に気を付けていること9項目(「特にない」「その他」を除いた項目数)のうち、6項目で前回に比べ割合が上昇している。

（4）かかりつけ医の有無

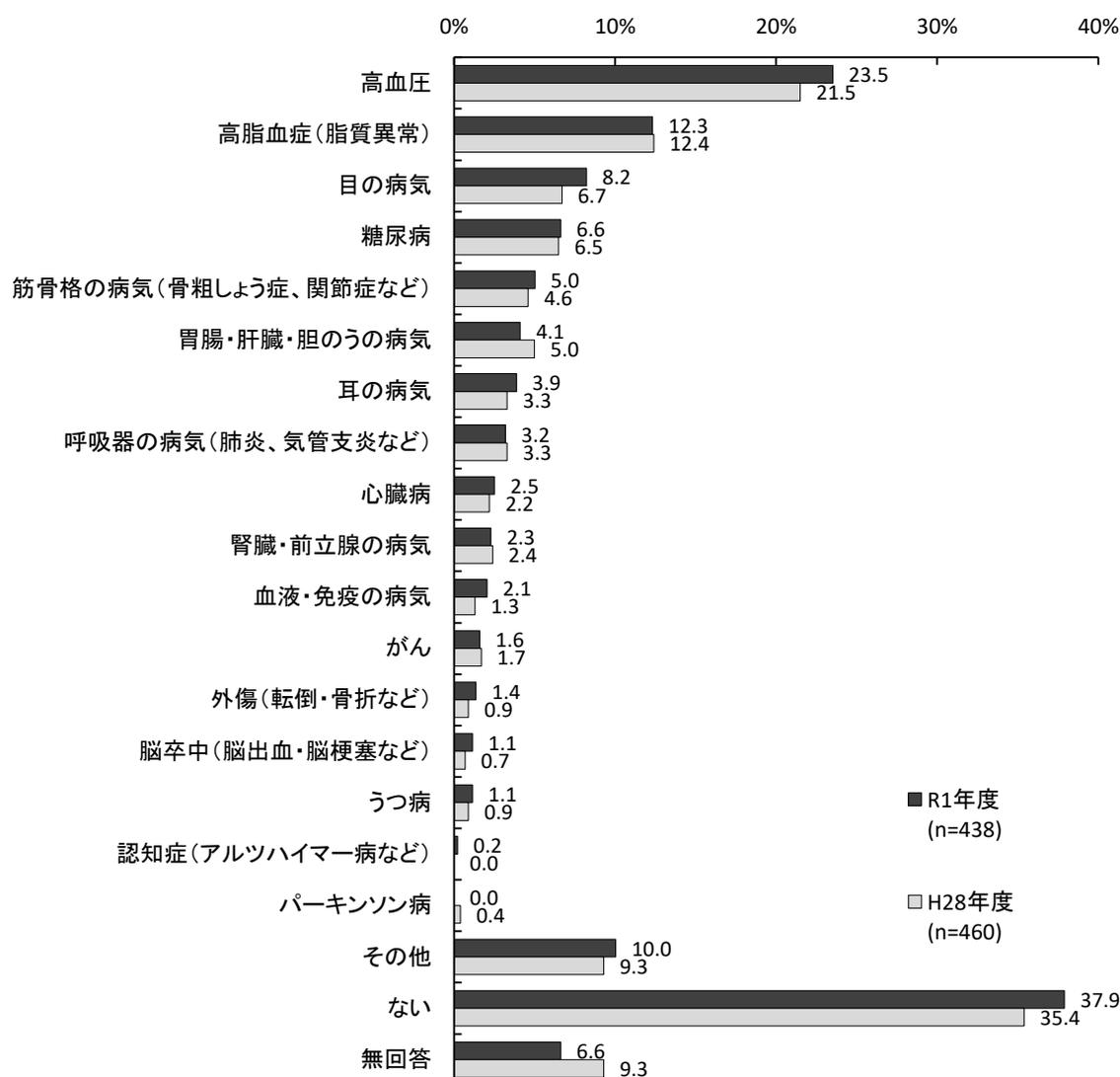
問2（4）あなたは、かかりつけ医がいますか（1つに○）



かかりつけ医の有無についてたずねたところ、「いる」が 65.5%、「いない」が 33.8%となり、前回同様の結果となっている。

（5）持病または現在治療中の病気、後遺症のある病気

問2（5）持病または現在治療中の病気、後遺症のある病気はありますか
（あてはまる項目すべてに○）



持病または現在治療中の病気、後遺症のある病気は、「高血圧」が 23.5%と最も多く、次いで「高脂血症（脂質異常）」（12.3%）、「目の病気」（8.2%）、「糖尿病」（6.6%）、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症など）」（5.0%）となっている。第1位～第4位の項目は前回と同じ結果となっている。

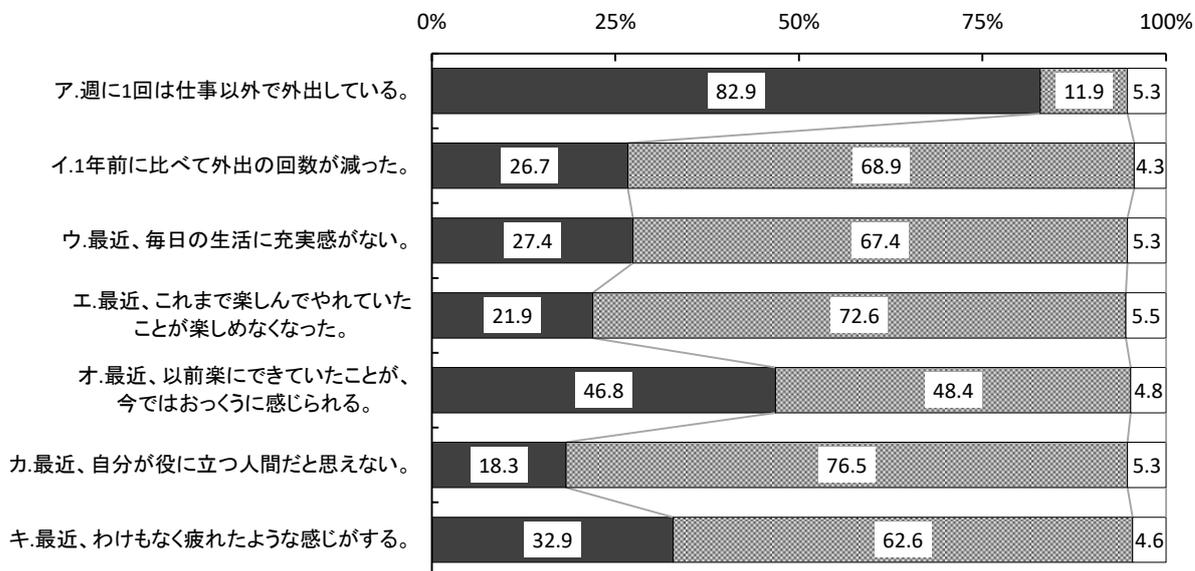
一方、「ない」は 37.9%となっている。

（6）毎日の生活の様子

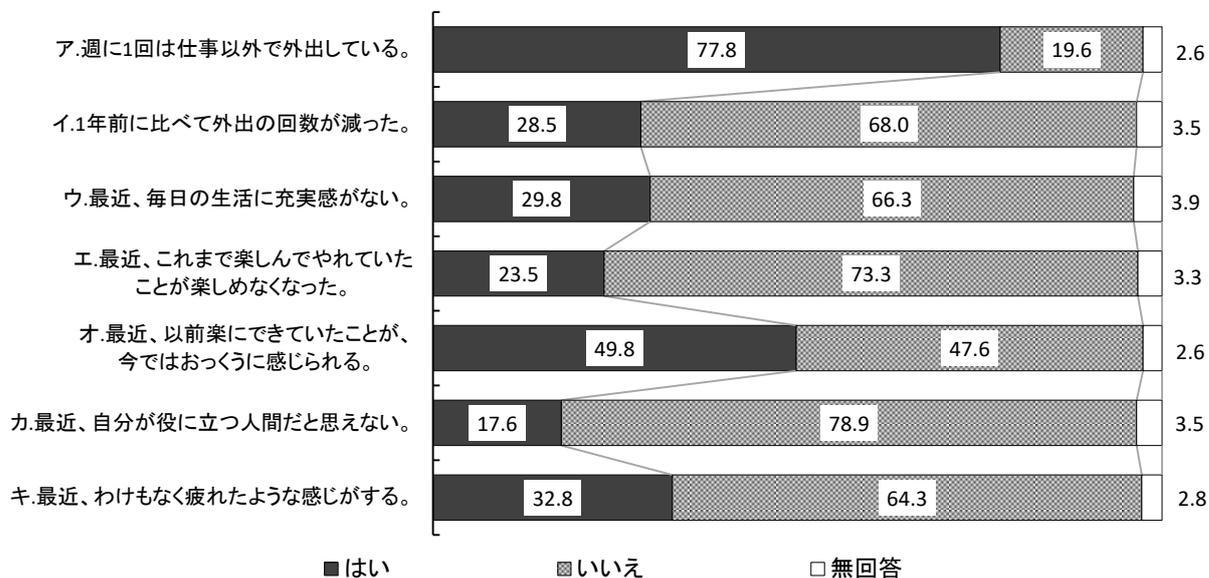
問2（6）毎日の生活の様子についておたずねします

（下記のア～キについて、それぞれあてはまる項目のどちらかに○）

【今回調査〔R1年度〕（n=438）】



【前回調査〔H28年度〕（n=460）】

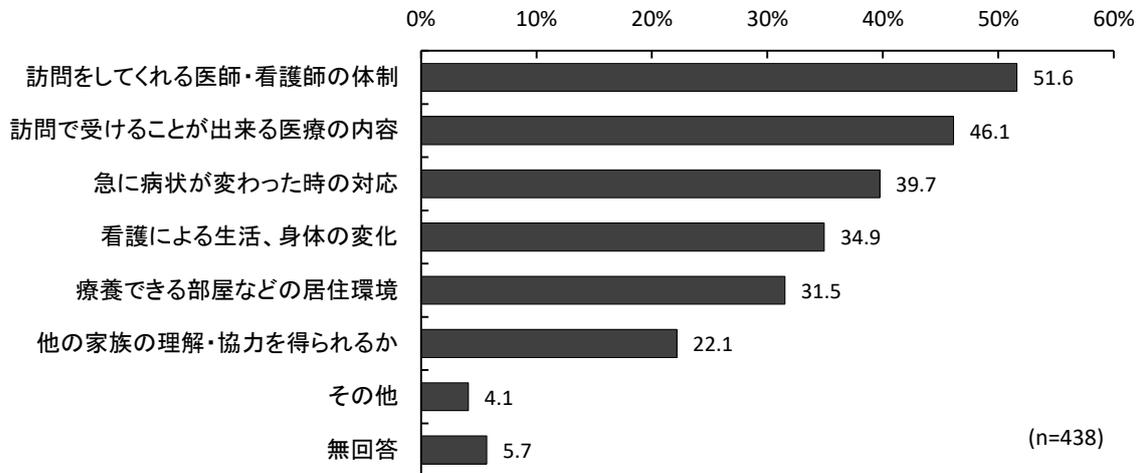


毎日の生活の様子について、『ア.週に1回は仕事以外で外出している』では82.9%が「はい」と回答しており、前回より回答割合がやや上昇している。

『オ.最近、以前楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる』では、「はい」の割合が前回に比べればやや低下しているものの、今回も40%を超えて他項目より高くなっている。

（7）在宅で医療を受けることになった場合、特に心配に思うこと

問2（7）あなたが在宅で医療を受けることとなった場合、特に心配に思う事に○を記入してください（いくつでも）

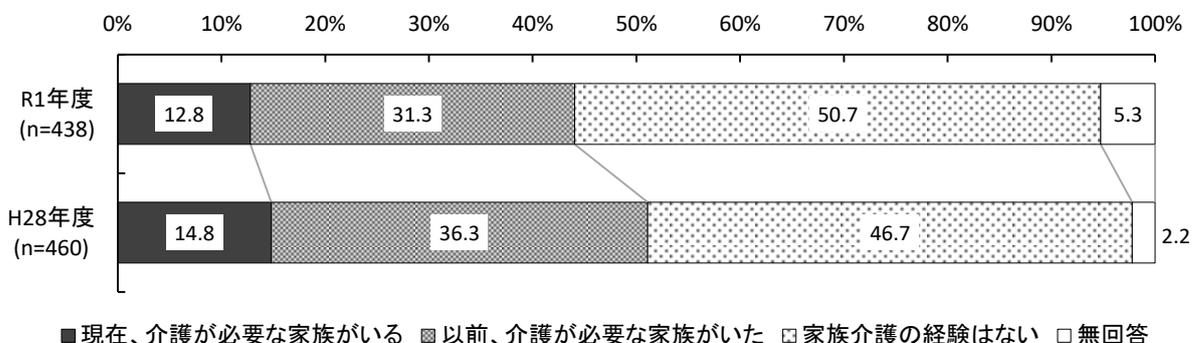


在宅で医療を受けることになった場合、特に心配に思うことは、「訪問をしてくれる医師・看護師の体制」が51.6%と5割を超えて最も多くなっている。次いで「訪問で受けることが出来る医療の内容」（46.1%）、「急に病状が変わった時の対応」（39.7%）となり、在宅医療を受ける自身の状況よりも、在宅医療の提供側の体制に対する心配や不安の方が大きい。

3. 介護保険について

（1）同居家族の介護経験

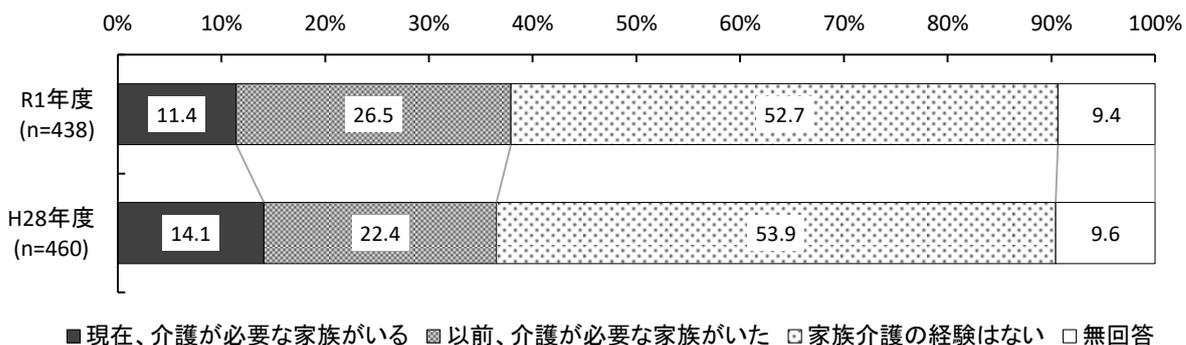
問3（1）同居の家族の介護経験についておたずねします（1つに○）



同居家族の介護経験についてたずねたところ、「家族介護の経験はない」が5割を超えて最も多く、次いで「以前、介護が必要な家族がいた」(31.3%)、「現在、介護が必要な家族がいる」(12.8%)となっており、前回同様の結果となっている。

（2）同居していない家族の介護経験

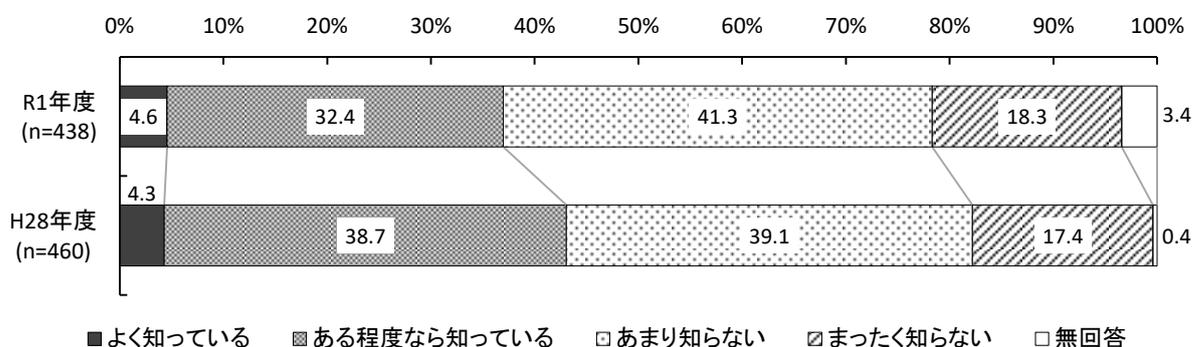
問3（2）同居していない家族の介護経験についておたずねします（1つに○）



同居していない家族の介護経験についてたずねたところ、前回調査と同様に「家族介護の経験はない」(52.7%)が5割を超えて最も多く、次いで「以前、介護が必要な家族がいた」(26.5%)、「現在、介護が必要な家族がいる」(11.4%)となっている。

（3）介護保険で利用できるサービスの種類や内容についての認知度

問3（3）介護保険で利用できるサービスの種類や内容を知っていますか（1つに○）



介護保険で利用できるサービスの種類や内容についての認知度をたずねたところ、「あまり知らない」が41.3%と最も多く、次いで「ある程度なら知っている」(32.4%)となっている。

「よく知っている」と「ある程度なら知っている」を合わせた“知っている”は37.0%と、前回(43.0%)に比べて低下している。

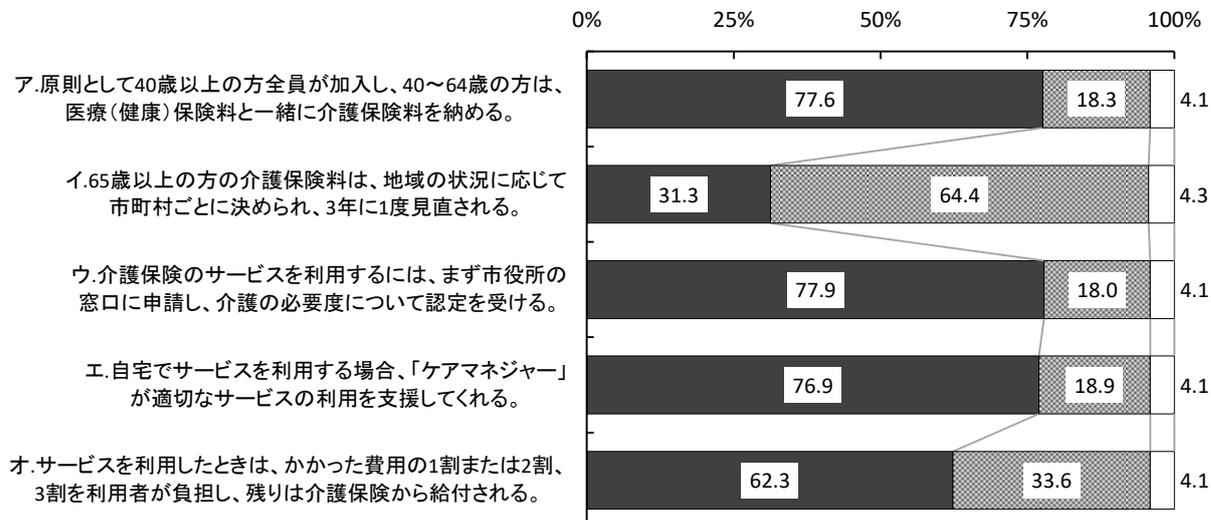
一方、「あまり知らない」に「まったく知らない」(18.3%)を合わせた“知らない”は59.6%と6割近くを占め、前回(56.5%)に比べて上昇している。

（4）介護保険制度の認知度

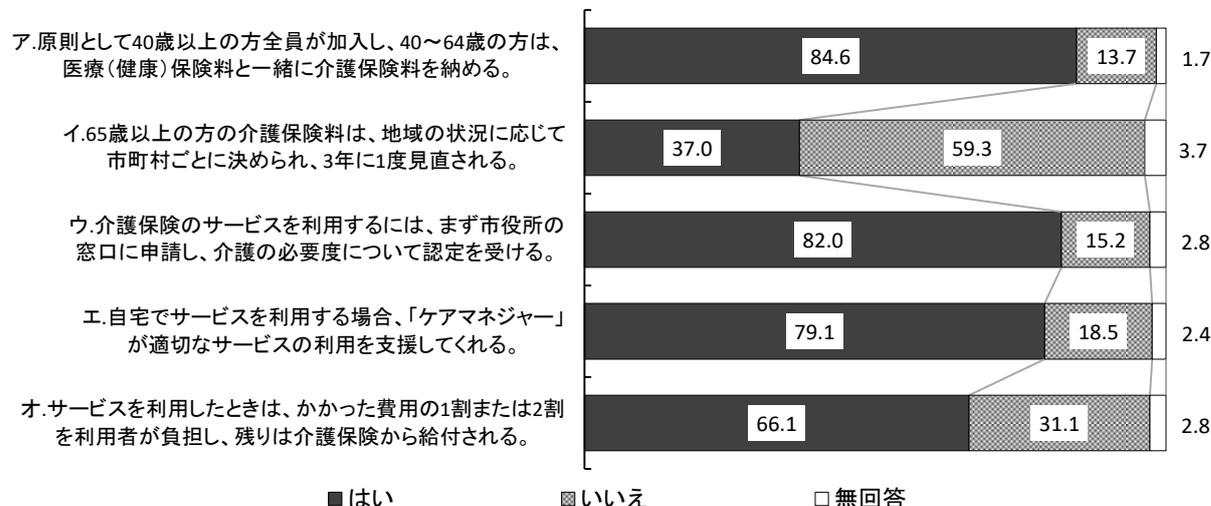
問3（4）介護保険制度について、次のことを知っていますか。

（下記のア～オについて、それぞれあてはまる項目のどちらかに○）

【今回調査〔R1年度〕（n=438）】



【前回調査〔H28年度〕（n=460）】

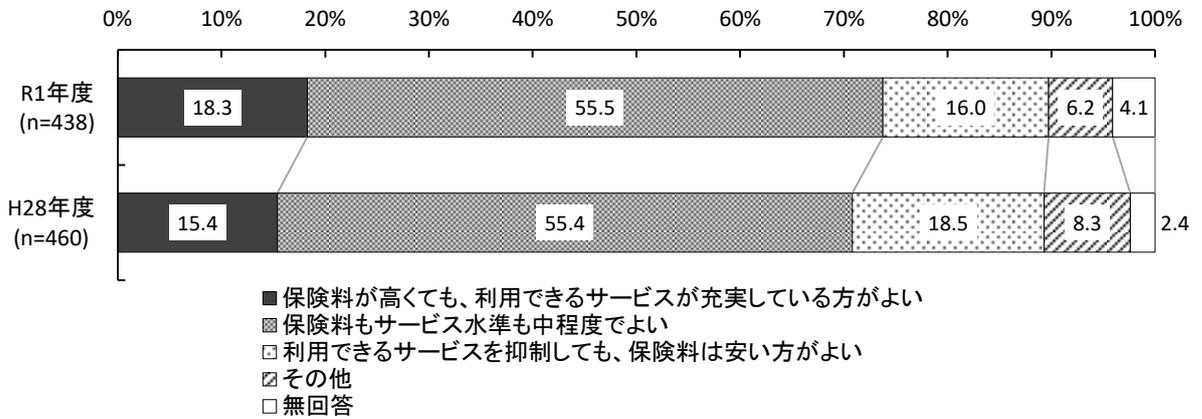


介護保険制度の認知度についてたずねたところ、『ア.40歳から64歳は医療保険料と一緒に介護保険料を納める』、『ウ.サービス利用前に市役所で申請し介護認定を受ける』、『エ.自宅でサービス利用の場合「ケアマネジャー」が利用を支援』は前回同様に認知度が高く、今回調査では7割以上が「はい」と回答している。

一方、『イ.65歳以上の保険料は、市町村ごとに決め、3年に1度見直される』は31.3%と、他項目に比べて認知度が低く、これは前回同様の結果となっている。

（5）介護保険料負担とサービス給付の関係について

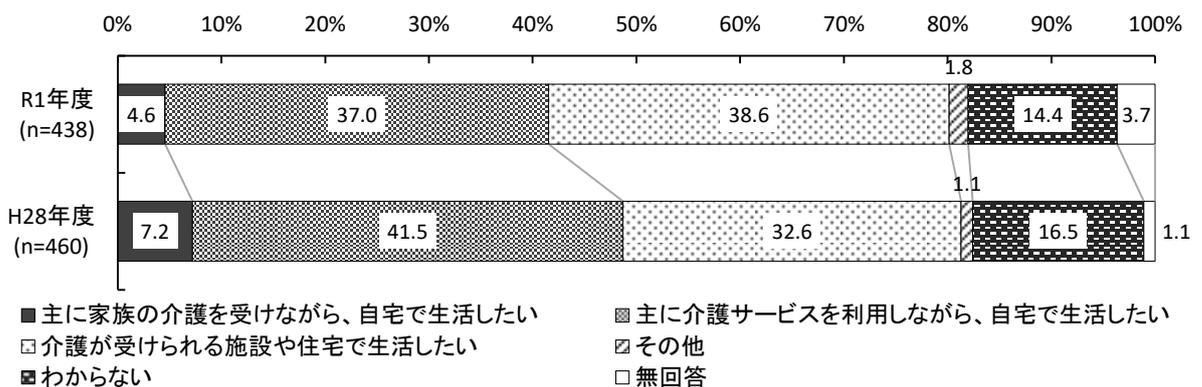
問3（5）負担（介護保険料）と給付（介護保険サービス）の関係について、あなたのお考えに最も近い項目1つに○をつけてください。



介護保険料負担とサービス給付の関係については、前回同様に「保険料もサービス水準も中程度でよい」が5割以上を占めて最も多くなっている。次いで「保険料が高くても、利用できるサービスが充実している方がよい」（18.3%）、「利用できるサービスを抑制しても、保険料は安い方がよい」（16.0%）となり、「保険料が高くても、利用できるサービスが充実している方がよい」が前回より上昇し、第3位から第2位に上昇している。

（6）介護が必要になったとき、希望する介護形態

問3（6）あなたは、ご自分に介護が必要な状態になったとき、どのような介護を受けたいと思いますか。（1つに○）

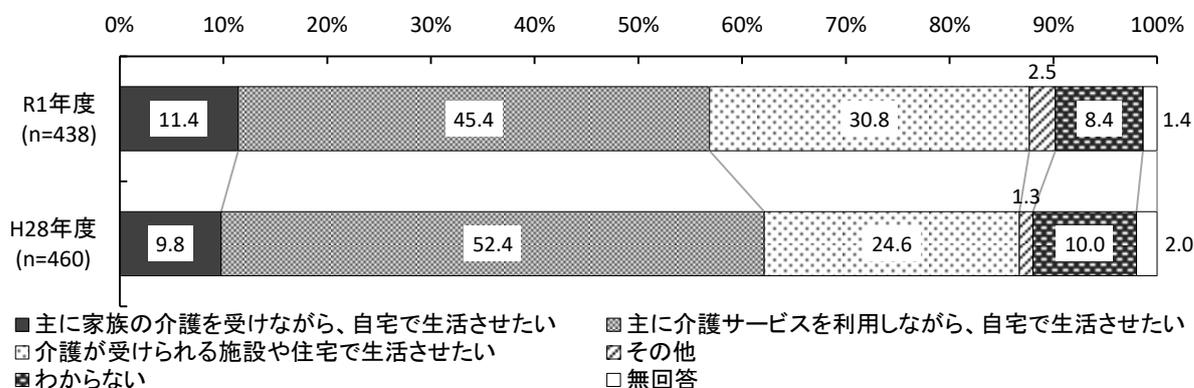


介護が必要な状態になったとき希望する介護形態では、「介護が受けられる施設や住宅で生活したい」が38.6%と最も多く、次いで「主に介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい」（37.0%）となり、前回の第1位と2位が入れ替わる結果となった。

「主に介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい」に「主に家族の介護を受けながら、自宅で生活したい」を合わせた“自宅生活を希望”は41.6%となり、前回（48.7%）に比べ、低下している。一方、“施設入所を希望”（「介護が受けられる施設や住宅で生活したい」と回答した割合）は前回（32.6%）より上昇している。

（7）家族に介護が必要になったとき、希望する介護形態

問3（7）あなたは、ご家族に介護が必要な状態になったとき、どのようにしてあげたいと思いますか。（1つに○）



家族に介護が必要な状態になったときに希望する介護形態では、「主に介護サービスを利用しながら、自宅で生活させたい」が45.4%と前回同様に最も多く、次いで「介護が受けられる施設や住宅で生活させたい」（30.8%）となっている。

「主に家族の介護を受けながら、自宅で生活させたい」と「主に介護サービスを利用しながら、自宅で生活させたい」を合わせた“自宅生活を希望”は56.8%と、前回（62.2%）に比べ、低下している。一方、“施設入所を希望”（「介護が受けられる施設や住宅で生活させたい」と回答した割合）は30.8%と、前回（24.6%）より上昇している。

また、前回調査同様に、自分自身に介護が必要になった場合（問3（6））より、家族に介護が必要になった場合の方が、“自宅生活を希望”の回答が多くなっている。

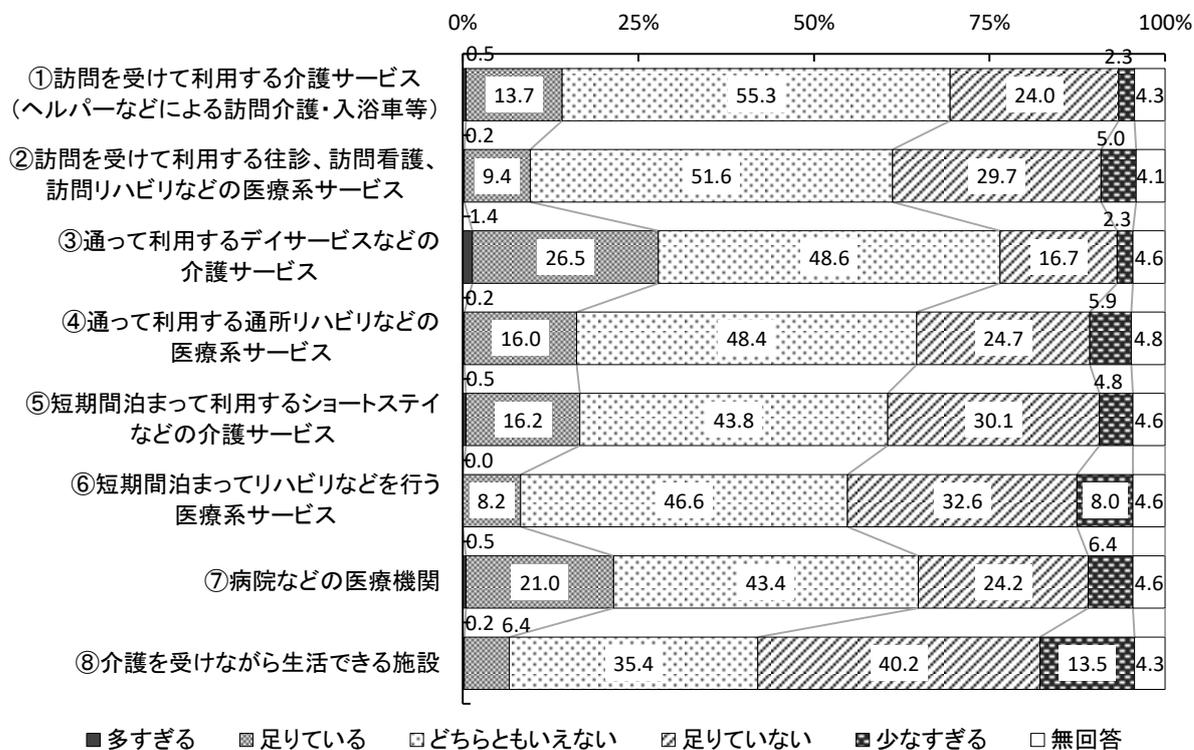
（8）地域医療や介護サービスの充足度

問3（8）地域の医療や介護のサービスについてどう感じていますか。

①～⑧それぞれについて最も近い項目1つに○をつけてください。

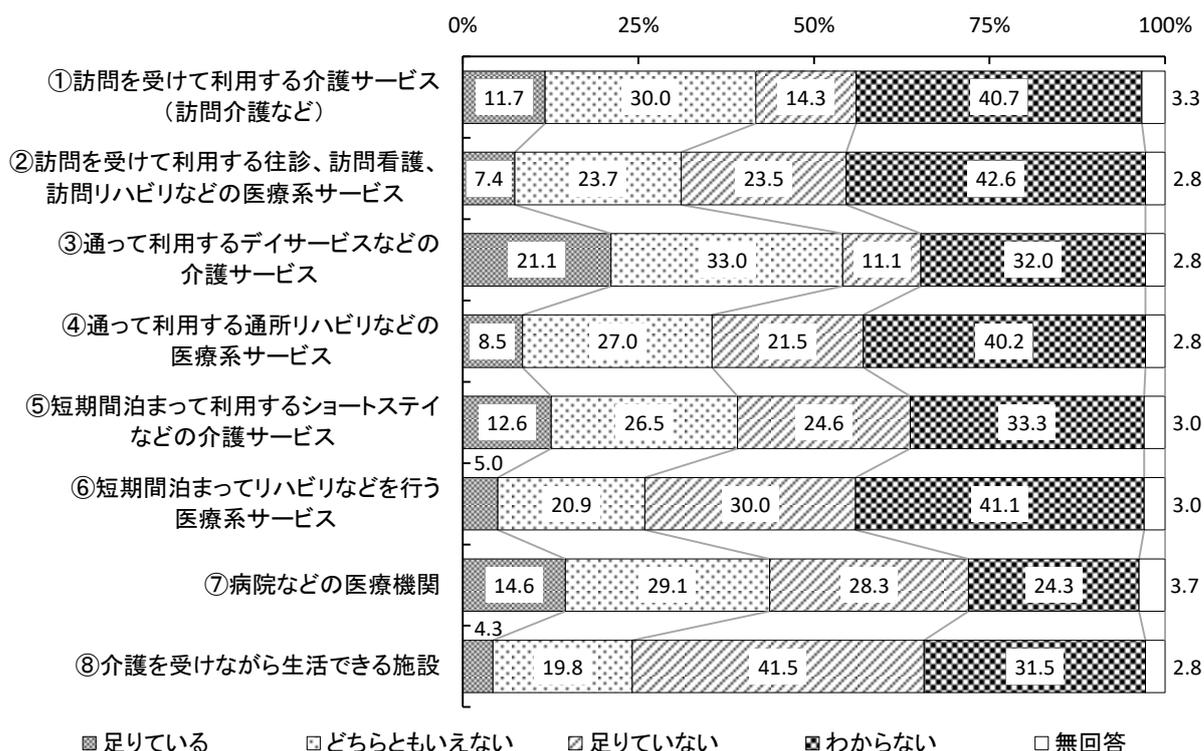
※サービスの利用をしたことがない方は、周りの様子から感じたことをお知らせください。

【今回調査〔R1年度〕(n=438)】



【前回調査〔H28年度〕(n=460)】

※今回調査と選択肢が異なる。



地域の医療や介護サービスの充足度についてたずねたところ、『③通って利用するデイサービスなどの介護サービス』（26.5%）、『⑦病院などの医療機関』（21.0%）で「足りている」が他のサービスに比べて高くなっている。

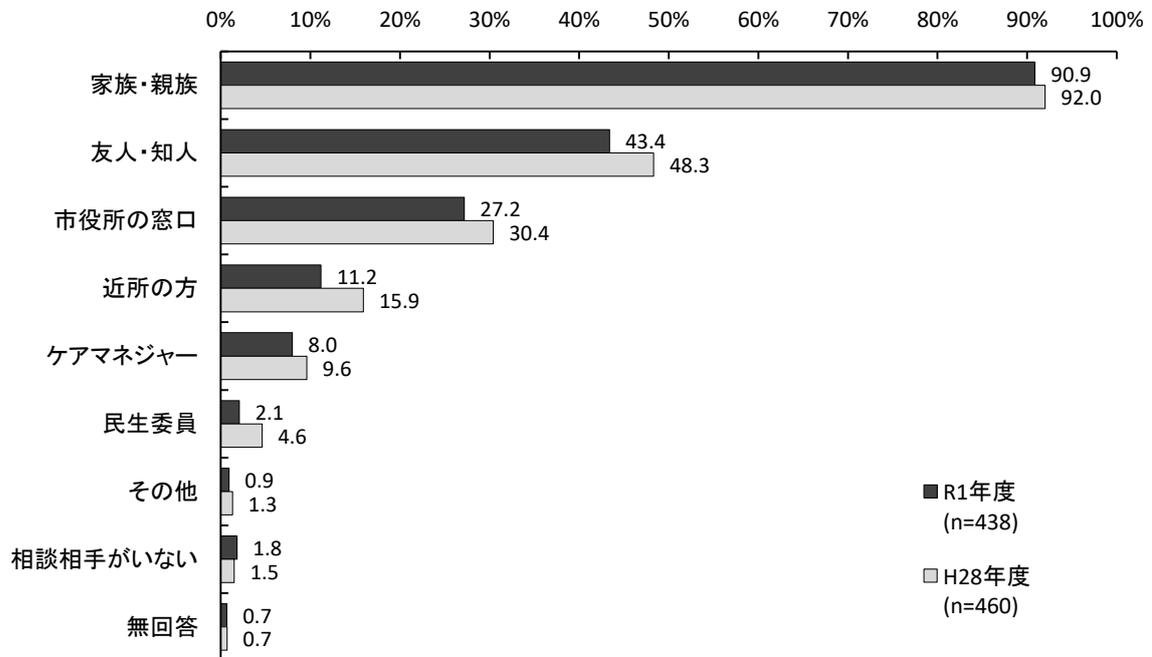
一方、「足りていない」と「少なすぎる」を合わせた“足りていない”が他サービスより高いのは、『⑥短期間泊まってリハビリなどを行う医療系サービス』（40.6%）、『⑧介護を受けながら生活できる施設』（53.7%）となり、『⑧介護を受けながら生活できる施設』では5割以上となっている。前回の結果をみても、『⑥短期間泊まってリハビリなどを行う医療系サービス』と『⑧介護を受けながら生活できる施設』において「足りていない」の割合が高い。

また、「多すぎる」との回答はほとんどなかった。

4. 相談ごと・災害対応について

（1）相談相手

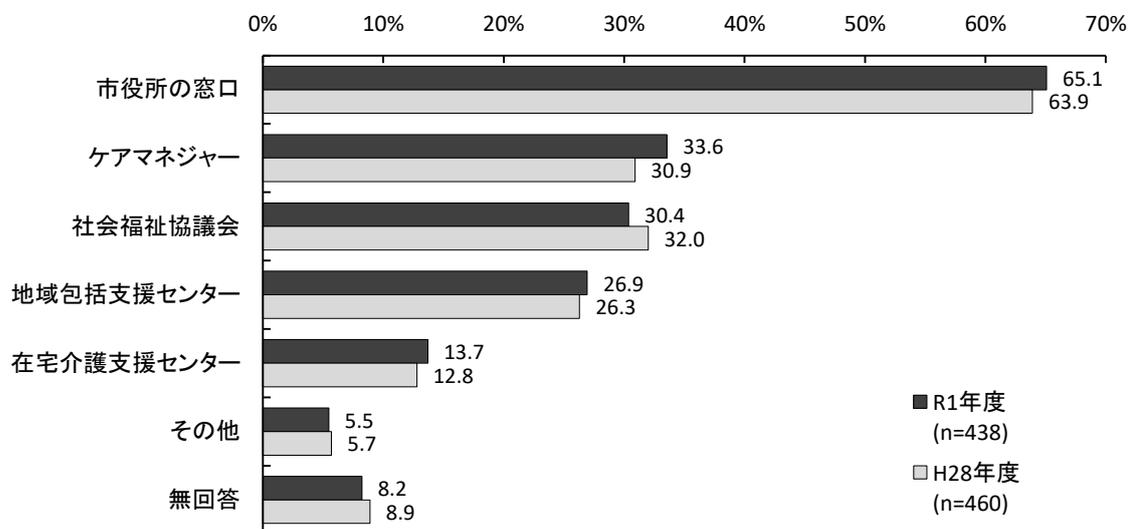
問4（1）あなたは、何かあった時、誰に相談しますか（あてはまる項目すべてに○）



何かあった時の相談相手は、「家族・親族」が90.9%と最も多く、次いで「友人・知人」(43.4%)、「市役所の窓口」(27.2%)となり、前回同様の結果となっている。

（2）家族に認知症の疑いがある場合、相談できる公的窓口について

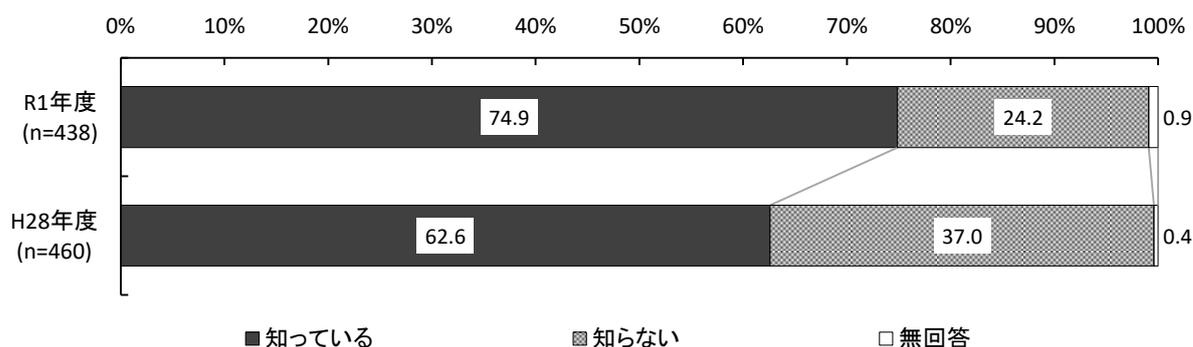
問4（2）ご家族が認知症と疑われるようになった場合、相談できる公的窓口をご存知ですか（ご存じのものすべてに○）



家族に認知症の疑いがある場合に相談する公的窓口をたずねたところ、「市役所の窓口」が65.1%と最も多く、次いで「ケアマネジャー」（33.6%）、「社会福祉協議会」（30.4%）となっている。今回調査では前回と多少順位が入れ替わっているが、ほぼ同じ結果となっている。

（3）地域の避難場所についての認知度

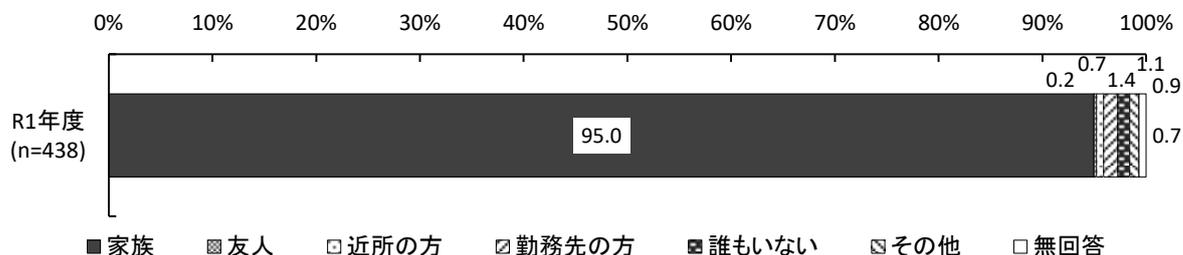
問4（3）地域の避難場所をご存知ですか（1つに○）



地域の避難場所を知っているかたずねたところ、7割以上が「知っている」と回答しており、前回調査に比べ12.3ポイント上昇している。

（4）災害発生時、連絡を取る人

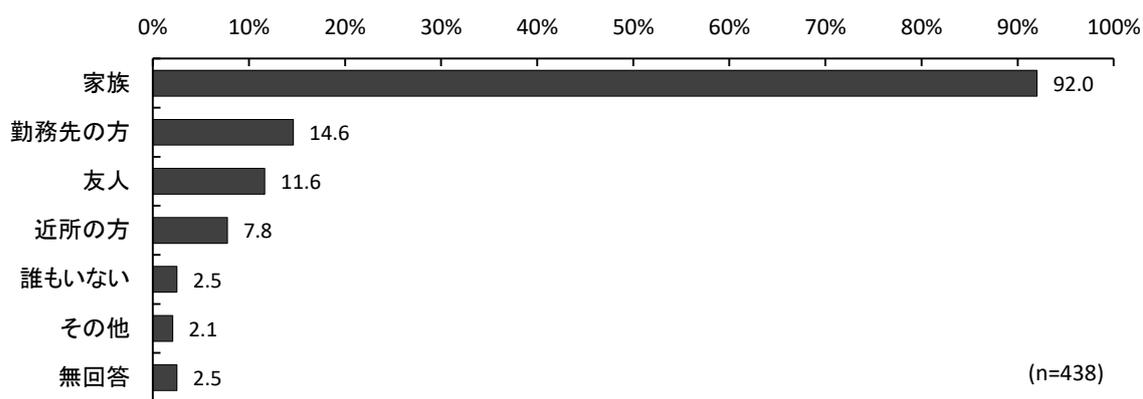
問4（4）地震などの災害が発生した場合、誰に連絡を取りますか。
（最も可能性の高い項目1つに○）



災害発生時に連絡を取る人は、「家族」が9割以上を占め、最も多くなっている。

（5）災害発生時に誰に連絡を取るかを知っている人

問4（5）（4）のことを知っている方はどなたですか。
（いくつでも○）

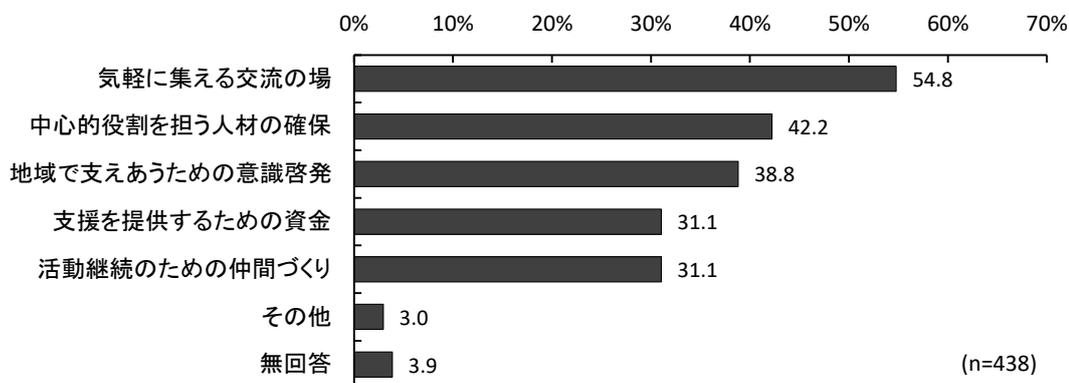


災害発生時に誰に連絡を取るかを知っている人は、「家族」が9割以上を占めて最も多くなっている。

5. 地域の支え合い・日常生活支援について

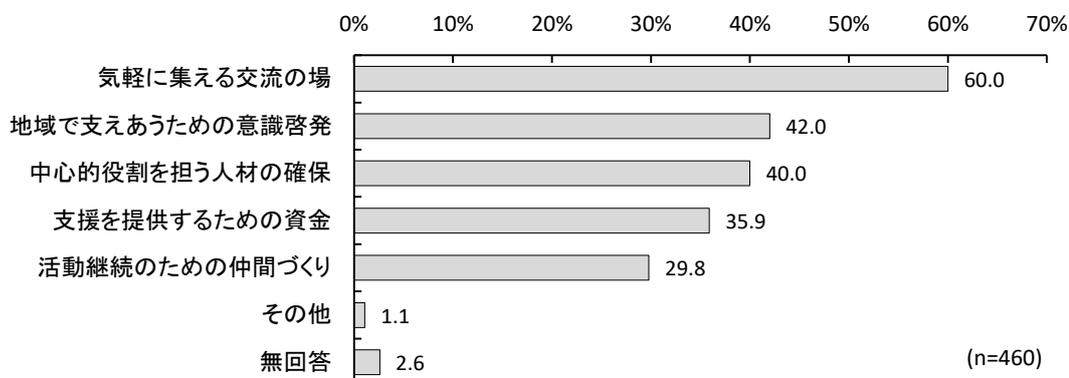
（1）地域で支えあいの輪を広げるために必要なこと

問5（1）地域で支えあいの輪を広げるために、何が必要だと思いますか。
（あてはまる項目すべてに○）



（参考）前回調査

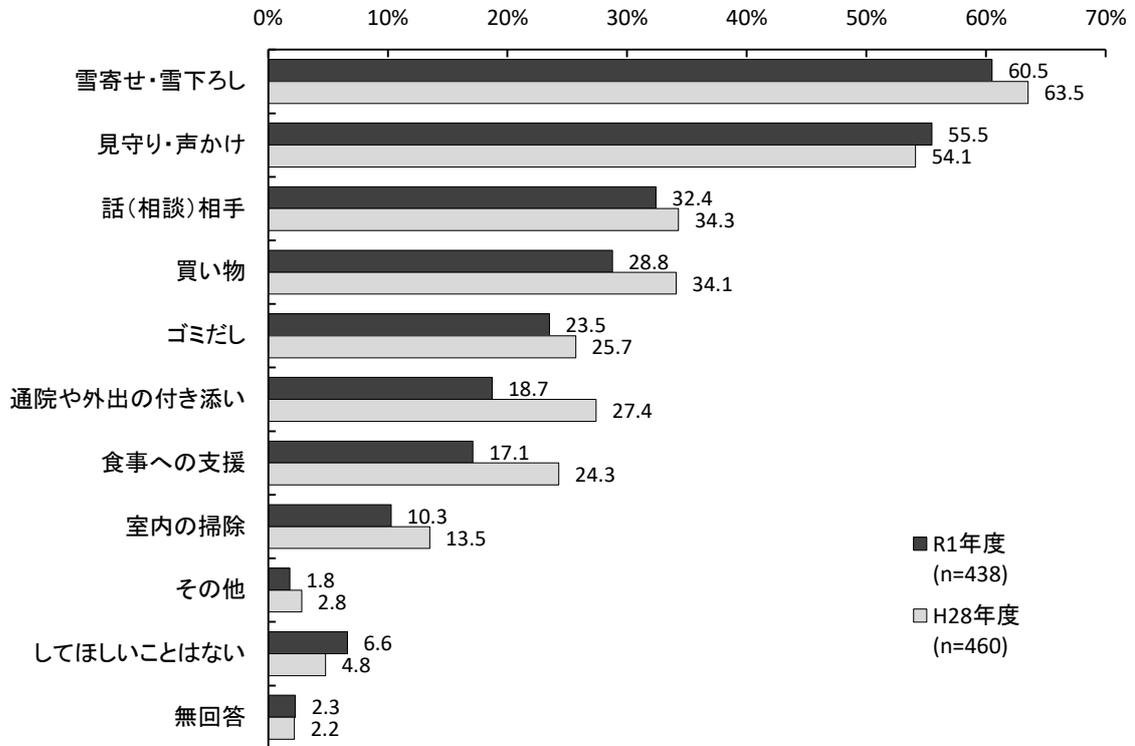
問31 地域で高齢者を支えるために、何が必要だと思いますか。
（あてはまる項目すべてに○）



地域で支えあいの輪を広げるために必要なことは、「気軽に集える交流の場」が 54.8%と最も多く、次いで「中心的役割を担う人材の確保」(42.2%)、「地域で支えあうための意識啓発」(38.8%) となっている。

(2) 日常生活に困ったとき、地域や近所の人からしてほしいこと

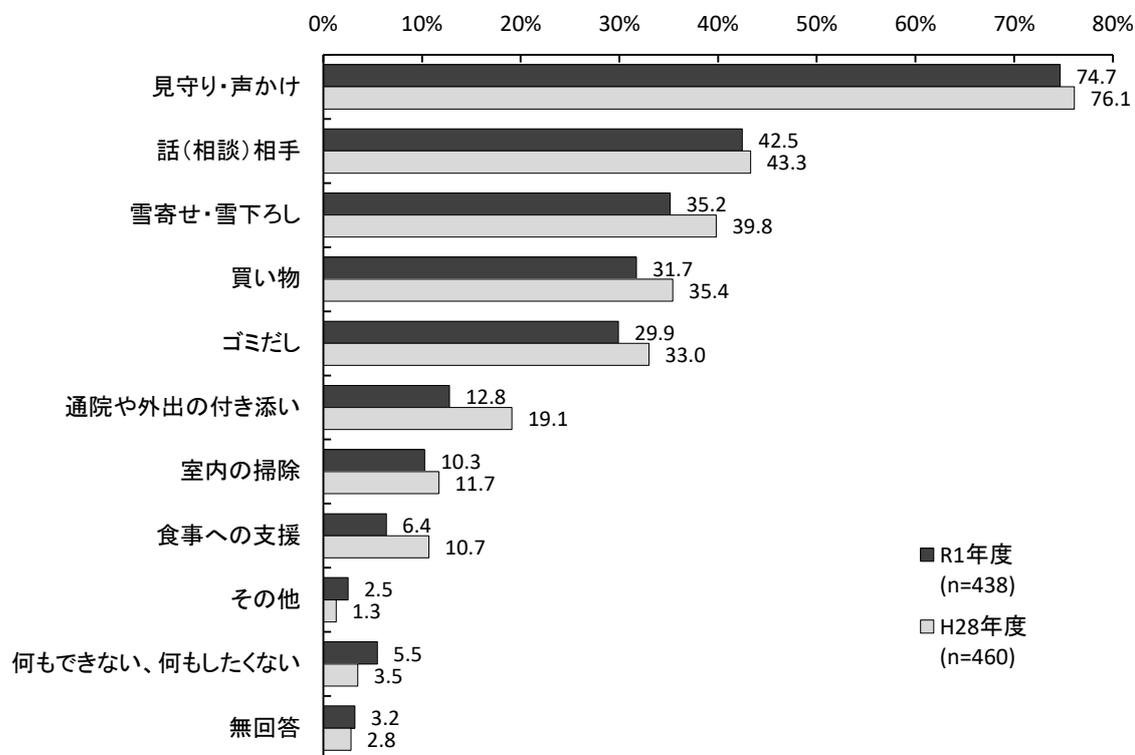
問5 (2) あなたが日常生活に困ったとき、地域や近所の方からどのようなことをしてほしいと思いますか（あてはまる項目すべてに○）



日常生活に困ったとき、地域や近所の人からしてほしいことは、第1位が「雪寄せ・雪下ろし」で60.5%と最も多く、第2位が「見守り・声かけ」(55.5%)、第3位が「話(相談)相手」(32.4%)、第4位が「買い物」(28.8%)となっている。第1位～第4位までは前回と同じ結果となった。

（3）日常生活に困っている地域や近所の人に対してできること

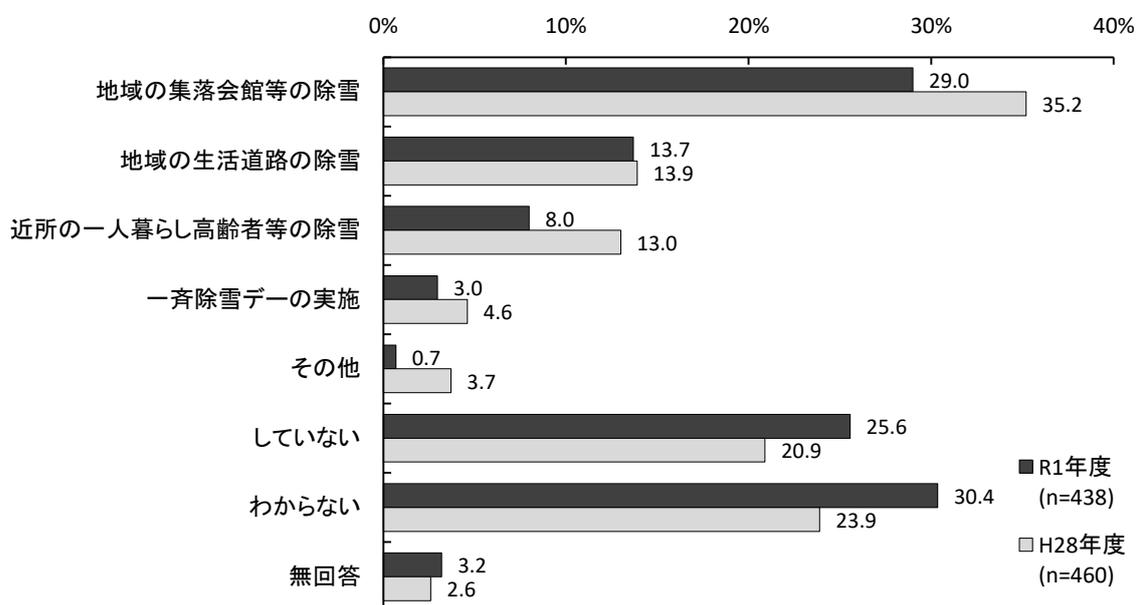
問5（3）日常生活に困っている地域や近所の方に対して、あなたはどのようなことができますか（あてはまる項目すべてに○）



日常生活に困っている地域や近所の人に対してできることは、「見守り・声かけ」が7割を超えて最も多く、次いで「話（相談）相手」（42.5%）、「雪寄せ・雪下ろし」（35.2%）となり、前回同様の結果となっている。

（4）町内会や自治会における除雪の取り組み

問5（4）町内会や自治会では、除雪についてどのような取り組みをしていますか
（あてはまる項目すべてに○）

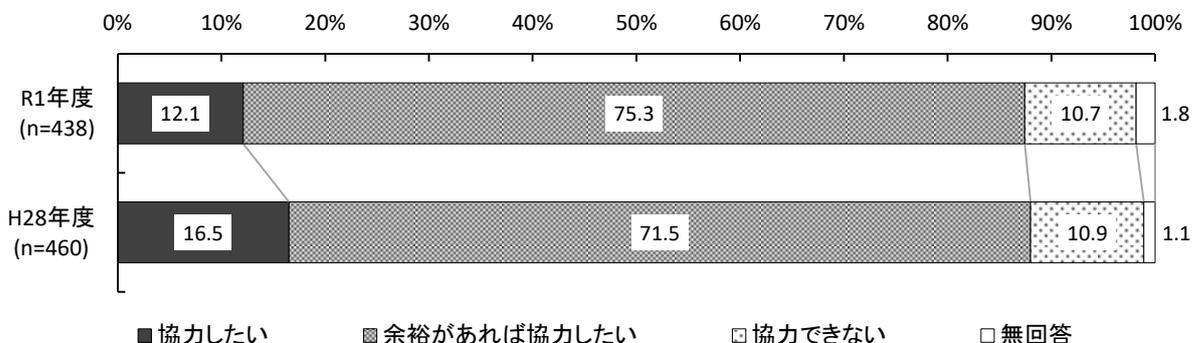


町内会や自治会における除雪の取り組みについてたずねたところ、「わからない」を除くと、「地域の集落会館等の除雪」が29.0%と最も多く、次いで「地域の生活道路の除雪」（13.7%）、「近所の一人暮らし高齢者等の除雪」（8.0%）となっている。

一方で、3割程度が「わからない」と回答しており、「していない」も25.6%となっている。前回に比べ、「わからない」および「していない」の割合は上昇している。

（5）除雪に困っている際の協力・手助け

問5（5）近所で除雪に困っている高齢者世帯等があった場合、協力・手助けをしたいと思いませんか。（1つに○）



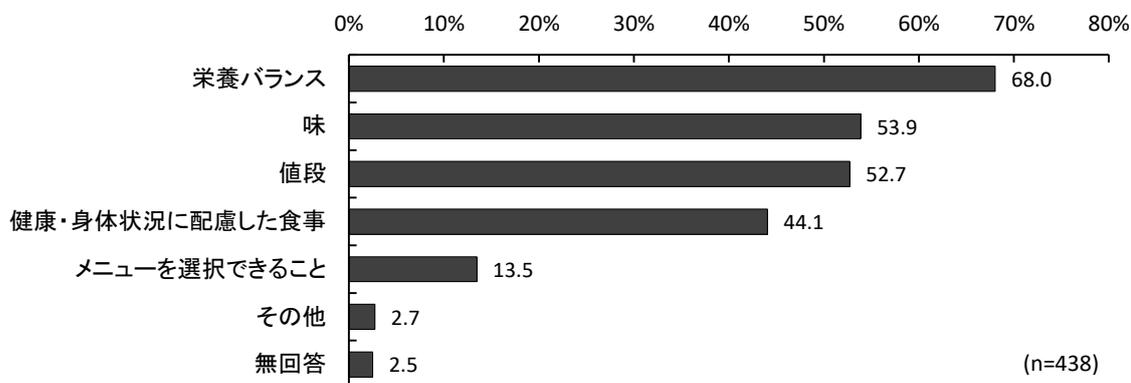
近所で除雪に困っている高齢者世帯等があった場合に、協力・手助けをしたいかたずねたところ、「余裕があれば協力したい」が75.3%と最も多く、これに「協力したい」を合わせた87.4%が“協力したい”と回答している。

前回に比べると、「協力したい」が低下しているものの、「協力したい」と「余裕があれば協力したい」を合わせた“協力したい”は前回（88.0%）同様となっている。

6. 食事の準備と食生活について

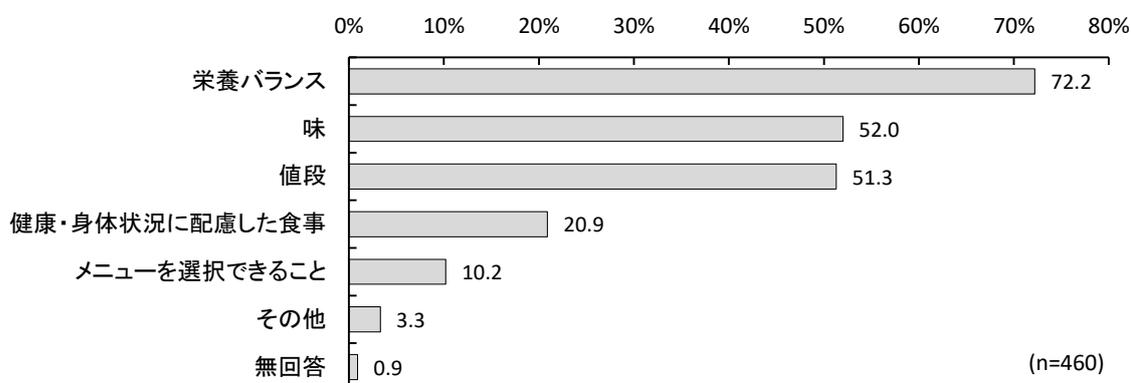
（1）食事の準備において重視すること

問6（1） 自宅で食事の準備をすることにおいて、重視することはなんですか。
（あてはまる項目すべてに○）



（参考）前回調査

問39 食事の準備や食べることに、重視することはなんですか。
（あてはまる項目すべてに○）

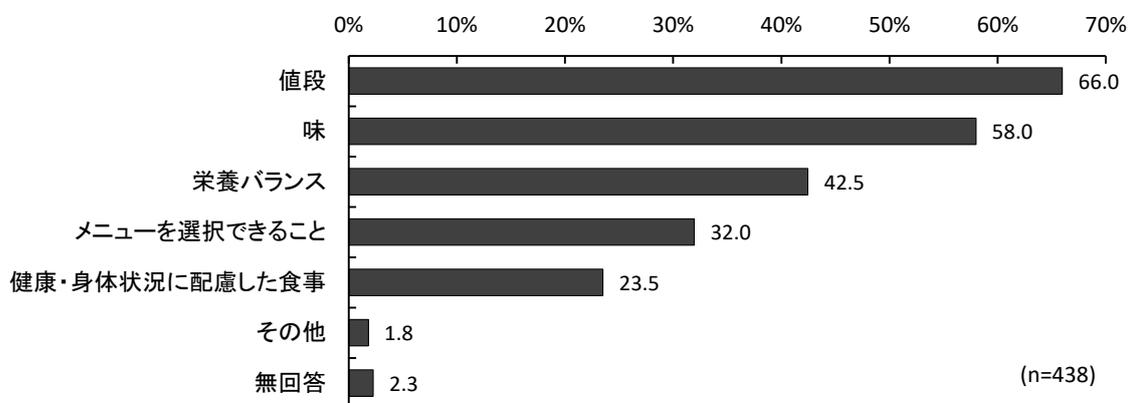


自宅での食事の準備において重視することは、「栄養バランス」が 68.0%と最も多く、次いで「味」（53.9%）、「値段」（52.7%）、「健康・身体状況に配慮した食事」（44.1%）となり、前回同様の結果となっている。

※前回と今回では設問文が若干異なっている。

（2）出前や弁当などを利用する場合、重視すること

問6（2）出前や弁当などを利用する場合、重視することはなんですか。
（あてはまる項目すべてに○）

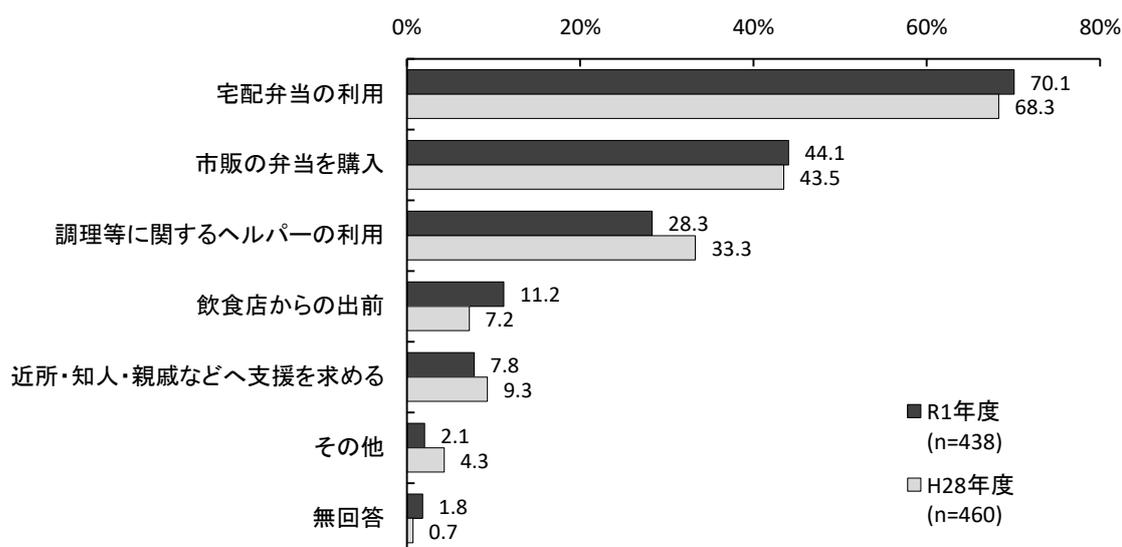


出前や弁当などを利用する場合に重視することは、「値段」が 66.0%と最も多く、次いで「味」(58.0%)、「栄養バランス」(42.5%) となっている。

（3）食事の準備が困難になったときの意向

※次の問（3）から（8）までは、将来あなたが高齢や身体の不調などにより、自力で食事の準備が困難になった場合のことを想定してお答えください。

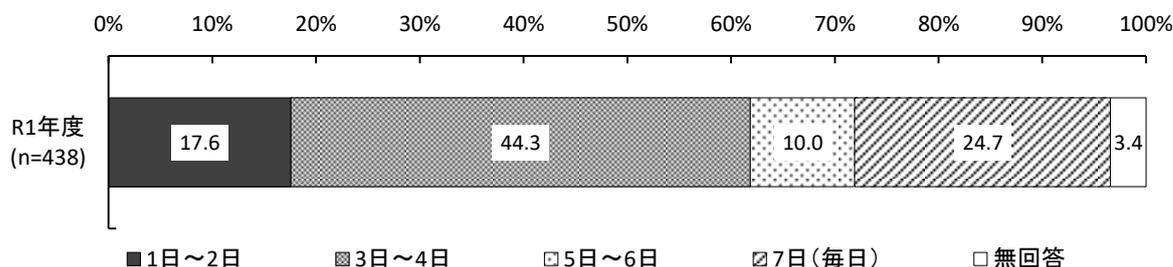
問6（3）食事の準備が困難になったときに、どのような対応をしたいと思いますか
（あてはまる項目すべてに○）



食事の準備が困難になったときの意向は、「宅配弁当の利用」が 70.1%と最も多く、次いで「市販の弁当を購入」(44.1%)、「調理等に関するヘルパーの利用」(28.3%) となっており、前回同様の結果となっている。

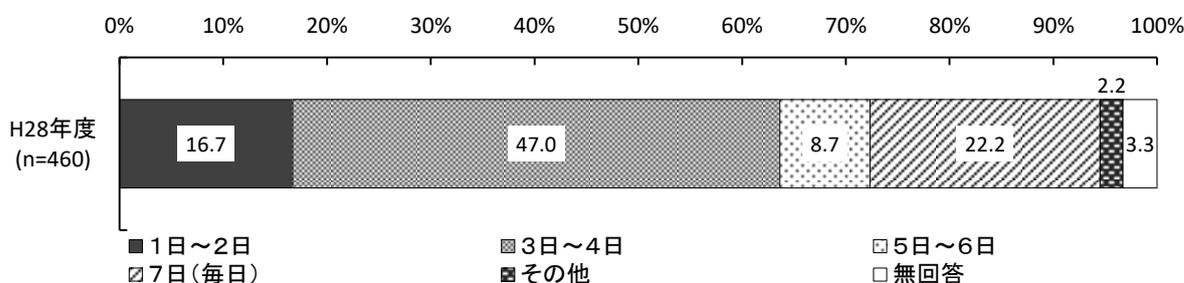
（4）出前や弁当などを利用する場合に希望する、週あたりの利用日数（自力で食事の準備が困難になった場合）

問6（4）出前や弁当などを利用する場合、週に何日まで利用したいですか。（1つに○）



（参考）前回調査

問41 出前や弁当などを利用する場合、週に何日まで利用したいですか。（1つに○）

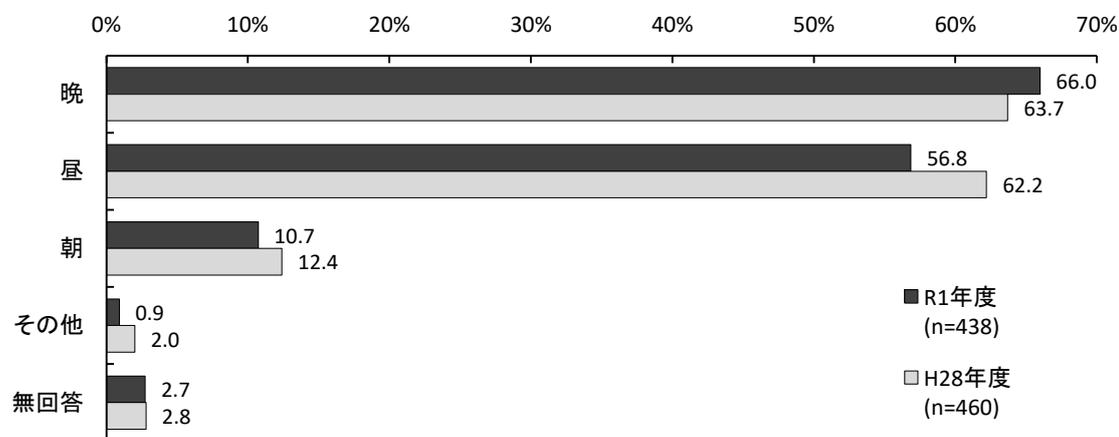


希望する週あたりの利用日数は、「3日～4日」が44.3%と最も多く、次いで「7日」(24.7%)、「1日～2日」(17.6%)となり、前回同様の結果となっている。

※前回と今回では選択肢が異なっている。

（5）出前や弁当などを利用する場合に希望する利用時間帯（自力で食事の準備が困難になった場合）

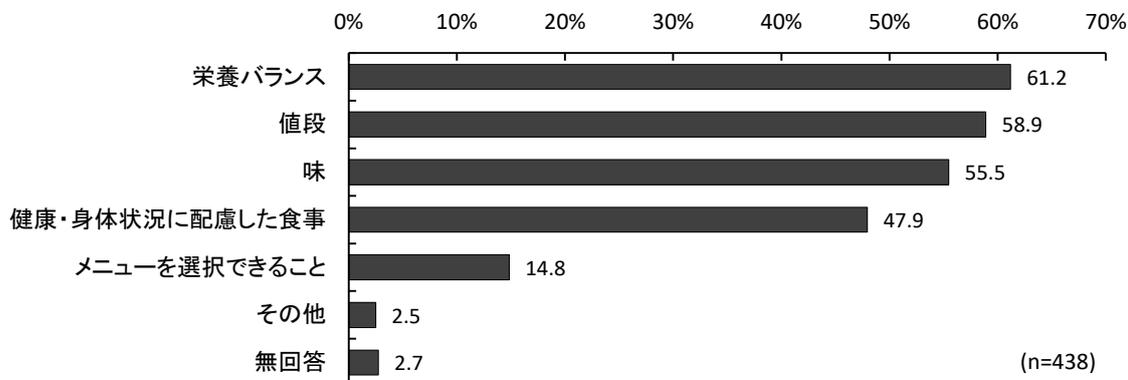
問6（5）出前や弁当などを利用する場合、どの時間帯に利用したいですか。（あてはまる項目すべてに○）



希望する利用時間帯は、「晩」が66.0%と最も多く、次いで「昼」(56.8%)、「朝」(10.7%)となり、前回と同様の結果となっている。

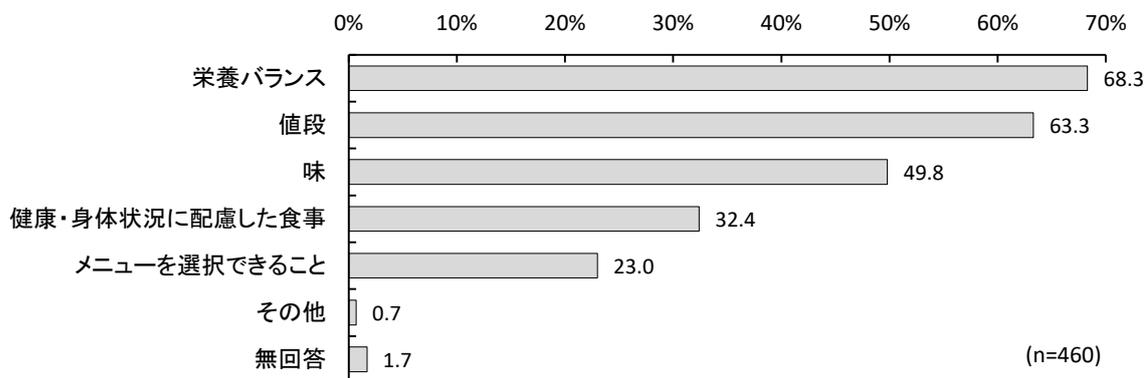
（6）食事の準備において重視すること（自力で食事の準備が困難になった場合）

問6（6）自宅で食事の準備をすることにおいて、重視することはなんですか。
（あてはまる項目すべてに○）



（参考）前回調査

問43 食事の準備や食べることに、重視することはなんですか。
（あてはまる項目すべてに○）



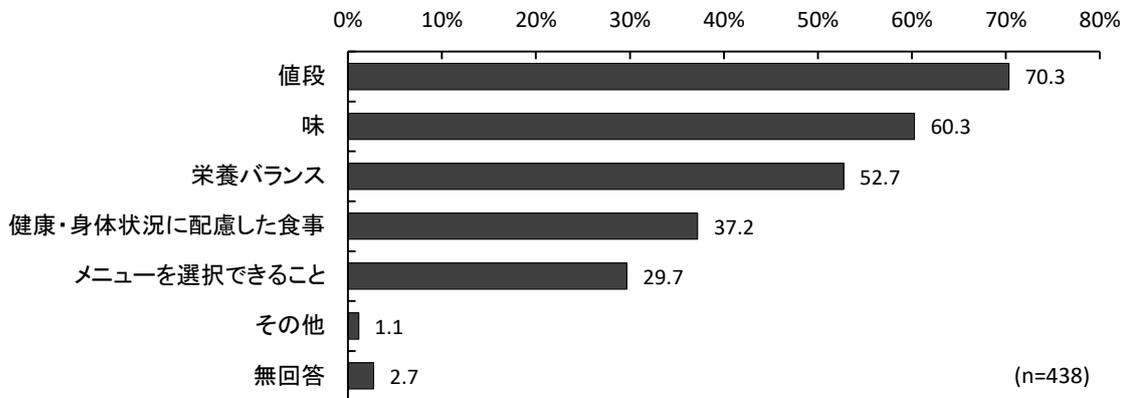
自宅での食事の準備において重視することは、「栄養バランス」が 61.2%と最も多く、次いで「値段」（58.9%）、「味」（55.5%）となり、6割前後の人がこれら3項目を重視している。

また、前回調査と同様の結果となっている。

※前回と今回では、設問文が若干異なっている。

（7）出前や弁当などを利用する場合、重視すること（自力で食事の準備が困難になった場合）

問6（7）出前や弁当などを利用する場合、重視することはなんですか。
（あてはまる項目すべてに○）

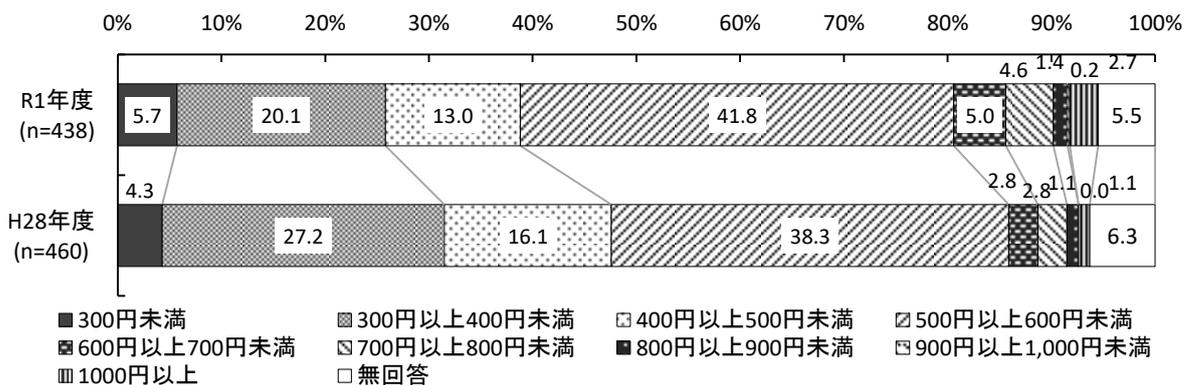


出前や弁当などを利用する場合、重視することは、「値段」が70.3%と最も多く、次いで「味」(60.3%)、「栄養バランス」(52.7%)となっている。

自宅での食事の準備において重視すること（問6（6））では第1位が「栄養バランス」だったのに対し、出前や弁当の場合では「値段」という結果となった。

（8）配食サービスを利用する場合の1食あたりの料金負担額（自力で食事の準備が困難になった場合）

問6（8）配食サービスを利用することになった場合、1食につき料金の負担はいくらまでと考えますか。



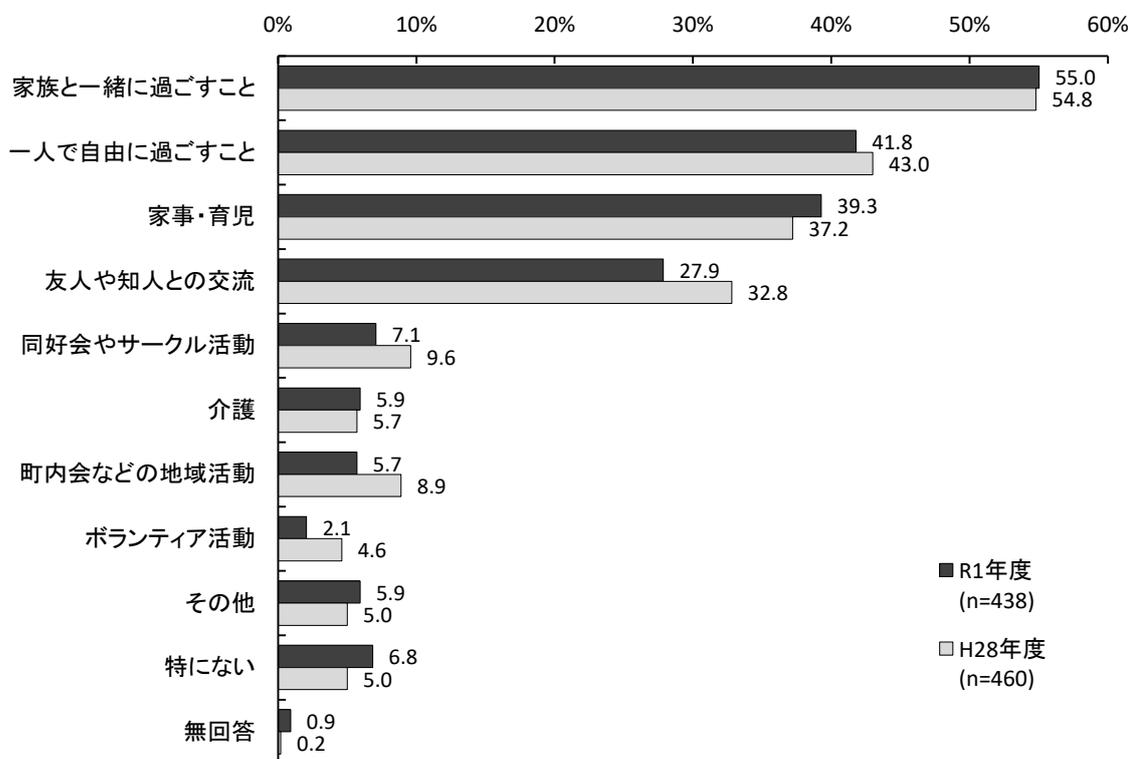
配食サービスを利用する場合の1食あたりの料金負担額は、「500円以上600円未満」が41.8%と最も多く、次いで「300円以上400円未満」(20.1%)、「400円以上500円未満」(13.0%)となっている。“600円未満”の割合は前回(85.9%)に比べれば低下しているが、今回も8割を超えて高い。

平均金額は470.8円と、前回(435.8円)より35.0円高くなった。

7. 生きがいや社会参加の状況について

（1）仕事以外の時間の使い方

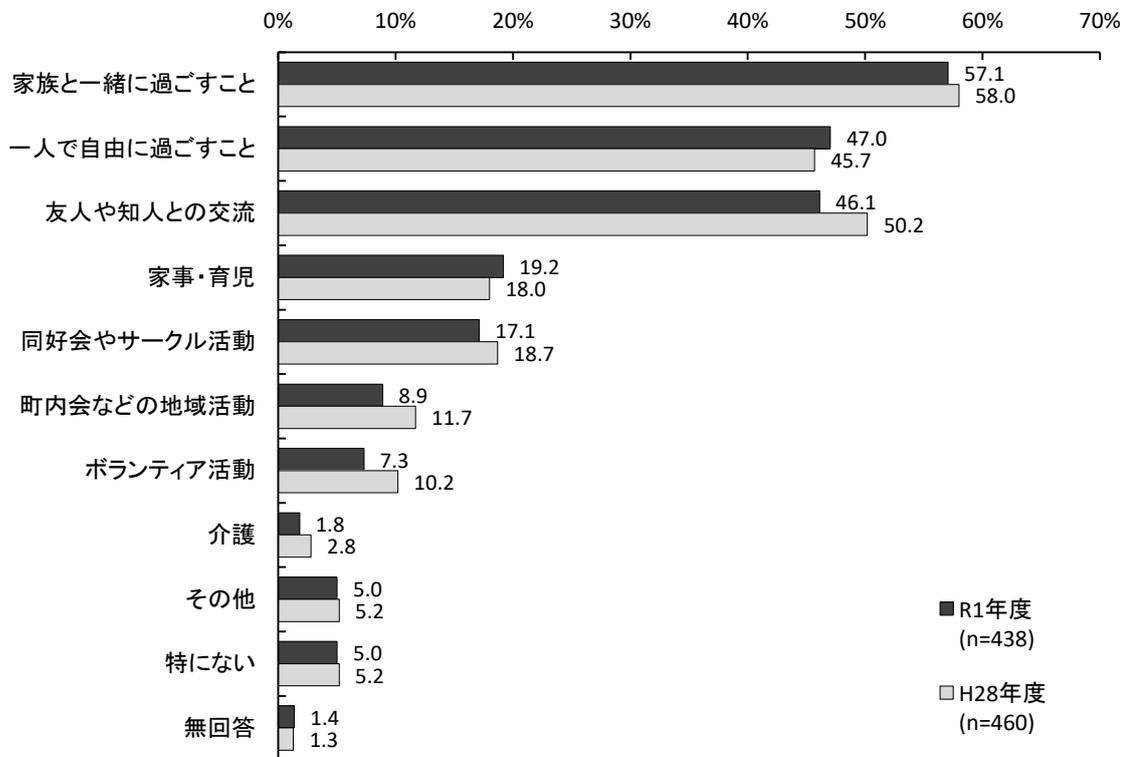
問7（1）あなたは、現在、仕事以外でどのようなことに時間を多く使っていますか
（あてはまる項目すべてに○）



現在、仕事以外でどのようなことに時間を多く使っているかたずねたところ、「家族と一緒に過ごすこと」が55.0%と最も多く、次いで「一人で自由に過ごすこと」(41.8%)、「家事・育児」(39.3%)、「友人や知人との交流」(27.9%)となっている。第1位～第4位は前回と同じ結果となった。

(2) 今後希望する、仕事以外での時間の使い方

問7(2) あなたは、今後、仕事以外でどのようなことに時間を多く使っていきたいですか。
(あてはまる項目すべてに○)

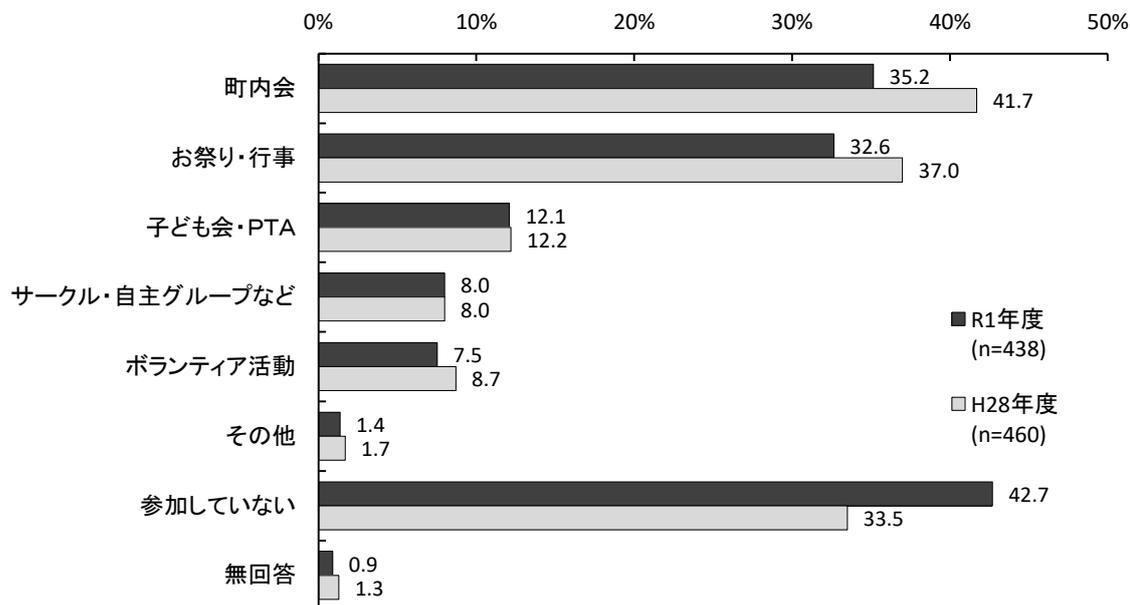


今後希望する、仕事以外での時間の使い方は、第1位が「家族と一緒に過ごすこと」で57.1%となり、第2位が「一人で自由に過ごすこと」(47.0%)、第3位が「友人や知人との交流」(46.1%)となっている。前回調査と比べると、第1位は今回、前回ともに「家族と一緒に過ごすこと」となり、第2位と3位は入れ替わっているものの、大きな変化はみられない。

現在の時間の使い方(問7(1))と比較すると、現在の時間の使い方では第4位の「友人や知人との交流」が、希望する時間の使い方では第3位となり、同様に「町内会などの地域活動」が第7位から第6位に、「ボランティア活動」が第8位から第7位に順位を上げている。

（3）地域活動への参加状況

問7（3）あなたは、地域活動などに参加していますか。（あてはまる項目すべてに○）

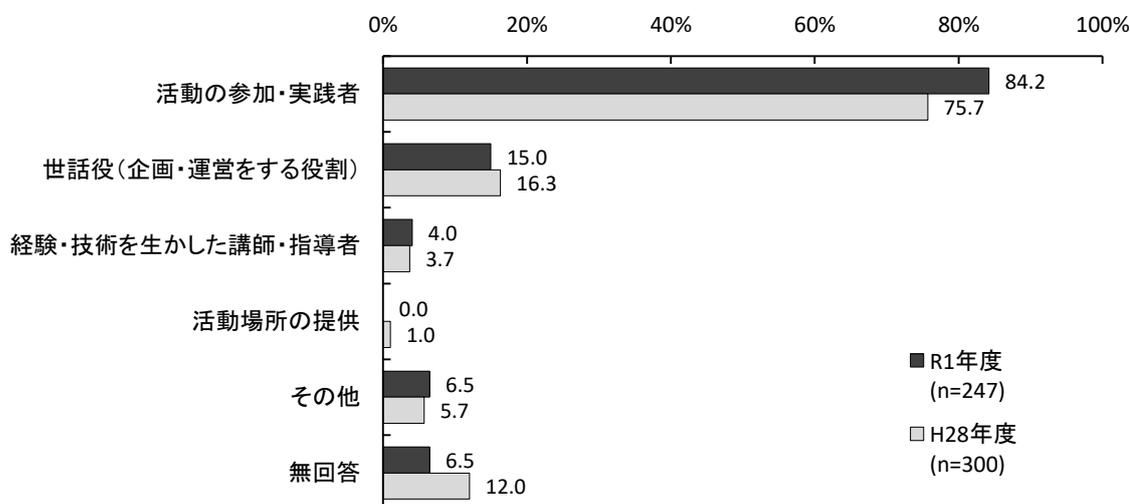


地域活動への参加状況をたずねたところ、「参加していない」が 42.7%と最も多く、前回に比べて 9.2 ポイント上昇している。

参加している地域活動では、「町内会」が 35.2%と最も多く、次いで「お祭り・行事」(32.6%)、「子ども会・PTA」(12.1%)となっており、このうち「町内会」と「お祭り・行事」は、前回に比べて回答割合の低下が目立っている（「町内会」は 6.5 ポイント低下、「お祭り・行事」は 4.4 ポイント低下）。

（4）地域活動などにおいてやっていること

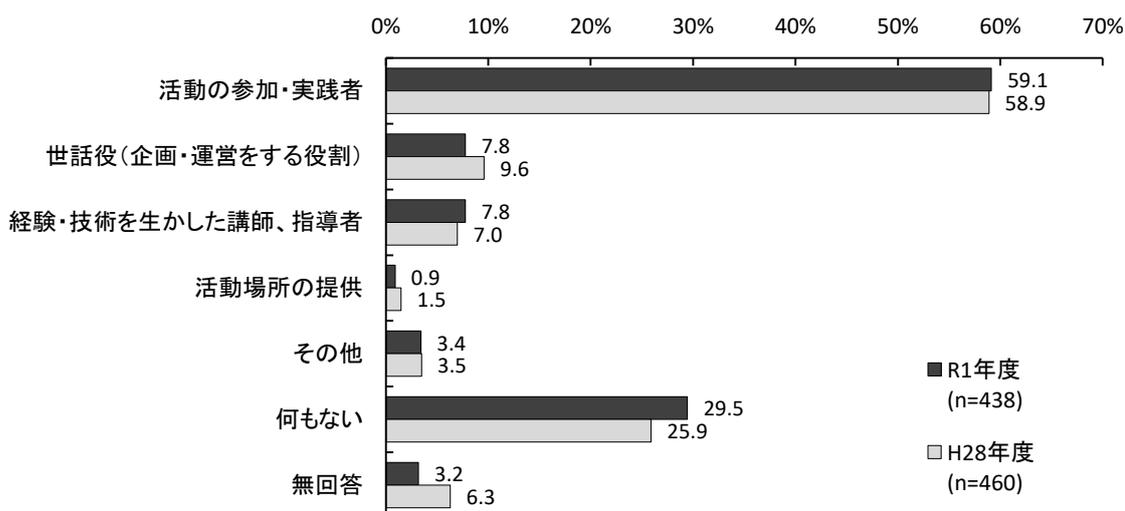
問7（4）上記（3）で、「7」以外に○をした方にお聞きします。
 あなたが、地域活動などにおいてやっていることはどのようなことですか。
 （あてはまる項目すべてに○）



地域活動などにおいてやっていることは、「活動の参加・実践者」が8割を超えて最も多く、次いで「世話役（企画・運営をする役割）」（15.0%）、「経験・技術を生かした講師・指導者」（4.0%）となっており、前回同様の結果となっている。

（5）今後、地域活動などにおいてできると思うこと

問7（5）あなたは、今後、地域活動などにおいてできることはあると思いますか。
 （あてはまる項目すべてに○）



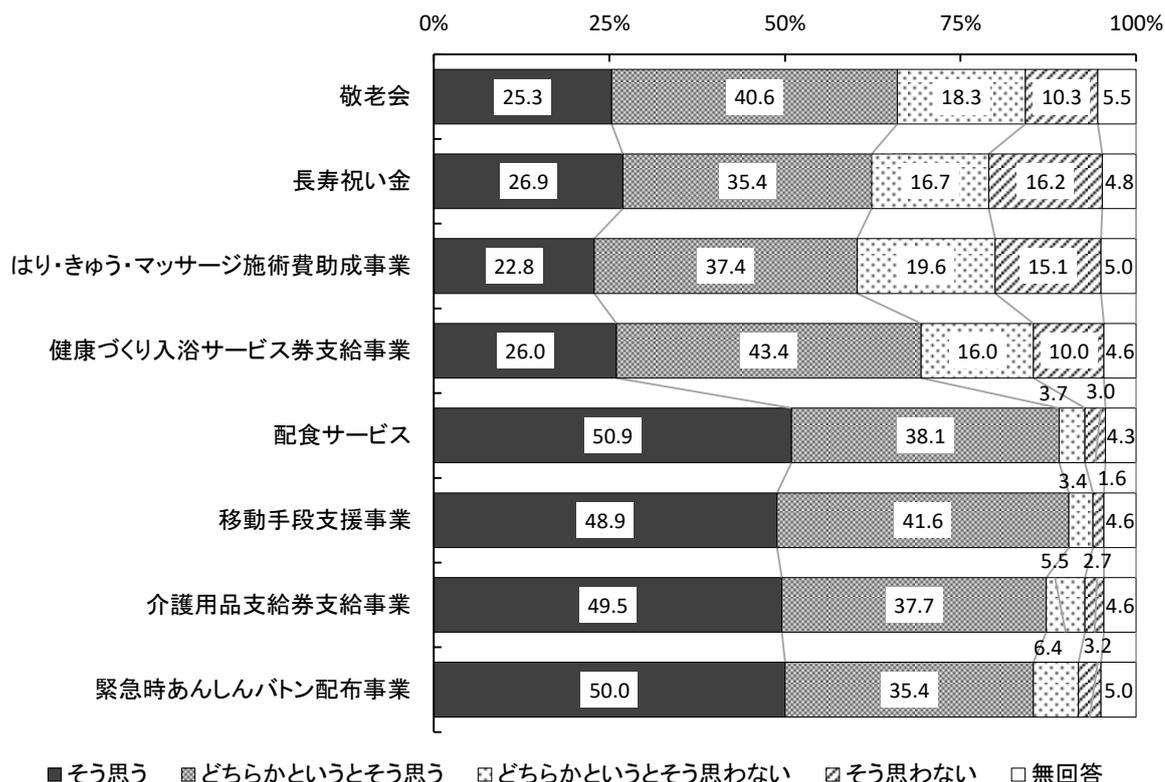
今後、地域活動などにおいてできることは、「活動の参加・実践者」が59.1%と前回同様に最も多く、次いで「世話役（企画・運営をする役割）」（7.8%）と「経験・技術を生かした講師・指導者」（7.8%）が同率で続いている。一方、3割程度が「何もない」と回答している。

8. 高齢者向け施策について

（1）高齢者向け施策の妥当性や優先度

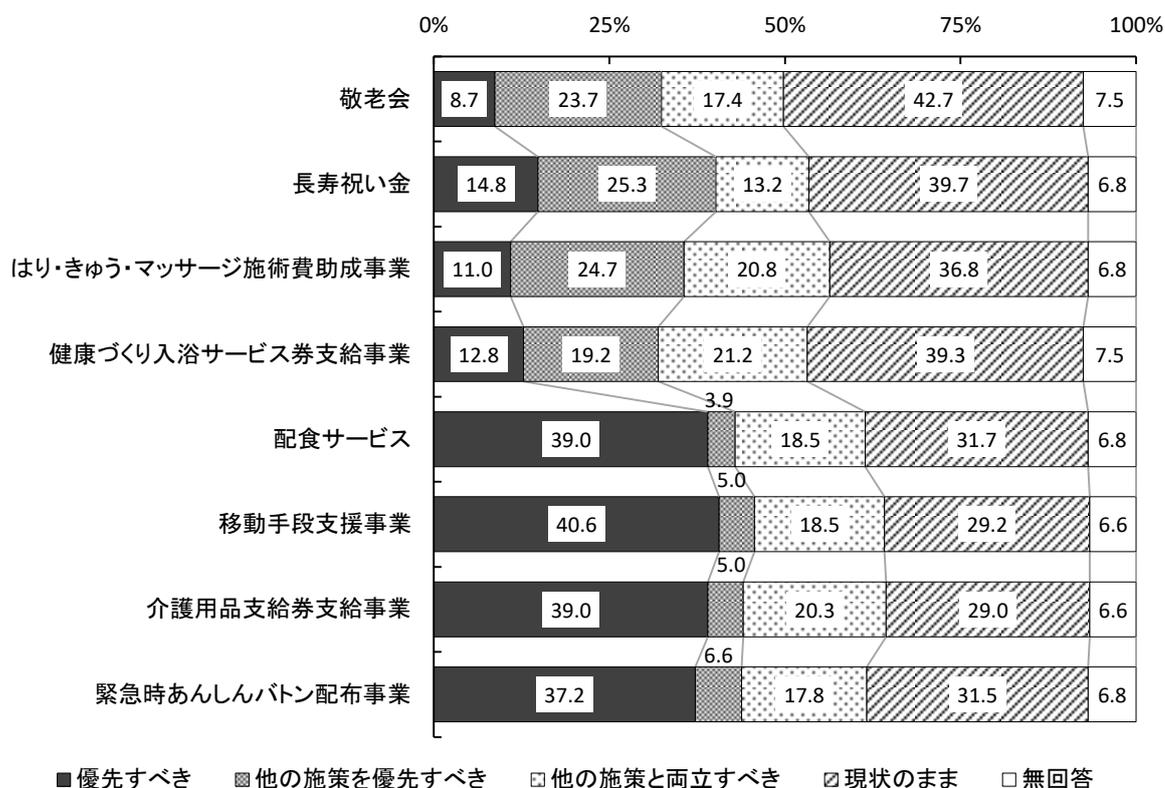
問8（1）市で行っている下記高齢者向け施策について、地域の社会や経済状態からみて妥当であると感じますか。また、その施策に係る優先度はどのようにお考えですか。それぞれについて最も近い項目1つに○をつけてください。

【妥当性（n=438）】



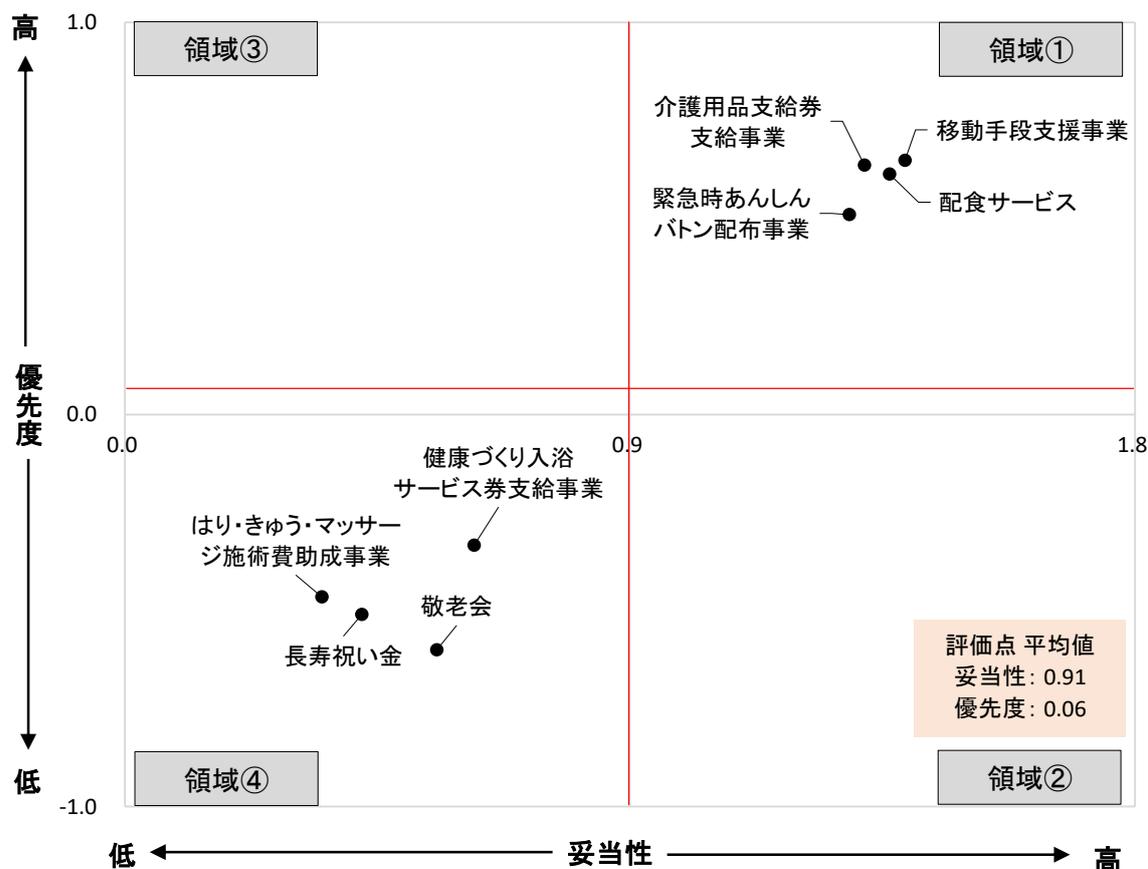
高齢者向けの各施策が妥当であるかをたずねたところ、『配食サービス』、『移動手段支援事業』、『介護用品支給券支給事業』、『緊急時あんしんボタン配布事業』は、「そう思う」が5割前後を占め、最も多くなっている。「そう思う」に「どちらかというと思う」を合わせた“妥当である”割合をみると、『配食サービス』、『移動手段支援事業』、『介護用品支給券支給事業』、『緊急時あんしんボタン配布事業』で8割以上となっている一方、『敬老会』、『長寿祝い金』、『はり・きゅう・マッサージ施術費助成事業』、『健康づくり入浴サービス券支給事業』については、6割台となっている。

【優先度（n=438）】



高齢者向けの各施策についての優先度をたずねたところ、『配食サービス』、『移動手段支援事業』、『介護用品支給券支給事業』、『緊急時あんしんボタン配布事業』は「優先すべき」が約4割を占めて最も多く、その他4つの施策における「優先すべき」の割合よりも高くなっている。一方、『敬老会』、『長寿祝い金』、『はり・きゅう・マッサージ施術費助成事業』、『健康づくり入浴サービス券支給事業』については、「現状のまま」という回答が4割前後で最も多くなっている。

【妥当性と優先度の関係】



領域		妥当性	優先度
①	配食サービス	1.36	0.61
①	移動手段支援事業	1.39	0.65
①	介護用品支給券支給事業	1.32	0.64
①	緊急時あんしんボタン配布事業	1.29	0.51
④	敬老会	0.56	-0.60
④	長寿祝い金	0.42	-0.51
④	はり・きゅう・マッサージ施術費助成事業	0.35	-0.47
④	健康づくり入浴サービス券支給事業	0.62	-0.33
評価点 平均値		0.91	0.06

○妥当性および優先度の計算方法・散布図について

妥当性では、「そう思う」を2点、「どちらかというと思う」を1点、「どちらかいうとそう思わない」を-1点、「そう思わない」を-2点とする。

優先度では「優先すべき」を2点、「他の施策と両立すべき」を1点、「現状のまま」を-1点、「他の施策を優先すべき」を-2点とする。

妥当性、優先度、それぞれについて、前述の重要度（54 ページ）と同様の方法で点数を算出し、横軸を妥当性、縦軸を優先度として散布図に表す。

高齢者向けの各施策について、妥当性の点数が最も高いのは、『移動手段支援事業』（1.39点）となり、最も低いのは、『はり・きゅう・マッサージ施術費助成事業』（0.35点）となった。

優先度の点数が最も高いのは、『移動手段支援事業』（0.65点）となり、最も低いのは『敬老会』（-0.60点）となった。

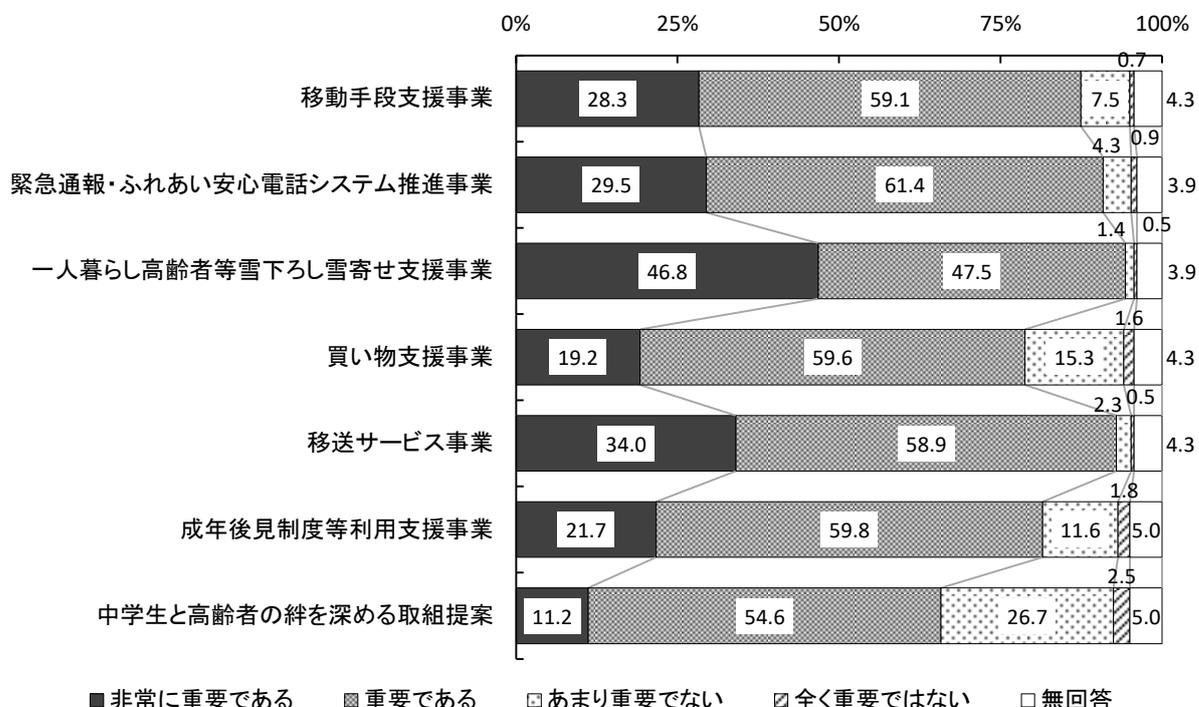
妥当性と優先度がともに平均値より高い（領域①）のは、『配食サービス』、『移動手段支援事業』、『介護用品支給券支給事業』、『緊急時あんしんボタン配布事業』となった。

一方、妥当性と優先度の点数がともに平均値よりも低い（領域④）のは、『敬老会』、『長寿祝い金』、『はり・きゅう・マッサージ施術費助成事業』、『健康づくり入浴サービス券支給事業』となった。

（2）高齢者向け施策の重要度と認知度

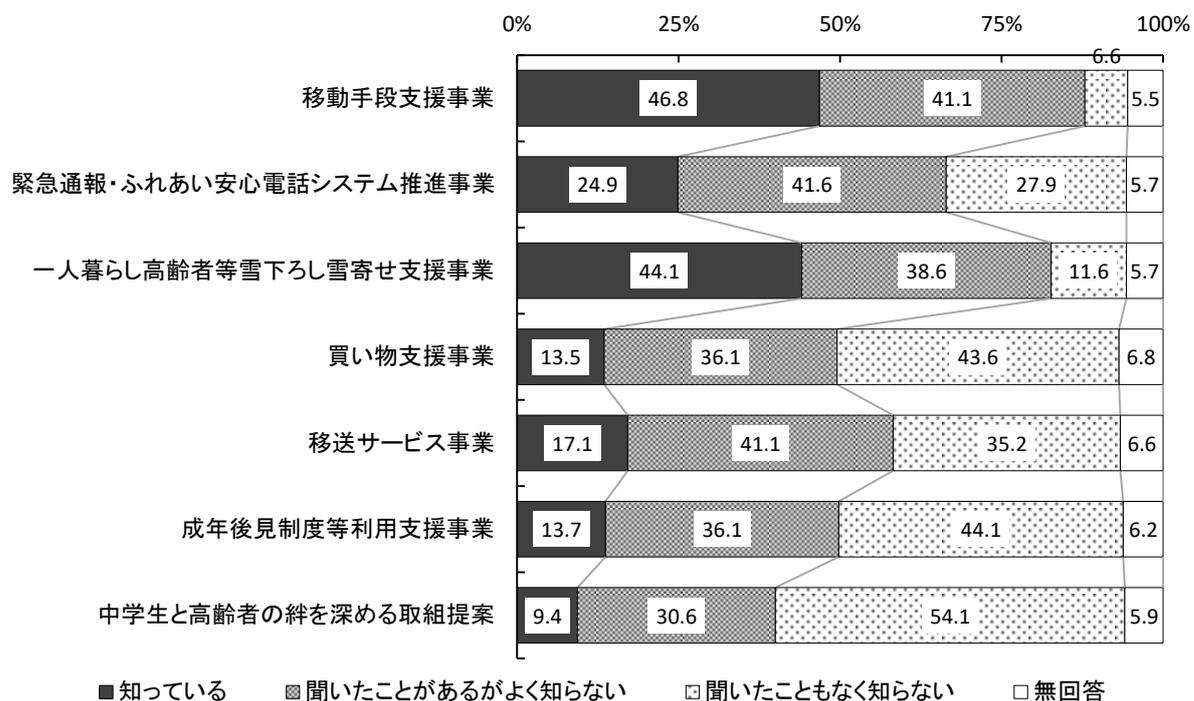
問8（2）市で行っている下記高齢者向け施策について、重要度と認知度をお聞きます。
それぞれについて最も近い項目1つに○をつけてください。

【重要度（n=438）】



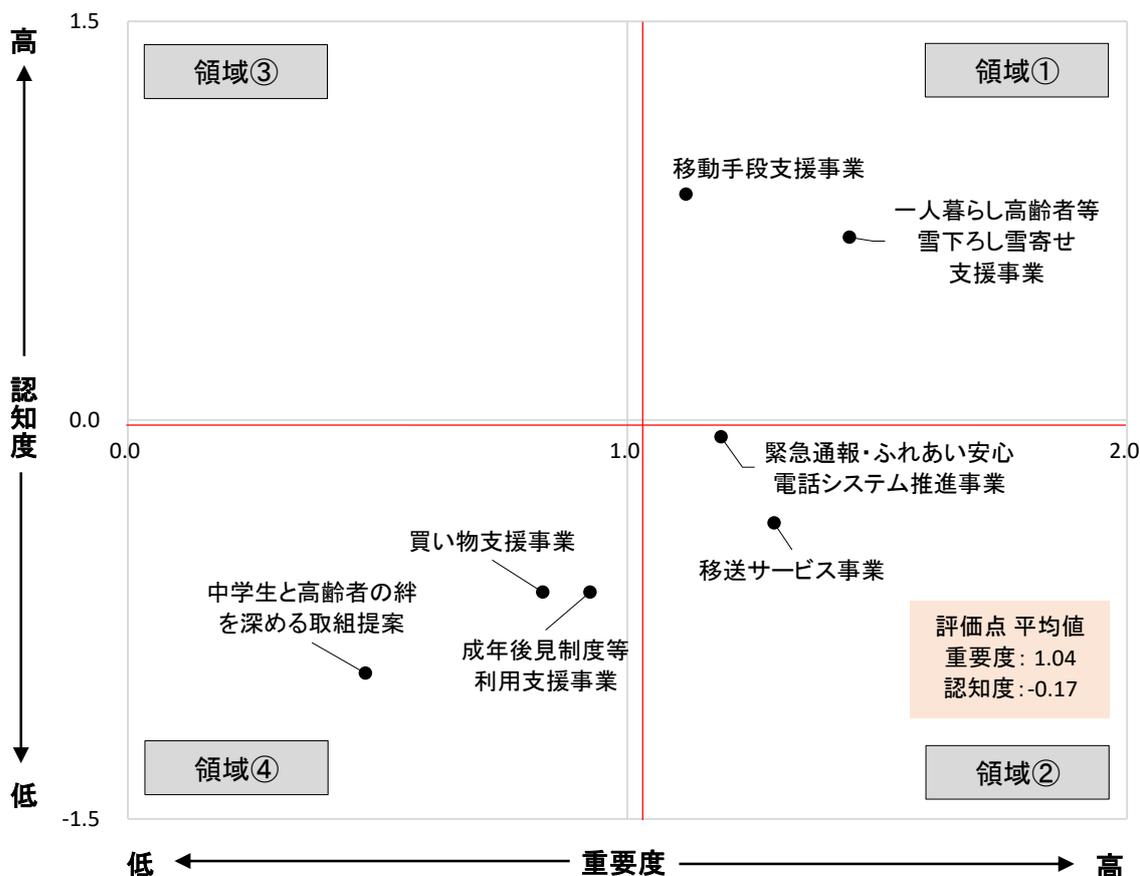
高齢者向けの各施策の重要度をたずねたところ、『一人暮らし高齢者等雪下ろし雪寄せ支援事業』で半数近くが「非常に重要である」と回答しており、他の施策における「非常に重要である」の割合よりも高くなっている。また、「非常に重要である」に「重要である」を合わせた“重要である”の割合をみると、『買い物支援事業』と『中学生と高齢者の絆を深める取組提案』を除く5つの施策において、8割以上となっている。

【認知度（n=438）】



高齢者向けの各施策の認知度をたずねたところ、『移動手段支援事業』と『一人暮らし高齢者等雪下ろし雪寄せ支援事業』で「知っている」が4割以上と最も多く、他の施策における「知っている」の割合よりも高くなっている。一方、『中学生と高齢者の絆を深める取組提案』では半数以上が「聞いたこともなく知らない」と回答しており、「買い物支援事業」および「成年後見制度等利用支援事業」では「聞いたこともなく知らない」が4割以上となっている。

【重要度と認知度の関係】



領域		重要度	認知度
①	移動手段支援事業	1.12	0.85
①	一人暮らし高齢者等雪下ろし雪寄せ支援事業	1.44	0.69
②	緊急通報・ふれあい安心電話システム推進事業	1.19	-0.06
②	移送サービス事業	1.29	-0.39
④	買い物支援事業	0.83	-0.65
④	成年後見制度等利用支援事業	0.93	-0.65
④	中学生と高齢者の絆を深める取組提案	0.48	-0.95
	評価点 平均値	1.04	-0.17

○重要度および認知度の計算方法・散布図について

前述の重要度（54 ページ）と同様の方法で、重要度および認知度の点数を算出し、横軸を重要度、縦軸を認知度として散布図に表す。

高齢者向けの各施策について、重要度の点数が最も高いのは『一人暮らし高齢者等雪下ろし雪寄せ支援事業』（1.44点）となり、最も低いのは『中学生と高齢者の絆を深める取組提案』（0.48点）となった。

認知度の点数が最も高いのは、『移動手段支援事業』（0.85点）となり、最も低いのは『中学生と高齢者の絆を深める取組提案』（-0.95点）となった。

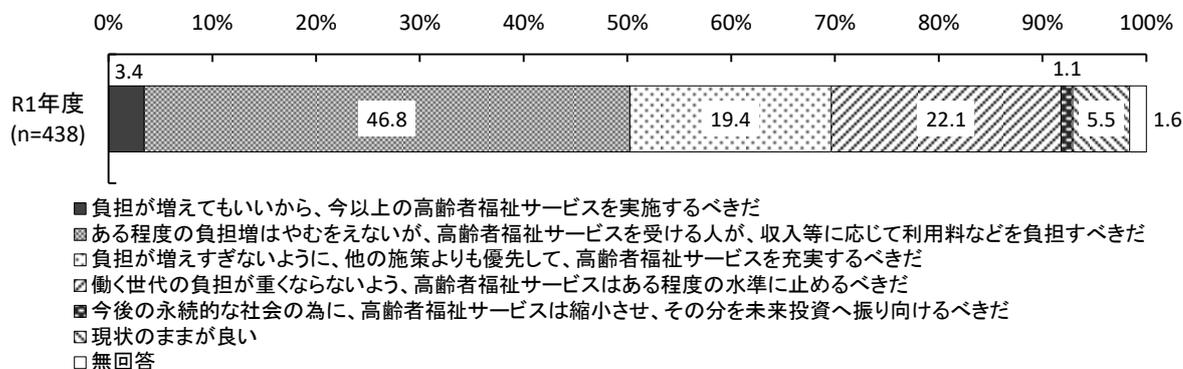
重要度と認知度がともに平均値より高い（領域①）のは、『移動手段支援事業』、『一人暮らし高齢者等雪下ろし雪寄せ支援事業』となった。

重要度が平均値より高く、認知度が平均値より低い（領域②）のは、『緊急通報・ふれあい安心電話システム推進事業』、『移送サービス事業』となった。

一方、重要度と認知度がともに平均値より低い（領域④）のは、『買い物支援事業』、『成年後見制度等利用支援事業』、『中学生と高齢者の絆を深める取組提案』となった。

（3）高齢福祉サービスを維持・充実させるための市民の負担について

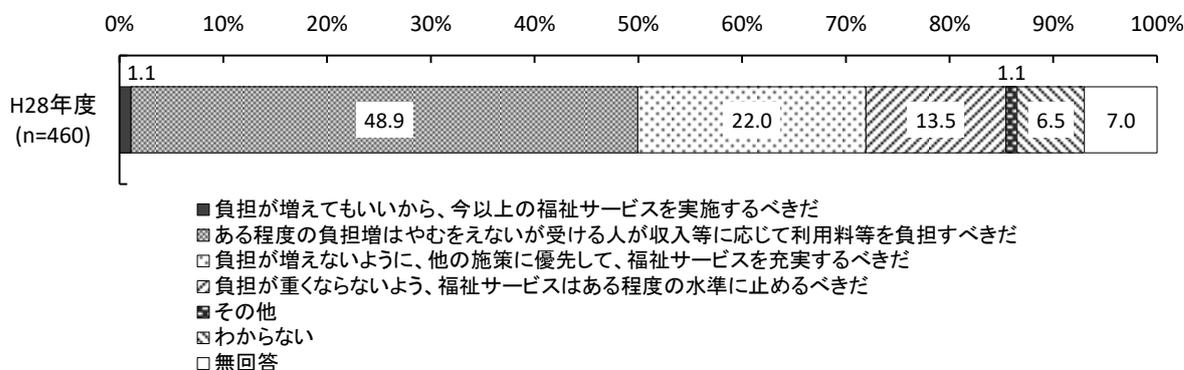
問 8 （3） 少子高齢化の進展に伴い、高齢福祉サービスを維持・充実させるためには相応の経費が必要となり、税金など市民の負担増も考えられます。このことについてどのように思いますか。（あなたの考えに最も近いもの一つに○）



（参考）前回調査

問 51 市では介護保険サービス以外にも高齢者への福祉サービスを行っていますが、それにかかる費用負担についてどのように思いますか。

（あなたの考えに最も近いもの一つに○）

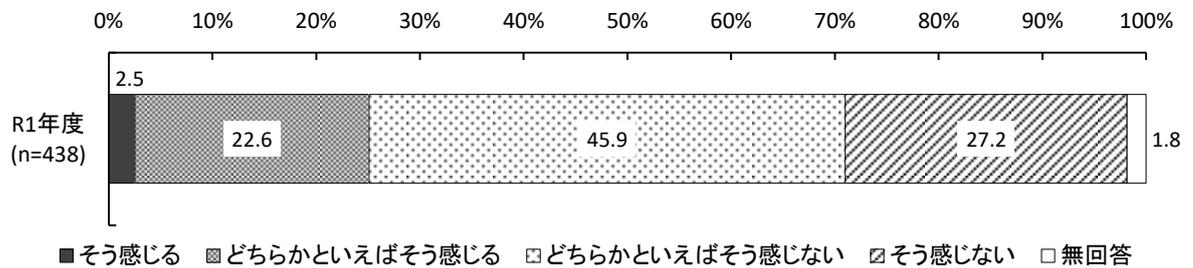


高齢福祉サービスを維持・充実させるための市民の負担についてたずねたところ、「ある程度の負担増はやむをえないが、高齢者福祉サービスを受ける人が、収入等に応じて利用料などを負担すべきだ」が46.8%と最も多く、次いで「働く世代の負担が重くならないよう、高齢者福祉サービスはある程度の水準に止めるべきだ」(22.1%)、「負担が増え過ぎないように、他の施策よりも優先して、高齢者福祉サービスを充実すべきだ」(19.4%)となっている。

「負担が増えてもいいから、今以上の高齢者福祉サービスを実施すべきだ」と「ある程度の負担増はやむをえないが、高齢者福祉サービスを受ける人が、収入等に応じて利用料などを負担すべきだ」を合わせた“負担増を容認”は50.2%となった一方、「負担が増えすぎないように、他の施策よりも優先して、高齢者福祉サービスを充実すべきだ」と「働く世代の負担が重くならないよう、高齢者福祉サービスはある程度の水準に止めるべきだ」を合わせた“負担増を避けるべき”は41.5%となっている。

（4）行政や民間の福祉サービスに頼らずに住民同士が支え合って生活しているか

問8（4）地域で行政や民間の福祉サービスに頼らずに住民同士が支えあって生活していると感じていますか。



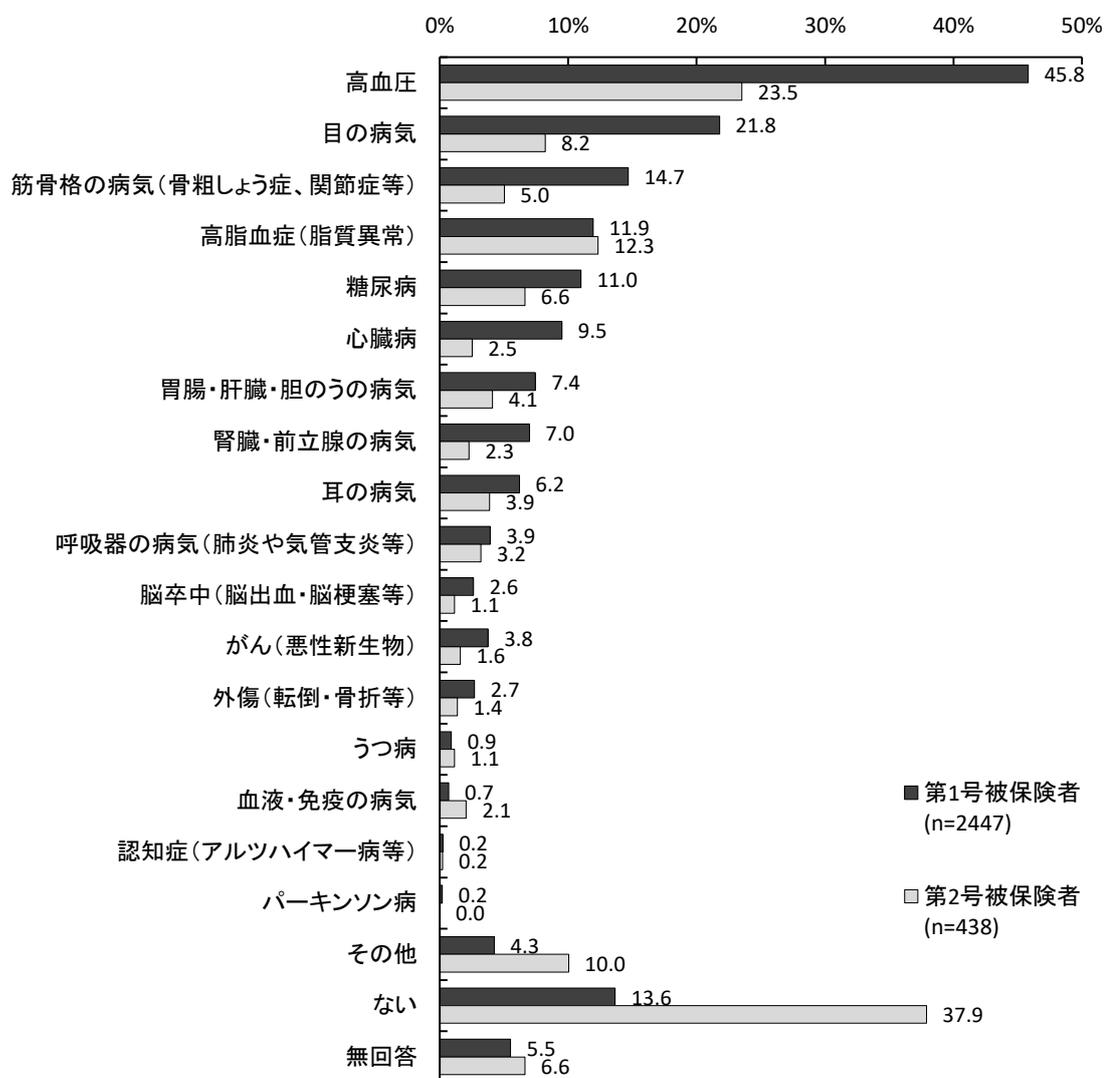
行政や民間の福祉サービスに頼らずに住民同士が支え合って生活しているかをたずねたところ、「どちらかといえばそう感じない」が45.9%と最も多く、次いで「そう感じない」(27.2%)、「どちらかといえばそう感じる」(22.6%)となっている。「どちらかといえばそう感じない」と「そう感じない」を合わせた“そう感じない”が73.1%を占めている。

第4章 調査結果（被保険者の分類による比較）

1. 健康について

（1）（持病または）現在治療中、または後遺症のある病気

[1号問7（7）／2号問2（5）]



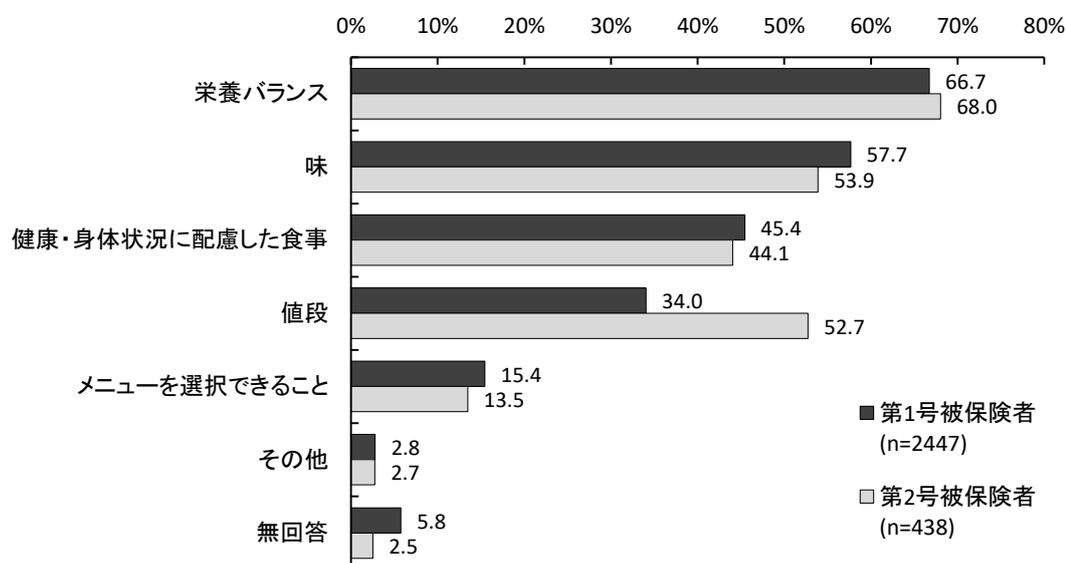
現在治療中、または後遺症のある病気は、第1号被保険者では「高血圧」が45.8%と最も多くなっている一方、第2号被保険者では「ない」が37.9%と最も多くなっている。第2号被保険者においても、「ない」を除くと「高血圧」が第1位となっているが、回答割合は第1号被保険者よりも低く、23.5%となっている。

第1号被保険者の第2位は「目の病気」、第3位は「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」となった一方、第2号被保険者では第2位が「高脂血症(脂質異常)」、第3位が「目の病気」となるなど、第1位～第5位の項目は同じであったが、順位が異なっている。

2. 食事の準備と食生活について

（1）食事の準備において重視すること

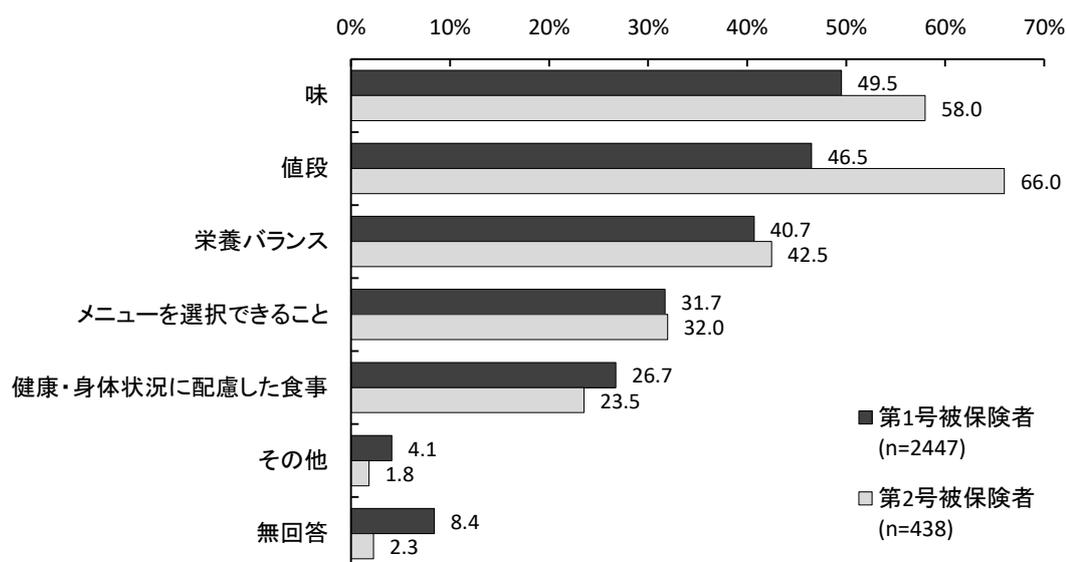
[1号問10(1) / 2号問6(1)]



食事の準備において重視することは、第1号被保険者、第2号被保険者ともに「栄養バランス」が約7割で第1位となり、第2位が「味」となっている。第3位は、第1号被保険者では「健康・身体状況に配慮した食事」（45.4%）となっている一方、第2号被保険者では「値段」（52.7%）となり、第2位の「味」（53.9%）とさほど変わらない回答割合となっている。

（2）出前や弁当などを利用する場合、重視すること

[1号問10(2) / 2号問6(2)]

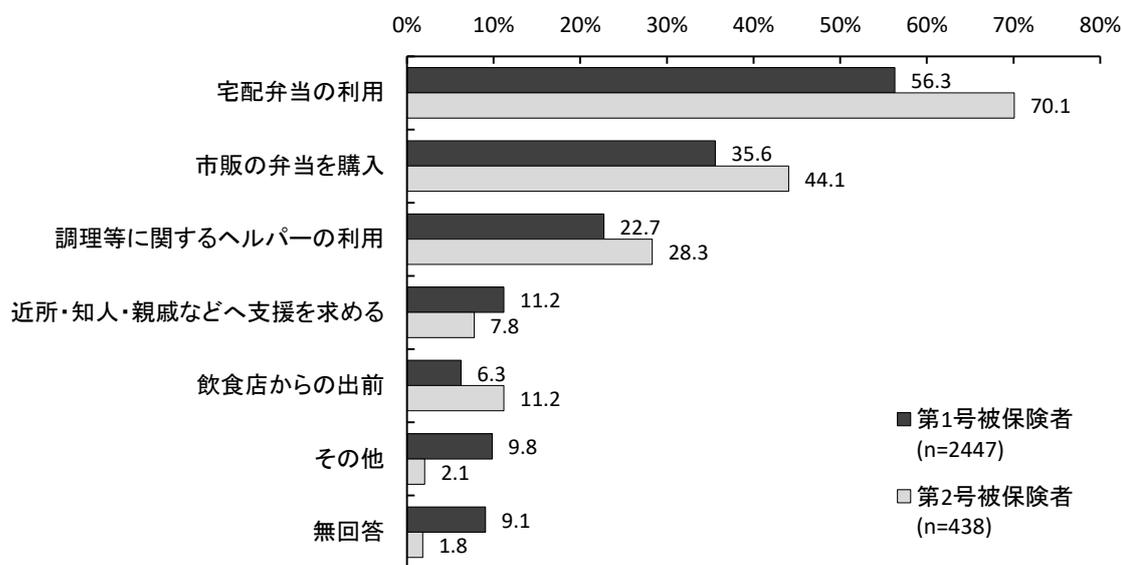


出前や弁当などを利用する場合、重視することは、第1号被保険者と第2号被保険者で第1位～第3位は同じ項目となっているが、1位と2位の項目が異なり、第1号被保険者では第1位が「味」、第2位が「値段」となった一方、第2号被保険者では第1位が「値段」、第2位が「味」となっている。

(3) 将来、自力で食事の準備が困難になった場合の意向

① 食事の準備が困難になったときの意向

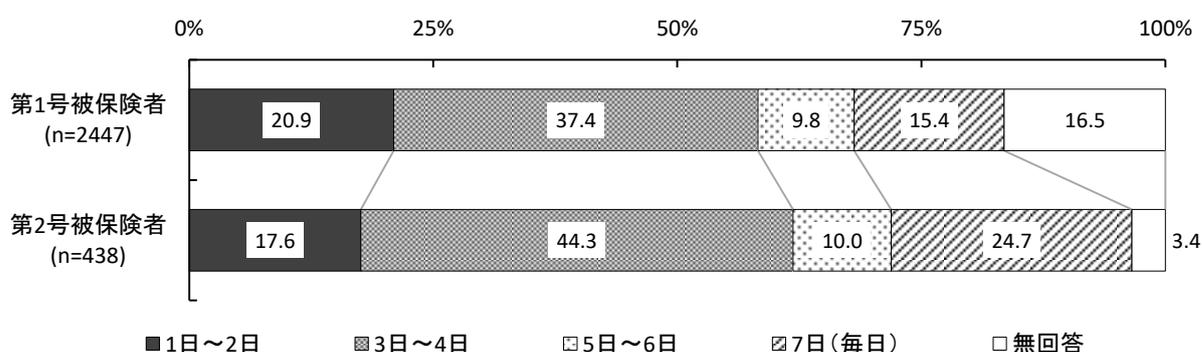
[1号問10(3) / 2号問6(3)]



食事の準備が困難になったときの意向は、第1号被保険者、第2号被保険者ともに「宅配弁当の利用」が最も多く、次いで、「市販の弁当を購入」、「調理等に関するヘルパーの利用」となっている。

② 出前や弁当などを利用する場合に希望する、週あたりの利用日数

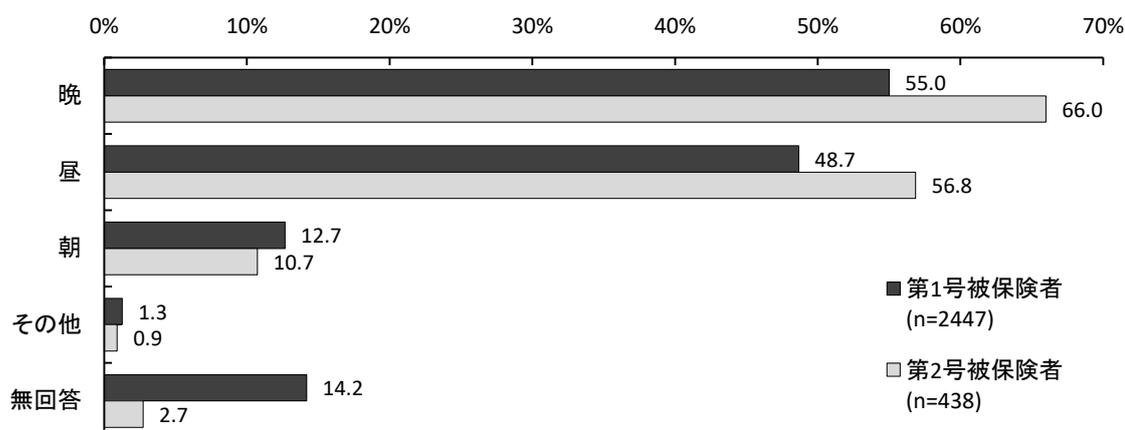
[1号問10(4) / 2号問6(4)]



出前や弁当などを利用する場合に希望する、週あたりの利用日数は、第1号被保険者、第2号被保険者ともに「3日～4日」が最も多くなっている。第1号被保険者では第2位が「1日～2日」、第3位が「7日(毎日)」となった一方、第2号被保険者ではこれが入れ替わり、第2位が「7日(毎日)」、第3位が「1日～2日」となっている。

③ 出前や弁当などを利用する場合に希望する利用時間帯

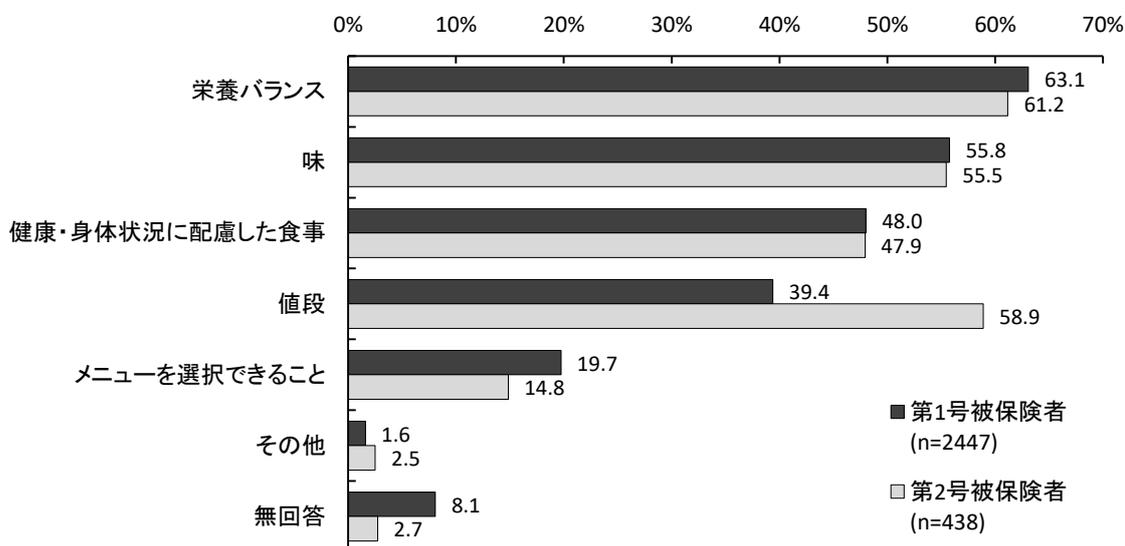
[1号問10(5) / 2号問6(5)]



出前や弁当などを利用する場合に希望する利用時間帯は、第1号被保険者、第2号被保険者ともに「晩」が最も多く、次いで「昼」となっている。

④ 食事の準備において重視すること

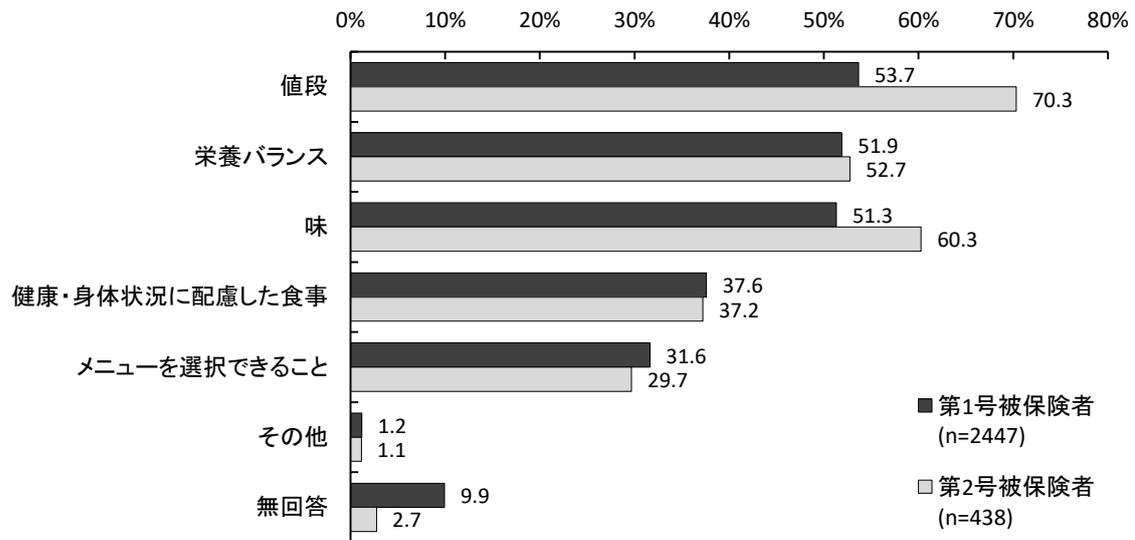
[1号問10(6) / 2号問6(6)]



食事の準備において重視することは、第1号被保険者、第2号被保険者ともに「栄養バランス」が6割超と最も多く、次いで第1号被保険者では「味」、第2号被保険者では「値段」となっている。「値段」は第1号被保険者では第4位となっている。

⑤ 出前や弁当などを利用する場合、重視すること

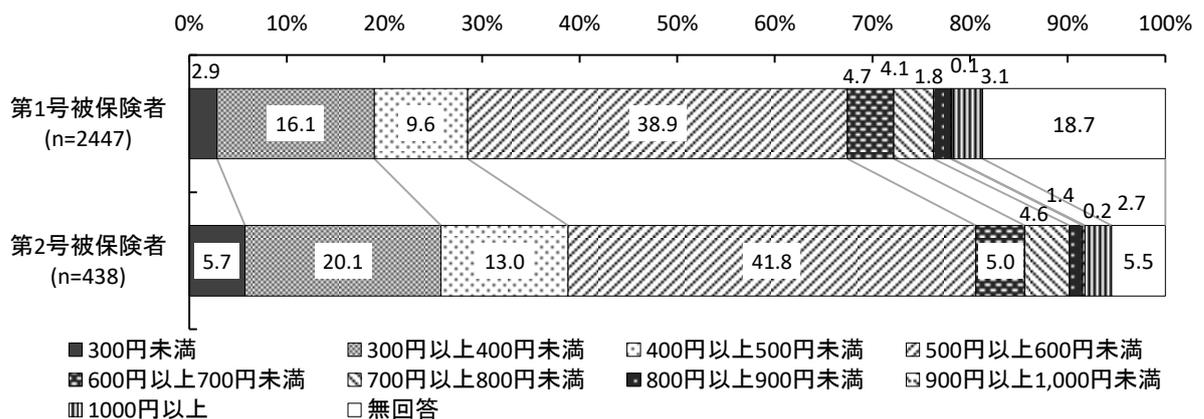
[1号問10(7) / 2号問6(7)]



出前や弁当などを利用する場合、重視することは、第1号被保険者、第2号被保険者ともに「値段」が最も多く、第2号被保険者では約7割となっている。第1号被保険者では、第2位が「栄養バランス」、第3位が「味」となった一方、第2号被保険者ではこれが入れ替わり、第2位が「味」、第3位が「栄養バランス」となっている。

⑥ 配食サービスを利用する場合の1食あたりの料金負担額

[1号問10(8) / 2号問6(8)]

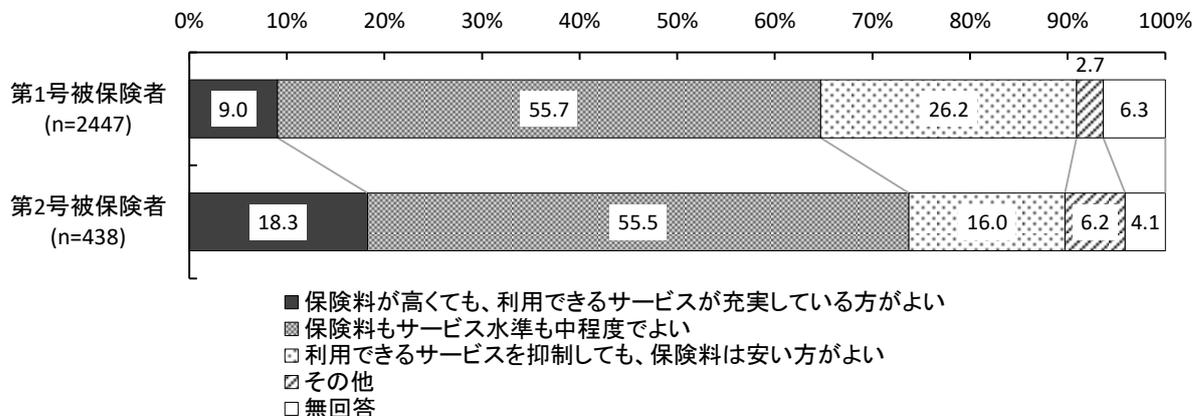


配食サービスを利用する場合の1食あたりの料金負担額は、第1号被保険者、第2号被保険者ともに「500円以上600円未満」が約4割を占めて最も多く、次いで「300円以上400円未満」、「400円以上500円未満」となっている。第1号被保険者で約7割、第2号被保険者で約8割が“600円未満”と回答している。

3. 介護保険について

（1）介護保険料負担とサービス給付の関係について

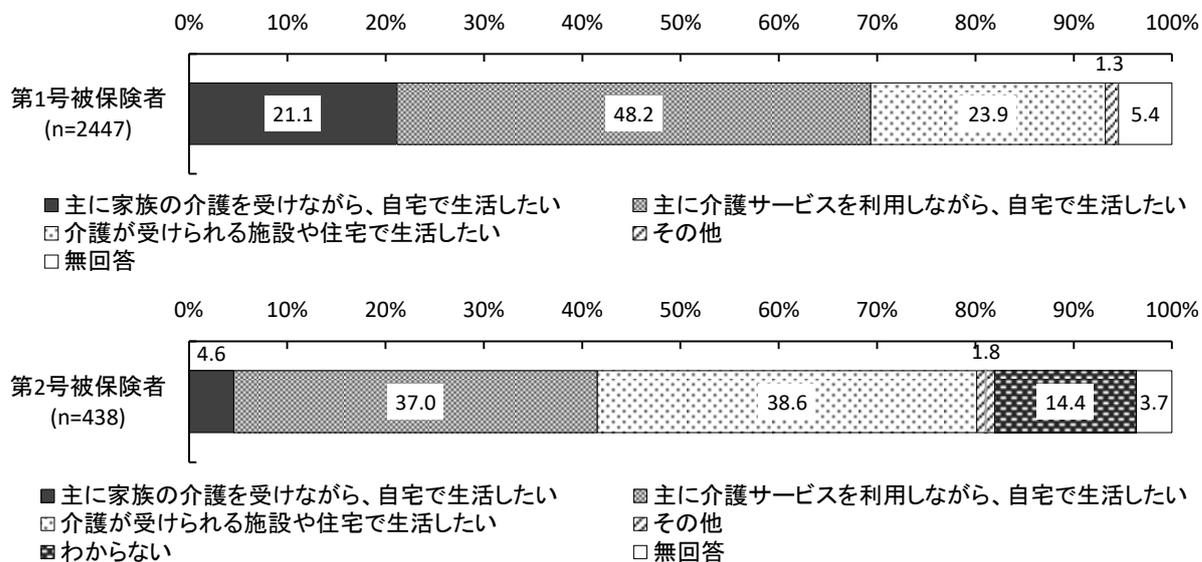
[1号問11(1) / 2号問3(5)]



介護保険料負担とサービス給付の関係について、第1号被保険者、第2号被保険者ともに「保険料もサービス水準も中程度でよい」が5割以上を占めて最も多くなっている。第2位は、第1号被保険者では「利用できるサービスを抑制しても、保険料は安い方がよい」(26.2%)、第2号被保険者では「保険料が高くても、利用できるサービスが充実している方がよい」(18.3%)となっている。

（2）介護が必要になったとき、希望する介護形態

[1号問11(2) / 2号問3(6)]



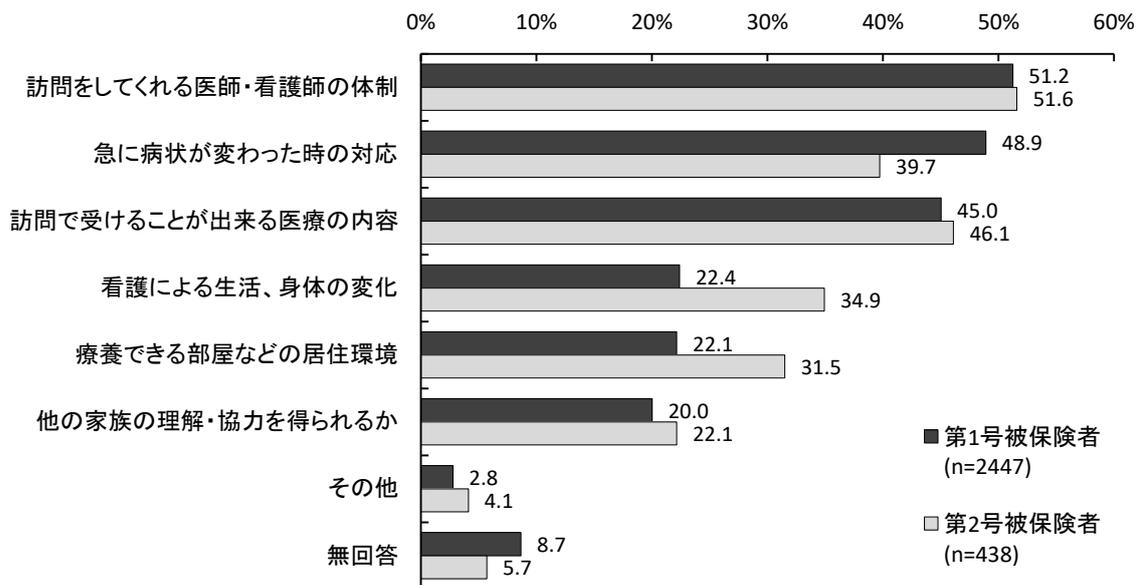
希望する介護形態は、第1号被保険者では「主に介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい」が約5割を占めている。

第2号被保険者では「介護が受けられる施設や住宅で生活したい」(38.6%)が最も多くなっているが、「主に介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい」も37.0%とさほど変わらない割合で第2位となっている。

※第1号被保険者と第2号被保険者の設問では選択肢が異なっている。

（3）在宅で医療を受けることになった場合、特に心配に思うこと

[1号問11(5) / 2号問2(7)]

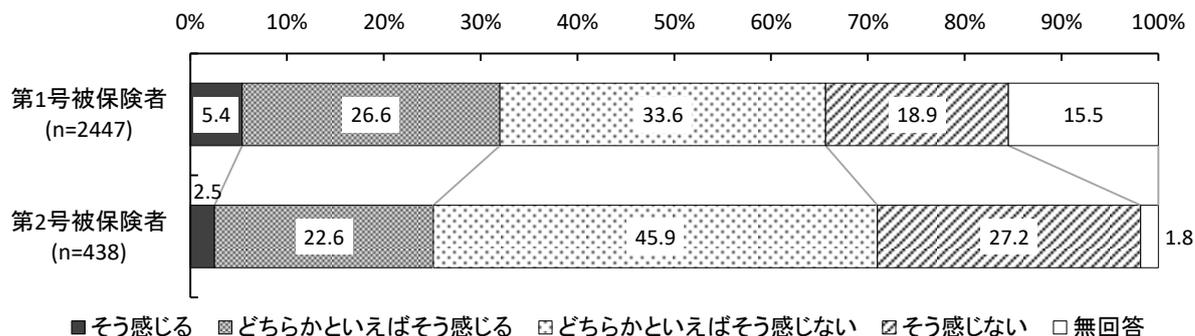


在宅で医療を受けることになった場合、特に心配に思うことは、第1号被保険者、第2号被保険者ともに、第1位が「訪問をしてくれる医師・看護師の体制」となっている。第1号被保険者では、第2位が「急に症状が変わった時の対応」、第3位が「訪問で受けることが出来る医療の内容」となり、第2号被保険者では、この2項目の順位が入れ替わっている。

4. 市のサービス・施策について

（1）行政や民間の福祉サービスに頼らずに住民同士が支えあって生活しているか

[1号問12(5) / 2号問8(4)]



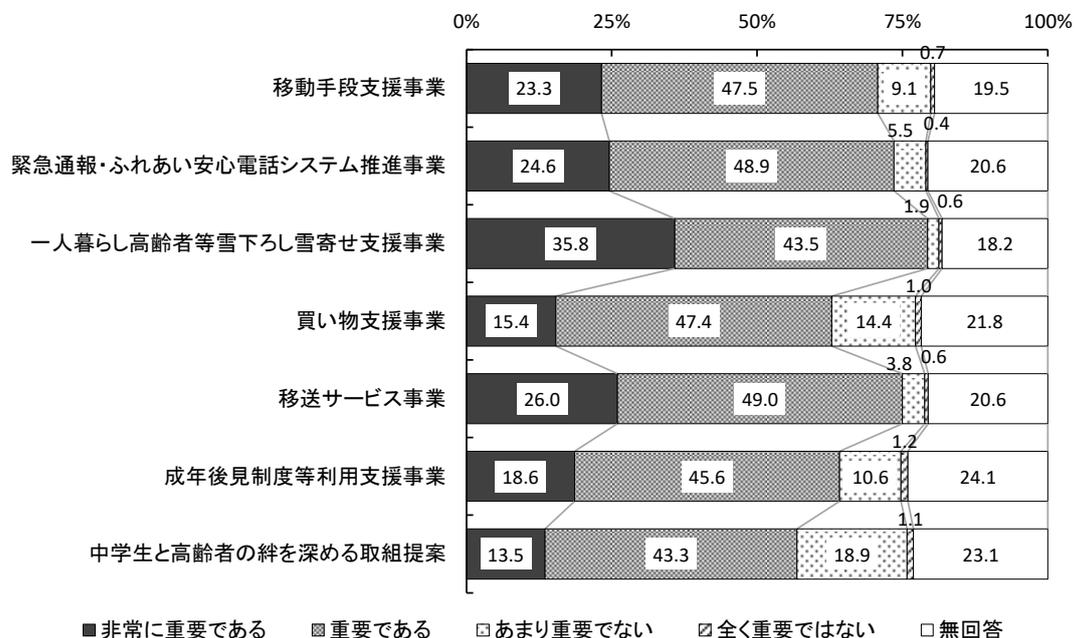
行政や民間の福祉サービスに頼らずに住民同士が支えあって生活しているかたずねたところ、「そう感じる」と「どちらかといえばそう感じる」を合わせた“そう感じる”が、第1号被保険者で32.0%、第2号被保険者で25.1%となった一方、「どちらかといえばそう感じない」と「そう感じない」を合わせた“そう感じない”が第1号被保険者で52.5%、第2号被保険者で73.1%となっている。

（2）高齢者向け施策の重要度と認知度

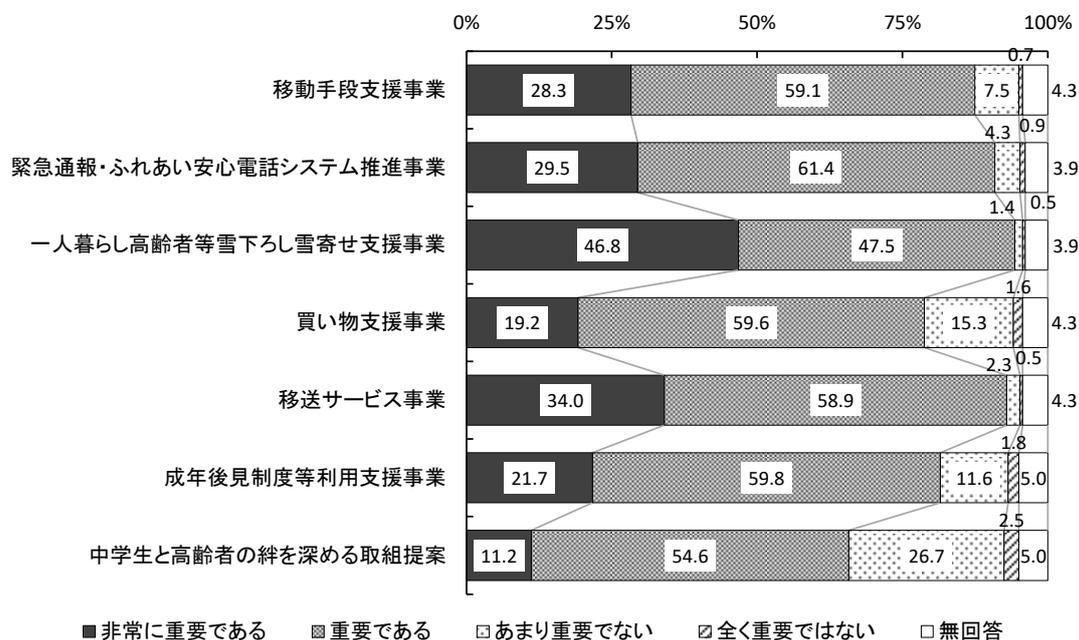
[1号問12（2）／2号問8（2）]

① 重要度

【第1号被保険者（n=2447）】



【第2号被保険者（n=438）】

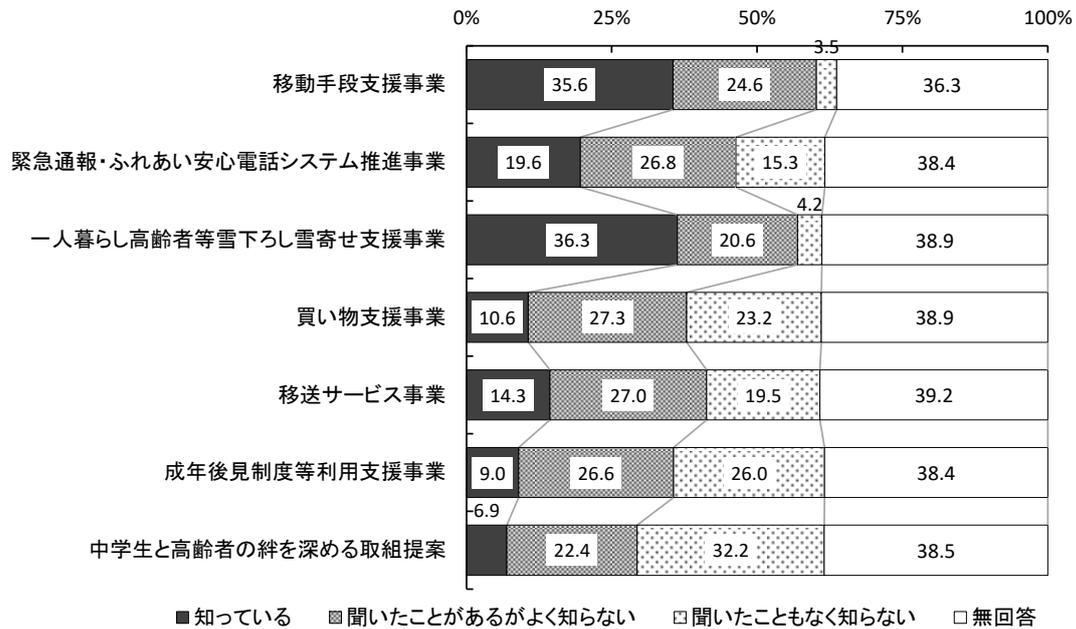


各施策の重要度は、『一人暮らし高齢者等雪下ろし雪寄せ支援事業』で「非常に重要である」の回答割合が、第1号被保険者、第2号被保険者ともに他施策に比べて高くなっている（第1号被保険者 35.8%、第2号被保険者 46.8%）。

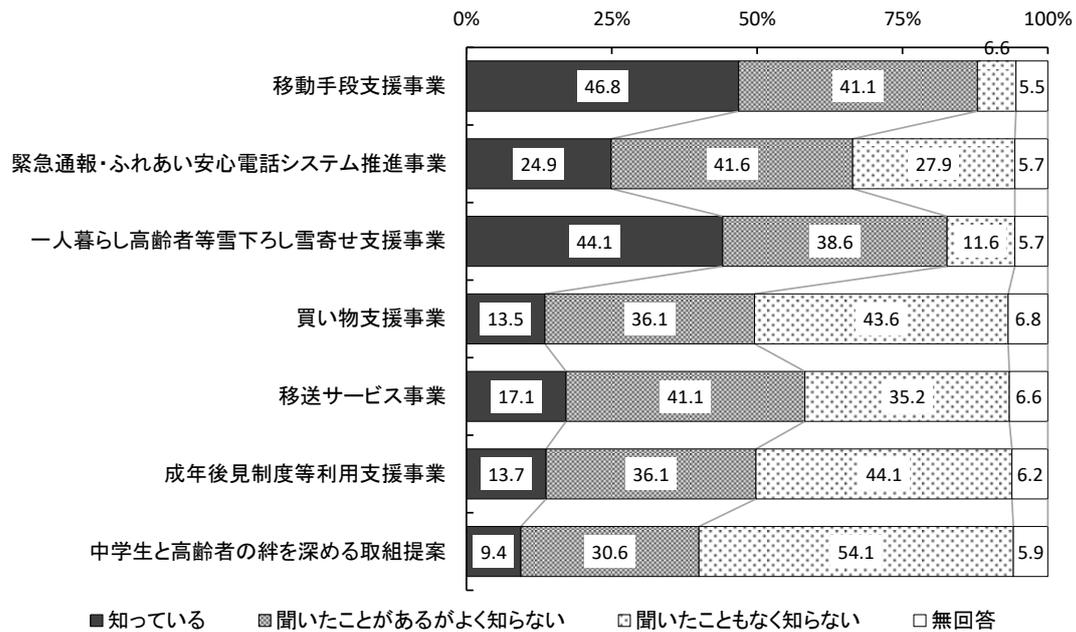
第1号被保険者、第2号被保険者ともに7割以上が“重要である”（「非常に重要である」に「重要である」を合わせた割合）と回答したのは、『移動手段支援事業』、『緊急通報・ふれあい安心電話システム推進事業』、『一人暮らし高齢者等雪下ろし雪寄せ支援事業』、『移送サービス事業』となっている。

② 認知度

【第1号被保険者（n=2447）】



【第2号被保険者（n=438）】

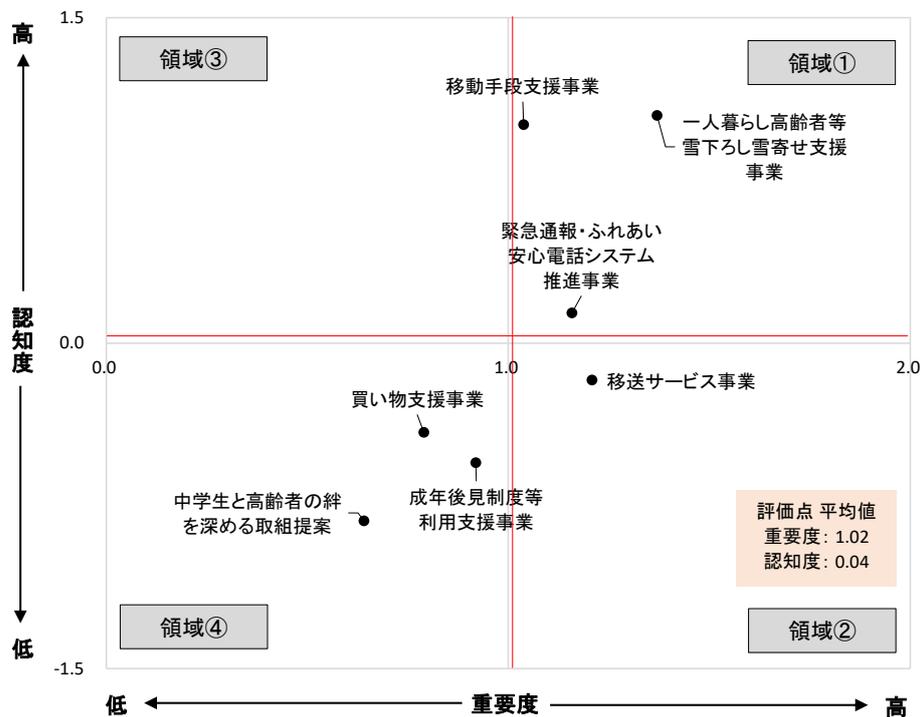


各施策の認知度について、「知っている」の回答割合をみると、第1号被保険者、第2号被保険者ともに『移手段支援事業』（第1号35.6%、第2号46.8%）および『一人暮らし高齢者等雪下ろし雪寄せ支援事業』（第1号36.3%、第2号44.1%）で他の施策よりも高くなっている。

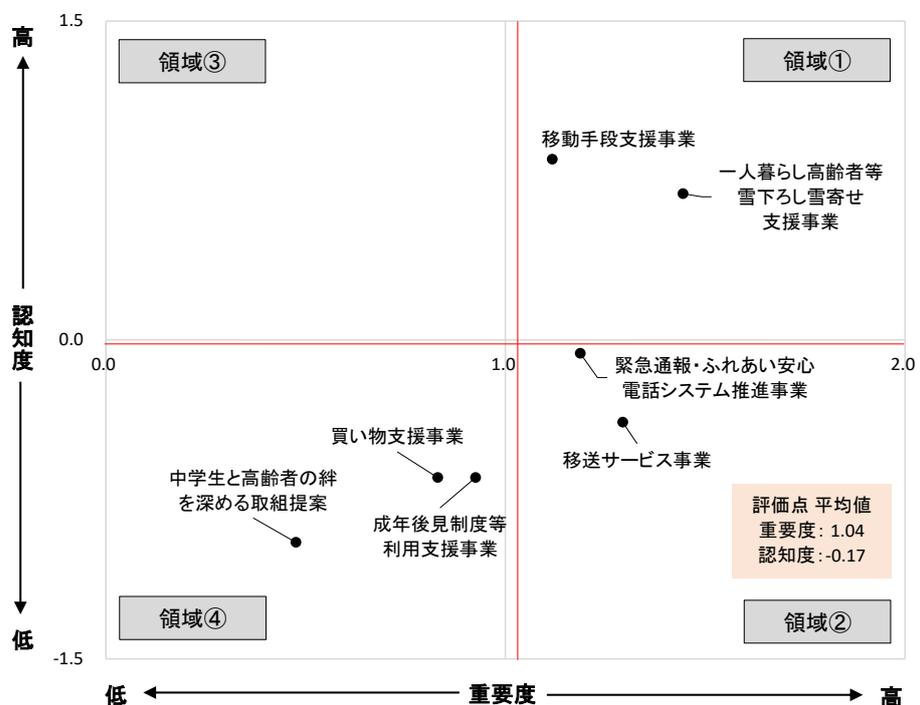
「聞いたこともなく知らない」の割合をみると、第1号被保険者、第2号被保険者ともに、『中学生と高齢者の絆を深める取組提案』（第1号32.2%、第2号54.1%）でこの割合が他の施策より高くなっているほか、第2号被保険者では『買い物支援事業』、『移送サービス事業』、『成年後見制度等利用支援事業』で3割以上となっている。

③ 重要度と認知度の関係

【第1号被保険者】



【第2号被保険者】



各施策の重要度と認知度から散布図を作成し（作成方法は54ページを参照）、各施策の領域①～④への分布をみると、『緊急通報・ふれあい安心電話システム推進事業』を除く6つの施策の分布は同様となっている。『緊急通報・ふれあい安心電話システム推進事業』については、第1号被保険者では領域①（重要度、認知度ともに平均値より高い）に位置しているが、第2号被保険者では領域②（重要度が平均値より高く、認知度が平均値より低い）に位置している。

資料

1. 自由意見

(1) 第1号被保険者（65歳以上）

介護保険制度や保健福祉施策、そして移動手段支援施策について、444人の回答者から、計486件の要望・意見が寄せられた。

① 件数表

	意見内容区分	意見数(件)
1	アンケート調査の感想	83
2	交通手段の確保	71
3	行政への要望・提言	55
4	高齢者福祉	51
5	経済的負担	49
6	現在の状況	35
7	介護保険サービス	30
8	介護保険制度	19
	周知や認知について	19
10	将来不安	14
11	雪対策	13
12	介護保険料	10
13	相談窓口	8
	福祉行政（高齢者以外）	8
15	その他	7
16	地域住民の相互協力や地域活動	6
17	若年世代への施策	5
18	医療体制	3
	計	486

② 自由意見の概要

アンケート調査の感想では、「質問が難しい」や「質問数が多い」といった調査自体に関する意見のほか、「現状では介護の必要がないためわからない」など介護サービスを受けたことがないため実感がわからないとする意見や、「アンケートを機に勉強したいと思った」「これからも健康に気を付けたい」といった今後の生活への前向きな意見が見られた。

交通手段の確保では、免許証返納後の交通手段への不安や、乗り合いタクシーやデマンド交通の利用料減額、利用方法改善に関する要望が見られた。

行政への要望・提言では、少子化・人口減少の状況に合わせた施策展開や弱者にやさしいまちづくりへの要望のほか、買い物支援への要望が見られた。

高齢者福祉では、集いの場の創出や健康を維持するための事業を望む意見のほか、現在行われている高齢者向け施策・サービスの内容についての意見がみられた。

このほか、介護保険サービスでは、施設サービスを希望した場合にすぐ利用できるかという不安、意見が見られた。

③ 意見内容

【1位 アンケート調査の感想】

- 今現在は自分のことは自分ででき、今はこのような考えです。この先介護が必要になった時には、今回のアンケート調査と違うかもしれません。
- 毎日お忙しいのに私達老人のためにお考えいただき、本当にありがとうございます。80才になりました私も今のところ一人で何でもできますが、いつできなくなるか分かりません。優しい孫がおばあちゃん心配しないでね、いつも見守っているからと、うれしい言葉をかけてくれます。うれしくて涙を流しています。皆様本当にありがとうございます。
- 質問に対する選択肢がやや不適切と感じる。特に「問2」の設問に対する選択肢が分かりにくく悩む。
- サービスに頼らず自分で出来ることは自分で行き、市に頼らずに自分の収入に合った生活をし、若い人の負担にならないように生きたいと思えます。
- 質問が多すぎる。内容がわかりづらいものがある。
- 94才の老人に書かせるアンケートとしては難しいと思います。もう少し、年齢を下げた方が良いのではありませんか。
- いつもアンケートだけで、どれだけ反映されているかわからない。
- 老人の生活をパターン化したアンケートであり、前向きな行政はできない。アンケートの調査項目が難しい。
- 市で発行する広報などにより色々勉強して、自分の考えをまとめてみたいと思います。(特に問11や問12等です)
- 今は元気ですが、必ず働けなくなると思えます。一緒に住んでいる家族がいると安心ですが、あまりにも介護保険や福祉などに無知すぎて心配です。
- 記入してみて、当事者でなければ分からないことが多いものだと気づかされました。
- 今回のアンケートに関し、今後の自分の生き方について認知度を意識することが出来ました。アンケート依頼は12月上旬にしてほしい。年の瀬に入り気忙しい時でした。じっくり考えて答えなかった。
- 毎日忙しく、今回はじめて考えさせて頂きました。これから自分も介護して頂く立場です。母は102才までお世話になりました。ありがとうございました。
- 自分はまだ健康です。今は亡くなりましたが、姑がお世話になった施設の皆さんには大変良くしてもらったと思っています。
- 難しい漢字に読みやすいよう配慮をお願いします。
- 二人暮らしなので先々のことは考え、話し合っています。病気になったり免許返納したら・・・と不安はあるが、その時にならないとわからないというのが本音です。
- 自分が介護が必要となった時どうしようと思いました。
- 問11(3)については全然わからなかった。まだ制度の経験がないので申し訳ありませんが答えのない項目が多い状況で返送します。よろしくをお願いします。
- 一人暮らしですし、いっどうなるか。ピンピンコロリがいいですが、こればかりはね。自分のことを思うようにできなくなったら、介護保険制度を利用したいと思えます。
- 高齢者に対する配慮や支援対策をありがたく思っています。地域の医療、サービス、介護については、わかりませんので書けませんでした。
- せっかくのアンケート調査なので、住民の声を真摯に受け止め行政に反映させてほしい。

- かなり難しい質問で、初めて考えさせられました。国と市の財政の問題もありますし、どこまでやってくださるのかもわからないので、自分たちに何かが起こったときは、その都度行政に相談するしかないと思っています。
- このアンケートの必要性は理解できますが・・・アンケート内容をもう少し簡単にするか、質問数を少なくするかしないと、高齢者本人が記入するのは無理だと思います。
- 代理で記入はしましたが、理解するのに非常に難しい内容と感じました。役所的な考え方、質問の仕方だと感じます。
- 現在70歳になりますが、仕事をしていますので、介護保険等に関心がありませんでした。これから勉強していきたいと思っています。
- なるべく他人の世話にならないようにしたいです。介護保険とかその他の事も利用しないようにしたいです。死ぬまで健康、ですね。
- 自分の問題として、もっと具体的に関心をもって見聞し、考えるべきでした。十分にその年齢です。ありがとうございました。
- 今、母が95歳で介護ショートステイに預かってもらっています。何か月か自宅で介護しましたが、農家で春秋が大変だったので、預けました。アンケートを見て勉強になったこともあり、自分たちのことも含め大変な時代になることと肝に銘じた思いです。仕事のこともあり子供たちが近くにいないことが不安です。何と言っても健康のことが一番思っていることだと思います。
- 65歳以上といえどもまだ働いている方が多いと思います。質問内容を直す必要があるのではないのでしょうか。答えをどうすべきか迷うところが多かったです。
- まだ実感は湧かないが、必ずくることであり、こういったアンケートは大事であり、参加したいと思っています。
- 現在は各質問が具体的に感じられないが、今年狭心症で入院したこともあり、これから夫婦で老いを迎えるごとにそのような状態が増えてくると思えば、もっと真剣に知識を集めなければと、このアンケートを記入しながら思いました。
- 少ない国民年金から介護保険料を支払うのはとても大変です。今後介護保険を利用するときに必ず訪れますが、何とかならないものかと日ごろ思っている次第です。
- 問7(2)について、質問として無理がある。何を意図しているのか。今の状況は、みな不安を持ちながらもなんとか道を開いて生活していると思う。このような調査に際しいつも思うことは、数値の示す住民の思いを把握することも重要だが、それ以外の言葉をどう分析提示できるかではないかということ。このアンケートを分析するうえで、どれだけこうした小さな独り言を心をこめてくみ取るか、その力が試されるのだと思います。行政職だからこそその使命を大事になさってください。
- 現施策がどの様になっているのか、又どの様に行政として考えているのかが見えない状況では、提案や要望は提言に難しい。
- 自分が利用する時期にならないと考えられない。
- サービスの説明が簡単すぎて判断しづらかった。別紙で利用率や決算額などを説明すべきだったのでは？ 問12(3)については、活動主体となりうる年齢層であればよいが、後期高齢者に対してはどうかと思う。そもそも高齢者自身に問うべきか疑問。
- 「支援を必要としている人」について。今回のアンケートは画一的な質問が多く、地域の高齢者の心にしっかり入ってこない気がしました。大切な基礎資料と考えているのなら、面倒かもしれませんが、箱の中に答えを求めるのではなく、自由記述を多くしてほしいと思いました。
- 平日頃、年だなど思うことはあっても、アンケートの項目のように考えていませんでした。すぐそこまで自分にふりかかることを先延ばしにしました。自分のことは自分でと思いながらきましたが、できない事ばかりになりつつある。記入しているうち憂うつ、減入って色々考えると眠れなかった。反省です。
- 今のところ介護など受けていないので、あまりくわしく知らない事が多すぎた事に、アンケートを通してわからせていただきました。これを機会に勉強させていただきたいと思いました。

【2位 交通手段の確保】

- 私は12月いっぱいまで免許証を返納します。そのあとの移動は自転車と徒歩になりますが、タクシーも利用したいと思います。耳が不自由なこともあって、タクシー会社とどう連絡をとったらよいか心配しています。
- 現在、自家用車を使用して生活している高齢者が益々高齢となり、免許返納となる人が増えることが予想されます。移動手段支援事業の充実を希望します。
- 高齢者ドライバーについて。50年以上自家用車を体の一部のように過ごしてきました。昨今、高齢者ドライバーの免許返納について考えさせられるような事故も起きていますが、各種活動への参加、買い物、病院受診など車があるから出ています。そのため返納後の生活のイメージが具体化せず悩んでいます。
- 移動手段の更なる充実を求める。自転車や徒歩の移動では限りがあるし、生活するのが困難である。通院も家族の都合がつかなければできない場合もある。切実な課題として改善に取り組んでいただきたい。
- 旧市内だと循環バスが走っているが、新市民だと恩恵が受けられずにいるのが現状である。離れているところで暮らしている人は集約して町に近いところに住むのはどうかと思う。いつまでも車の運転も出来ない為。
- 移動手段支援事業の乗り合いタクシーやデマンド交通は中心地区だけなので、市外の人には何の役にも立たない。
- 高齢者が自分で車の運転が危険と思っても、移動手段が無ければ生活に支障する。買い物や通院などの移動手段の利便性の向上を図ってもらいたい。
- 83才ですが、色々な病院に通院していますので、免許の自主返納で本当に不便です。大雄ですが、一カ月に夫と2人で4～5回もいかななくてはなりません。交通の不便さには本当に困ってしまいます。何か良い方法はないでしょうか。
- バス路線のない郊外の交通手段としてデマンド交通をもっと使いやすくする方法はないものか。例えば予約時間の短縮、車の台数増など。
- デマンド交通を利用してみましたが、料金が分かりづらいし、あまり気分の良くない接客態度で、利用するのが怖くなりました。もっと買い物や病院に行きやすい、小型バスにしてほしいと思います。
- 近年高齢者の交通事故が多いとの報道が特にクローズアップされているが、交通網が充実している都会と違い、不便な田舎に住む高齢者は自家用車が必需品で、無いと生活できないなか、老人が事故を起こしたときの報道が大きすぎると思います(人身事故は別として)。年寄りの免許証返納は義務というような風潮はどうかと思う。年配者でも交通安全で走行している人はたくさんいます。私もその一人です。
- デマンドを利用した場合の負担がもう少し軽ければなと思っています。
- 私はデマンド交通を利用して大変助かっていますが、中心部バスゾーン地域内に居住する方、また、バスゾーン内での乗降が適応外となっているのには、不公平に思います。通院や買い物などは中心部バスゾーン内に存在しており、運行範囲の見直しなど検討していただきますようお願いいたします。
- 移動の時の車は、バスだと乗降が大変なので、楽に乗れるような車を。料金も割安にして欲しい。
- 今は自分で車の運転ができるが、将来できなくなれば病院(平鹿病院)に行くことが出来なくなるので不安です。近くの個人医院もなくなると思うので。
- 移動手段について、業者(タクシー等)に委託せず、市役所のバスを使い、1日何回か市内を回ることを考えて欲しい。タクシーは高いし、バスはへき地には来ないので。
- 本郷町にバスを通してほしい。通学・買い物が不便、通院も不便である。
- 通院、外出時の交通が不便なので、移動手段の支援の方を考えていただきたい。

- 移動手段支援施策についてですが、利用する方としてはせめて30分前くらいまでの予約であればもっと利用回数が増えると思いますが、いかがでしょうか。
- 免許証の返納を考えていますが、返納後の移動手段に大きな不安を感じています。タクシーを利用しやすい制度に期待しています。
- 現在は運転できますが、できなくなった時の移動手段が不安である。80歳以上の方たちの話で、「デマンド」「乗り合いタクシー」の金額が高いとの声もある。ただとは言わないが皆が喜んで利用できる移動手段はないものか。考えて欲しいし、実現していただきたい。他県(テレビ)でのいろいろな支援事業の様子をみた、何を始めるにも無料ではいけないと思っています。
- 今のデマンド交通や乗り合い利用は目的地までまっすぐいけない不便さがあると認識している。できれば利用補助形式で自己負担の軽減をしていける方が利用しやすいのではないかと思います。
- 通学バスを移動に利用できないものか。
- 十文字から市立病院まで10年間通っています。平鹿病院のように直通路線バスがあればよいと思います。電車ーバス、バスーバスと乗り換えています。厚生病院に向かう方も同じ要望です。
- 高齢者の免許返納と言われているが、この地域にはほかに移動の手段もないし(バスは通っていない、タクシーは高い)、スーパーもないので、買い物が大変です。市内だけに安いバスを出すのではなく、このような地域にも週に何回かは市内行の安いバスを出してほしい。病院も遠いので・・・。
- 私の住んでいるところは、バスが通っていません。少し料金を負担しても、ふれあいバスを週に3回くらいに増やしてほしいです。
- 以前介護タクシーを利用したくてお願いしたところ、予約制になっているのか使用することが出来なく、仕事を辞めざるをえませんでした。もっとタクシーの台数が増えたら大変助かったのと思っています。
- 横手～大森病院のバス運行をお願いしたい。
- 人工透析を受けている者ですが、他市の病院で透析をしています。その理由は、自宅からバス停までの距離があり、特に透析後は歩いて家まで帰るのが大変だからです(現在透析を受けている病院は、無料で送迎を行ってくれます)。それでも不安はあります。透析中に具合が悪くなり救急車で運ばれる人もいるからです。平鹿病院など大きい病院では、すぐに他の科に診てもらうことができ安心です。そのようなわけで、本意ながら今の病院に行っている人が、私を含め町内に3人います。
- 夫が免許返納した時の交通手段(買い物や病院など)が心配です。(近隣でも困っている人達が多くなっている)都会のようにバス・電車の便利な所はよいが、田舎では不便なので、このことについて市でも中心から離れている地区のことを考えてほしい！
- 移動手段(バスなど)の巡回回数を増やしてほしい。
- 町内会の顔ぶれをみても、あと10年後には半分以上は存在が危うい高齢層ばかりという現実がみえる。移動手段の確保で自立生活期間を少しでものばすことが緊急の課題。なのにバスはいつもガラガラ。料金が高すぎるからである。他市町村で実施しているような年間パスを有料で発行してはどうか？仙台市の場合は年間1万円と聞いたが、横手市なら5000～7000円くらいなら利用度があがると思う。
- 介護タクシーが少なすぎる。
- 病院や施設のバスがあれば助かります。
- 温泉に行くときには”ふれあいバス”を利用するため、運休はやめてほしい。
- デマンド交通は数回利用させて頂いております。病院などはすぐ近くまで行けますが、乗り換えや歩きになるので、体調の悪いときや気候等で利用できません。皆さんの様に利用しているのかお聞きしたい。また、私の地区では循環バスがないので、駅東口方面へ出かけるのは非常に不便に感じます。
- 車いすで移動できる乗り物があつたら良いと思う。終末をホスピスで過ごしたいが、低額で出来るとうれしい。(国民年金暮らしなので)

【3位 行政への要望・提言】

- 新人老人のためよくわかりません。少子高齢の時期がすぐに少子少齢の時代になる。そのことも考え、頑張ってください。
- 介護保険の区分変更など、医療機関と密に連絡をとり、迅速に行ってほしい。
- 1.買い物弱者支援の充実 2.成年後見制度の充実(金銭管理含む) 3.死後の財産処理へのアドバイス
- 横手市内でも比較的都市部とへき地で条件があまりにも違うので、アンケートの回答に困りました。当方かなりのへき地在住ですが、それなりのご近所同士のコミュニティが形成されております。反面、公共インフラ等(交通など)に関しては全くと言っていいほど不備だらけなのが現状です。不足している様々な条件を地域で補いあっているのに、人的交流が多いのだとは思いますが、それが公平公正な横手市全体の公共福祉サービスの成果だとはとても思えません。課題は多く、かつ大きいと思いますが、将来に期待できる施策の方向性が見えるような動きを望みます。
- 民生委員が公の場で個人情報話すのはどうだろうか。私自身のことを話された時は困惑してしまいました。適材適所、宜しくお願いします。
- 二世帯や三世帯家庭、又自宅介護家庭への補助があれば、施設利用者軽減に繋がるのではないかと。若い人と同居する家庭を増やす対策が必要。空き家や一戸建て住宅が増え、市全体の大きな問題が出てきている。一戸建て住宅のストップを考慮しないと…。
- 行政が介入するとうまくいかない方が多いように思います。民間にまかせると無駄が目立って困ります。
- 移動販売車を増やし、多様なサービスで役所や銀行などの連携はできないものか。
- 少子化が進んでいる。学校や役所の新築は、残存建物の有効活用で経費の節約が必要と考える。
- 人口減少により、いずれの制度や施策とも、維持することは困難となるように思う。それは利益追求や経済観念に根ざした考えによるためであり、人口減少地域では成り立たないためである。都市部においても、利益がでなければ同様の結果となる。自助、共助から制度や施策の再構築を見直し、問題を解決すべきと思う。
- 長生き社会になっていますが、老後がたのしい世の中であってほしいものです。若者が自分の未来に明るい社会に、家庭に、なってほしいです。
- 介護保険金のむだ使いのない制度を考えて下さい。今は使わなければ損をすればかりに使っている感じがします。保険介護施設もだいぶ増えました。必要な方が利用できるようお願いいたします。
- 市の対応が遅い。街路樹について問い合わせた(11月15日)けど、その後なんの答えもない。道路が悪い。舗装が悪く穴だらけで自転車の乗り入れが大変。流雪溝の時間が嫌である。大町2時過ぎ、何もできない時間である。外出しても、その時間が気になり、時間の変更はないものか、もう少し考えて欲しい。
- 福祉の理想を求めたらきりがなくなる。今置かれている時代も含めて感謝をしながら、まずは受け入れることだと思ふ。人はいつか必ず死ぬ。10年経てば忘れられる。今日に感謝し明日に生きる、そういう人間になりたいし、そうでないと国が亡ぶ。助け合いは必要だが、まずは国難に対し自らできることに一歩踏み出せるような人づくり・教育が必要だ。
- この度アンケート調査に参加させていただき誠にありがとうございます。要望ですが、職員の道徳、人徳教育を切に希望いたします。今後の資質向上に期待いたします。
- 低所得者はどんなサービスも受けられていないと思う。もっとよく調査してサービスを受けられるようにしてほしい。
- 金沢地区にも、買い物ができて人が集まりやすいスーパーがあればとても助かります。
- 介護サービスや入浴サービス等は実際の実施状況を同行して見てみるとよいとおもいます。支援を受けた方のアンケートをいただくとよいと思います。

- 色々な制度がたくさんあって、とても国の行政に温情を感じています。生活支援と一定の収入の中で、自分に合った制度の利用はできるようです。 私が思うことは、病気は病院に行けばいい、食事はいろいろなサービスがあるのでそれを利用すればいい。その他で心のケアのサービスがこのアンケート内になかったことが残念でした。今、精神を病んでいる方が増えていることは問題視されており、行政の対策を一日も早く実現していただきたいと思います。
- 現行で充分。高齢者、若者世代、未成年、幼児と、それぞれのバランスが重要だと思う。
- 市民税が高すぎます。市役所職員の給料体系の見直し、職員の削減を希望します。職員の将来のためにも。
- どのような制度も施策も重要課題であり、なくてはならないことと思います。しかし、高齢者をすべて行政で守ることに限界があると思うし、それを負担しているのが若い世代に降りかかってくるのであれば、ある程度高齢者の負担は必要だと思います。まして、横手市のように若者が定着しないところであればなおさらのこと、高齢者の負担増は必要なものと考えます。横手工業団地に立派な会社2~3社が施設建設予定となっていますが、地元採用は20人程度とのこと。大きな進展が望めない現状では、行政だけに甘えることなく、分相応の負担は大切だと考えます。
- 地域活性を継続できるよう特産品や名物・名所を開発してほしい。季節にかかわらず歩行者に優しい道路づくりを希望。信号機の周りや横断歩道の向こう側に積雪が多く、迂回しなければ渡れないこともある。車優先道路が多い。
- 少子高齢化がこれからはさらに進むと思われるので、高齢者同士の互助精神の育成や上手な介護研修などを実施し、健康な高齢者の活用も支援施策として取り入れてはいかげでしょうか。
- 防災ラジオの電波が入らず、聞くことができない。
- 今一番してもらいたいことは、介護の現場で働いてくださる人たちの待遇の改善です。若い人たちがこの仕事についてもあまりにも仕事はきつい、賃金は安いでは、続けて働く意欲など持てるはずがありません。とにかく待遇改善あるのみ、と思います。介護してもらわずに終えられるよう頑張るつもりです。皆さんも頑張ってください。
- 行政に過大な要望をし期待しても無理でしょう。可能な上限を若干上回る程度を目標に努力してくれることを望んでいます。
- 横手市内はわからないが、十文字町の福祉サービス課は何かという予算がないといって、住民の相談にのってくれない。公務員として恥ずかしくないのか？この先が非常に心配だ。
- Iターン、Uターンの方々からみたこれからの高齢者社会への想いがあれば、またおもしろい政策へのアドバイスが望めるかもしれません。
- 高齢化により福祉事業所など支援施設が十分対応できない点について、検討をお願いします。
- 亡くなるときに子供に迷惑をかけたくないので、樹木葬か無縁仏について対策をお願いします。
- 防災無線が鳴らない。
- 市民の為に頑張ってほしいです。
- 国民年金は65歳前に受給すれば身体障害者年金を請求できません。このため大変苦勞して亡くなった人もいます。また、60歳で年金をもらったら、まもなく身障者になった人も知ってます。こういう根本的な問題を棚上げして、ボランティアとか共助とかいっても限界があると思う。
- この分野に適した人物の採用につとめ、そういう人材を確保し、認めていくような行政になってもらいたい。お金や制度を任せられる人にこういう分野は担ってもらいたい。単なる学力や経歴でなく使命感、倫理のしっかりした人に。人間性のしっかりした人という意味です。人事担当者、管理者もそういう人物をみる目をもってください。

【4位 高齢者福祉】

- 黒川地区に食品販売の店が1軒あるが、近々閉店の話もあります。日常生活に必要な物品が入手できなくなります。高齢ドライバーの事故などを考えると、買い物難民地区になりつつあります。その対応を今検討してほしいです。

- 敬老会の長寿を祝う会を80歳以上に引き上げては。健診の充実による未病と予病
- 介護予防につながる政策を多くしていただきたい。地域で利用できる移動用車を常備してほしい。
- 健康な高齢者を増やす施策を考えて出してほしい。私は女性専用の30分健康教室に通って9年になります。費用もばかになりませんが、9年前より体の調子が良いので、できるだけ通っています。健康な高齢者が多ければ福祉サービスの負担も少なく、元気な社会ができると思う。私達、高齢者の意識も変えなければと思うし、変えてほしいです。
- 敬老会の長寿を祝う会や長寿のお祝い金は必要ないと思う
- 65歳以上の健常者が運動したり休憩したりできる場所(室内)があればいい。
- 65歳以上の高齢者のスポーツや体操の場を多く増やして欲しいです。会費を納めてもいいので。時間帯も午後〇時ではなく、〇曜日午前〇時から午後〇時までと、参加者の都合がつきやすいように、つまり自分で時間帯を選べるように。数人のインストラクターを準備して欲しいです。
- 毎年当町内で小ネットワーク会議を行っています。高齢者世帯や一人暮らし世帯の状況、防災活動について話し合っています。社協と町内会との連携はもちろんのこと、できれば町内の組織を考えて各班の向こう三軒両隣という感じで班内でできること、やりたいことを整理し、問題を解決できるよう、社協と住民とがきめ細かく信頼を持って運動を広げていく必要があると思います。情報伝達は、向井三軒両隣から発することが助け合いの始まりかと思っています。
- いろいろなサークルや趣味の集いに行きたいが、夏場は農業をしているので行けません。冬場11～3、4月の間のみ参加できるようなものがあつたらいいと思います。それも、歩いて行ける距離でないといけないので、何かよい方法があればと思います。移動手段がないので、なかなか参加することができないのと、冬場こもりがちになるので、いろんな人と交流できる機会が欲しいと思っています。
- 一人暮らしの高齢者には、福祉の方から月に1回でもいいから訪問してもらいたいと思います。係の人も忙しいと思いますが、お願いします。
- 配食サービスは、今でも利用したいと思うときがあります。体調が悪く寝込んだ時は本当にそう思いました。夫は何もしてくれないので。
- 配食サービスについてはおおむね70歳以上でもいいのでは。
- 町内に老人クラブ、いきいきサロンがありません。一人暮らし、高齢二人暮らしの家はいっぱいあります。このままでは、外出や憩いの場がなく認知症の人が増えてくると思います。
- 問11(3)の介護のサービスについては、周りの様子もあまりわからないので返答しかねます。はり・きゅう・マッサージ施術費助成事業は町内どこでも利用できるようならいいと思う。自分が介護される状態にならないとあまり想像力も良くないので…。人の手を借りないで今できることを精一杯頑張って、一生を過ごしたいと思う。
- 私は今72歳ですが、今の高齢者は医療費負担が少ないせいか、福祉でも病院にでもかかりすぎる様感じます。無駄に受診して病院をかけもち、それで治っているかと言えば大したことないという、全くの医療費・介護費のムダ使いです。私たちが75歳の時は2割負担になるという。今の高齢者はあまりにも恵まれすぎです。私はまだ現役で働いていて、病院の待ち時間もつたいなくて少々のことでは受診しません。昔3割負担の時は、今の高齢者の様に少々のことでは受診しなかったように思います。
- 令和二年度からいろいろな施設の使用が変わるようなことをこの前聞いてきましたが、私達年寄りの楽しみみたいな場所も、人数が10人以上でなければ利用出来ないとの話でしたので、私の聞き間違いかもしれませんが、書かせてもらいました。本当だったら残念です。

【5位 経済的負担】

- 介護保険料が少し高い。50代～60代の働いているときに上げて、65才からは下げてはどうか。例えば50才から65才は2500円を5000円に。65才からは11700円を6000円ぐらいなど。
- 介護施設、特養施設等への入居費用の軽減や増設。周りから困った話をよく聞きます。
- 介護保険料が高いです。

- 介護料は上がるばかりで、年金生活だとよほど切り詰めていかないと生活が苦しくなるばかり。介護施設もたくさんできているが、入れるような金額でもないし、子供達にも迷惑をかけられないし、とにかくお金のかかる事ばかりで大変です。
- 低所得者の介護保険の見直し。
- 介護保険料の負担は極力おさえるよう、地方自治体として国にもっと責任をもつよう要求すべきだ。
- 介護保険をもう少し安くしてほしい
- 介護保険料を支払っているが、将来実際に施設を利用する場合、高額な施設が多いようです。一般的にもう少し低額料金で入所できるようになれば助かります。
- 介護保険料が高いと思う。少ない方と高い方の差が大きすぎると思っています。本当に必要な方とそうでない方があると思う。基準をしっかりとって無駄遣いをしないでほしいと思う。
- 介護保険負担料が高すぎて生活を圧迫している。年金生活者に厳しい内容で、高収入者にやさしく、不公平感が強い。
- 75歳女性です。国民年金が少なく生活が苦しいです。現在働きながら家賃を支払っています。働かずにはいられない状況です。
- 多様化した時代の流れに即応できない現実です。大半の人は少ない年金で日常のやりくりが大変です。年金がプラスになるような事業があれば多少なりとも地域活性化になると思います。
- 私は国民年金(月48,000円)で生活が難しく、二世帯ですが若い息子夫婦には頼ることは難しい。少子高齢化でとても難しいことはわかりますが、二世帯の為に何一つの援助は難しい。かえって一人世帯の方がいろいろと援助があるらしいので有利に思われます。
- 年金だけの生活者には医療保険料等が高額すぎると思います。もっと補助してもらえたらと思っています。今はまだ自分のことは自分でできますが、介護サービスが受けられるか心配です。
- 月々の入る年金を考えると、介護保険サービスは手も足も出すことができません。
- 年金の減額と介護保険料の増額により、年々生活が厳しくなっている今日この頃です。健康保険料基準も他地区よりも高いし、老人はつらい。
- 介護サービスを利用できることはとてもいいのですが、保険料が高く仕事を辞めたら生活が苦しくなるので、体調が悪くても辞めることができません。
- 今現在、仕事を持ちながら自宅で介護しています。日中はヘルパーを頼っている。自分も退職の年齢に達しながら、身体にムチを打って仕事をしています。仕事を辞めるに辞めれない訳は、自分の年金が少ないこと、要介護者にかかるおむつ代や衣類代、施設利用料など、かかるお金が数々あることです。その中でおさがりを利用したり、食費をケチったりと工夫をしながらギリギリのところで生活しています。収入があるとはいえ、将来の自分のことも考えると不安で仕方がありません。介護する人の家庭事情も察した制度・施策などを考えてほしい。毎日のおむつ代は、低収入家庭にはとても負担です。
- どんなに良い施設ができて、私は低年金なので入ることはできないと思っています。夫も入ることはできなかった。
- 介護保険制度は、今現在の徴収金額は私にとってあまりにも大きすぎて負担になっています。介護サービスを受ける際に発生する費用に充てられ、高齢者の暮らしを支えていくための貴重な財源となるのですが、それでも今の生活が苦しいので、どんな政策を考えても安心な生活ができません。前よりもサービスが充実しても、生活が楽しいものでなければ先のことは考えられません。
- 収入がなく年金ぐらしの老人から、これ以上徴収することは反対である。老人が多くなり種々の予算が大変であるとはかり言うが、今まで老後の保証ということで厚生年金をはじめ、種々の税をおさめている。しかし、納めたものが正しく目的のために使われず、他のものに流れている。徴収は年金から必ずとり、給付は申請しないとダメなどと矛盾していると思う。

【6位 現在の状況】

- 車椅子とベット生活の夫を介護しています。医療や介護のサービスを受け、助かっています。

- 81歳ですが、健康を維持しているので市の介護や保健施策がほとんどわからない。わからない程健康でいることがいかに大切であるか、自問自答している。病院にも60年かかったことがないため、病院の知識もありません。
- 80代の夫婦二人の生活です。各々に2つくらい持病はありますが、各々バスを利用しながらなんとか通院しています。毎日の食事も二人で買い物をしながら調理をし、生活しています。先々のことを考えると不安ですが、ボケないこと、転ばないことを心掛けています。
- 身体障がい者(障がい者2級)ですが、デイサービスに行かないで、なんとかバスで健康の駅に行っています。これからもよろしくお願いします。
- 私は現在80歳。自分のことは自分ででき、まだ車も運転しております。介護保険料もきっちり支払っておりますが、さて自分に介護が必要な時はどうなんだろうと不安はあります。また、一人暮らしの方にはそれなりのサービスがあるようですが、2人で生活されている高齢者にも少し目を向けていただきたい。民生委員の人もそれなりに状況を把握されているでしょうが。私は三世帯で生活しているので幸せです。今後もできるだけ自分で最後をきっちりとしていきたいと思えます。
- 私は農家で、夫と2人現役で頑張っています。今は健康で、少しでも長く働いていたいと思っているところです。そうしていかなければ経済的にも大変なので、頑張りたいと思えます。
- この地域では、80歳以上の方々が大変元気に働いています。中央でいろいろな行事があっても出ていけないと思えますが、地元に入浴施設があり大変良かったと思えます。
- 今は健康で働いていますが、勤めが終わった後は生活状況が変わると思えます。家族や皆さんになるべく面倒をかけないよう頑張ってお生きていけたらと思えます。
- 自分もその範疇にあるのにあえて言いますが、周囲はほとんど60代後半～90代。毎日のように救急車が走るこの頃です。まことに失礼な表現で申し訳ないが、互いにいつその世話になってもおかしくないこの頃です。それで亡くなれば、手を合わせるだけではすみません。それなりの心積もりが必要で、正直な話、救急車の音が聞こえると戦々恐々としてしまいます。社会的慣習ではありますが、この辺の状況はなんとか方法がないものかと時折考えます。
- まだ夫婦とも元気に働いているので実感としてわからない。しかし将来必ずお世話になると思うので、興味を持って勉強したいと思う。
- 今のところ介護や保険福祉にかからないように自分達で気を付けています。体を動かすことが健康寿命につながると思えば信じながら頑張っています。
- まだ現役で働いていて、自分のことは自分でやろうと思っておりますので、福祉の世話にならないようがんばっています。
- 1年あまり前から夫の介護中です。まさに老々介護です。介護保険、福祉のお世話になっております。市からの介護用品支給券の援助も頂いて大変助かっています。これからもお世話になることと思えますが、共倒れにならないように一生懸命頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

【7位 介護保険サービス】

- 母が介護施設でお世話になっており助かっていますが、入所するまで5年かかりました。近隣には何年も入所できないで困っている家族が多いようです。これから需要が増えそうなこともあって、是非ご支援対策をお願いします。
- 介護保険施設が少なすぎると感じる。
- 高い介護保険を払っているが、いざそれを利用したいと思った時に、施設にすんなり入れるかどうか心配です。
- 年金内で介護施設が利用できるようになってほしい。
- 介護の仕事は大変だと思う。しかし、介護される人はもっと大変。男性の介護士さんが多くなっていますが、女性のオムツは女性の方にやってほしいです。

- 低所得者向けのケアハウスのような施設がもう少し多くなるといいなと思います。
- 一人暮らしは別としても、自宅介護できる家庭をもっともっと奨励していった方が良く思う。今よりももう少し自宅介護に対して奨励金を増やしてやれば、増加するのではないだろうか。
- 保健福祉施策は大変充実してきているように思います。良いことと思いますが、それに伴って介護保険がどんどん膨らむことが懸念されます。過剰な福祉サービスも善し悪しだと思います。
- 少ない人でまわさなければならぬことは、とても大変だと思います。周りは老人ばかりです。少ない年金と、子供たちに看てもらわない分として少々助けてもらい、老人ホームに入りたいと思っています。施設で手伝いでもできるうちに入る方がいいと考えています。
- 家族が利用させてもらいたいと思っても、本人が拒む場合が多いのではないかと思います。
- 老々介護のため、利用したい施設等の利用を考えてもなかなか利用できない。(施設が満員の為)
- 今のところ健康でまだ働いていますが、私が見ている限りでは、介護保険や福祉の支援施策は大変よく行き届いていると思います。これからも安心して過ごすことが出来ます。
- 寝たきりの人向けの介護施設を増やしてもらいたい。
- 今は夫婦元気ですが、やがてどちらかが一人になった時は不安ですし、在宅で過ごせる状態であれば、通って利用できるデイサービスなどの介護サービスがあれば安心できるとしております。
- 車を動かせなくなったときがホームに入るときだと考えている。少しでも長く自分らしく生きられるよう、あまり介護支援に頼らない体力・気力でいたい。ホームに野菜ハウスなどが併設されていて、身体を動かせる人のリハビリも兼ねた、ソフト感のあるグループホーム・・・いいですね。
- 介護や福祉のサービス等お金の使い過ぎは本当に良くないと思う。健康な人がデイサービスに平気で入っているのはどうかと思う。
- 介護保険にて必要な介護用具を設置する際、決まった査定料金しか支払われず、その後必然性があっても支援が無い。度合によってある程度の支給支援がほしい。
- 要介護度の判定に応じて介護サービスが違うが、線引きがとても複雑だ。ある程度収入が多いと、たとえ介護5であってもオムツ券が出ない。ケアマネージャーの役割も大変だが、判断基準が人それぞれでしようか…。移送サービス事業があることはこのアンケートで知った。ちなみに個人のタクシーを頼み、施設から病院に行った時、高額な交通費とベットに寝かせる時大変だった。施設職員が移送サービスを知らせてくれていたら、と強く思った。
- 介護付福祉施設に入る場合、その施設によって料金の差がある様ですが、安くてサービスのよい施設を望みます。また、介護タクシーの増加を望む。(よい施策をお願いします)
- 家族で世話が出来なくなった時に、金額も含めてすぐに入所できる施設があるかどうか…？

【8位 介護保険制度】

- 事業は自立を支援するようなものでなければならない。
- 家族・親族主体の介護が軽視されすぎる。基本として位置付けるべき。やむを得ない特別事情のある人だけの介護保険制度にするべきだ。
- 若い人たちの負担増にならないようにし、現状を維持してもらいたい。
- 介護保険制度を元に戻してほしい。
- 介護保険料は思っている以上に高く、生活に支障があるのにも関わらず、いざ身体に不安があった場合、保健福祉施設に入れなとか、順番待ちと聞くと、そこあたりが何だろうと思います。
- 保険料を払っているから使わないと損！という発想で利用している部分が多く、本当に必要としている人を見定めていく必要があると思う。

- 今は介護になると自宅介護が国の方針のようですが、家に同居の人が居なくて、ヘルパーさんだけでは不安という人が周りに多くいます。健康で最後が送れればと思っはいます。理想ですが。
- 今のところなんとか一人で生活しているが、いずれ歳と共におとろえ、人の手を借りなければいけない時もあると思うので、その時は年金でまかなえるようにしてもらいたいです。

【8位 周知や認知について】

- 介護保険・保険福祉施設・移動手段支援施策、いろいろ行っていると思いますが、自分がそうならないとわからないので、前もって目に留まるような健康手帳、お薬手帳や介護保険手帳などに記載があれば良いのではと思います。
- 高齢者一人一人が制度・施策をよく理解して、どんな時にどんな利用方法があり、利用できるのか学んでおく必要がある。自分はいつも大丈夫ではなくて、色々予測し、自分はどうしたいのか、いくつも例を持ち合わせ、書き記すか家族に伝えておくと安心できるように思います。
- はり・きゅう・マッサージ施術費助成事業、健康づくり入浴サービス券支給事業、配食サービスの3事業のことを知りませんでした。
- 今は大丈夫だと思っはいても、いつか通る道。知っておきたいことはありますが、デイサービス、ショートステイに行っている人もいるが、その家族・本人に聞くことができないため、介護や保健施策がわかりません。
- 過疎が進み、独居世帯、高齢者世帯が増えるなか、介護保険を利用するにあたってその方法や手段を理解したうえで利用している人はいるのかと心配されます。さまざまな制度をより身近に、わかりやすくしていくには、どうしたらいいのでしょうか。うまくITを利用でき、活用できる人だけではないのが現実だと思っはいます。
横手市でラジオを提供していると知りました。もっとそれらの活用を密にし、浸透させるとか、関心をもつて身近になれる方法の工夫を希望します。
- 若い人達には、介護保険制度などについて、あまり興味なく理解していない人もたくさんいると思っはう。そのためにも地域ごと、町内ごと等で研修または講演などを行う機会があればよいと思っはう。

【10位 将来不安】

- 限界集落で同居の老人は子がみるが、その子はみてくれる人がおりません。どうしたら良いのでしょうか。老々介護に進むだけでしょうか？
- 少ない年金で暮らしています。誰にも頼らず年金だけの生活をしています。介護保険を払うと一年間の年金はほとんど残りません。今後、大病にかかた時のことを考えると不安で、自分が体の動ける内、死を考えてしまいます。これはどうしようもありませんね。
- 今のところ自分のことはすべて自分でできているが、いつどうなるか分かりません。そうなったときに少子化時代である現在、介護保険制度やいろいろな社会福祉が維持できるか心配です。現状息子は県外におり、頼ることが出来ない状況で、わが部落は限界集落になるのは免れることはできないと思っはいます。将来が不安であることに間違いありません。
- 生活環境が悪い地域では悩ましい問題です。将来的にこの町で住み続けて大丈夫だろうかと思っはいます。不安でいっぱいです。体の動くうちに移住した方がいいのかと思っはいますが、決断できません。お金も少ない、どうにもできない私と市の財政、解決は厳しいですね。
- 今現在病気療養中のため、市のサービスなどまるでわからず、すみません。後期高齢者ですので、目前のこと、将来のこと、まったく不安でおります。出かけたくなく、人の多いところに行きたくないのです。自分でもこのままでは・・・と思っはいますが。

【11位 雪対策】

- 高齢世帯の雪対策について。例えば、早朝の除雪車による雪のかたまりが玄関前に高く置かれていることが通常になっています。高齢夫婦2人で除雪はしていますが、年々苦痛になってます。除雪担当者も大変だと思っはいますが、「思いやり」の気持ちで、除雪車を動かしてほしいと思っはいます。

- 冬に除雪車に玄関前に置かれた雪を寄せることは高齢者には大きな負担です。消雪パイプを道路に設置し、除雪車を必要としない雪けしを望みます。
- 冬の歩道の除雪は朝のうちにできませんか？高齢者が歩けず、車道を歩くしかありません。
- 流雪溝に除雪することも体力的に厳しい高齢の方が多くなっている。今後何年後かは、きっとできなくなるのではと危惧する。将来を見据えた市としての考えを知らせて欲しい。
- 今心配しているのは冬の雪下ろしです。時期になるとヘルメットなどの貸し出しをしようとしているが、70歳以上になると屋根に上がるのも大変になってきます。できれば上がらない方がいいのですが。業者に頼みたいが、お金もかかります。ヘルメットよりも、業者に頼む際の補助をお願いしたいのですが。高齢者になると何もかもできなくなるので、長生きはしたくないですね。
- 一人暮らし高齢者等雪下ろし雪寄せ支援事業について、期間限定であることを疑問に思います。

【12位 介護保険料】

- 年金より引かれるのはつらいです。
- 年金生活の中で高額介護保険料を納付しています。利用しなかった場合、少しでも返還してもらえたらと常に思っている。
- 介護保険料や国民健康保険料は年金から天引きになるが、いったん個人の口座に入ってから天引きするのがすじではないか。非常に不愉快である。
- 介護保険料が高い！一年間利用しない人には少しでも戻ってくるような制度がほしい。国民健康保険も同様で、1年間払うだけで使用しない人には何らかのサービスがあってもいいのではないかといつも思っている。
- お金持ちは貧乏人の介護保険料で良い介護をうけているように見えます。95歳まで生きて、一度も介護を受けないで亡くなっている人もいます。せめて、85歳以上は介護保険料を免除することも少し考えてほしい。金がなければ施設にも入れません。

【13位 相談窓口】

- 気軽に相談できるような施設・人を。民生委員ではだめ。
- 私も介護経験あります。手続きがもう少し簡単にできたらと思ったことがあります。役所に行って手続きしますが、係の方のやり取りに不安を感じたこともありました。
- 支援が必要になったときに、気後れしないで相談に行ける場がほしい。もしそういうものがあるとしたら、どこにあるかを分かるよう知らせてほしい。高齢になったら自分の要求を簡潔に上手に相手に伝えることが難しい。
- 窓口をシンプルにしてほしい。困ったことがあったら内容を問わずまずはここに、という窓口を1か所作ってほしい。そこで各分野に紹介、相談という風にはできないでしょうか。「電話してから来てください」、「担当の者が不在なので出直してください」は絶対にやめてほしい。役所に電話すると待たされ、たらいまわしにされ、最低一通話120円はかかります。
- 介護保険制度、保健福祉政策・・・自分もいつか利用するかもしれませんが。その時はありがたいと思うのですが、納入金額が大変です。元気でありがたいものです。保険福祉の方へ連絡がいきましたら、早く対応してほしい。話だけでも早く聞いてほしい。相談する本人は、我慢ができなくなったから連絡しているのですから。お年寄り全員が同じ福祉は受けられないと思います。個人個人違うのですから。その人にとって今一番必要なことを見極めるのが大事だと思います。

【13位 福祉行政（高齢者以外）】

- 一人暮らしの高齢者ですが、民生委員の方に一度も変わりありませんかと来てもらっていない。福祉協議会からの贈り物はポストの上に置いていくだけ。そのようで良いものでしょうか？私の友達は必ず顔を合わせ変わりありませんかとお話ししてくれるそうです。友達のご主人も元民生委員でしたから、それはおかしいと言ったそうです。そのような民生委員はおりません。適任者でしょうか。

- 生活保護の不正受給は絶対阻止してほしい。そして、保護世帯で働ける能力のある人は少しでも働いて汗を流してほしい。
- 一人暮らしや高齢者世帯などでひきこもりにならないよう、定期的に訪問する市の担当者がいればよいと思う。
- 介護保険は民生委員がよく家族構成をみて補助した方がいい。一人暮らしでも近くに家がないか把握しておいてもらいたい。そのために委任しているのですから、市でも考えてください。車椅子が移動手段として不足ではないか。どこに何台あるかをよく把握しておく必要がある。

【15位 その他】

- 消費税は福祉のためといっているのに、他の施策に使用されている事が残念である。
- 今後ますます高齢化が進んでいくので将来が大変そう。

【16位 地域住民の相互協力や地域活動】

- 集会所がなく、楽しむ機会がなく寂しくなる。家で閉じこもっている人も多い。部落を歩いて友達に顔を出し、「誰とも話が出来ず言葉も出てこない」と言われて本当に残念だ。婦人会、老人クラブもない。
- これからは子供の数が減って老人が増えていく世の中になっていくので、もっと住民同士でできることをお互いに何かの形で買う同していく方が良いのではないかと思います。

【17位 若年世代への施策】

- 若者の負担にならないようお願いします。年金、医療でも、年寄りだけ得して若い人たちが損をする制度は、見直しを考えてもらいたい。
- 保険福祉事業は非常に大切なことと思いますが、現実には、市及び業者もかなり難しい時と思います。若い人たちが元気のない自治体は、難しいのではないのでしょうか。老人福祉も大切ですが、横手市の場合は若い人たちが元気がでるような市政が最優先のように思います。よろしくお願いします。提案として、職員は悪者になれ、未来は拓ける、いい子だめ。

【18位 医療体制】

- 高齢者で運転免許証を返納した場合は、医者へ行くのも、買い物するのも大変ですので、高齢者世帯には、時々医師や看護師等が往診や世話に来てくれるような制度が欲しいと思っています。
- 保険福祉において、緩和ケアを専門とする医療師やホスピスの利用度を高めてほしい。

(2) 第2号被保険者(40～64歳)

介護保険制度や保健福祉施策、そして移動手手段支援施策について、95人の回答者から、計114件の要望・意見が寄せられた。

① 件数表

意見内容区分		意見数(件)
1	交通手段の確保	25
2	アンケート調査の感想	12
3	高齢者福祉	11
4	福祉行政(高齢者以外)	10
5	介護保険制度	9
6	若年世代への施策	8
7	周知や認知について	7
8	経済的負担	6
	介護保険サービス	6
10	地域住民の相互協力や地域活動	5
	行政への要望・提言	5
12	相談窓口	4
	将来不安	4
14	医療体制	1
	その他	1
計		114

② 自由意見の概要

交通手段の確保では、循環バスやデマンド交通についての改善提案や、移動手手段支援の必要性についての意見が見られた。

アンケート調査の感想では、調査の内容や調査時期に関する意見のほか、アンケート調査を通じて介護保険サービスなどについて知ることができたといった意見が見られた。

高齢者福祉では、現在市で行っているサービスや事業についての意見が見られた。

このほか、相談窓口では今後に向け改善を望む意見、医療体制では認知症の診察体制強化を望む意見が見られた。

③ 意見内容

【1位 交通手段の確保】

- 移動手段支援は、町内の在住者でリタイアした方々の厚意を借りるなどして、市民の税金はできるだけお金をかけないで行動するネットワークづくり、絆づくりが必要かと思います。
- 循環バスは、高齢者の利用時間を考えると、もう少し早い時間から運行した方が良い。
- 自宅看護をする人の立場になると、ストレッチャーで移動できる介護タクシーの数を増やしてほしいと思います。
- 移動手段支援について協力したいが、どこで誰が必要としているのかわからない。(近くで必要としている方がいれば協力したい)
- 旧横手市内は循環バスがあるが、農村部は定期バスも朝夕各1便。バスが走っていない地域もあり、運転免許を返納したら、出かけられなくなるような実情。高齢者になると待つことや計画的にデマンドを予約することが難しくなる。そのため高齢になっても返納せず、事故を起こしてしまったり、事故を起こしてからの返納だったり。地域交通は乗る人が少ないから運行便が減り、乗りたい時に乗れない。難しい問題だと思う。子供の頃から公共交通を利用する事が当たり前にならないといけないのではないだろうか？今は保育所も送迎バスがあったり、小・中学校もスクールバス。家庭では免許所持者一人一台で車があり、公共交通を利用するという考えがない実情。子供達は利用の仕方もわからないのではないかと。
- 免許返納時期を早め、事故の無い町にするため、車の自動運転システムを取り入れ、人の移動手段として実現できるよう早急に取り組んでほしい！
- 路線バスを利用したくとも本数が少ない。自分で運転する車に頼らずとも通院したり、買物に行ったりできるようにしてもらいたい。乗る人もほとんどいないままバスを運行するのは効率が悪い。スマートフォン等で利用状況を事前に登録できるようにするなどの工夫で、安定した運用ができるのではないかと。
- 免許返納が叫ばれている昨今ですが、それは交通手段の整った場所ではそれほど不自由は感じないと思いますが、離れた地域ではとても大切なことです。今まで自分の意の向くときに出かけられたのが、家の者に気をつかい、頼むにもただではすまず、自力で交通手段を利用すると高いバス料金・タクシー代を払わなければならない、年金だけでこれを賄うには大変なことだと思います。所得の高い高齢者もいますが、現実はこちらです。丸福世帯を手厚く保護しているように、市内から離れて暮らす年寄りたちにも目を向けてほしいと思っています。
- デマンド交通は利用しやすい(頼みやすい)環境づくりが必要。利用したくとも遠慮している人は多いと思う。
- 循環バスを含め、市中心部に住む人への方策は充実していると思うが、それ以外の地域に住む方については負担が大きくなっていくと思われる。デマンド交通も利用度はいかほどか。また、もう少し料金を低く設定できないか等、均衡あるサービスを考える必要があると考えている。
- 免許を返納しても移動に困らない市になっていく必要があると思います(スーパー、市役所、駅など)。
- 循環バス。バス停まで遠い。待っている間寒い、あつい。野ざらしなので待合室がほしい。
- 行政が率先して運営して頂き、その他各企業が自分の会社の社員の送迎等と併用したり、客商売している企業はその店にシャトルバスを出す等して、出かける為の足を確保してほしい。
- 移動手段支援があることは知っていたが、本当に小さな集落(2、3軒しかないような所)まで車やバスが通っているのか気になる。ポツンと1軒家みたいな場所までちゃんと支援が届いているのか…。
- 公共のバスなどが通らず、自家用車、タクシー以外の移動ができない地域には、本数は少なくとも、くまなく循環バスを通してほしい。私の住む地域は歳をとり運転ができなくなれば、買い物にも病院へも5km以上の距離があり、生活が困難になります。学校の送迎バスの日中利用の路線からも外れています。切実な問題です。宜しく願います。

【2位 アンケート調査の感想】

- 保険制度や保健福祉のことをもう少し市民に(勉強)知らせてからアンケートを取るとよいと思う。全く意味の分からないこともある。その人たちにアンケートをとってもムダだと思いますが？

- アンケートをとるより、行政の方が各地に足を運び、直接現場の声を聞いてください。アンケートの答えではない、本当に必要で大切な話が聞けると思っていますよ。
- いざ自分のこととなると難しい設問でした。自分もケガで要介護になりかけたので心配です。
- 様々な取り組みがあることに驚きました。ありがとうございます。
- 切実にいろいろなことを感じている方がたくさんいると思いますので、そういう方々にアンケートをとるべきではないでしょうか。私がアンケートを書くこと自体申し訳ない気がしてしまいました。
- 私自身介護の経験もなく、自分もまだ介護を必要としない為に、介護保険サービスについて全く分からずこのアンケートを読んで初めて知りました。これから先、親が介護が必要となった時、どうやってサービスを受けていいのかわからないのですごく不安です。
- アンケートを実際に利用されている方に配布し、無記名で返信してもらって、利用している人が何を求めているかを聞くほうが有効な気がします。想像つかない部分が多く答えづらいとも考えました。
- 年末年始の忙しい時にアンケートやめてほしい。
- まだ老後について深く考えていませんでした。
- 介護保険を利用していないので、アンケート内容を難しく感じました。

【3位 高齢者福祉】

- 食事、移動手段について最優先に考え、施策を進めてほしい！
- 高齢者に必要なのは、話相手。きっかけ。入口。すべてはそこから気付いていけるとと思います。全ての解決の糸口は、まず話す機会を増やすだと思います。具体的なことをすすめるよりも…。
- 高齢者に対してサービスするのは当然だと考えているが、65歳以上といわれるのは本当に65歳でよいのか？サービスの内容に応じて、70歳、75歳など細分化する事も必要ではないか？身体の状態は考慮しないといけないと思うが、65歳以上で高齢者で、すべての人が不便をしているとは思えない。
- 人生100年。福祉関係で格差がない社会を望みます。働けなくなり年金だけの収入に頼る、そんな老人は医療費負担増の利用は控えられてしまいます。若い世代から一律に徴収するなりして応援してもらいたいものです。ただ消費税の引き上げは福祉社会保障費だけに充てられると信じていたが、窓口負担増になる案も出ている。納得できる説明を求めたい。
- 税金を増やさず、他の無駄をなくしてやりくりしてほしい。高齢者が勝手に住みたいと思えるような、充実したサービスを受けられるようにしてほしい。色々なサービスがあることをもっとたくさんの人に知らってもらうような工夫をしてほしい。雪かきなどは地域の中学生・高校生がボランティアでやるような、そんなあたたかさがほしい。よろしくお願いします。
- お年寄りにお金を出すより、90歳まで一度も施設に入れなかった同居家族には、市から謝礼などどうでしょう？昔、母が90歳を超えた祖母を介護していて、自治体からお金をいただいたときは、認めてもらえたように受けとめ、喜んでいました。
- 健康づくり入浴サービス券はもう少し増やすことができたらいいと思います。住んでいる近くに入浴サービスを受けられる施設があると利用しやすくなると思います。十文字町にひとつほしいなと感じます。
- 利用している(高齢者福祉サービス)方々の声も聞いてみたいと思います。

【4位 福祉行政（高齢者以外）】

- 市福祉課の一般向けの健康診断は充実しているが、身体障害者や体の不自由な人は、健常者のように同じ会場で受けることが難しいと思う。車椅子生活の人や足の不自由な人も受けられる一般的な健診サービスを考えてほしい。
- 地域それぞれだと思いますが、常に住民の立場に立って社会福祉の増進に努める民生委員の方が、まったく地域の方の実態を知っていない状況を目の当たりにしました。とても残念に思いました。民生委員の方の意識向上に努めてほしい。

- 高齢福祉も充実してほしいが、障がい福祉について、もっと支援・援助をしてほしい。生まれつきか若い時に障がいをもってしまった人が、希望を持って生きていけるように、しっかりとした支援・援助をしてほしい、同居している家族の負担が少しでも緩和できるようにしてもらいたい。障がい者、もしくは同居する家族に対して、福祉サービスやこういった支援・援助があるという説明をもっとわかりやすく提案してもらいたい。家族が低所得者の場合、障がいを持ってしまった子を養っていくのは、とても大変なことで、その点に関しても生活できるように金銭的な支援もしていただきたい。
- 成人するまで医療費負担を減らす制度にしてほしい。
- 生活保護を受けながら、車を持ち、家電を揃え贅沢な生活をしている人達が地域にいる。働いているのがばからしいと思うことがある。
- 病気にならないように予防に力をいれるべき。小中高の保健室の先生に歯科衛生士の資格取得者を採用し、口腔ケア（歯の磨き方）を子供たちにたたき込み、虫歯や入れ歯にならないように指導する。※医療費がかさみすぎでは？湿布薬など出しすぎ。薬も何十種類も出しすぎ。出来高払いじゃダメです。病院での保険点数の内訳をもっと開示するべき。

【5位 介護保険制度】

- 私の勝手な思いではありますが、スウェーデンのように、75歳以上になったら全員が施設に入り、すべて年金も含むそちらで対応するような税金のとりかたや納め方があれば、若い人も安心して働けて税金も納めてくれればいいのかと思います。
- チェック体制。サービス維持による負担が増えるのなら、第三者による適正なサービスのチェックもしっかりしてほしい。
- 昨年初めて介護保険を利用しました。緊急に、必要にせまられ、迅速に対応して頂いて感謝しております。とても貴重な制度だなあと実感致しました。自分自身は元気な年寄りを目指して生活していきたいと思っております。
- 介護保険の内容がわかりにくい。もっと誰でもわかるようなシンプルな内容にしてほしい。見直しはこれからはあまり必要ではなく、むしろ、ムダをカットして、効率のよいサービスにつながるよう、一般の人もすぐ理解できるようなシンプルな制度にしてほしい。今、現在の現場に合った制度にしてほしい。
- 介護者が(家族)17年前に亡くなってから、あまり社会福祉の様子はわからないのですが、デイサービス週1回や施設への何日かの泊まりなど、また、入浴車サービスなど利用させてもらいました。今頃は①家庭でケアマネージャーを通して計画をたててもらい、サービスを受けて家にいて家族と共に生活する場合と、②会社員や仕事関係で「介護者を施設に入れることにした」と話す家庭が多い。できれば私は家族の見守りの中、社会のサービスを受けて老後を過ごしたい。

【6位 若年世代への施策】

- 今後の増税や介護サービスの低下など、近い将来でさえ心配である。しかしながら若い人たちにしわ寄せがいくことが心配。子供たちが安心して大人になれる社会が大事とも思う。
- 年金をきちんと受給している高齢者を支えるために、将来ちゃんと年金がもらえるかわからない世代がさらに負担を負うのは納得がいかない。すべての世代が幸せ、安心して生活できる市政をしてください。
- 今現在介護保険を使っている人の多くは、たくさんの年金をいただいている方がいる世代です。たくさん収入のある方にはもっと自己負担をお願いしても良いと思います。その分、所得の少ない方や子供たちに恵みのある制度になってほしいと思います。
- 働く世代の負担が重くならないよう、高齢者福祉サービスはある程度の水準に止めるべき。
- 若者の就職支援をしてから、高齢者サービスを行ってほしいです。

【7位 周知や認知について】

- 今はまだ必要ではないか、やがてその年代になる。全く知識がないので、どうやって内容を知ればいいのか考えた。勉強しなくてはと思った。(アンケートを通して感じた。)

- アンケートに答えながら、自分が全く内容を知らないことに驚きました。まだ介護というものに実感がないため、いざという時にどうしたらよいか、考えさせられました。高齢ふれあい課というものすら、初めて目にしました。身近に感じて勉強できるようにできたら良いと思います。
- 介護保険や介護施設、その他福祉に関する支援など、全く知らないことに気が付きました。これから、どんどん歳をとっていきばかりなので、もっと積極的に知る努力をしなければならぬと思いました。まず、自分と家族でできることをし、難しい時には公的支援も選択できるように、関心をもつことにします。地域の方にも声掛けなど、できるお手伝いをしていこうと思います。
- 認識不足で申し訳ありませんが、的確に回答することができなかつたように思います。
- 今までに介護保険を利用しようとした事が無いため、想像で記入するしかなく、その立場になった時には別の答えがでそうです。

【8位 経済的負担】

- 特養は待機している人が多く、ショートステイの施設をロングで利用しているが、費用が高く家族の負担が大きすぎる。家では介護できないため利用しているが、このまま続くと家計が破綻しそうだ。
- 介護保険料の負担額が多すぎると思う。(収入・年金の割に負担が多すぎる)行政サービスの内容がよくわからない。
- 今は健康で介護の実感がありませんが、介護保険が高いイメージで、実際使っていない方も多いと思います。その都度、お金を払って利用できればと思います。
- 介護保険料が高すぎる
- 施設に入ると費用の問題。年金は2か月に1回だが、費用は毎日かかる。年金のない月は自分たちの中でかなり節約してと思うが、本当に毎日毎日大変。考えさせられることがいっぱいだ。

【8位 介護保険サービス】

- 現在の75歳以上に介護サービスが必要で予算を多くとらなければいけないのは仕方ありませんが、健康であるためのサービスの充実が必要だと思います。
- 自分はまだ50代なので、今の福祉状況が分かりませんが、自分の将来のことを考えると①雪よせ②身体状況によるが、一人暮らしの心配がある。だから、①安い金額でやってくれること。②老人施設を増やし年金で入れるようにしてほしい、と思っています。
- 介護施設で働いています。ご自宅で介護される方の力になるサービスが多くなるとよいと思います。
- さまざまなサービスが、一人暮らしや高齢者のみ世帯などに限られていることが多いが、同居していても仕事の都合で介護できないこともあるので、門戸が広がるとよいと思う。しかしそれでは利用者が増える一方で、十分なサービス提供につながらなくなるのかも…
- 介護サービスを受けているが、訪問介護もうけないと、とのことで頼んでいる。しかしサービス内容に疑問を感じることもある。内容が薄いサービスを受け、本人負担は安いものの、国からの支払い分が高額なので、どんなものかと思う(税金の無駄)。事業の妥当性確認はしているのかと…。時間もルーズだ。

【10位 地域住民の相互協力や地域活動】

- 町内会のコミュニケーションを密にすること、思いやりの声掛け運動は、どの町内にも必要と思います。高齢者の動ける環境づくり、自立支援の場・機会を作っていただければ、保健福祉行政の方々も仕事が楽になると思います。
- 制度や施策にはみんなお世話になっていると思いますし、ありがたいことですが…近所の人たちがどうかというと、他人には頼りたくないし、頼れない。人それぞれの事情もありますし。今回のアンケートで近所との関わり度合いを知りたいようでしたが、近所＝他人なので、助けてもらえるとは思っていないし、自分も助けることはできないので、子どもや身内のない人は行政に頼るしかありません。

- 地域のコミュニティは圧倒的なスピードで活力が失われている。それは単に少子高齢化の問題の範疇にとどまらず、これまで当たり前でできていたことが地域として「できなくなる」または「歯を食いしばって頑張っ、ようやくできている」状況に陥る時が目前に迫っている。制度政策の確立を待っているのは限界集落が増加するばかり。今こそ市内市外の居住にかかわらず団塊の世代のマンパワー（知恵・熱意・経験）をフル活用して、我が横手市が全国の消滅可能性都市の範たる街になってもらいたい。

【10位 行政への要望・提言】

- 少子高齢化の対策として重要なのは、少しでも若い世代が安心して生活を送り、子育てしやすい環境を整えること。今後増加する高齢者対策に財政を投入しすぎるとその先の未来も成り立たなくなる。30～50年後のことを考えた長期的な視点が大切。
- 余り必要性のないものや、税金のむだと思われるものなどは、今後徹底して見直していくべきだと思う。地域も大切だが、住民同士の支えあいには限界がある。信頼関係も必要になってくる。雇用年齢も延びている現在、体力ともに自分たちのことで精一杯である。時代と共にますます世代の考え方も異なっていくのではないかと？家族の在り方も多種多様に変化している今、長い目で考えれば、行政や福祉のサービスを今以上に利用する人が増えると思うし、また充実させるべきである。

【12位 相談窓口】

- 相談が窓口に行かなくても電話などで気軽にできるようにしてもらいたい。市報などに明記してほしい。
- もう少し介護保険世帯の意見を聞いてくれる所があったほうが良い。

【12位 将来不安】

- 近い将来、自分にふりかかってくる事を考えると、とても不安になる事はある。確実に福祉サービスに頼らざるをえないから。同居する家族もいなくなると、手続き等教えてくれる人を誰に頼んだらよいのか？とか、主要道路から離れているので、交通手段や買い物等どうしたらよいのか？除雪は？心配ごとはいっぱいですが、ご近所さんのコミュニケーションは大事かと常々思っています。
- 今後ますます高齢化が加速し、対応が後手後手になると思う。若い世代への負担など、どの年代にも負担が大きく、将来が不安でしかたない。対策をいち早く取り入れたいが、考えがまとまらず、各人自分のことは自分でできるよう努力・継続が一番把握の対応策と思っている。
- 私達の年金も心配です。これからどうなるのでしょうか？不安だらけです。

【14位 医療体制】

- 認知症になった時に医師または病院に専門医がいない。特に平鹿病院は入院もできなかった。秋田市から来る医師が1か月に一度診察してくれるが、大変さを訴えても次はまた1か月後。施設を利用したくても穏やかに過ごせない認知症の人はやんわりお断りされる。介護も医療も都会より質が落ちるのは人口の割合から仕方ないことなのかとあきらめている。

【14位 その他】

- 父の介護が始まって半年、まだ不足がわからない。まして、自分のことはまだ考えられない。

2. 調査票

(1) 第1号被保険者

高齢者の健康と福祉に関するアンケート調査

市民のみなさまへ（お願い）

このアンケート調査は、65歳以上の方を対象に、健康や高齢者福祉、介護保険制度についての意識、ご希望などをおうかがいし、「どこに」「どのような支援を必要としている人が」「どのくらい生活しているか」を把握するために行うものです。

調査結果は、令和3年（2021年）度から3年間の、新しい介護保険と高齢者福祉の計画を作るため、大切な基礎資料となります。

質問が大変多くなっておりますが、趣旨をご理解いただき、アンケート調査にご協力いただきますようお願いいたします。

令和元年12月

横手市長 高橋 大

【記入上のご注意】

- ◎ 封筒のあて名のご本人について記入してください。（代筆でもかまいません）
- ◎ 調査の基準日は令和元年（2019年）12月1日です。
- ◎ 65歳以上の方のうち、無作為に抽出した方（4,000人）を対象としています。（ただし、介護保険の要介護認定で「要介護1」以上の方を除く）
- ◎ 記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れて、1月6日（月曜日）までに郵便ポストに投函してください。切手はいりません。
- ◎ この調査は、効果的な介護予防政策の立案と効果評価のために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、市町村による介護保険事業計画策定の目的以外には利用いたしません。また当該情報については、市町村内で適切に管理いたします。

記 入 日	令 和	年	月	日
調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。				
1. あて名のご本人が記入				
2. ご家族が記入（あて名のご本人からみた続柄）				
3. その他				

〈お問い合わせ先〉

横手市市民福祉部 高齢ふれあい課 ☎ 0182-35-2134（直通）

受付時間：午前8時30分～午後5時15分 月～金曜日（祝日等を除く）

※年末年始の令和元年12月28日（土）～令和2年1月5日（日）は閉庁のため、郵送での受付のみとなります。

問1 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成をお教えてください

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 1人暮らし | 2. 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上) |
| 3. 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下) | 4. 息子・娘との2世帯 |
| 5. その他 | |

(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

1. 介護・介助は必要ない 2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
3. 現在、何らかの介護を受けている
(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)

【(2)において「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ】

①介護・介助が必要になった主な原因はなんですか(いくつでも)

- | | | |
|--|--|---|
| 1. 脳卒中 <small>(<small>のうそっちゅう</small> 脳出血・<small>のうしゅつけつ</small> 脳梗塞等)</small> | 2. 心臓病 | 3. がん(悪性新生物) |
| 4. 呼吸器の病気 <small>(<small>はいきしゅ</small> 肺気腫・肺炎等)</small> | 5. 関節の病気(リウマチ等) | |
| 6. 認知症 <small>(<small>にんちしょう</small> アルツハイマー病等)</small> | 7. パーキンソン病 | 8. 糖尿病 <small>(<small>とうにようびょう</small>)</small> |
| 9. 腎疾患 <small>(<small>じんしつかん</small> 透析)</small> | 10. 視覚・聴覚障害 <small>(<small>しかく</small> ちょうかくしょうがい)</small> | 11. 骨折・転倒 <small>(<small>こっせつ</small> てんどう)</small> |
| 12. 脊椎損傷 <small>(<small>せきついそんしょう</small>)</small> | 13. 高齢による衰弱 <small>(<small>すいじゃく</small>)</small> | 14. その他() |
| 15. 不明 | | |

【(2)において「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ】

②主にどなたの介護、介助を受けていますか(いくつでも)

- | | | |
|----------------|-----------|----------|
| 1. 配偶者(夫・妻) | 2. 息子 | 3. 娘 |
| 4. 子の配偶者 | 5. 孫 | 6. 兄弟・姉妹 |
| 7. 介護サービスのヘルパー | 8. その他() | |

(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

- | | | |
|-------------|-------------|--------|
| 1. 大変苦しい | 2. やや苦しい | 3. ふつう |
| 4. ややゆとりがある | 5. 大変ゆとりがある | |

問2 からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(3) 15分位続けて歩いていますか

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか

1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない

(5) 転倒に対する不安は大きいですか

1. とても不安である 2. やや不安である
3. あまり不安でない 4. 不安でない

(6) 週に1回以上は外出していますか

1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2~4回 4. 週5回以上

(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか

1. とても減っている 2. 減っている 3. あまり減っていない 4. 減っていない

(8) 外出を控えていますか

1. はい 2. いいえ

【(8)で「1. はい」(外出を控えている)の方のみ】

(9) 外出を控えている理由は、次のどれですか(いくつでも)

1. 病気 2. 障害しょうがい のうそっちゅう こういしょう(脳卒中の後遺症など) 3. 足腰などの痛み
4. トイレの心配(失禁など) 5. 耳の障害(聞こえの問題など) 6. 目の障害
7. 外での楽しみがない 8. 経済的に出られない 9. 交通手段がない
10. その他()

(10) 外出する際の移動手段は何ですか (いくつでも)

- | | | |
|-----------------|-------------------|--------|
| 1. 徒歩 | 2. 自転車 | 3. バイク |
| 4. 自動車 (自分で運転) | 5. 自動車 (人に乗せてもらう) | 6. 電車 |
| 7. 路線バス | 8. 病院や施設のバス | 9. 車いす |
| 10. 電動車いす (カート) | 11. 歩行器・シルバーカー | |
| 12. タクシー | 13. その他 () | |

(11) 今後の移動手段について(現在の予定で結構です)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. 自家用車の運転 | 2. 誰かに乗せてもらいたい |
| 3. 公共交通全般利用 | 4. その他 () |

問3 食べることについて**(1) 身長・体重**

身長 cm 体重 kg

(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

(3) お茶や汁物等でむせることがありますか

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

(4) 口の渇きが気になりますか

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

(5) 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

**(6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください
(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて 32 本です)**

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. 自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用 | 2. 自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし |
| 3. 自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用 | 4. 自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なし |

(7) どなたかと食事をとにもする機会がありますか

1. 毎日ある 2. 週に何度かある 3. 月に何度かある
4. 年に何度かある 5. ほとんどない

問4 毎日の生活について**(1) 物忘れが多いと感じますか**

1. はい 2. いいえ

(2) バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(3) 自分で食品・日用品の買物をしていますか

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(4) 自分で食事の用意をしていますか

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(5) 自分で請求書の支払いをしていますか

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(6) 自分で預貯金の出し入れをしていますか

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(7) 新聞を読んでいますか

1. はい 2. いいえ

(8) 本や雑誌を読んでいますか

1. はい 2. いいえ

(9) 健康についての記事や番組に関心がありますか

1. はい 2. いいえ

(10) 友人の家を訪ねていますか

1. はい

2. いいえ

(11) 家族や友人の相談にのっていますか

1. はい

2. いいえ

(12) 若い人に自分から話しかけることがありますか

1. はい

2. いいえ

(13) 趣味はありますか

1. 趣味あり → ()

2. 思いつかない

(14) 生きがいがありますか

1. 生きがいあり → ()

2. 思いつかない

問5 地域での活動について

(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか
※① - ⑧それぞれに回答してください

	週4回 以上	週2 ～3回	週1回	月1 ～3回	年に数回	参加して いない
①ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
②スポーツ関係のグループ やクラブ	1	2	3	4	5	6
③趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤健康の駅、いきいきサロ ンなど介護予防のための 通いの場	1	2	3	4	5	6
⑥老人クラブ	1	2	3	4	5	6
⑦町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑧収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない 4. 既に参加している

(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない 4. 既に参加している

問6

たすけあいについて

あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします

(1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(いくつでも)

- | | | |
|----------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. その他() | 8. そのような人はいない | |

(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(いくつでも)

- | | | |
|----------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. その他() | 8. そのような人はいない | |

(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)

- | | | |
|----------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. その他() | 8. そのような人はいない | |

(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人(いくつでも)

- | | | |
|----------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. その他() | 8. そのような人はいない | |

(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。(いくつでも)

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 自治会・町内会・老人クラブ | 2. 社会福祉協議会・民生委員 |
| 3. ケアマネジャー | 4. 医師・歯科医師・看護師 |
| 5. 地域包括支援センター・役所・役場 | 6. その他 |
| 7. そのような人はいない | |

(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. 毎日ある | 2. 週に何度かある | 3. 月に何度かある |
| 4. 年に何度かある | 5. ほとんどない | |

(7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。
同じ人には何度会っても1人と数えることとします。

1. 0人 (いない) 2. 1～2人 3. 3～5人
4. 6～9人 5. 10人以上

(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(いくつでも)

1. 近所・同じ地域の人 2. 幼なじみ 3. 学生時代の友人
4. 仕事での同僚・元同僚 5. 趣味や関心が同じ友人
6. ボランティア等の活動での友人 7. その他 8. いない

問7 健康について

(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか

1. とてもよい 2. まあよい 3. あまりよくない 4. よくない

(2) あなたは、現在どの程度幸せですか
(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

とても 不幸												とても 幸せ
0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点		

(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

1. はい 2. いいえ

(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

1. はい 2. いいえ

(5) お酒は飲みますか

1. ほぼ毎日飲む 2. 時々飲む
3. ほとんど飲まない 4. もともと飲まない

(6) タバコは吸っていますか

1. ほぼ毎日吸っている 2. 時々吸っている
3. 吸っていたがやめた 4. もともと吸っていない

このページ以降は、横手市独自の調査項目です。

問9 相談ごと・情報・災害対応について

(1) 地震など災害が発生した場合、緊急の情報を得る方法（いくつでも）

- | | | |
|---------------|-------------|---------|
| 1. テレビ | 2. 横手市防災ラジオ | 3. ラジオ |
| 4. 民生委員など近所の方 | 5. 防災無線 | 6. 家族 |
| 7. インターネット | 8. 携帯電話・スマホ | 9. 特にない |
| 10. その他（ ） | | |

(2) 地震などの災害が発生した場合、誰に連絡を取りますか (最も可能性の高い項目1つに○)

- | | | |
|-----------|---------|------------------|
| 1. 家族 | 2. 近所の方 | 3. 勤務先や利用施設の職員など |
| 4. だれもいない | | |
| 5. その他（ ） | | |

(3) (2)のことを知っている方はどなたですか（いくつでも）

- | | | |
|----------------|-----------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近所の方 | 6. 友人 |
| 7. そのような人はいない | | |
| 8. その他（ ） | | |

(4) 地域の避難場所をご存知ですか

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

(5) 自宅の雪よせは、主に誰が行っていますか（1つに○）

- | | | | |
|------------|----------|---------|-------------------|
| 1. 自分 | 2. 家族・親族 | 3. 近所の方 | 4. 市の支援事業に登録した事業者 |
| 5. 4以外の事業者 | | | |
| 6. その他（ ） | | | |

(6) 自宅の雪下ろしは、主に誰が行っていますか（1つに○）

- | | | | |
|------------|----------|---------|-------------------|
| 1. 自分 | 2. 家族・親族 | 3. 近所の方 | 4. 市の支援事業に登録した事業者 |
| 5. 4以外の事業者 | | | |
| 6. その他（ ） | | | |

問 12 市のサービス・施策について

(1) 市で行っている下記サービスについて、地域の社会や経済状態からみて妥当であると感じますか。

サービス・事業	そう思う	どちらかという そう思う	どちらかという そう思わない	そう思わない
敬老会 (75歳以上の方を対象に長寿を祝う会を実施します)	1	2	3	4
長寿祝い金 (長寿をお祝いし、100歳に達した方に10万円、88歳に達した方に1万円を金券で贈呈します。)	1	2	3	4
はり・きゅう・マッサージ施術費助成事業 (市登録の施術所で利用できる施術券を65歳以上の方に交付します。)	1	2	3	4
健康づくり入浴サービス券支給事業 (市登録の入浴施設で利用できるサービス券を65歳以上の方に交付します。)	1	2	3	4
配食サービス (おおむね65歳以上の一人暮らしの高齢者または高齢者のみの世帯などへ夕食を提供し、安否確認を行います)	1	2	3	4
移動手段支援事業 (乗合タクシーなどのデマンド交通を利用した移動の支援を行います)	1	2	3	4
介護用品支給券支給事業 (要介護3以上に認定された横手市在中の高齢者を介護する家族に対し支給券を交付します。)	1	2	3	4
緊急時あんしんボタン配布事業 (一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯などに緊急時の連絡先を記載する情報用紙と保管容器を配布し、それをわかりやすい所に設置することで、迅速な対応を図ります。)	1	2	3	4

(2) 市で行っている下記サービスについて、重要度と認知度をお聞きします。							
サービス・事業	重要度				認知度		
	非常に重要である	重要である	あまり重要でない	全く重要ではない	知っている	聞いたことがあるが よく知らない	聞いたこともなく 知らない
移動手段支援事業 (乗合タクシーなどのデマンド交通を利用した移動の支援を行います)	1	2	3	4	1	2	3
緊急通報・ふれあい安心電話システム推進事業 (一人暮らしの高齢者や高齢者のみ世帯などを対象に操作の容易な通報装置を貸与し、緊急時に対応をします)	1	2	3	4	1	2	3
一人暮らし高齢者等雪下ろし雪寄せ支援事業 (非課税世帯で、65歳以上の一人暮らしの高齢者または高齢者のみの世帯が住む住宅の雪寄せ、雪下ろしを支援します)	1	2	3	4	1	2	3
買い物支援事業 (「横の手」店情報誌による配達などのサポートがあるお店の紹介をします。)	1	2	3	4	1	2	3
移送サービス事業 (主に要介護4、5で、介護タクシーなどの一般の交通機関の利用が困難な方に対し、支援します)	1	2	3	4	1	2	3
成年後見制度等利用支援事業 (成年後見制度を利用している低所得の高齢者へ経費等を支援します)	1	2	3	4	1	2	3
中学生と高齢者の絆を深める取組提案 (中学生やその家族に対し考える機会、地域のつながりの大切さについて啓発する事業です)	1	2	3	4	1	2	3

(3) 市では地域の支えあい活動を推進しています。下記の地域の支えあい活動を行うにあたって必要だと思うことはなんですか。

サービス・事業	活動についての 情報提供	活動に関する相談・ 助言などの支援	活動の担い手の 育成	活動の場所の提供	活動の立ち上げ 支援
老人クラブの活動への補助・支援	1	2	3	4	5
住民主体による生活支援の検討と実施	1	2	3	4	5
認知症に関する相談の場	1	2	3	4	5
住民によるたすけあいの場	1	2	3	4	5
住民主体による集いの場	1	2	3	4	5

(4) 少子高齢化の進展に伴い、高齢福祉サービスを維持・充実させるためには相応の経費が必要となり、税金など市民の負担増も考えられます。このことについてどう思いますか。(あなたの考えに最も近いもの1つに○)

1. 負担がふえてもいいから、今以上の高齢者福祉サービスを実施すべきだ
2. ある程度の負担増はやむを得ないが、高齢者福祉サービスを受ける人が、収入等に応じて利用料などを負担すべきだ
3. 負担が増えすぎないように、他の施策よりも優先して、高齢者福祉サービスを充実すべきだ
4. 働く世代の負担が重くならないよう、高齢者福祉サービスはある程度の水準に止めるべきだ
5. 今後の永続的な社会の為に、高齢者福祉サービスは縮小させ、その分を未来投資へ振り向けるべきだ
6. 現状のままがいい
7. その他 ()

(5) 地域で行政や民間の福祉サービスに頼らずに住民同士が支えあって生活していると感じていますか。

1. そう感じる
2. どちらかといえばそう感じる
3. どちらかといえばそう感じない
4. そう感じない

★ 最後に、介護保険制度や保健福祉施策、そして移動手段支援施策について、ご要望・ご意見などございましたらご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力誠にありがとうございました。

(2) 第2号被保険者

【40歳以上65歳未満の方】

健康と福祉に関するアンケート調査

市民のみなさまへ（お願い）

このアンケート調査は、40歳以上65歳未満の方を対象に、健康や高齢者福祉、介護保険制度についての意識、ご希望などをおうかがいするものです。

調査結果は、令和3年（2021年）度から3年間の、新しい介護保険と高齢者福祉の計画を作るため、大切な基礎資料となります。

つきましては、この趣旨をご理解いただき、アンケート調査にご協力いただきますようお願いいたします。

令和元年12月

横手市長 高橋 大

- ◎ 封筒のあて名のご本人について記入してください。
- ◎ 調査の基準日は令和元年（2019年）12月1日です。
- ◎ 40歳以上65歳未満の方のうち、無作為に抽出した方（1,000人）を対象としています。
- ◎ 記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れて、1月6日（月曜日）までに郵便ポストに投函してください。切手はいりません。
- ◎ この調査は無記名で、調査内容を統計的に処理します。

記 入 日	令 和 年 月 日
調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。	
1. あて名のご本人が記入	
2. ご家族が記入（あて名のご本人からみた続柄）	
3. その他	

〈お問い合わせ先〉

横手市市民福祉部 高齢ふれあい課  **0182-35-2134（直通）**

受付時間：午前8時30分～午後5時15分 月～金曜日（祝日等を除く）

※年末年始の令和元年12月28日（土）～令和2年1月5日（日）は閉庁のため、郵送での受付のみとなります。

問 1 お住まいと世帯などについて

(1) あなたの就労状況についておたずねします。(1つに○)

- | | |
|-------------|------------------|
| 1 正社員(常用雇用) | 2 パート、アルバイト、臨時雇用 |
| 3 派遣労働 | 4 自営業 |
| 5 その他() | 6 仕事はしていない |

(2) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じますか。(1つに○)

- | | |
|------------|------------|
| 1 大変苦しい | 2 やや苦しい |
| 3 ふつう | 4 ややゆとりがある |
| 5 大変ゆとりがある | |

(3) あなたの世帯の状況についておたずねします。(1つに○)

- | | |
|---------------|-------------|
| 1 ひとり暮らし | 2 あなたと親・祖父母 |
| 3 あなた夫婦と親・祖父母 | 4 あなた夫婦のみ |
| 5 その他 | |

例)「あなた」と「あなたの祖母」の2人暮らしの場合は、「2」を選んでください。

※「1」～「4」にあてはまらない場合は、すべて「5 その他」を選んでください。

(4) 今後、外出のために充実してほしいものは何ですか。

(あてはまる項目すべてに○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 横手デマンド交通 | 2 循環バス(横手地域) |
| 3 電車 | 4 路線バス |
| 5 タクシー | 6 介護タクシー |
| 7 自動車が通行しやすい道路 | 8 自転車が安全に通行できる道路 |
| 9 歩行者が安全に通行できる道路 | 10 その他() |

問 2 健康・医療について

(1) ご自分は健康だと思いますか。(1つに○)

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 とても健康だと思う | 2 まあまあ健康だと思う |
| 3 あまり健康ではないと思う | 4 健康ではないと思う |

(6) 毎日の生活の様子についておたずねします。
(下記のア～キについて、それぞれあてはまる項目のどちらかに○)

ア	週に1回は仕事以外で外出している。	1 はい	2 いいえ
イ	1年前に比べて外出の回数が減った。	1 はい	2 いいえ
ウ	最近、毎日の生活に充実感がない。	1 はい	2 いいえ
エ	最近、これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった。	1 はい	2 いいえ
オ	最近、以前楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる。	1 はい	2 いいえ
カ	最近、自分が役に立つ人間だと思えない。	1 はい	2 いいえ
キ	最近、わけもなく疲れたような感じがする。	1 はい	2 いいえ

(7) あなたが在宅で医療を受けることとなった場合、特に心配に思う事に○を記入してください
(いくつでも)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 訪問で受けることができる医療の内容 | 2 訪問をしてくれる医師・看護師の体制 |
| 3 急に病状が変わった時の対応 | 4 看護による生活、身体の変化 |
| 5 他の家族の理解・協力を得られるか。 | 6 療養できる部屋などの居住環境 |
| 7 その他 () | |

問3 介護保険について

(1) 同居の家族の介護経験についておたずねします。(1つに○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 現在、介護が必要な家族がいる | 2 以前、介護が必要な家族がいた |
| 3 家族介護の経験はない | |

(2) 同居していない家族の介護経験についておたずねします。(1つに○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 現在、介護が必要な家族がいる | 2 以前、介護が必要な家族がいた |
| 3 家族介護の経験はない | |

(3) 介護保険で利用できるサービスの種類や内容を知っていますか。

(1つに○)

- | | |
|-----------|---------------|
| 1 よく知っている | 2 ある程度なら知っている |
| 3 あまり知らない | 4 まったく知らない |

(4) 介護保険制度について、次のことを知っていますか。

(下記のア～オについて、それぞれあてはまる項目のどちらかに○)

ア	原則として40歳以上の方全員が加入し、40～64歳の方は、医療(健康)保険料と一緒に介護保険料を納める。	1 はい	2 いいえ
イ	65歳以上の方の介護保険料は、地域の状況に応じて市町村ごとに決められ、3年に1度見直される。	1 はい	2 いいえ
ウ	介護保険のサービスを利用するには、まず市役所の窓口申請し、介護の必要度について認定を受ける。	1 はい	2 いいえ
エ	自宅でサービスを利用する場合、「ケアマネジャー」が適切なサービスの利用を支援してくれる。	1 はい	2 いいえ
オ	サービスを利用したときは、かかった費用の1割又は2割、3割を利用者が負担し、残りは介護保険から給付される。	1 はい	2 いいえ

(5) 負担(介護保険料)と給付(介護保険サービス)の関係について、あなたのお考えに最も近い項目1つに○をつけてください。

- 1 保険料が高くても、利用できるサービスが充実している方がよい
- 2 保険料もサービス水準も中程度でよい
- 3 利用できるサービスを抑制しても、保険料は安い方がよい
- 4 その他 ()

(6) あなたは、ご自分に介護が必要な状態になったとき、どのような介護を受けたいと思いますか。

(1つに○)

- 1 主に家族の介護を受けながら、自宅で生活したい
- 2 主に介護サービスを利用しながら、自宅で生活したい
- 3 介護が受けられる施設や住宅で生活したい
- 4 その他 ()
- 5 わからない

(7) あなたは、ご家族に介護が必要な状態になったとき、どのようにしてあげたいと思いますか。
(1つに○)

- 1 主に家族の介護を受けながら、自宅で生活させたい
- 2 主に介護サービスを利用しながら、自宅で生活させたい
- 3 介護が受けられる施設や住宅で生活させたい
- 4 その他 ()
- 5 わからない

(8) 地域の医療や介護のサービスについてどう感じていますか。
①～⑧それぞれについて最も近い項目1つに○をつけてください。
※ サービスの利用をしたことがない方は、周りの様子から感じたことをお知らせください。

	多すぎる	足りている	どちらとも いえない	足りていない	少なすぎる
①訪問を受けて利用する介護サービス (ヘルパーなどによる訪問介護・入浴車等)	1	2	3	4	5
②訪問を受けて利用する往診、訪問看護、訪問リハビリなどの医療系サービス	1	2	3	4	5
③通って利用するデイサービスなどの介護サービス	1	2	3	4	5
④通って利用する通所リハビリなどの医療系サービス	1	2	3	4	5
⑤短期間泊まって利用するショートステイなどの介護サービス	1	2	3	4	5
⑥短期間泊まってリハビリなどを行う医療系サービス	1	2	3	4	5
⑦病院などの医療機関	1	2	3	4	5
⑧介護を受けながら生活できる施設	1	2	3	4	5

問4 相談ごと・災害対応について

(1) あなたは、何かあった時、誰に相談しますか。(あてはまる項目すべてに○)

- | | | |
|-----------|------------|--------|
| 1 家族・親族 | 2 友人・知人 | 3 近所の方 |
| 4 市役所の窓口 | 5 ケアマネジャー | 6 民生委員 |
| 7 その他 () | 8 相談相手がいない | |

(2) ご家族が認知症と疑われるようになった場合、相談できる公的窓口をご存知ですか
(ご存じのものすべてに○)

- | | |
|-----------|--------------|
| 1 市役所の窓口 | 2 地域包括支援センター |
| 3 社会福祉協議会 | 4 在宅介護支援センター |
| 5 ケアマネジャー | 6 その他 () |

(3) 地域の避難場所をご存知ですか。(1つに○)

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

(4) 地震などの災害が発生した場合、誰に連絡を取りますか。
(最も可能性の高い項目1つに○)

- | | |
|---------|-----------|
| 1 家族 | 2 友人 |
| 3 近所の方 | 4 勤務先の方 |
| 5 誰もいない | 6 その他 () |

(5) (4) のことを知っている方はどなたですか。
(いくつでも○)

- | | |
|---------|-----------|
| 1 家族 | 2 友人 |
| 3 近所の方 | 4 勤務先の方 |
| 5 誰もいない | 6 その他 () |

問5 地域の支え合い・日常生活支援について

(1) 地域で支えあいの輪を広げるために、何が必要だと思いますか。

(あてはまる項目すべてに○)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 気軽に集える交流の場 | 2 支援を提供するための資金 |
| 3 中心的役割を担う人材の確保 | 4 活動継続のための仲間づくり |
| 5 地域で支えあうための意識啓発 | 6 その他 () |

(2) あなたが日常生活に困ったとき、地域や近所の方からどのようなことをしてほしいと思いますか。(あてはまる項目すべてに○)

- | | |
|-----------|---------------|
| 1 見守り・声かけ | 2 話(相談)相手 |
| 3 買い物 | 4 雪寄せ・雪下ろし |
| 5 ゴミだし | 6 室内の掃除 |
| 7 食事への支援 | 8 通院や外出の付き添い |
| 9 その他 () | 10 してほしいことはない |

(3) 日常生活に困っている地域や近所の方に対して、あなたはどのようなことができると思いますか。(あてはまる項目すべてに○)

- | | |
|-----------|-------------------|
| 1 見守り・声かけ | 2 話(相談)相手 |
| 3 買い物 | 4 雪寄せ・雪下ろし |
| 5 ゴミだし | 6 室内の掃除 |
| 7 食事への支援 | 8 通院や外出の付き添い |
| 9 その他 () | 10 何もできない、何もしたくない |

(4) 町内会や自治会では、除雪についてどのような取り組みをしていますか。

(あてはまる項目すべてに○)

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1 一斉除雪デーの実施 | 2 近所の一人暮らし高齢者等の除雪 |
| 3 地域の集落会館等の除雪 | 4 地域の生活道路の除雪 |
| 5 その他 () | 6 していない |
| 7 わからない | |

(5) 近所で除雪に困っている高齢者世帯等があった場合、協力・手助けをしたいと思いますか。(1つに○)

- | | | |
|---------|---------------|----------|
| 1 協力したい | 2 余裕があれば協力したい | 3 協力できない |
|---------|---------------|----------|

問 6 食事の準備と食生活について

(1) 自宅で食事の準備をすることにおいて、重視することはなんですか。

(あてはまる項目すべてに○)

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 栄養バランス | 2 味 |
| 3 値段 | 4 メニューを選択できること |
| 5 健康・身体状況に配慮した食事 | 6 その他 () |

(2) 出前や弁当などを利用する場合、重視することはなんですか。

(あてはまる項目すべてに○)

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 栄養バランス | 2 味 |
| 3 値段 | 4 メニューを選択できること |
| 5 健康・身体状況に配慮した食事 | 6 その他 () |

※ 次の問(3)から(8)までは、将来あなたが高齢や身体の不調などにより、自力で食事の準備が困難になった場合のことを想定してお答えください。

(3) 食事の準備が困難になったときに、どのような対応をしたいと思いますか。

(あてはまる項目すべてに○)

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1 飲食店からの出前 | 2 市販の弁当を購入 |
| 3 宅配弁当の利用 | 4 調理等に関するヘルパーの利用 |
| 5 近所・知人・親戚などへ支援を求める | 6 その他 () |

(4) 出前や弁当などを利用する場合、週に何日まで利用したいですか。(1つに○)

- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| 1 1日～2日 | 2 3日～4日 | 3 5日～6日 | 4 7日(毎日) |
|---------|---------|---------|----------|

(5) 出前や弁当などを利用する場合、どの時間帯に利用したいですか。

(あてはまる項目すべてに○)

- | | | | |
|-----|-----|-----|-----------|
| 1 朝 | 2 昼 | 3 晩 | 4 その他 () |
|-----|-----|-----|-----------|

(6) 自宅で食事の準備をすることにおいて、重視することはなんですか。

(あてはまる項目すべてに○)

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 栄養バランス | 2 味 |
| 3 値段 | 4 メニューを選択できること |
| 5 健康・身体状況に配慮した食事 | 6 その他 () |

(7) 出前や弁当などを利用する場合、重視することはなんですか。

(あてはまる項目すべてに○)

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 栄養バランス | 2 味 |
| 3 値段 | 4 メニューを選択できること |
| 5 健康・身体状況に配慮した食事 | 6 その他 () |

(8) 配食サービスを利用することになった場合、1食につき料金の負担はいくらまでと考えますか。

一食につき _____ 円

問7 生きがいや社会参加の状況について

(1) あなたは、現在、仕事以外でどのようなことに時間を多く使っていますか。

(あてはまる項目すべてに○)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 家事・育児 | 2 介護 |
| 3 家族と一緒に過ごすこと | 4 一人で自由に過ごすこと |
| 5 同好会やサークル活動 | 6 町内会などの地域活動 |
| 7 ボランティア活動 | 8 友人や知人との交流 |
| 9 その他 () | 10 特にない |

(2) あなたは、今後、仕事以外でどのようなことに時間を多く使っていきたいですか。

(あてはまる項目すべてに○)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 家事・育児 | 2 介護 |
| 3 家族と一緒に過ごすこと | 4 一人で自由に過ごすこと |
| 5 同好会やサークル活動 | 6 町内会などの地域活動 |
| 7 ボランティア活動 | 8 友人や知人との交流 |
| 9 その他 () | 10 特にない |

(3) あなたは、地域活動などに参加していますか。(あてはまる項目すべてに○)

- | | |
|-----------------|------------|
| 1 お祭り・行事 | 2 町内会 |
| 3 サークル・自主グループなど | 4 子ども会・PTA |
| 5 ボランティア活動 | 6 その他 () |
| 7 参加していない | |

問 8 高齢者向け施策について

(1) 市で行っている下記高齢者向け施策について、地域の社会や経済状態からみて妥当であると感じますか。また、その施策に係る優先度はどのようにお考えですか。それぞれについて最も近い項目1つに○をつけてください。

施 策	妥当性				優先度			
	そう思う	どちらかという そう思う	どちらかという そう思わない	そう思わない	優先すべき	他の 施策を優先 すべき	他の 施策と両立 すべき	現状のまま
敬老会 (75歳以上の方を対象に長寿を祝う会を実施します)	1	2	3	4	1	2	3	4
長寿祝い金 (長寿をお祝いし、100歳に達した方に10万円、88歳に達した方に1万円を金券で贈呈します。)	1	2	3	4	1	2	3	4
はり・きゅう・マッサージ施術費助成事業 (市登録の施術所で利用できる施術券を65歳以上の方に交付します。)	1	2	3	4	1	2	3	4
健康づくり入浴サービス券支給事業 (市登録の入浴施設で利用できるサービス券を65歳以上の方に交付します。)	1	2	3	4	1	2	3	4
配食サービス (おおむね65歳以上の一人暮らしの高齢者または高齢者のみの世帯などへ夕食を提供し、安否確認を行います)	1	2	3	4	1	2	3	4
移動手段支援事業 (乗合タクシーなどのデマンド交通を利用した移動の支援を行います)	1	2	3	4	1	2	3	4
介護用品支給券支給事業 (要介護3以上に認定された横手市中の高齢者を介護する家族に対し支給券を交付します。)	1	2	3	4	1	2	3	4
緊急時あんしんバトン配布事業 (一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯などに緊急時の連絡先を記載する情報用紙と保管容器を配布し、それをわかりやすい所に設置することで迅速な対応を図ります。)	1	2	3	4	1	2	3	4

(2) 市で行っている下記高齢者向け施策について、重要度と認知度をお聞きます。
それぞれについて最も近い項目1つに○をつけてください。

施 策	重要度				認知度		
	非常に重要である	重要である	あまり重要でない	全く重要ではない	知っている	聞いたことがあるが よく知らない	聞いたこともなく 知らない
移動手段支援事業 (乗合タクシーなどのデマンド交通を利用した移動の支援を行います)	1	2	3	4	1	2	3
緊急通報・ふれあい安心電話システム推進事業 (一人暮らしの高齢者や高齢者のみ世帯などを対象に操作の容易な通報装置を貸与し、緊急時に対応をします。)	1	2	3	4	1	2	3
一人暮らし高齢者等雪下ろし雪寄せ支援事業 (非課税世帯で、65歳以上の一人暮らしの高齢者または高齢者のみの世帯が住む住宅の雪寄せ、雪下ろしを支援します)	1	2	3	4	1	2	3
買い物支援事業 (「横の手」店情報誌による配達などのサポートがあるお店の紹介をします。)	1	2	3	4	1	2	3
移送サービス事業 (主に要介護4、5で、介護タクシーなどの一般の交通機関の利用が困難な方に対し、支援します。)	1	2	3	4	1	2	3
成年後見制度等利用支援事業 (成年後見制度を利用している低所得の高齢者へ経費等を支援します。)	1	2	3	4	1	2	3
中学生と高齢者の絆を深める取組提案 (中学生やその家族に対し考える機会、地域のつながりの大切さについて啓発する事業です)	1	2	3	4	1	2	3

(3) 少子高齢化の進展に伴い、高齢福祉サービスを維持・充実させるためには相応の経費が必要となり、税金など市民の負担増も考えられます。このことについてどのように思いますか。(あなたの考えに最も近いもの一つに○)

- 1 負担が増えてもいいから、今以上の高齢者福祉サービスを実施するべきだ
- 2 ある程度の負担増はやむをえないが、高齢者福祉サービスを受ける人が、収入等に応じて利用料などを負担すべきだ
- 3 負担が増えすぎないように、他の施策よりも優先して、高齢者福祉サービスを充実するべきだ
- 4 働く世代の負担が重くならないよう、高齢者福祉サービスはある程度の水準に止めるべきだ
- 5 今後の永続的な社会の為に、高齢者福祉サービスは縮小させ、その分を未来投資へ振り向けるべきだ
- 6 現状のままが良い

(4) 地域で行政や民間の福祉サービスに頼らずに住民同士が支えあって生活していると感じていますか。

- 1 そう感じる
- 2 どちらかといえばそう感じる
- 3 どちらかといえばそう感じない
- 4 そう感じない

■最後に、介護保険制度や保健福祉施策、そして移動手段支援施策について、ご要望・ご意見などございましたらご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

健康と福祉に関するアンケート調査 報告書

令和2年3月

横手市 市民福祉部 高齢ふれあい課
〒013-8601 秋田県横手市中央町8番2号
TEL 0182-35-2134

委託先：株式会社フィデア情報総研
〒010-0951 秋田市山王三丁目4番23号
TEL 018-837-1727